次代の親の意識調査と支援施策の研究に関する

報　告　書

平成27年（2015年）３月

茨 木 市

目　　次

１　調査概要

〔１〕調査の目的 ･･･ 1

〔２〕調査の対象 ･･･ 1

〔３〕調査方法 ･･･ 1

〔４〕調査期間 ･･･ 1

〔５〕回収結果 ･･･ 1

〔６〕報告書における表及び図の見方 ･････････････････････････････････ 1

２　調査結果

〔１〕回答者の属性 ･･･ 3

〔２〕結婚について ･･･ 28

〔３〕子どもを生み育てることについて ･････････････････････････････ 66

〔４〕子育てについて（大学生のみ回答） ･････････････････････････ 95

〔５〕結婚・子育て等への意識について（大学生のみ回答） ･････････ 106

〔６〕結婚や安心して子どもを生み育てるための施策について（30～34歳のみ回答） ･･･ 120

〔７〕茨木市での定住について（30～34歳のみ回答） ･････････････ 146

●　自由意見 ･･･ 160

３　調査結果の考察とまとめ

〔１〕若者の結婚意識 ･･･ 162

■若者の結婚意識に関する結果からみえてきた課題 ･････････････ 165

〔２〕若者の子どもを生み育てることへの意識 ･････････････････ 167

■若者の子どもを生み育てることへの意識に関する結果からみえてきた課題･････ 169

４－１　調査票（大学生用） ･････････････････････････････････ 171

４－２　ＷＥＢ調査回答画面（30～34歳用） ･････････････････････ 178

1　調査概要

〔1〕調査の目的

本調査は、「茨木市次世代育成支援行動計画（第3期）」（平成27～31年度）の策定にあたり、次代を担う大学生と、結婚や子育てなどの大きなライフイベントに直面していると考えられる30歳代前半の男女を対象に、結婚や子どもを生み育てることなどの意識や考え方などを調査し、少子化対策のための取り組みを検討する資料を得ることを目的に実施した。

〔2〕調査の対象

①茨木市と連携協定を締結している大学の学生　1,570人
②茨木市にお住まいの30～34歳の男女　2,000人

〔3〕調査方法

①大学を通じ調査票を配布及び回収（一部、郵送配布・郵送回収）
②インターネットによるＷＥＢ調査

〔4〕調査期間

①平成26年９月16日（火）～平成26年10月15日（水）
②平成26年９月22日（月）～平成26年９月30日（火）

〔5〕回収結果

	配布数	有効回答数	有効回答率
大学生	1,570人	５６４	３５．９％
30～34歳	2,000人	３９９	２０．０％

〔6〕報告書における表及び図の見方

(1)　グラフや数表では、各質問の回答者を基数（ｎ）とした百分率（％）で回答比率を示している。百分率（％）は、原則として小数第２位を四捨五入し、小数第１位までを表示しているため、比率の合計が 100.0%を前後する場合がある。

(2)　複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超える。本文中、表やグラフに次にあげるような表示がある場合、複数回答を可能とした設問である。

・MA%(Multiple Answer)：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
・3LA%(3 Limited Answer)：回答選択肢の中からあてはまるものを3つまで選択する場合

⑶　回答者（ｎ）が30人未満の場合は、割合の偏りが大きく出ている可能性があるため、％表記に合わせて、カッコ書きで当該選択肢の回答者数を参考値として併記している。

⑷　分析文章中の「現在の就労形態別」「未既婚別」「子どもの有無別」「結婚の意向別」の各カテゴリーについては、下記の表記で統一している。

〔現在の就労形態別〕

質問上の表記	変更後の表記
「正社員・正職員」	正規労働者
「パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約社員」	非正規労働者
「無職・家事、学生」	無職等

〔未既婚別〕

質問上の表記	変更後の表記
「結婚している（事実婚を含む）」	既婚者
「独身」	未婚者

〔子どもの有無別〕

質問上の表記	変更後の表記
（子どもが）「いる」＋「第１子を妊娠中」	子どもがいる人
（子どもが）「いない」	子どもがいない人

〔結婚の意向別〕

質問上の表記	変更後の表記
「結婚を前提に付き合っている相手がいる」＋「いつかは結婚したい（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる）」＋「いつかは結婚したい（現在、恋人はいない）」	結婚したいと考えている人
「結婚する気はない・生涯独身でいたい」	結婚する気はない人

２　調査結果

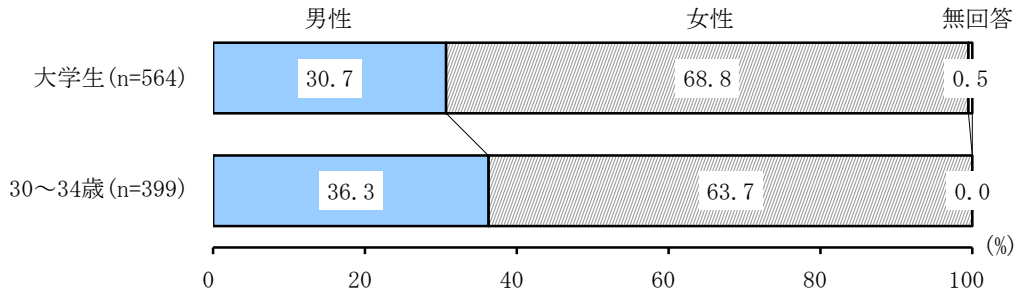
〔１〕回答者の属性

（１）性別

問　あなたの性別はどちらですか。（○は１つ）

性別は、大学生が「男性」30.7%、「女性」68.8%となっている。一方、30～34歳は「男性」36.3%、「女性」63.7%となっている。いずれも女性比率が高い。（図表1-1）

【図表1-1　性別】

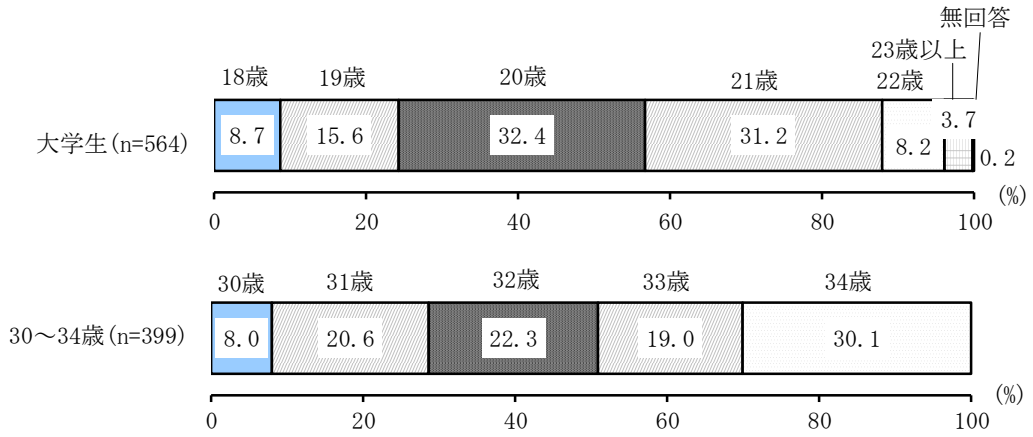


（２）年齢

問　あなたは何歳ですか。

年齢は、大学生では「20歳」が32.4%で最も多く、次いで「21歳」31.2%となっている。30～34歳は「34歳」が30.1%で最も多く、次いで「32歳」が22.3%となっている。（図表1-2）

【図表1-2　年齢】

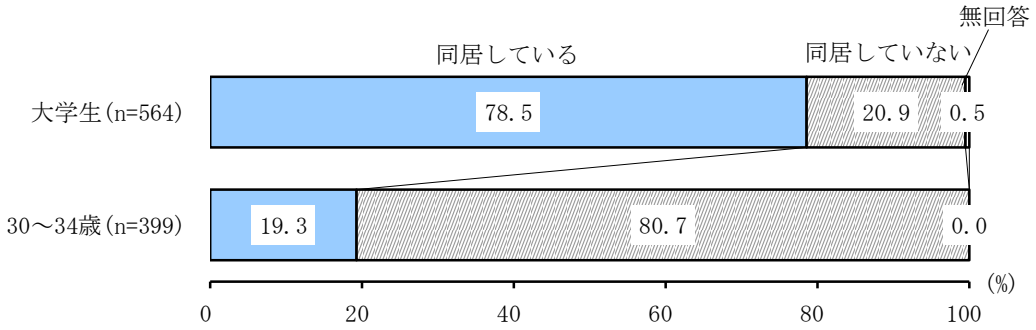


（３）親との同居・別居

問　あなたは、親と同居していますか。（○は１つ）

親との同居・別居について、大学生は「同居している」が78.5%に対し、「同居していない」は20.9%となっている。一方、30～34歳は「同居している」が19.3%に対し、「同居していない」は80.7%となっている。（図表1-3）

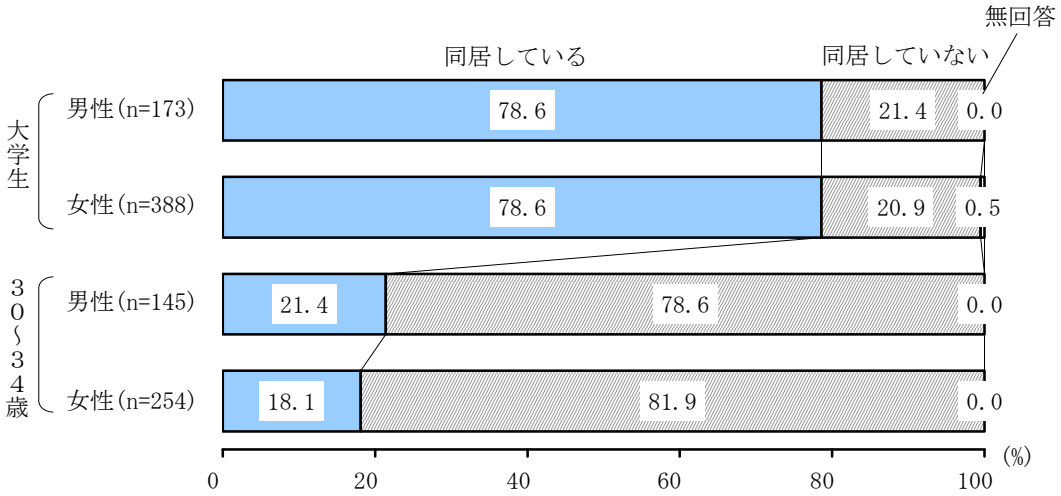
【図表1-3　親との同居・別居】



［性別］

大学生では、男女とも「同居している」が約８割を占めている。一方、30～34歳では、「同居している」は、男性が21.4%に対し、女性は18.1%で、男性のほうが3.3ポイント高くなっている。しかし、大学生・30～34歳とも、男女間の差はほとんどない。（図表1-3-1）

【図表1-3-1　性別　親との同居・別居】

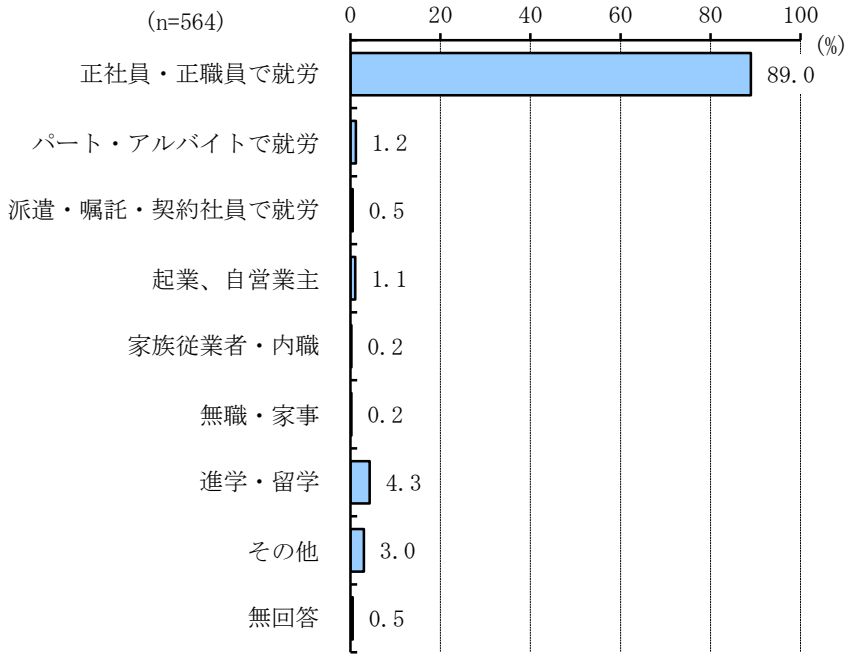


（４）大学卒業後の進路（大学生のみ回答）

問　あなたは現在、大学卒業後の進路について、どのようにお考えですか。（○は１つ）

大学生に、大学卒業後の進路をたずねると、「正社員・正職員で就労」が89.0%で最も多く、次いで「進学・留学」が4.3%となっている。（図表1-4）

【図表1-4　大学卒業後の進路】

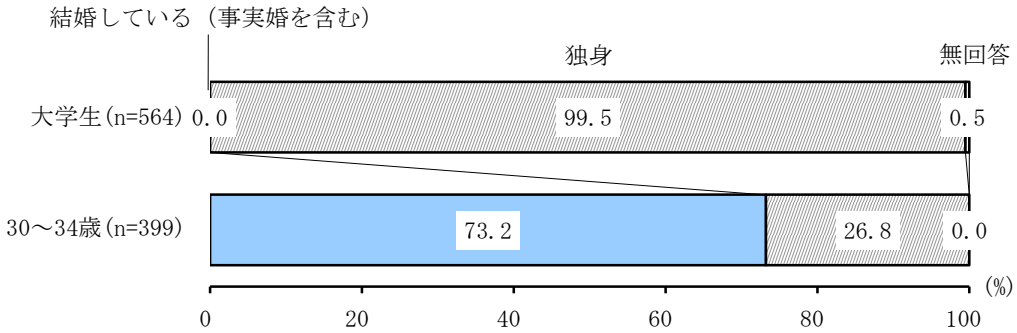


（５）未既婚

問　あなたは、結婚していますか。（○は１つ）

大学生に既婚者はおらず、「独身」が99.5%を占めている。一方、30～34歳は「結婚している（事実婚を含む）」が73.2%に対し、「独身」は26.8%となっている。（図表1-5）

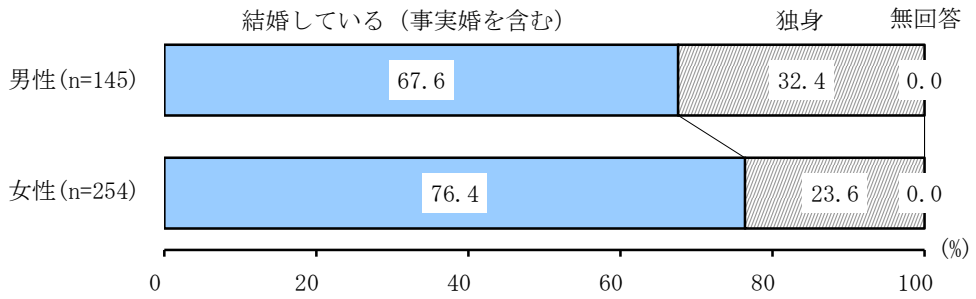
【図表1-5　未既婚】



［30～34歳／性別］

男女とも「結婚している（事実婚を含む）」が過半数を占め、男性が67.6%に対し、女性は76.4%と女性の割合のほうが高い。一方、「独身」は、男性が32.4%に対し、女性は23.6%で、男性のほうが8.8ポイント高くなっている。（図表1-5-1）

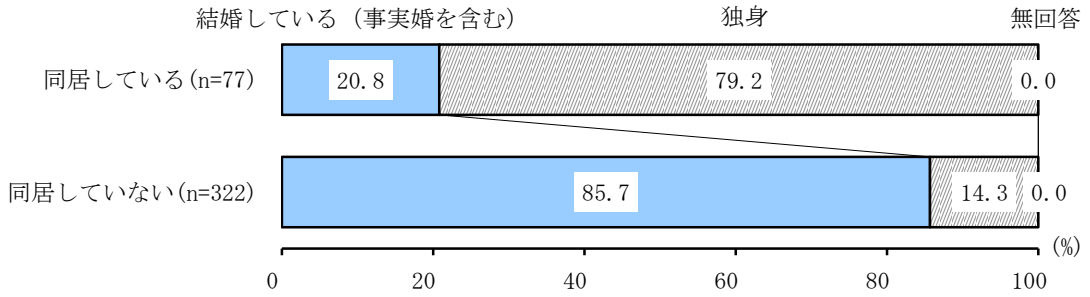
【図表1-5-1　性別　未既婚（30～34歳）】



［30～34歳／親との同居・別居別］

親と同居している人は「結婚している（事実婚を含む）」が20.8%に対し、「独身」は79.2%を占めている。一方、親と同居していない人は「結婚している（事実婚を含む）」が85.7%を占め、「独身」は14.3%となっている。（図表1-5-2）

【図表1-5-2　親との同居・別居別　未既婚（30～34歳）】



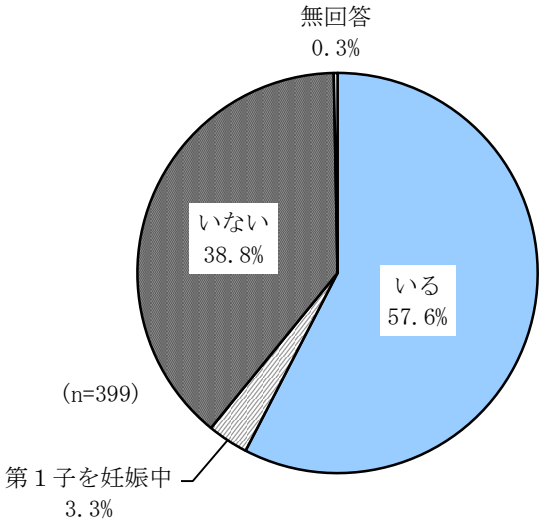
（6）子どもについて（30～34歳のみ回答）

①子どもの有無

問　あなたにお子さんはいますか。（○は１つ）

30～34歳を対象に、子どもの有無をたずねると、「いる」が57.6%に対し、「いない」は38.8%となっている。「いる」に「第１子を妊娠中」（3.3%）を含めると、子どもがいる割合は60.9%を占めている。（図表1-6①）

【図表1-6①　子どもの有無】

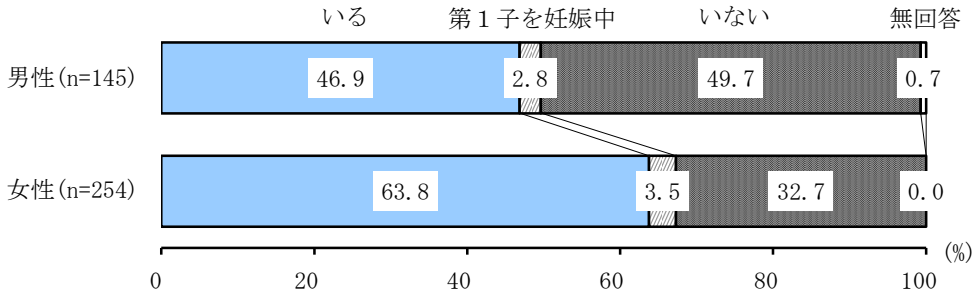


［性別］

男性は、子どもがいる人（「いる」と「第１子を妊娠中」を合わせた割合）と「いない」がともに49.7%を占めている。

一方、女性は、子どもがいる人は67.3%に対し、「いない」が32.7%となっている。子どもがいる人は、男性より女性のほうが17.6ポイント高い。（図表1-6①-1）

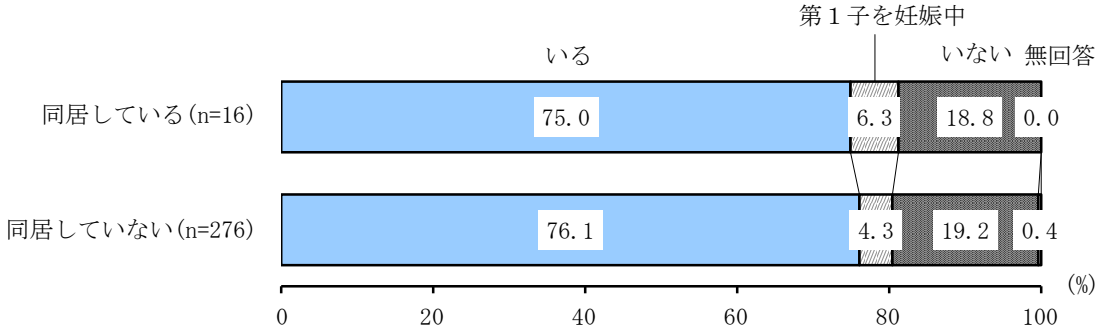
【図表1-6①-1　性別　子どもの有無】



［既婚者／親との同居・別居別］

親との同居・別居に関わらず、子どもがいる人は８割台となっており、大きな違いはみられない。（図表1-6①-2）

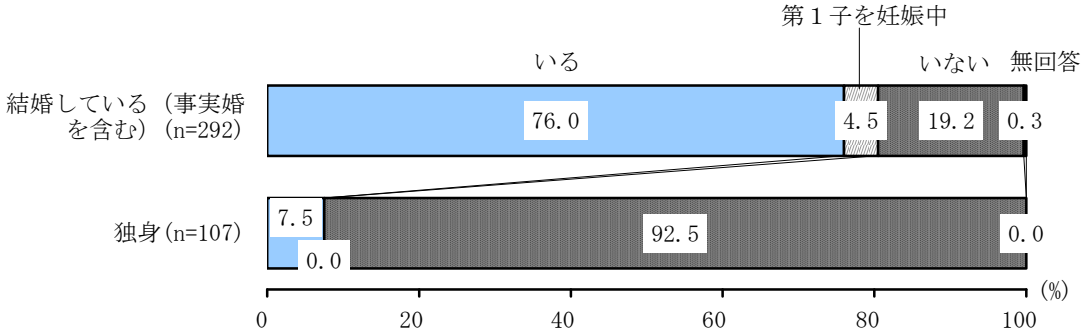
【図表1-6①-2　親との同居・別居別　子どもの有無（既婚者）】



［未既婚別］

既婚者は、子どもがいる割合は80.5%を占めている。一方、未婚者では、子どもがいる割合は7.5%となっている。（図表1-6①-3）

【図表1-6①-3　未既婚別　子どもの有無】

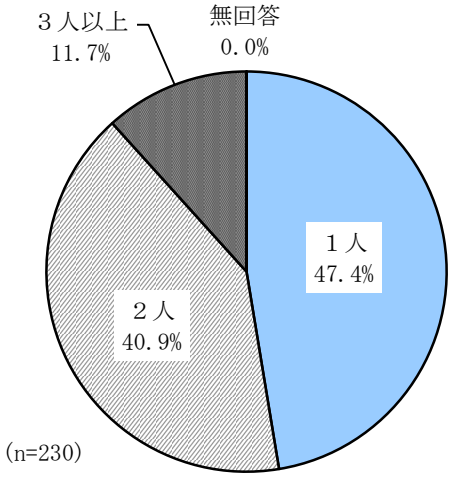


②子どもの人数（子どもがいると回答した方のみ）

問　「子どもがいる」を選んだ方は、お子さんの数を入力してください。

30～34歳の人を対象に、現在いる子どもの人数をたずねると、「１人」が47.4%で最も多く、次いで「２人」が40.9%、「３人以上」が11.7%となっている。（図表1-6②）

【図表1-6②　子どもの人数】

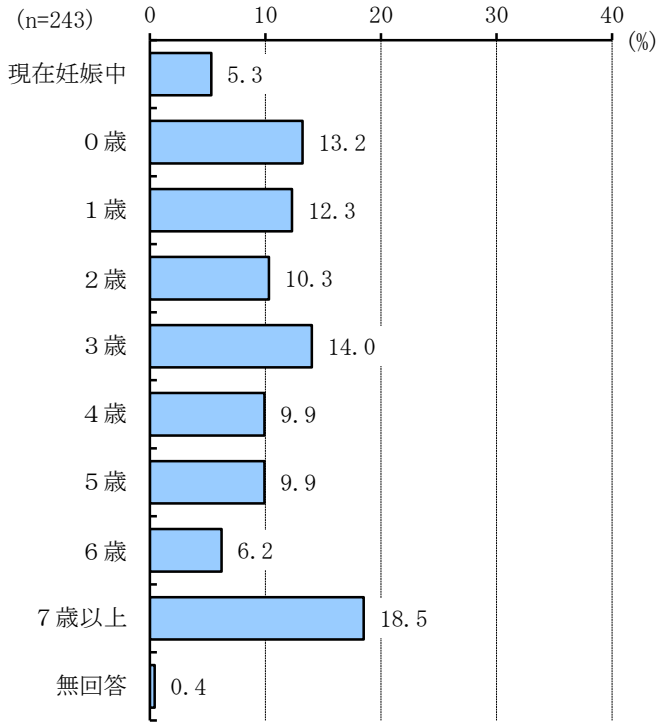


③第１子の年齢　※平成26年９月現在（子どもがいると回答した方のみ）

問　最初のお子さん（第１子）が生まれた時期（もしくは出産予定）を入力してください。現在、第１子を妊娠中の方は、出産予定の時期を入力してください。

子どものいる30～34歳を対象に、第１子の年齢をたずねると、「７歳以上」が18.5%で最も多い。次いで「３歳」が14.0%、「０歳」が13.2%、「１歳」が12.3%で、３歳児以下の乳幼児が49.8%を占めている。（図表1-6③）

【図表1-6③　第１子の年齢】



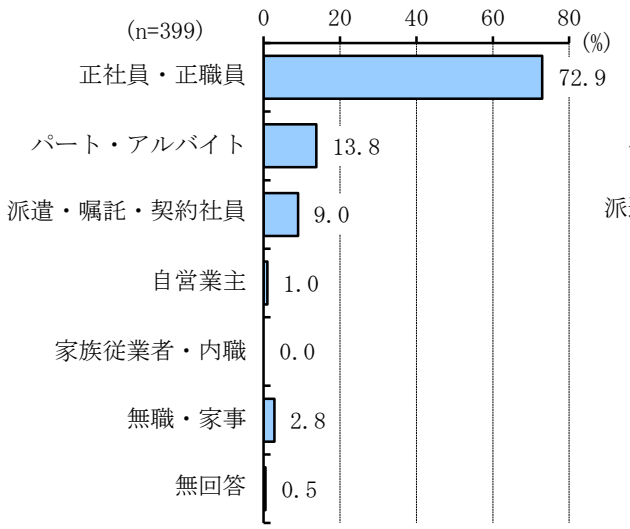
（7）就労有無・就労形態（30～34歳のみ回答）

問　あなたのお仕事についておうかがいします。ａとｂの２つの時期について、それぞれお勤め等の状況について、あてはまる番号に○をつけてください。

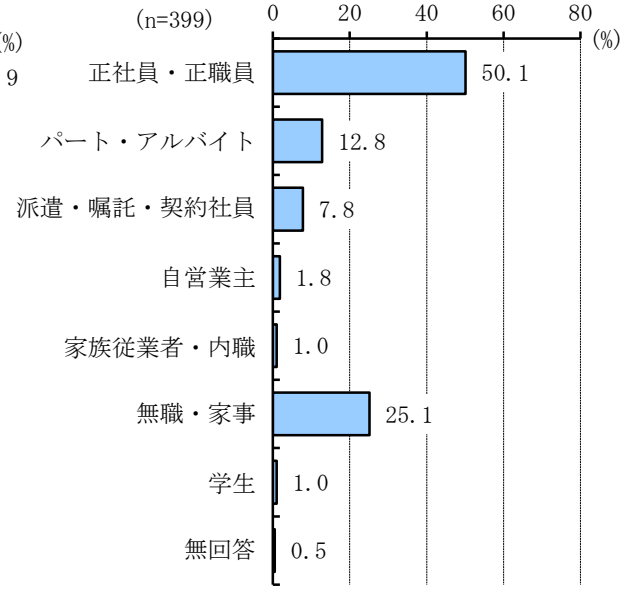
30～34歳の就労形態について、最後に学校を卒業した直後の進路は、「正社員・正職員」が72.9%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が13.8%、「派遣・嘱託・契約社員」が9.0%となっている。現在の就労形態は、「正社員・正職員」が50.1%で最も多く、次いで「無職・家事」が25.1%、「パート・アルバイト」が12.8%となっている。学校卒業後から現在までの就労形態をみると、「正社員・正職員」は、卒業直後の72.9%から、現在は50.1%と22.8ポイント低下する一方で、「無職・家事」が2.8%から25.1%と、22.3ポイント上昇している。（図表1-7）

【図表1-7　就労形態】

〔ａ．最後に学校を卒業した直後の進路〕



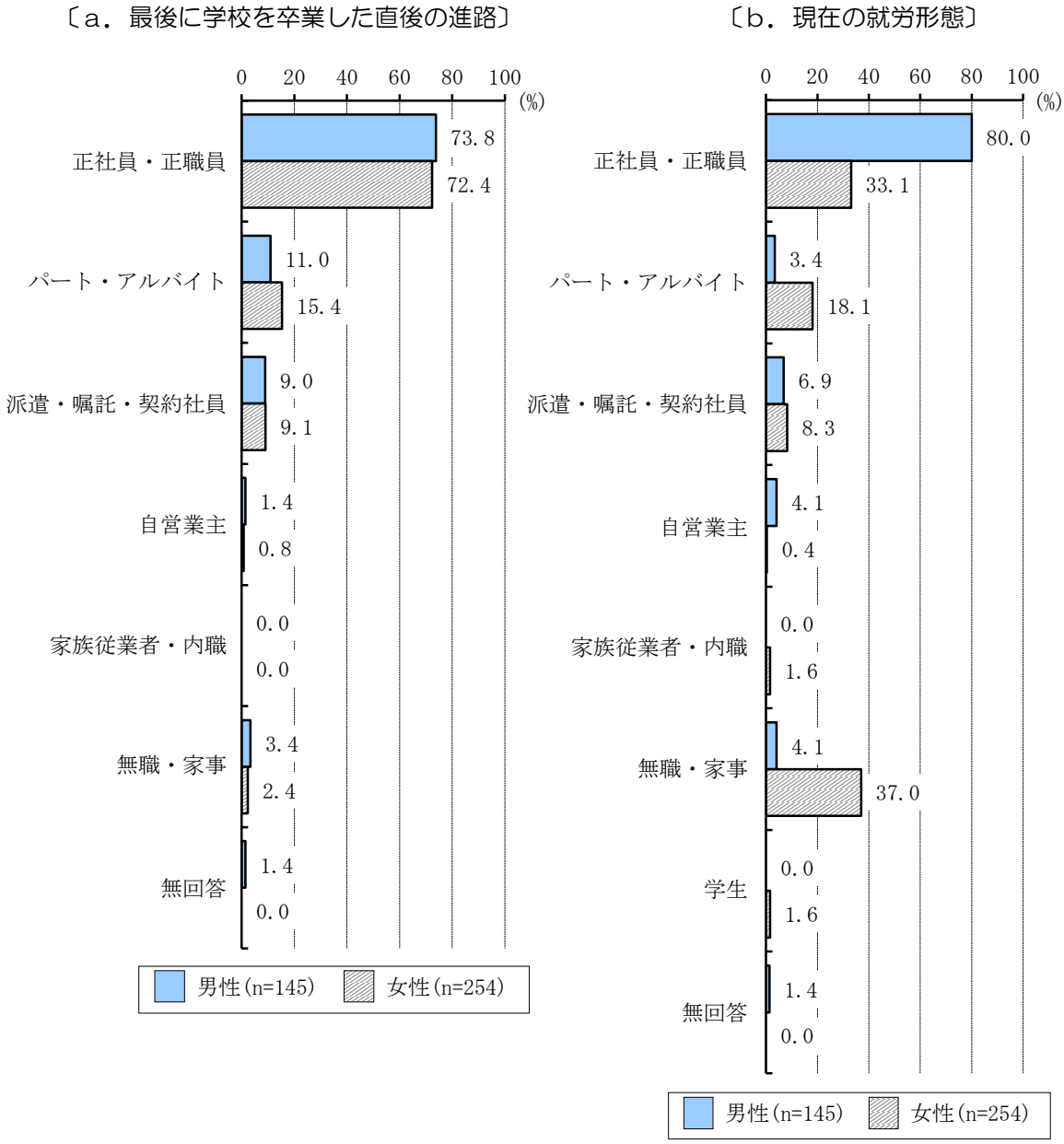
〔ｂ．現在の就労形態〕



［性別］

最後に学校を卒業した直後の進路は、男女とも「正社員・正職員」が７割台で最も多くなっている。一方、現在の就労形態で、「正社員・正職員」は、男性が80.0％に対し女性は33.1％で、男性に比べ46.9ポイントも低い。また、男性の場合、現在の「正社員・正職員」の割合は学校卒業後より上昇しているのに対し、女性は39.3ポイントも低下している。これに代わって「無職・家事」の割合が2.4％から37.0％に上昇している。（図表1-7-1）

【図表1-7-1　性別　就労形態】

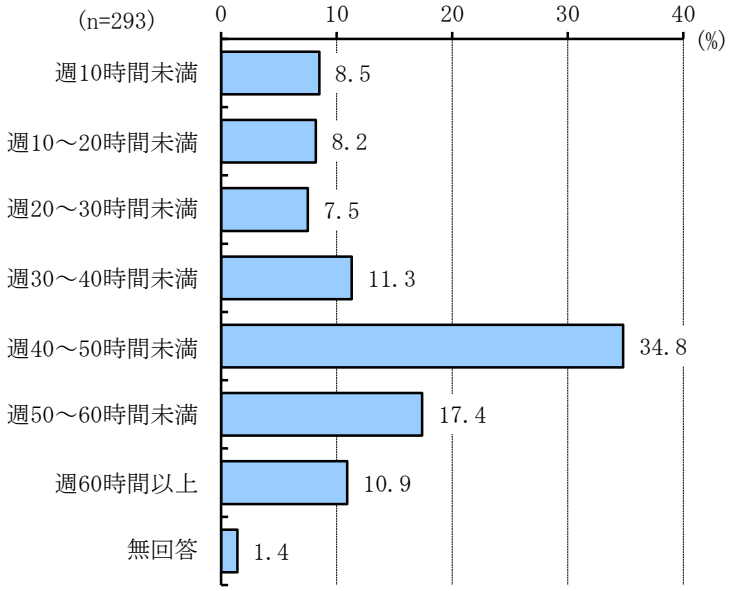


（８）勤務状況（30～34歳の現在就労していると回答した方のみ）

①１週間の平均的な労働時間

30～34歳で現在就労している人の１週間の平均的な労働時間は、「週40～50時間未満」が34.8%で最も多く、次いで「週50～60時間未満」が17.4%、「週30～40時間未満」が11.3%となっている。（図表1-8①）

【図表1-8①　１週間の平均的な労働時間】

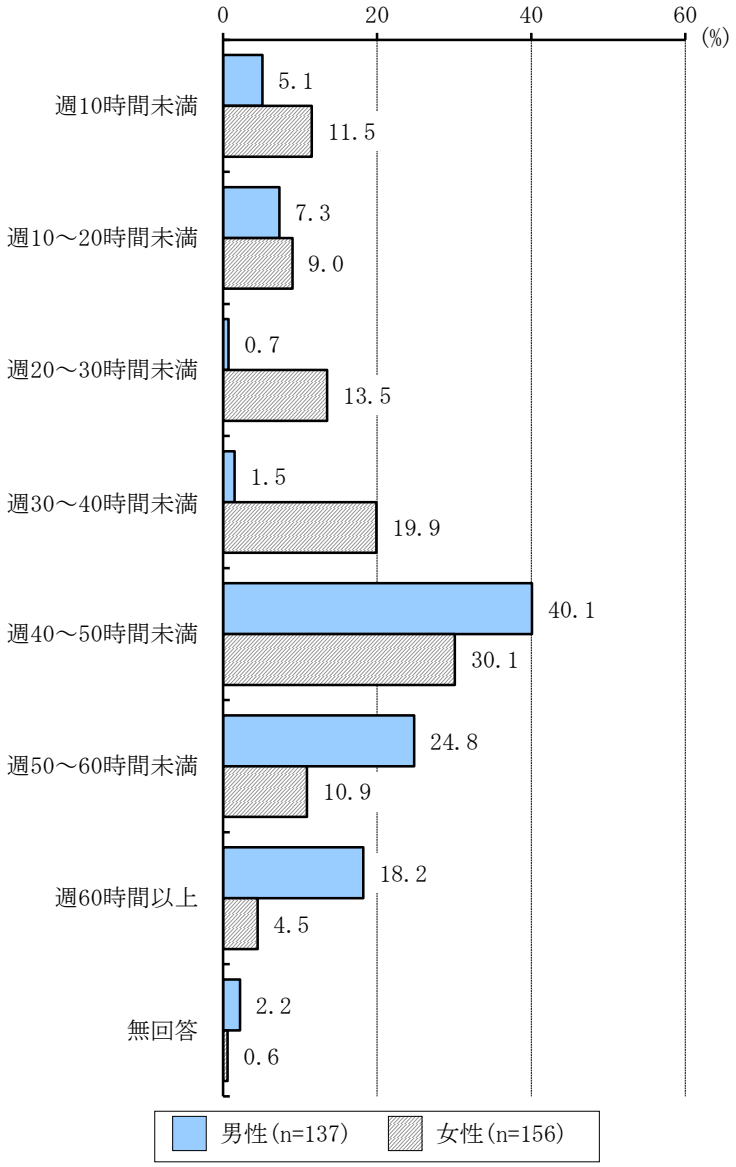


［性別］

男女とも「週40～50時間未満」が最も多く、男性が40.1％に対し、女性は30.1％で、男性のほうが10ポイント高くなっている。

男性の場合は、週50時間以上の各時間帯の割合も女性に比べ高いのに対し、女性は、週40時間未満の割合が53.9％を占め、男性の割合（14.6％）に比べ39.3ポイント高くなっている。（図表1-8①-1）

【図表1-8①-1　性別　１週間の平均的な労働時間】

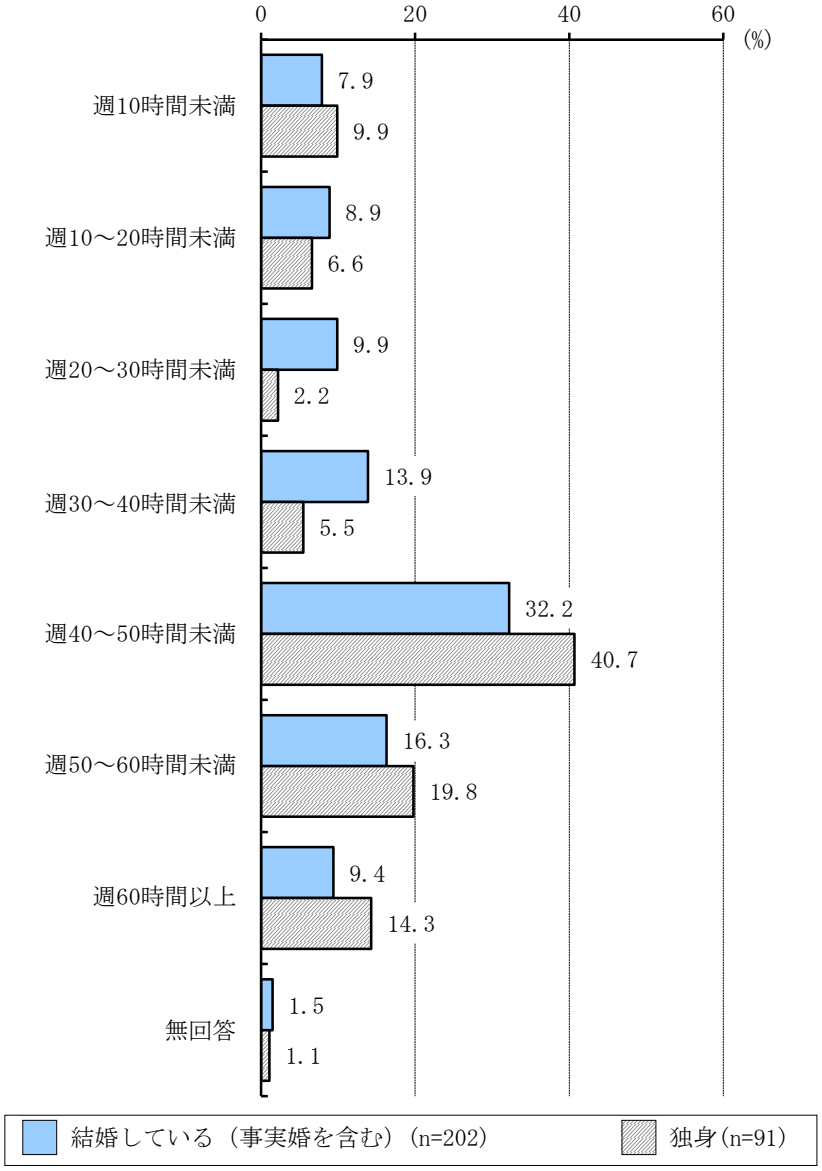


［未既婚別］

未既婚に関わらず、「週40～50時間未満」が最も多く、既婚者が32.2%に対し、未婚者は40.7%となっている。

既婚者は、週40時間未満の割合が40.6%で未婚者（24.2%）より16.4ポイント高くなっているのに対し、未婚者は週40時間以上の各時間帯の割合が既婚者に比べ高い。（図表1-8①-2）

【図表1-8①-2　未既婚別　１週間の平均的な労働時間】

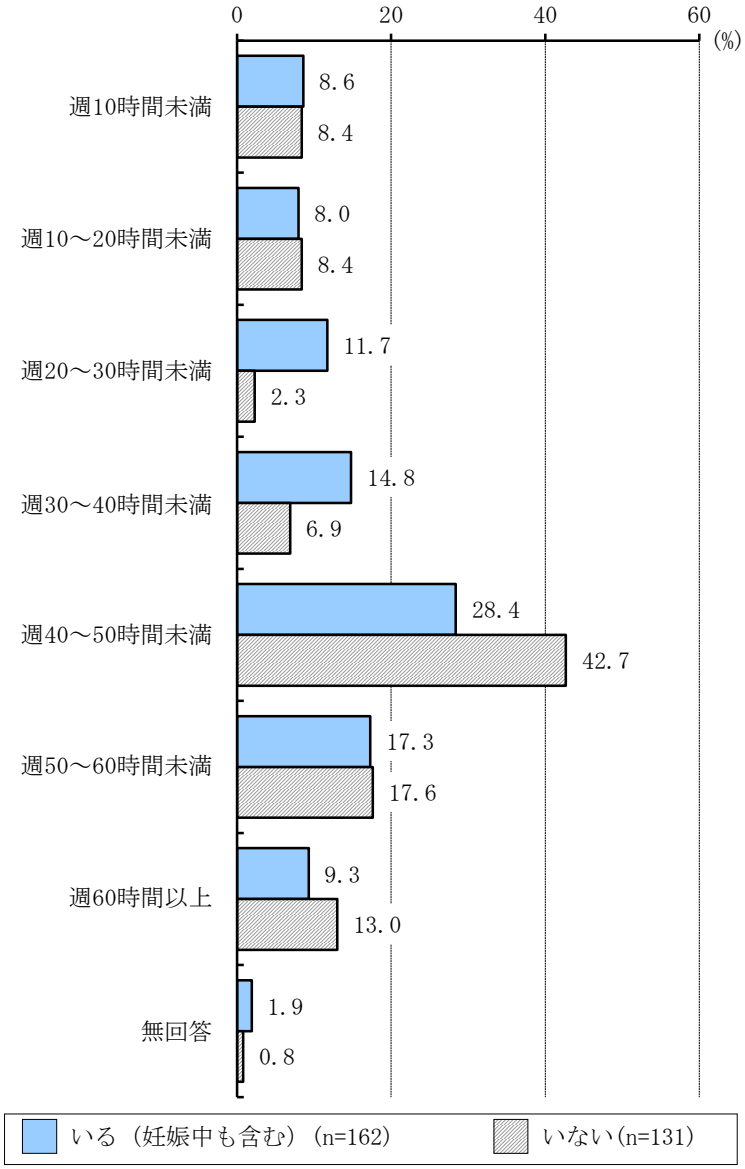


［子どもの有無別］

子どもの有無に関わらず、「週40～50時間未満」が最も多く、子どもがいる人が28.4%に対し、子どものいない人は42.7%となっている。

子どもがいる人は、週40時間未満の割合が43.1%で、子どもがいない人（26.0%）に比べ17.1ポイント高くなっている。これに対し、子どもがいる人は、いない人に比べ週40時間以上の各時間帯の割合が高くなっている。（図表1-8①-3）

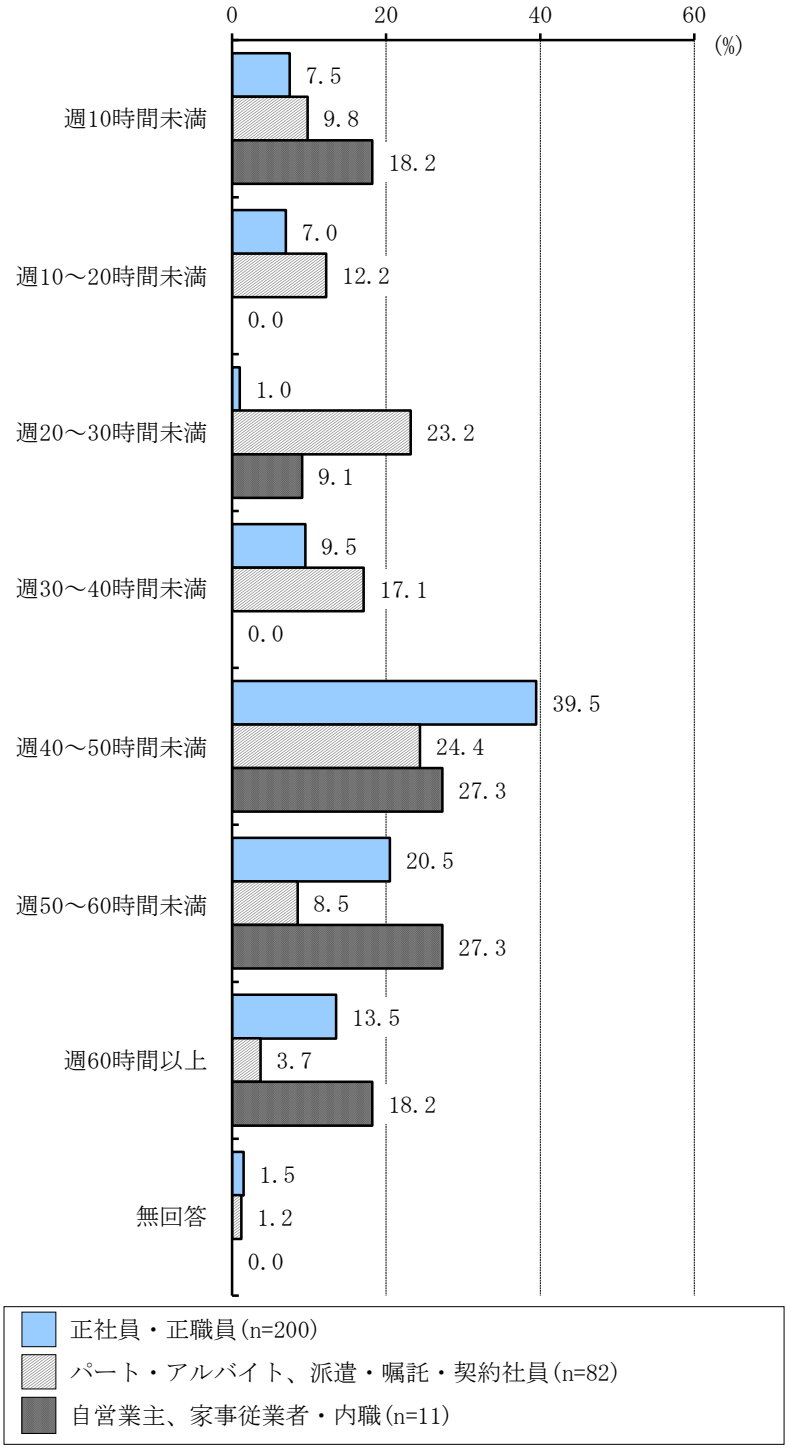
【図表1-8①-3　子どもの有無別　１週間の平均的な労働時間】



［現在の就労形態別］

就労形態に関わらず、「週40～50時間未満」が最も多く、正規労働者が39.5%、非正規労働者は24.4%で、正規労働者のほうが15.1ポイント高くなっている。これに対し、非正規労働者は週40時間未満の割合が62.3%で正規労働者（25.0%）より37.3ポイント高くなっている。週50時間以上の各時間帯の割合は、自営業主・家族従業者・内職で高い。（図表1-8①-4）

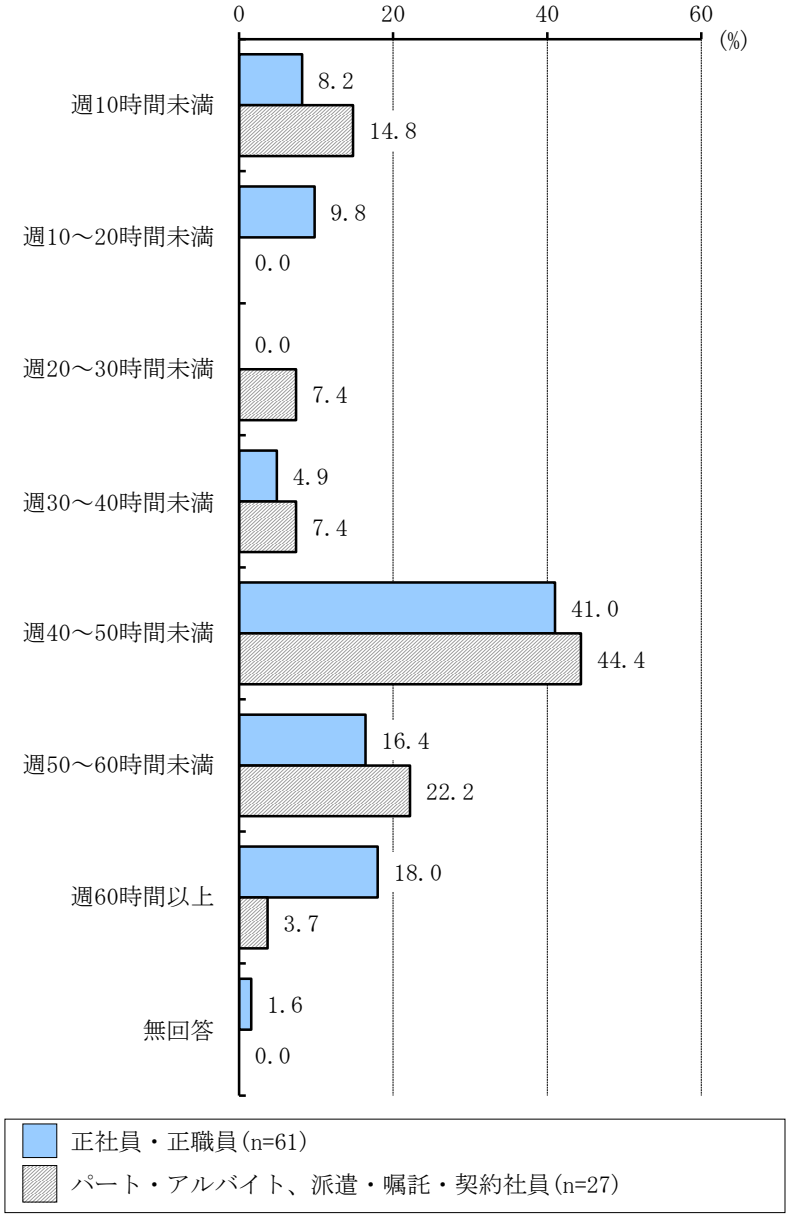
【図表1-8①-4　現在の就労形態別　１週間の平均的な労働時間】



［未婚者／正規・非正規労働者別］

未婚者に限って、正規・非正規労働者別の労働時間をみると、正規・非正規に関係なく、４割は「週40～50時間未満」となっている。週50時間以上の各割合も就労形態に関係なく高く、正規労働者のほぼ５人に１人（18.0%）は「週60時間以上」働いている。（図表1-8①-5）

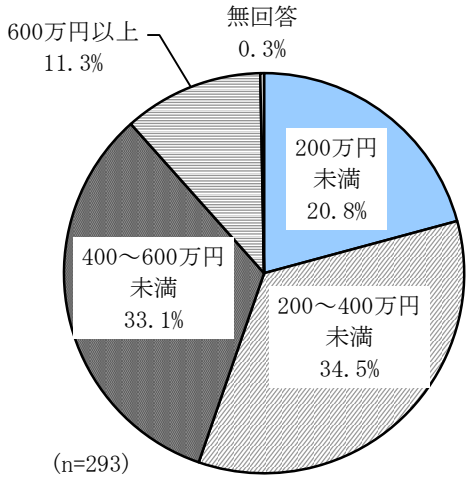
【図表1-8①-5　未婚者／正規・非正規労働者別　１週間の平均的な労働時間】



②年間の収入

年間の収入は、「200～400万円未満」が34.5%で最も多く、次いで「400～600万円未満」が33.1%となっている。回答者の５人に１人（20.8%）は、「200万円未満」となっている。（図表1-8②）

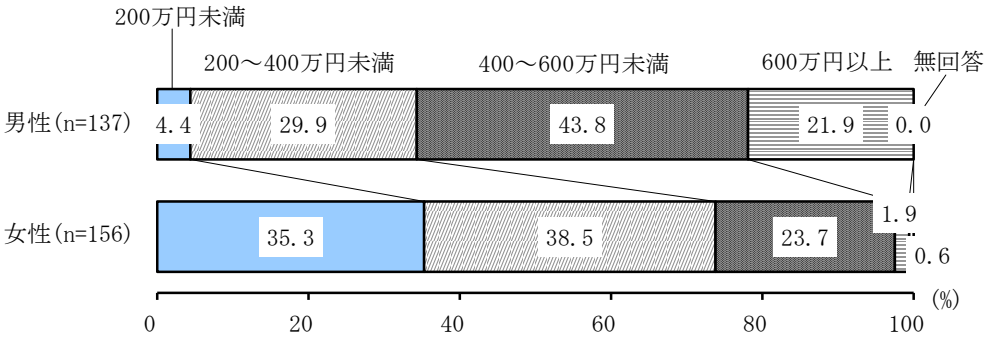
【図表1-8②　年間の収入】



［性別］

男性の場合は「400～600万円未満」が43.8%、「600万円以上」が21.9%で、400万円以上が６割を超えている。これに対し、女性の場合は「200万円未満」が35.3%、「200～400万円未満」が38.5%で、400万円未満が７割を超えている。（図表1-8②-1）

【図表1-8②-1　性別　年間の収入】

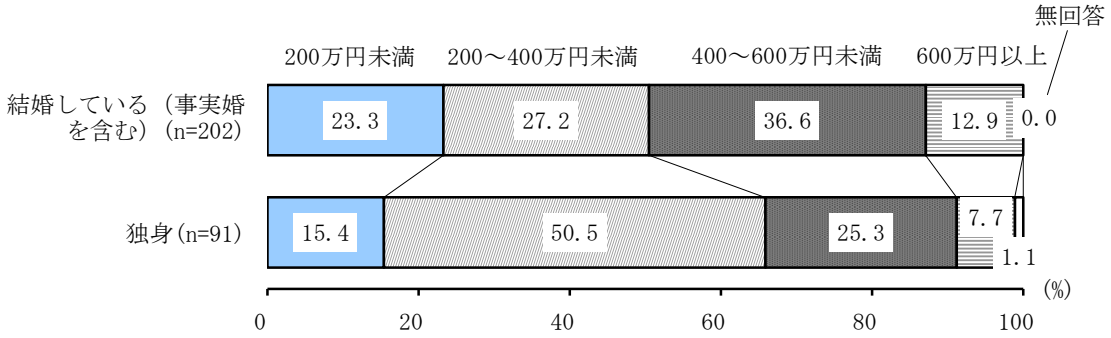


［未既婚別］

既婚者は「400～600万円未満」が36.6%で最も多く、未婚者は「200～400万円未満」が50.5%で最も多くなっている。

また、「200万円未満」は既婚者が23.3%に対し、未婚者は15.4%で、既婚者のほうが7.9ポイント高くなっている。（図表1-8②-2）

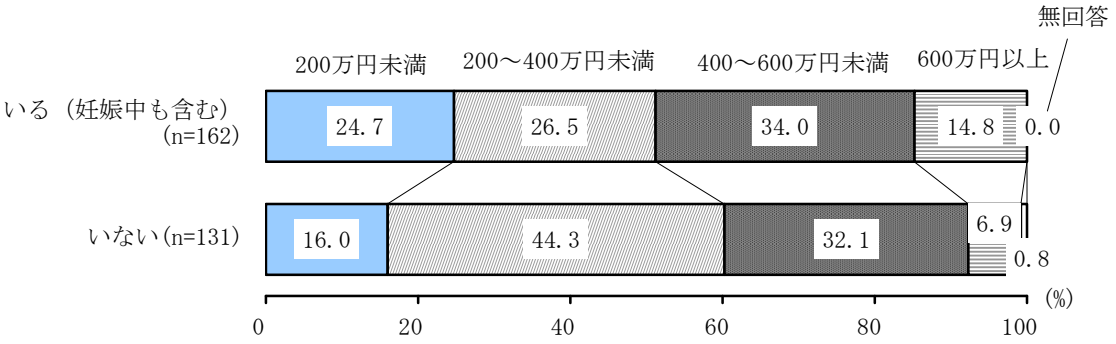
【図表1-8②-2　未既婚別　年間の収入】



［子どもの有無別］

子どもの有無別でも、結婚の状況と同様の傾向がみられる。子どもがいる人は「400～600万円未満」が34.0%で最も多いのに対し、子どもがいない人は「200～400万円未満」が44.3%で最も多くなっている。また、「200万円未満」は、子どもがいる人で24.7%に対し、子どもがいない人は16.0%で、子どものいる人のほうが8.7ポイント高い。（図表1-8②-3）

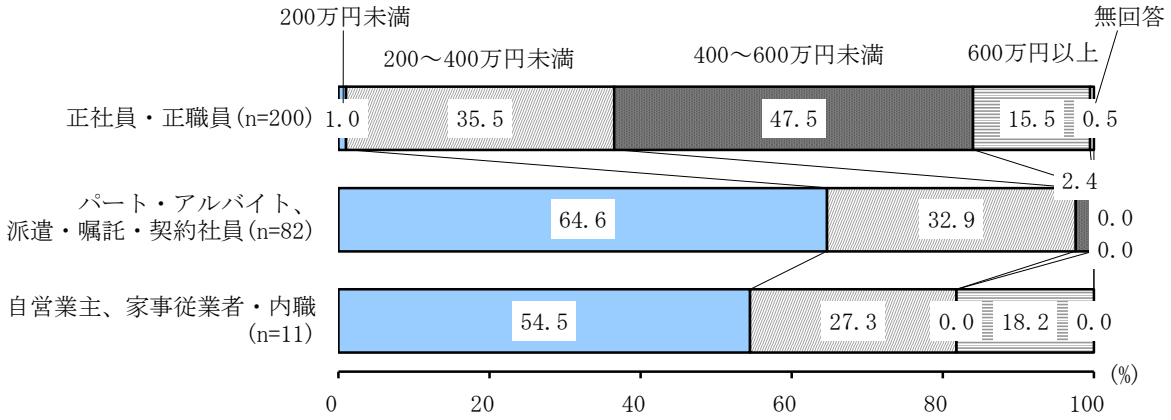
【図表1-8②-3　子どもの有無別　年間の収入】



［現在の就労形態別］

正規労働者は「400～600万円未満」が47.5%で最も多いのに対し、非正規労働者は「200万円未満」が64.6%で最も多く、次いで「200～400万円未満」が32.9%となっている。（図表1-8②-4）

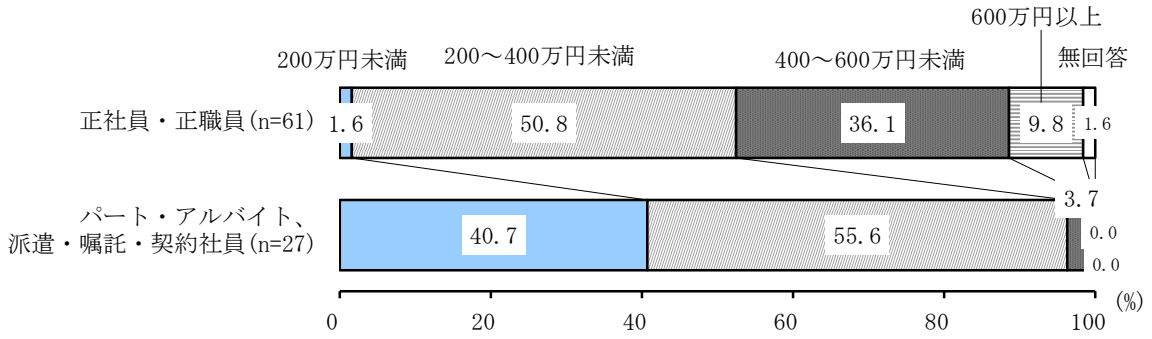
【図表1-8②-4　現在の就労形態別　年間の収入】



［未婚者／正規・非正規労働者別］

未婚者に限って、正規・非正規労働者別の年間収入をみると、正規・非正規に関係なく、「200～400万円未満」が５割台で最も多い。これに次いで、正規労働者は「400～600万円未満」が36.1%、非正規労働者は「200万円未満」が40.7%となっている。（図表1-8②-5）

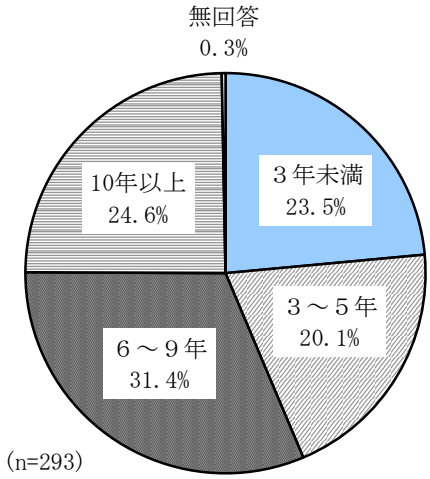
【図表1-8②-5　未婚者／正規・非正規労働者別　年間の収入】



③現在の仕事の勤続年数

現在の仕事の勤続年数は、「６～９年」が31.4%で最も多く、次いで「10年以上」が24.6%、「３年未満」が23.5%となっている。（図表1-8③）

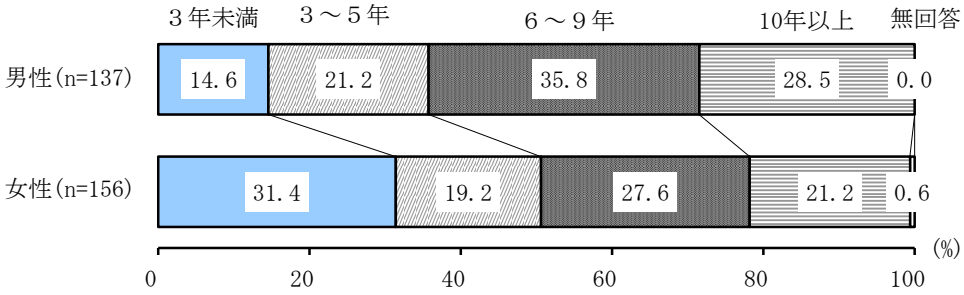
【図表1-8③　現在の仕事の勤続年数】



［性別］

男性は、３年以上の各年数の割合が女性に比べ高く、６年以上の年数が合わせて64.3%を占める。一方、女性の場合は、「３年未満」が31.4%で最も多く、６年以上の年数の割合は48.8%で、男性に比べ15.5ポイント低い。（図表1-8③-1）

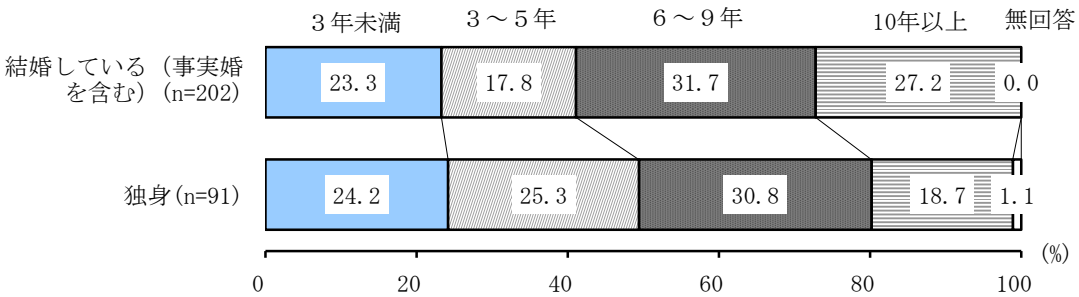
【図表1-8③-1　性別　現在の仕事の勤続年数】



［未既婚別］

「６～９年」（既婚者 31.7%、未婚者 30.8%）が３割台で最も多いが、５年以下の割合は未婚者で、６年以上の割合は既婚者で、それぞれ高くなっている。（図表1-8③-2）

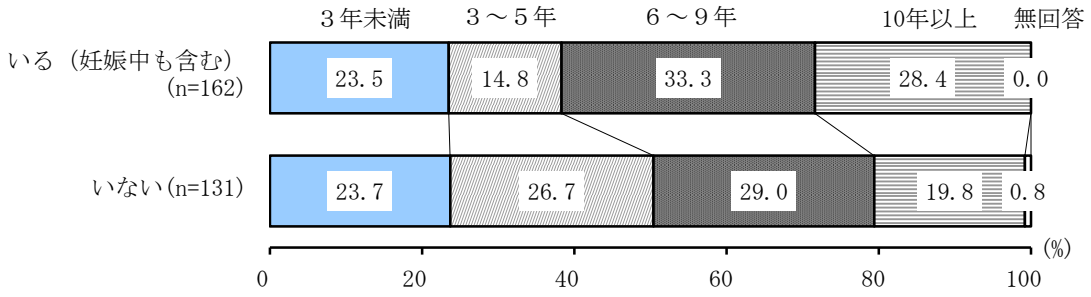
【図表1-8③-2　未既婚別　現在の仕事の勤続年数】



［子どもの有無別］

子どもの有無に関わらず、「６～９年」（いる 33.3%、いない 29.0%）が３割前後で最も多くなっている。６年以上の割合は子どもがいる人が、５年以下の割合は子どもがいない人のほうが高い。（図表1-8③-3）

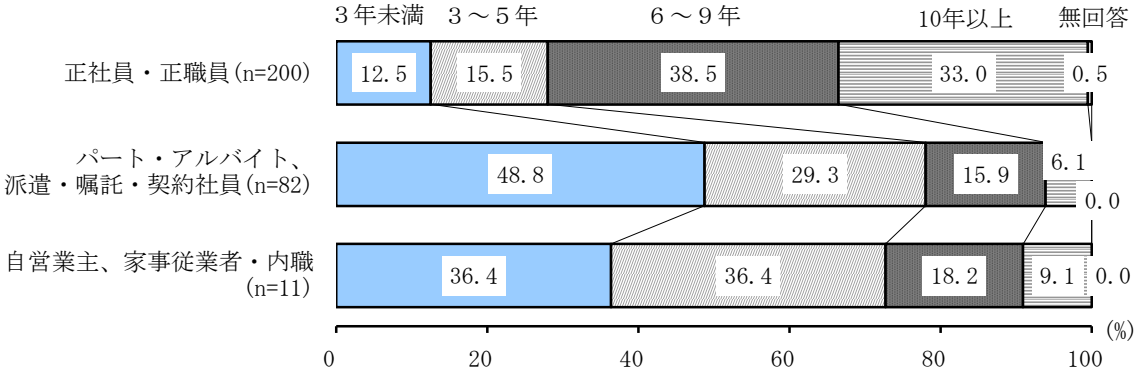
【図表1-8③-3　子どもの有無別　現在の仕事の勤続年数】



［現在の就労形態別］

非正規労働者及び自営業主等に比べ、正規労働者の勤続年数が長く、６年以上が71.5%を占める。これに対し、非正規労働者は５年以下の割合が78.1%を占める。（図表1-8③-4）

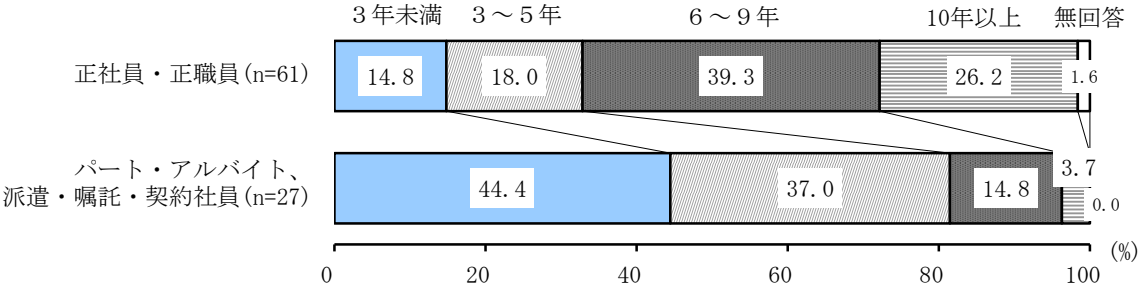
【図表1-8③-4　現在の就労形態別　現在の仕事の勤続年数】



［独身者／正規・非正規労働者別］

独身者に限ってみても、正規労働者に比べ、非正規労働者の勤続年数のほうが短く、正規労働者は６年以上が65.5%を占めるのに対し、非正規労働者は５年以下が81.4%を占めている。（図表1-8③-5）

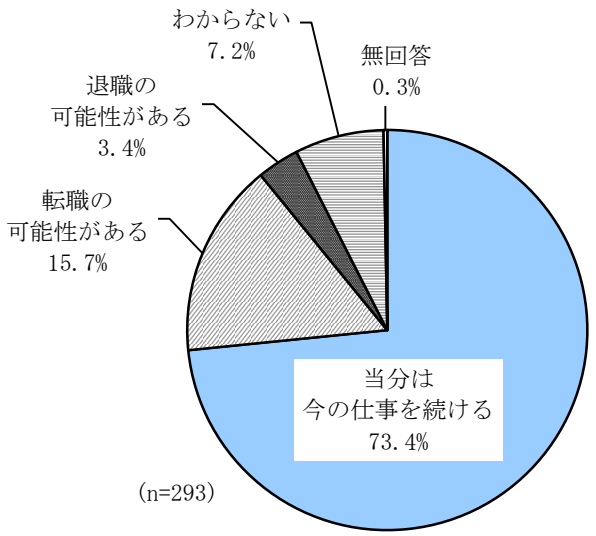
【図表1-8③-5　独身者／正規・非正規労働者別　現在の仕事の勤続年数】



④今後の就労継続の見通し

今後の就労継続意向について、「当分は今の仕事を続ける」が73.4%で最も多い。一方、「転職の可能性がある」が15.7%、「退職の可能性がある」は3.4%となっている。（図表1-8④）

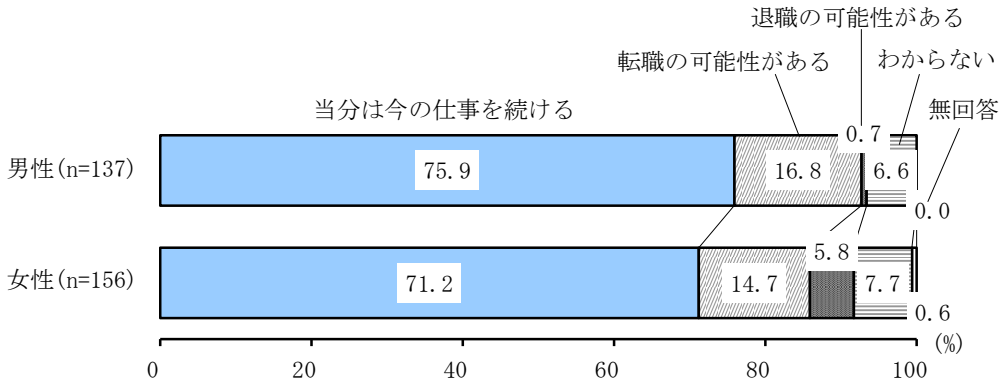
【図表1-8④　今後の就労継続の見通し】



［性別］

男女とも「当分は今の仕事を続ける」が７割台を占めているが、「退職の可能性がある」は、男性が0.7%に対し女性は5.8%で、女性のほうが5.1ポイント高い。（図表1-8④-1）

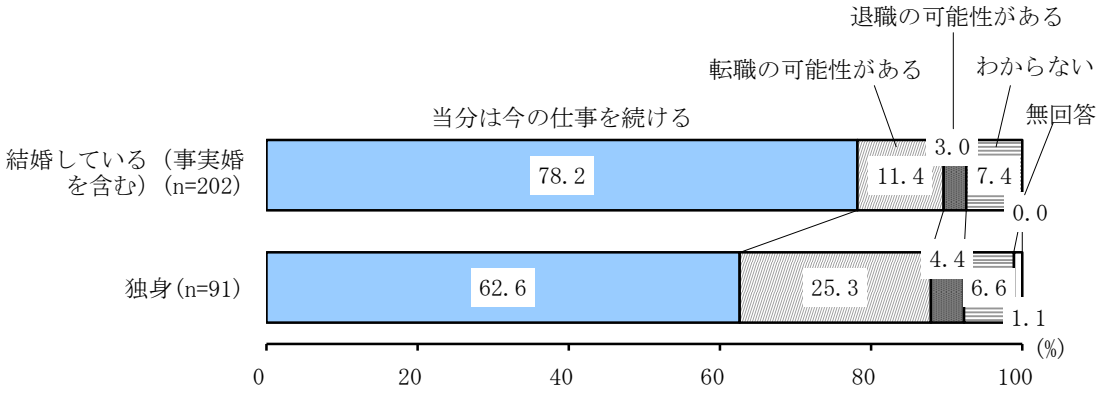
【図表1-8④-1　性別　今後の就労継続の見通し】



［未既婚別］

未既婚に関わらず、「当分は今の仕事を続ける」が最も多く、既婚者が78.2%に対し未婚者は62.6%で、既婚者のほうが15.6ポイント高い。一方、「転職の可能性がある」は、既婚者11.4%に対し未婚者25.3%で、未婚者のほうが13.9ポイント高い。（図表1-8④-2）

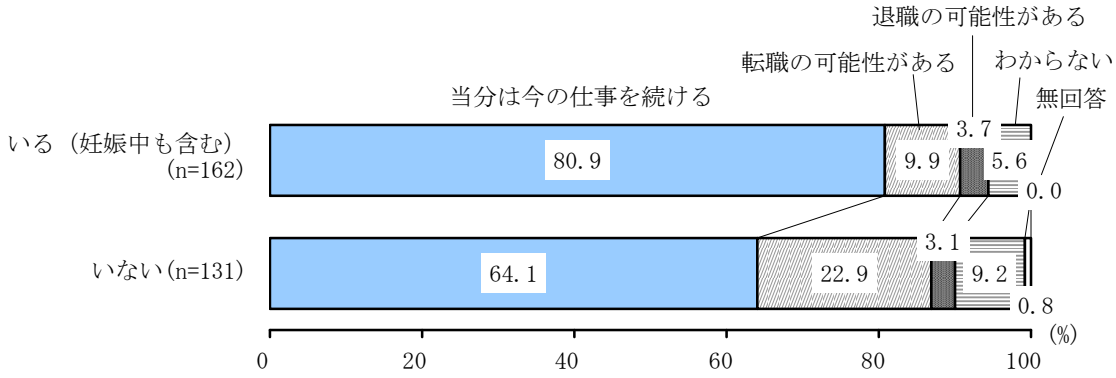
【図表1-8④-2　未既婚別　今後の就労継続の見通し】



［子どもの有無別］

子どもの有無に関わらず、「当分は今の仕事を続ける」が最も多く、子どもがいる人が80.9%に対し、子どもがいない人は64.1%で、子どもがいる人のほうが16.8ポイント高い。一方、「転職の可能性がある」は、子どもがいる人が9.9%に対し、子どもがいない人は22.9%で、子どもがいない人のほうが13ポイント高くなっている。（図表1-8④-3）

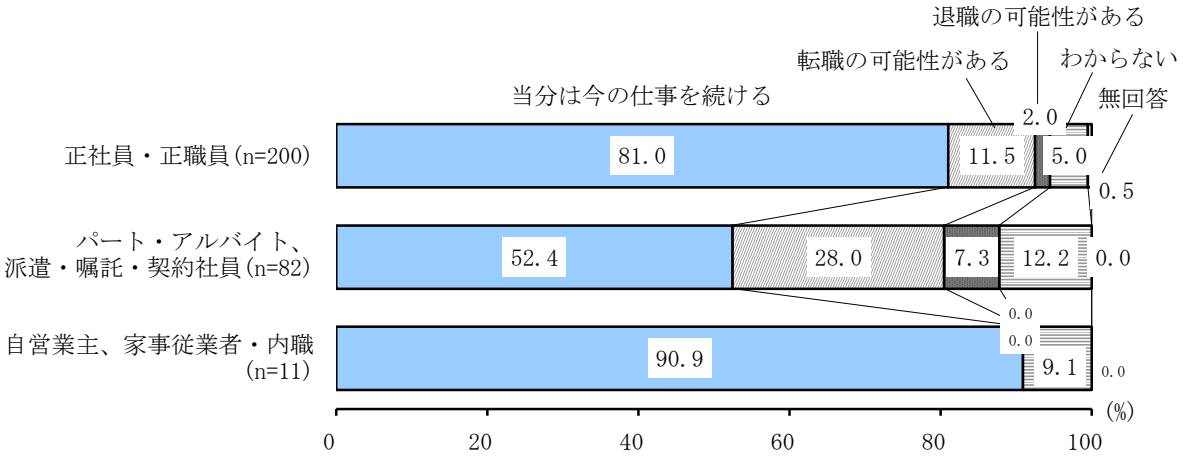
【図表1-8④-3　子どもの有無別　今後の就労継続の見通し】



［現在の就労形態別］

いずれも「当分は今の仕事を続ける」が最も多く、正規労働者、自営業主等は８～９割を占めている。非正規労働者でも「当分は今の仕事を続ける」が52.4％で半数を占めるが、正規労働者に比べ28.6ポイント低く、「転職の可能性がある」（28.0％）の割合が高い。（図表1-8④-4）

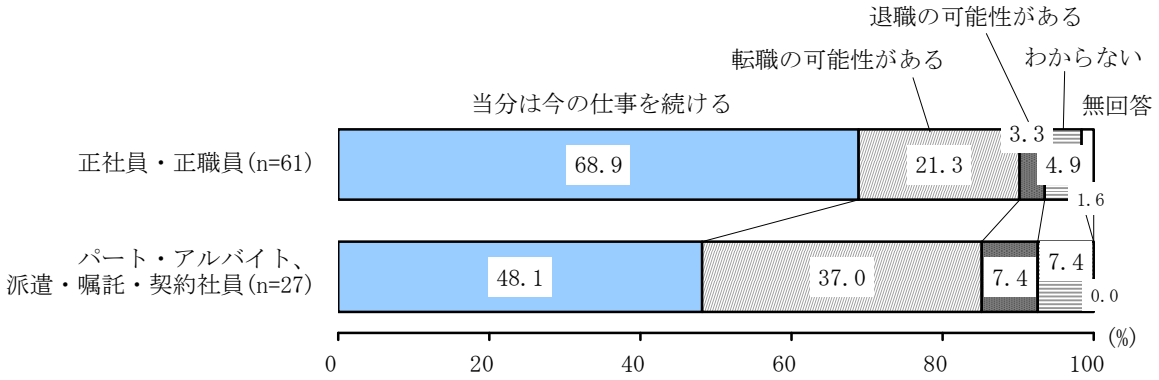
【図表1-8④-4　現在の就労形態別　今後の就労継続の見通し】



［未婚者／正規・非正規労働者別］

未婚者に限って、正規・非正規労働者別の就労継続意向をみると、いずれも「当分は今の仕事を続ける」が最も多いものの、正規労働者が68.9％に対し、非正規労働者は48.1％で、正規労働者に比べ20.8ポイント低く、「転職の可能性がある」（37.0％）、「退職の可能性がある」（7.4％）の割合が高い。（図表1-8④-5）

【図表1-8④-5　未婚の正規・非正規労働者別　今後の就労継続の見通し】



（9）配偶者（パートナー）の就労形態（配偶者（パートナー）がいる30～34歳のみ回答）

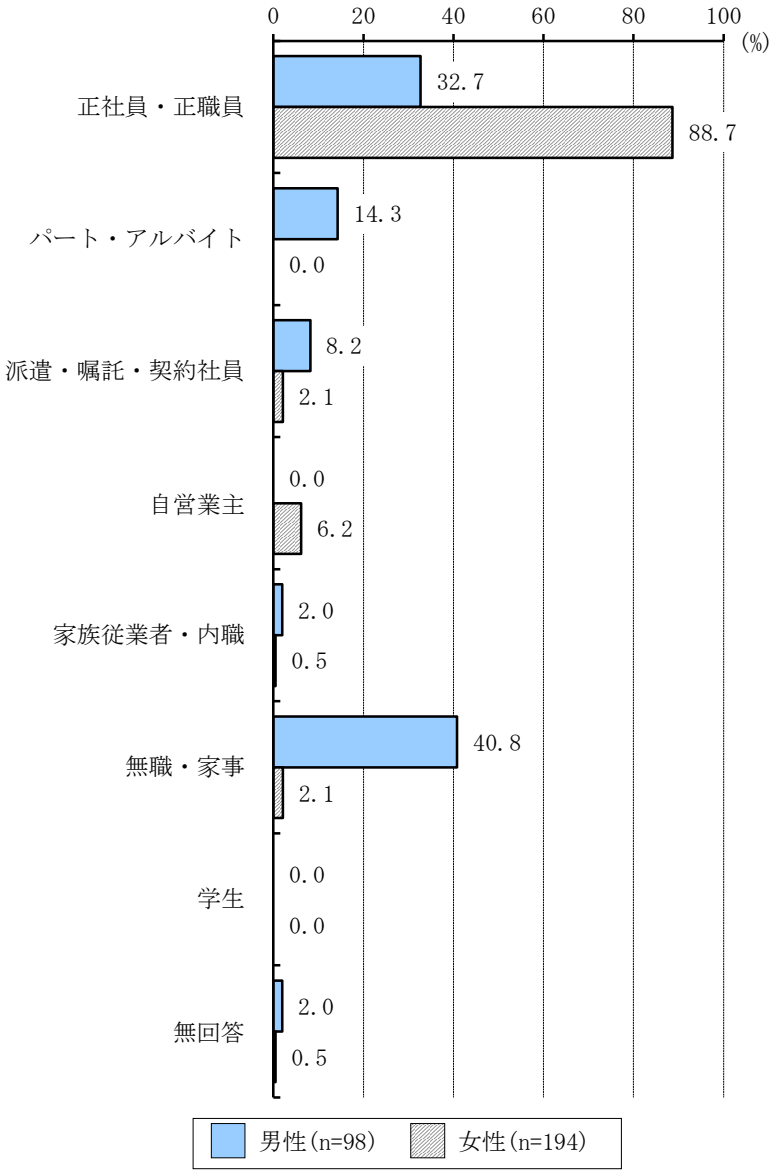
問　【配偶者（パートナー）がおられる方に】あなたの配偶者（パートナー）の現在のお勤め等の状況について、あてはまる番号に○をつけてください。（○は１つ）

［性別］

男性の配偶者（＝妻、女性パートナー）は「無職・家事」が40.8%に対し、「正社員・正職員」32.7%、「パート・アルバイト」14.3%で、就労している割合は57.2%となっている。

一方、女性の配偶者（＝夫、男性パートナー）は「正社員・正職員」が88.7%を占めている。（図表1-9）

【図表1-9　性別　配偶者（パートナー）の就労形態】



〔2〕結婚について

（1）結婚観

問　あなたは、結婚することについて、どのようなお考えをお持ちですか。 現在結婚している方もお考えをお聞かせください。（○はいくつでも）

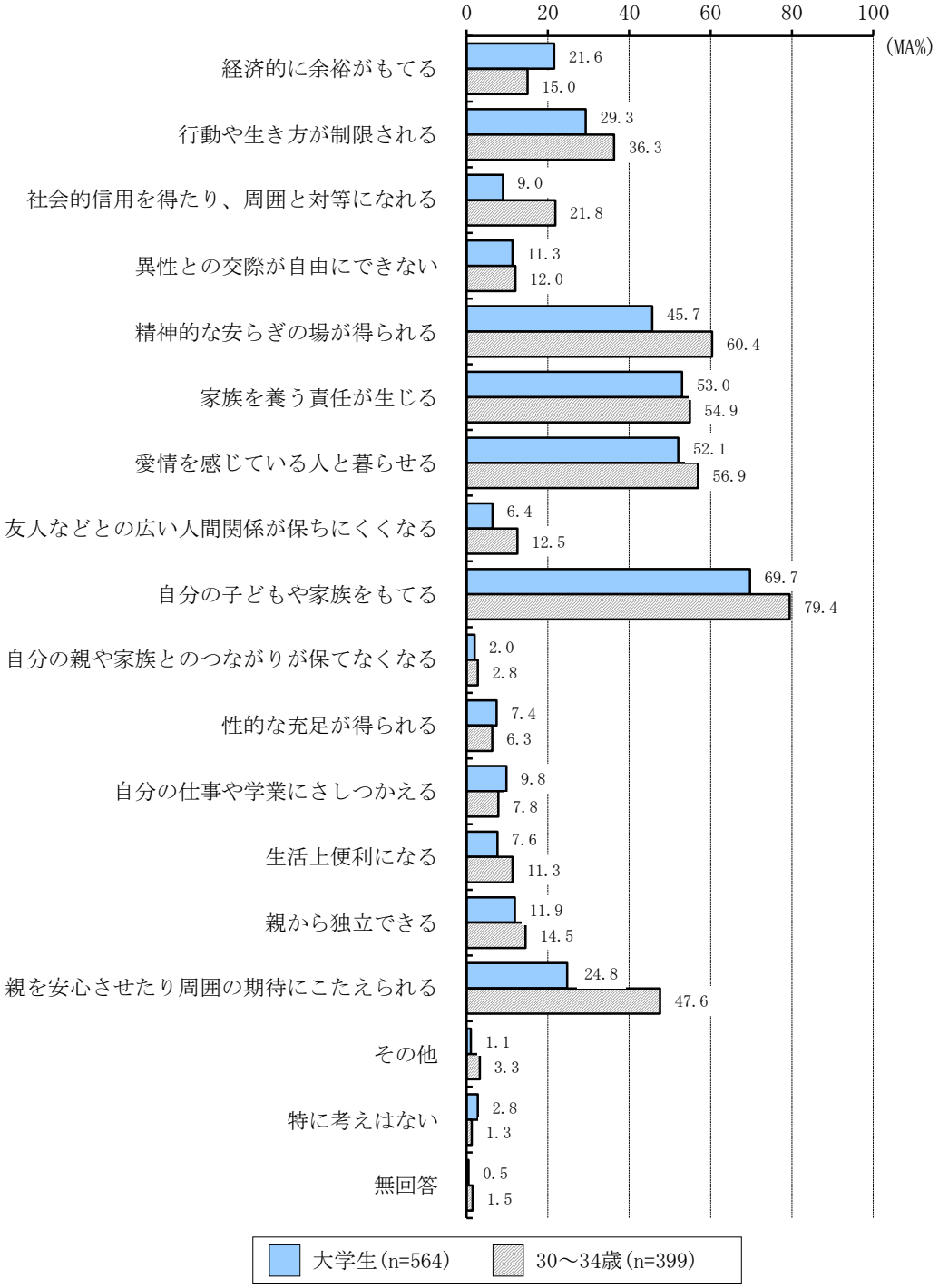
大学生は「自分の子どもや家族をもてる」が69.7%で最も多く、次いで「家族を養う責任が生じる」が53.0%、「愛情を感じている人と暮らせる」が52.1%と続いている。

一方、30～34歳は「自分の子どもや家族をもてる」が79.4%で最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」が60.4%、「愛情を感じている人と暮らせる」が56.9%と続いている。

また、多くの項目で30～34歳のほうが高い割合となっており、なかでも「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」（47.6%）は22.8ポイント差、「精神的な安らぎの場が得られる」は14.7ポイント差、「社会的信用を得たり、周囲と対等になれる」（21.8%）は12.8ポイント差で高くなっている。

一方、大学生のほうが高い項目は、「経済的に余裕がもてる」（21.6%）が6.6ポイント差で高くなっている。（図表2-1）

【図表2-1　結婚観】


0
20
40
60
80
100
(MA%)
経済的に余裕がもてる
21.6
15.0
行動や生き方が制限される
29.3
36.3
社会的信用を得たり、周囲と対等になれる
9.0
21.8
異性との交際が自由にできない
11.3
12.0
精神的な安らぎの場が得られる
45.7
60.4
家族を養う責任が生じる
53.0
54.9
愛情を感じている人と暮らせる
52.1
56.9
友人などとの広い人間関係が保ちにくくなる
6.4
12.5
自分の子どもや家族をもてる
69.7
79.4
自分の親や家族とのつながりが保てなくなる
2.0
2.8
性的な充足が得られる
7.4
6.3
自分の仕事や学業にさしつかえる
9.8
7.8
生活上便利になる
7.6
11.3
親から独立できる
11.9
14.5
親を安心させたり周囲の期待にこたえられる
24.8
47.6
その他
1.1
3.3
特に考えはない
2.8
1.3
無回答
0.5
1.5
大学生(n=564)
30～34歳(n=399)

［性別］

男性は、大学生・30～34歳とも「家族を養う責任が生じる」（大学生 66.5%、30～34歳 74.5%）が最も多く、次いで「自分の子どもや家族をもてる」（大学生 64.7%、30～34歳 73.1%）、「精神的な安らぎの場が得られる」（大学生 53.2%、30～34歳 61.4%）と続いている。

一方、女性は、大学生・30～34歳とも「自分の子どもや家族をもてる」（大学生 72.2%、30～34歳 83.1%）が最も多くなっている。これに次いで、大学生は「愛情を感じている人と暮らせる」（53.4%）、「家族を養う責任が生じる」（47.4%）と続いている。30～34歳では「精神的な安らぎの場が得られる」（59.8%）、「愛情を感じている人と暮らせる」（56.7%）と続いている。（図表2-1-1）

【図表2-1-1　性別　結婚観】

(MA%)

		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
大学生	男性(n=173)	家族を養う責任が生じる 66.5	自分の子どもや家族をもてる 64.7	精神的な安らぎの場が得られる 53.2	愛情を感じている人と暮らせる 49.1	行動や生き方が制限される 34.1
	女性(n=388)	自分の子どもや家族をもてる 72.2	愛情を感じている人と暮らせる 53.4	家族を養う責任が生じる 47.4	精神的な安らぎの場が得られる 42.5	行動や生き方が制限される 27.3
30～34歳	男性(n=145)	家族を養う責任が生じる 74.5	自分の子どもや家族をもてる 73.1	精神的な安らぎの場が得られる 61.4	愛情を感じている人と暮らせる 57.2	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 41.4
	女性(n=254)	自分の子どもや家族をもてる 83.1	精神的な安らぎの場が得られる 59.8	愛情を感じている人と暮らせる 56.7	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 51.2	家族を養う責任が生じる 43.7

［親との同居・別居別］

大学生は、親との同居・別居に関係なく、ほとんど違いはみられない。

30～34歳は、親との同居・別居に関わらず、「自分の子どもや家族をもてる」が最も多く、親と同居している人が71.4%、親と同居していない人は81.4%で、親と同居していない人のほうが10ポイント高くなっている。これに次いで、親と同居している人は「家族を養う責任が生じる」と「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」がともに62.3%となっている。親と同居していない人は「精神的な安らぎの場が得られる」が64.0%、「愛情を感じている人と暮らせる」が59.0%と続いている。（図表2-1-2）

【図表2-1-2　親との同居・別居別　結婚観】

(MA%)

		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
大学生	同居している (n=443)	自分の子どもや家族をもてる 70.0	家族を養う責任が生じる 54.0	愛情を感じている人と暮らせる 49.9	精神的な安らぎの場が得られる 45.1	行動や生き方が制限される 29.6
	同居していない (n=118)	自分の子どもや家族をもてる 68.6	愛情を感じている人と暮らせる 61.0	家族を養う責任が生じる 50.0	精神的な安らぎの場が得られる 47.5	行動や生き方が制限される 28.8
30～34歳	同居している (n=77)	自分の子どもや家族をもてる 71.4	家族を養う責任が生じる／親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 62.3		愛情を感じている人と暮らせる 48.1	精神的な安らぎの場が得られる 45.5
	同居していない (n=322)	自分の子どもや家族をもてる 81.4	精神的な安らぎの場が得られる 64.0	愛情を感じている人と暮らせる 59.0	家族を養う責任が生じる 53.1	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 44.1

［30～34歳／未既婚別］

30～34歳の人では、未既婚に関わらず、「自分の子どもや家族をもてる」が最も多く、既婚者が82.9%に対し、未婚者は70.1%で、既婚者のほうが12.8ポイント高くなっている。これに次いで、既婚者は「精神的な安らぎの場が得られる」が64.4%、「愛情を感じている人と暮らせる」が59.2%と続いている。未婚者では「家族を養う責任が生じる」と「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」がともに58.9%となっている。（図表2-1-3）

【図表2-1-3　未既婚別　結婚観（30～34歳）】

(MA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
結婚している (事実婚を含む) (n=292)	自分の子どもや家族をもてる 82.9	精神的な安らぎの場が得られる 64.4	愛情を感じている人と暮らせる 59.2	家族を養う責任が生じる 53.4	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 43.5
独身 (n=107)	自分の子どもや家族をもてる 70.1	家族を養う責任が生じる／親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 58.9		愛情を感じている人と暮らせる 50.5	精神的な安らぎの場が得られる 49.5

［30～34歳／子どもの有無別］

子どもの有無に関わらず、「自分の子どもや家族をもてる」が最も多く、子どもがいる人が84.8%に対し、子どもがいない人は71.6%で、子どもがいる人のほうが13.2ポイント高くなっている。これに次いで「精神的な安らぎの場が得られる」（いる 61.3%、いない 59.4%）、「愛情を感じている人と暮らせる」（いる 56.8%、いない 57.4%）と続いている。

また、「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」は、子どもがいる人が42.0%に対し、子どもがいない人は56.8%で、子どもがいない人のほうが14.8ポイント高くなっている。（図表2-1-4）

【図表2-1-4　子どもの有無別　結婚観（30～34歳）】

(MA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
いる (妊娠中も含む) (n=243)	自分の子どもや家族をもてる 84.8	精神的な安らぎの場が得られる 61.3	愛情を感じている人と暮らせる 56.8	家族を養う責任が生じる 54.3	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 42.0
いない (n=155)	自分の子どもや家族をもてる 71.6	精神的な安らぎの場が得られる 59.4	愛情を感じている人と暮らせる 57.4	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 56.8	家族を養う責任が生じる 56.1

［30～34歳／現在の就労形態別］

30～34歳の人で現在の就労形態別でみると、就労形態に関わらず、「自分の子どもや家族をもてる」が最も多く、なかでも無職等は87.5%と高くなっている。また、正規労働者は、「精神的な安らぎの場が得られる」（70.5%）や「家族を養う責任が生じる」（67.0%）、「愛情を感じている人と暮らせる」（61.0%）が6割以上と高く、非正規労働者や無職等に比べ高くなっている。

非正規労働者では「行動や生き方が制限される」が42.7%で上位に挙がっている。（図表2-1-5）

【図表2-1-5　現在の就労形態別　結婚観（30～34歳）】

(MA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
正社員・正職員 (n=200)	自分の子どもや家族をもてる 78.5	精神的な安らぎの場が得られる 70.5	家族を養う責任が生じる 67.0	愛情を感じている人と暮らせる 61.0	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 49.5
パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約社員 (n=82)	自分の子どもや家族をもてる 73.2	愛情を感じている人と暮らせる 53.7	精神的な安らぎの場が得られる 48.8	家族を養う責任が生じる 47.6	行動や生き方が制限される／親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 42.7
自営業主、家事従業者・内職 (n=11)	自分の子どもや家族をもてる 81.8	家族を養う責任が生じる 72.7	精神的な安らぎの場が得られる 63.6	愛情を感じている人と暮らせる／親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 54.5	
無職・家事、学生 (n=104)	自分の子どもや家族をもてる 87.5	愛情を感じている人と暮らせる 52.9	精神的な安らぎの場が得られる 51.0	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 48.1	家族を養う責任が生じる 36.5

［結婚の意向別］

大学生について、結婚したいと考えている人は、「自分の子どもや家族をもてる」が７～８割台で最も多く、結婚を前提に付き合っている相手がいる人では「愛情を感じている人と暮らせる」が82.5%、「精神的な安らぎの場が得られる」が70.0%と高くなっている。

また、恋人の有無に関わらず、いつかは結婚したい人では、「家族を養う責任が生じる」が５割台で第２位に挙がっている。一方、結婚する気はない人では「行動や生き方が制限される」と「家族を養う責任が生じる」がともに47.4%で最も多く、第４位には「自分の仕事や学業にさしつかえる」が24.6%と上位に挙がっている。

30～34歳で現在未婚者のうち、結婚したいと考えている人では、「自分の子どもや家族をもてる」が最も多く、「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」が上位に挙がっている。一方、結婚する気はない人は「家族を養う責任が生じる」（63.6%）が最も多くなっている。（図表2-1-6）

【図表2-1-6　結婚の意向別　結婚観】

(MA%)

		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
大学生	結婚を前提に付き合っている相手がいる (n=40)	自分の子どもや家族をもてる 85.0	愛情を感じている人と暮らせる 82.5	精神的な安らぎの場が得られる 70.0	家族を養う責任が生じる 42.5	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 25.0
	いつかは結婚したい（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる） (n=154)	自分の子どもや家族をもてる 77.3	家族を養う責任が生じる 53.9	愛情を感じている人と暮らせる 52.6	精神的な安らぎの場が得られる 43.5	行動や生き方が制限される 30.5
	いつかは結婚したい（現在、恋人はいない） (n=297)	自分の子どもや家族をもてる 72.4	家族を養う責任が生じる 55.2	愛情を感じている人と暮らせる 53.9	精神的な安らぎの場が得られる 48.1	行動や生き方が制限される 26.9
	結婚する気はない・生涯独身でいたい (n=57)	行動や生き方が制限される／家族を養う責任が生じる 47.4		自分の子どもや家族をもてる 28.1	自分の仕事や学業にさしつかえる 24.6	精神的な安らぎの場が得られる 22.8
30～34歳	結婚を前提に付き合っている相手がいる (n=15)	自分の子どもや家族をもてる 86.7	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 60.0	家族を養う責任が生じる／愛情を感じている人と暮らせる 53.3		精神的な安らぎの場が得られる 46.7
	いつかは結婚したい（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる） (n=20)	自分の子どもや家族をもてる 75.0	行動や生き方が制限される／家族を養う責任が生じる 65.0		精神的な安らぎの場が得られる／親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 60.0	
	いつかは結婚したい（現在、恋人はいない） (n=59)	自分の子どもや家族をもてる 69.5	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 64.4	家族を養う責任が生じる 59.3	愛情を感じている人と暮らせる 54.2	精神的な安らぎの場が得られる 50.8
	結婚する気はない・生涯独身でいたい (n=11)	家族を養う責任が生じる 63.6	行動や生き方が制限される／自分の子どもや家族をもてる 54.5		精神的な安らぎの場が得られる／親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 36.4	

［結婚したい時期（年齢）別］

大学生の場合、20歳代で結婚を考えている人では「自分の子どもや家族をもてる」が77.3%で最も多く、30歳以降に結婚を考えている人（61.2%）に比べ16.1ポイント高い。また、「経済的に余裕がもてる」が26.9%で第５位となっている。

一方、30歳以降に結婚を考えている人では、「家族を養う責任が生じる」が69.4%で最も多く、20歳代で結婚を考えている人（50.4%）に比べ19ポイント高い。また、「行動や生き方が制限される」が33.7%で第５位となっている。

30～34歳の場合、結婚したい年齢に関わらず、「自分の子どもや家族をもてる」が最も多く、「家族を養う責任が生じる」と「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」が上位３位内に挙がっている。（図表2-1-7）

【図表2-1-7　結婚したい自分の年齢別　結婚観】

(MA%)

		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
大学生	20～29歳 (n=335)	自分の子どもや家族をもてる 77.3	愛情を感じている人と暮らせる 55.5	家族を養う責任が生じる 50.4	精神的な安らぎの場が得られる 46.0	経済的に余裕がもてる 26.9
	30歳以降 (n=98)	家族を養う責任が生じる 69.4	自分の子どもや家族をもてる 61.2	精神的な安らぎの場が得られる 48.0	愛情を感じている人と暮らせる 44.9	行動や生き方が制限される 33.7
30～34歳	30～34歳 (n=14)	自分の子どもや家族をもてる 71.4	家族を養う責任が生じる／親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 57.1		愛情を感じている人と暮らせる 50.0	精神的な安らぎの場が得られる 42.9
	35歳以降 (n=59)	自分の子どもや家族をもてる 72.9	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 66.1	家族を養う責任が生じる 64.4	精神的な安らぎの場が得られる／愛情を感じている人と暮らせる 57.6	

（２）結婚の意向

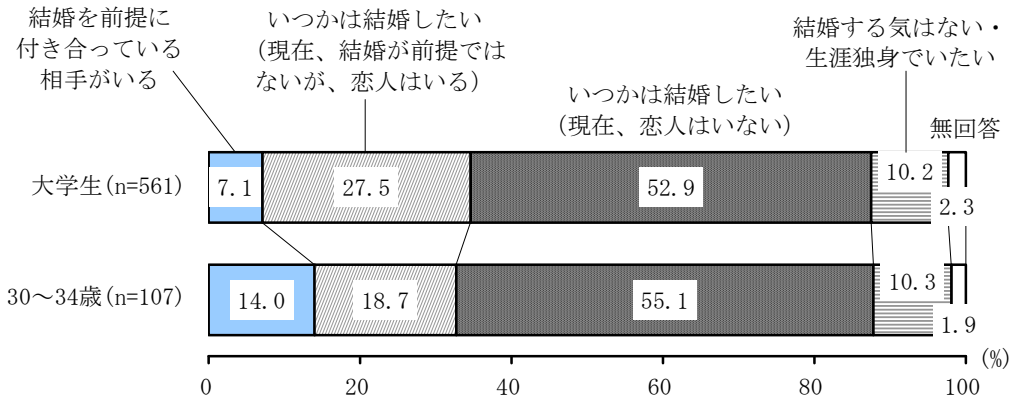
【現在独身の方におうかがいします。】
問　あなたは、結婚したいと思いますか。（○は１つ）

独身の人に、結婚の意向をたずねると、大学生・30～34歳とも「いつかは結婚したい（現在、恋人はいない）」（大学生 52.9%、30～34歳 55.1%）が半数を占めている。

次いで「いつかは結婚したい（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる）」が、大学生で27.5%、30～34歳は18.7%となっている。また、「結婚を前提に付き合っている相手がいる」は、大学生が7.1%に対し、30～34歳は14.0%となっている。

一方、「結婚する気はない・生涯独身でいたい」は、大学生・30～34歳とも10%台となっている。（図表2-2）

【図表2-2　結婚の意向】

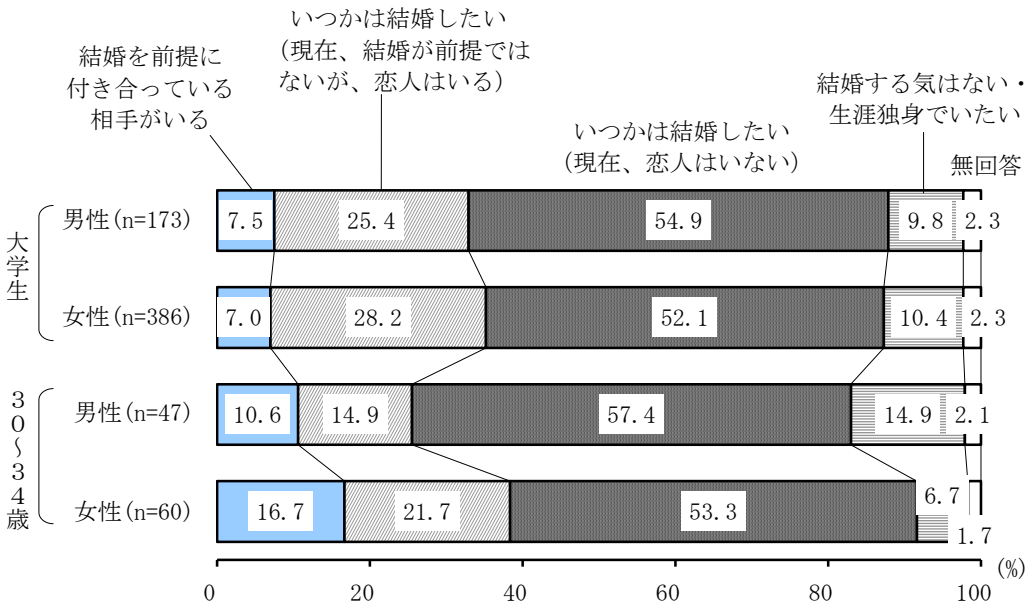


［性別］

大学生は、男女とも「いつかは結婚したい（現在、恋人はいない）」が５割台を占めており、ほとんど違いはない。

30～34歳は、男女とも「いつかは結婚したい（現在、恋人はいない）」が５割台を占めている。女性は「結婚を前提に付き合っている相手がいる」が16.7%、「いつかは結婚したい（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる）」は21.7%で、交際相手のいる割合が38.4%を占め、男性（25.5%）に比べ12.9ポイント高い。男性は「結婚する気はない・生涯独身でいたい」が14.9%で、女性（6.7%）に比べ8.2ポイント高い。（図表2-2-1）

【図表2-2-1　性別　結婚の意向】

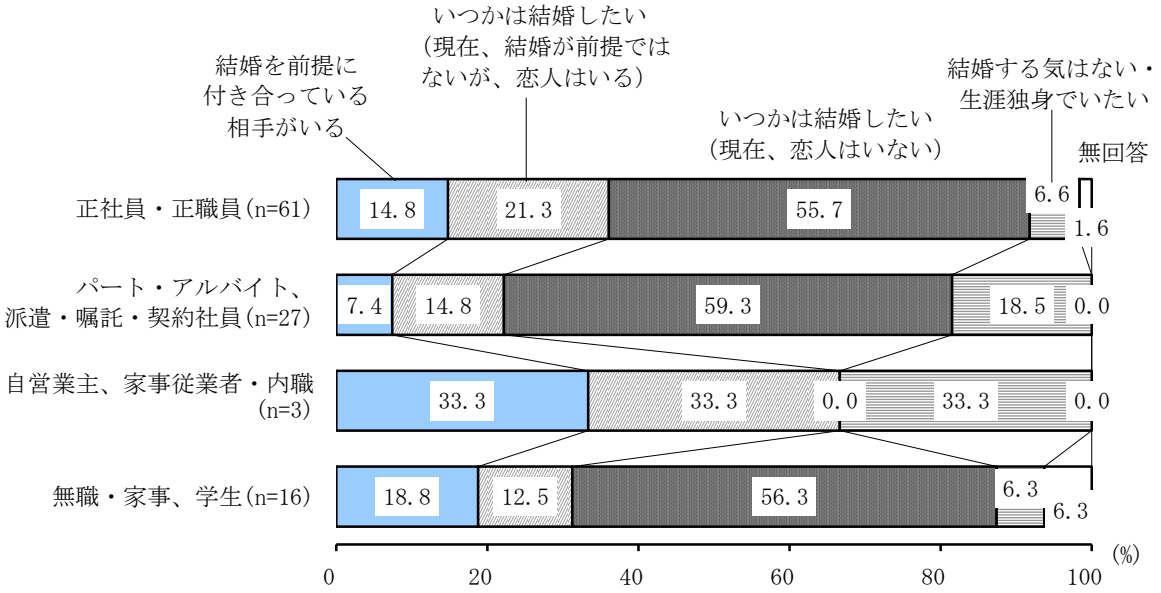


［30～34歳／現在の就労形態別］

30～34歳について、現在の就労形態別でみると、母数が少ないので一概には言えないが、就労形態に関わらず、「いつかは結婚したい（現在、恋人はいない）」（正規労働者 55.7%、非正規労働者 59.3%・16人、無職等56.3%・９人）が５割台を占めている。交際相手のいる割合は、正規労働者が36.1%に対し、非正規労働者は22.2%（６人）で、正規労働者のほうが13.9ポイント高くなっている。

一方、「結婚する気はない・生涯独身でいたい」は、正規労働者が6.6%に対し、非正規労働者は18.5%（５人）で、非正規労働者のほうが11.9ポイント高くなっている。（図表2-2-2）

【図表2-2-2　現在の就労形態別　結婚の意向（30～34歳）】



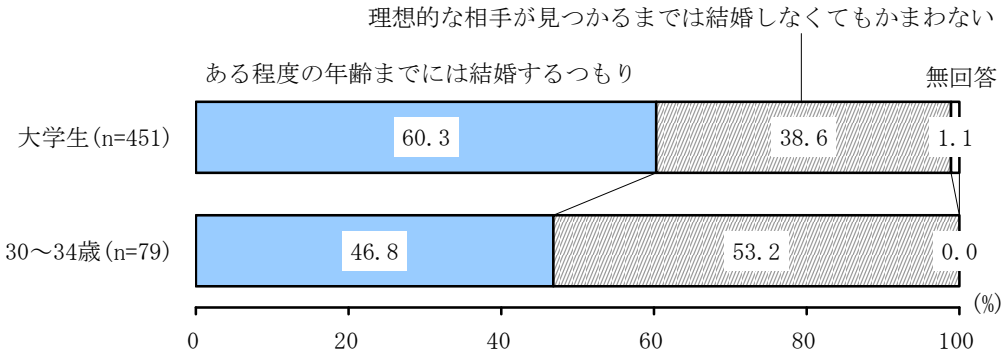
（３）結婚のタイミングについての考え

【「いつかは結婚したい」と回答した方におうかがいします。】

問　自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。（○は１つ）

いつかは結婚したいと回答した人に、結婚をする時期の上限をたずねると、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」は、大学生が60.3%に対し、30～34歳は46.8%で、大学生のほうが13.5ポイント高くなっている。一方、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」では、大学生が38.6%に対し、30～34歳は53.2%で、30～34歳のほうが14.6ポイント高くなっている。（図表2-3）

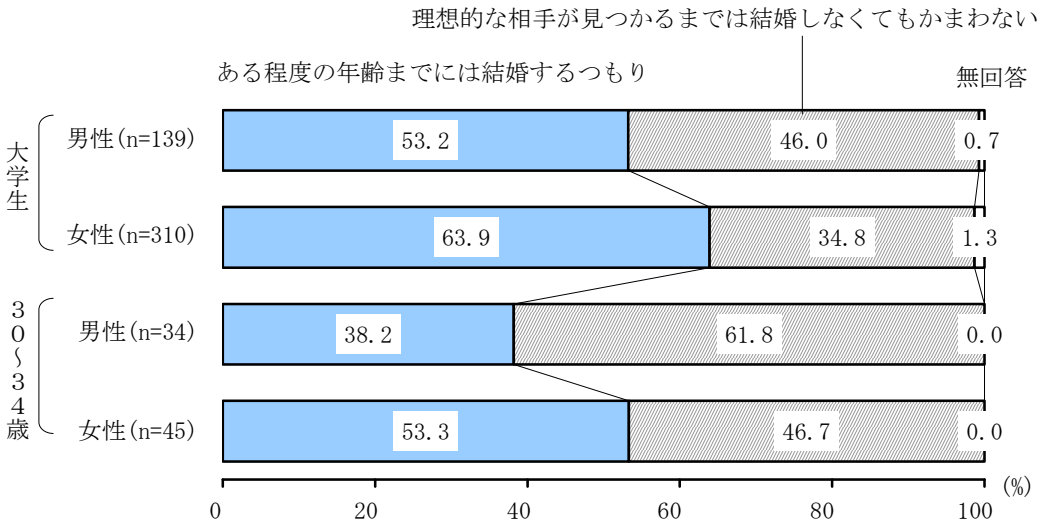
【図表2-3　結婚のタイミングについての考え】



［性別］

大学生は、男女とも「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が過半数を占め、男性が53.2%に対し、女性は63.9%で、女性のほうが10.7ポイント高くなっている。一方、30～34歳は、男性の場合は「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が61.8%を、女性は「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が53.3%をそれぞれ占め高くなっている。（図表2-3-1）

【図表2-3-1　性別　結婚のタイミングについての考え】

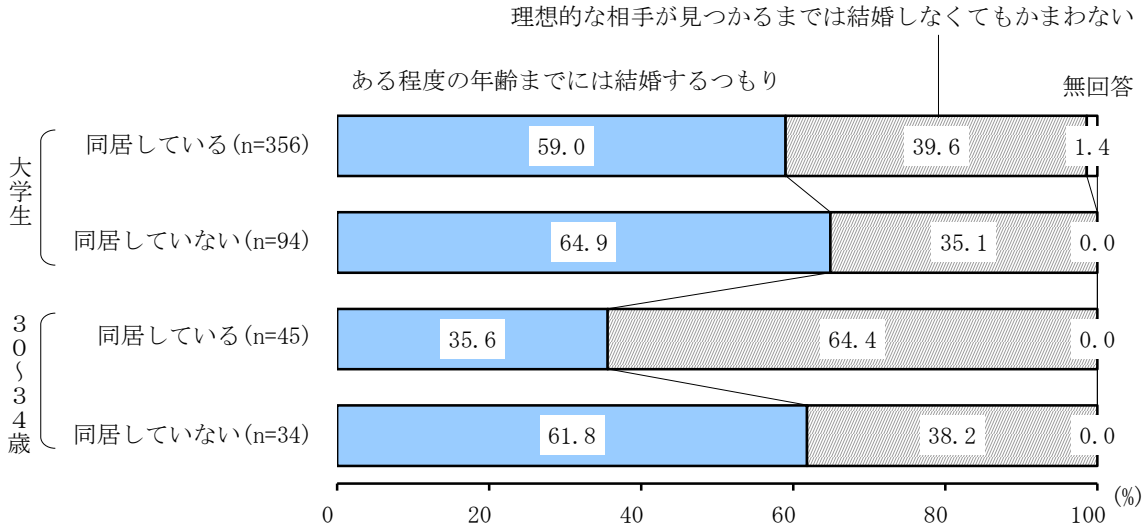


［親との同居・別居別］

大学生の場合は、親との同居・別居に関わらず、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」がいずれも過半数を占め、親と同居していない人のほうがやや高くなっている。

一方、30～34歳の場合、親と同居している人では「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が64.4％と高いのに対し、親と同居していない人では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が61.8％と高くなっている。（図表2-3-2）

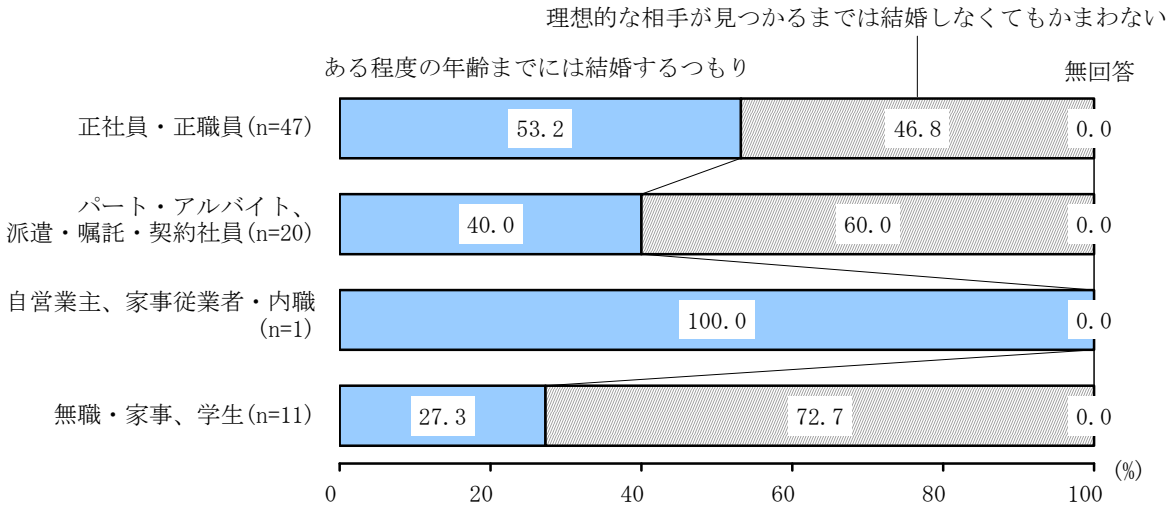
【図表2-3-2　親との同居・別居別　結婚のタイミングについての考え】



［30～34歳／現在の就労形態別］

正規労働者は、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が53.2％を占めるのに対し、非正規労働者は「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が60.0％（12人）を占めている。（図表2-3-3）

【図表2-3-3　現在の就労形態別　結婚のタイミングについての考え（30～34歳）】

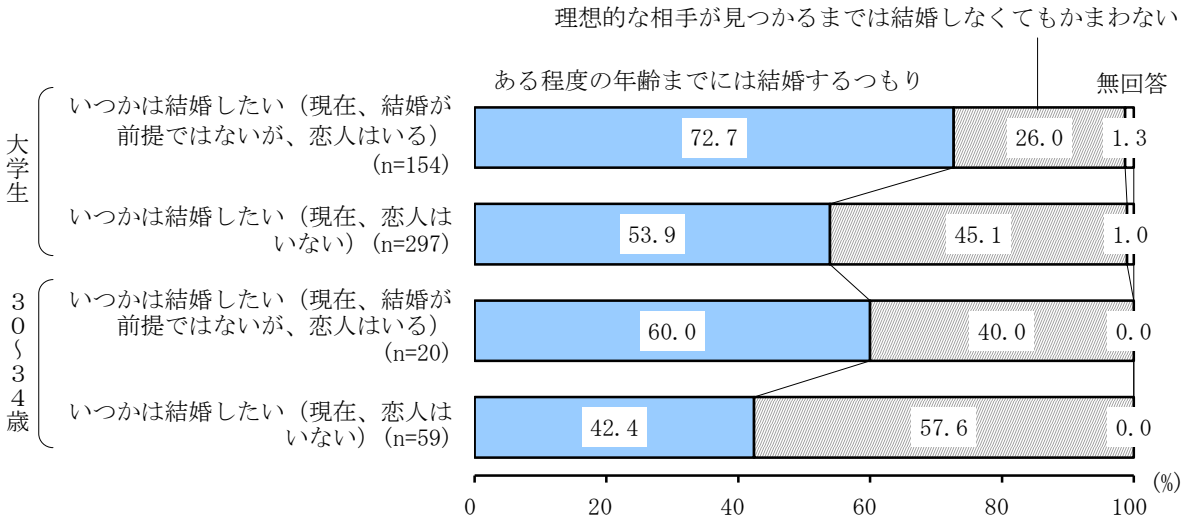


［恋人の有無別］

大学生・30～34歳とも「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の割合は、恋人がいない人に比べ、恋人がいる人で高くなっている。

一方、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」の割合は、30～34歳の恋人がいない人で57.6%を占め、最も高くなっている。（図表2-3-4）

【図表2-3-4　恋人の有無別　結婚のタイミングについての考え】



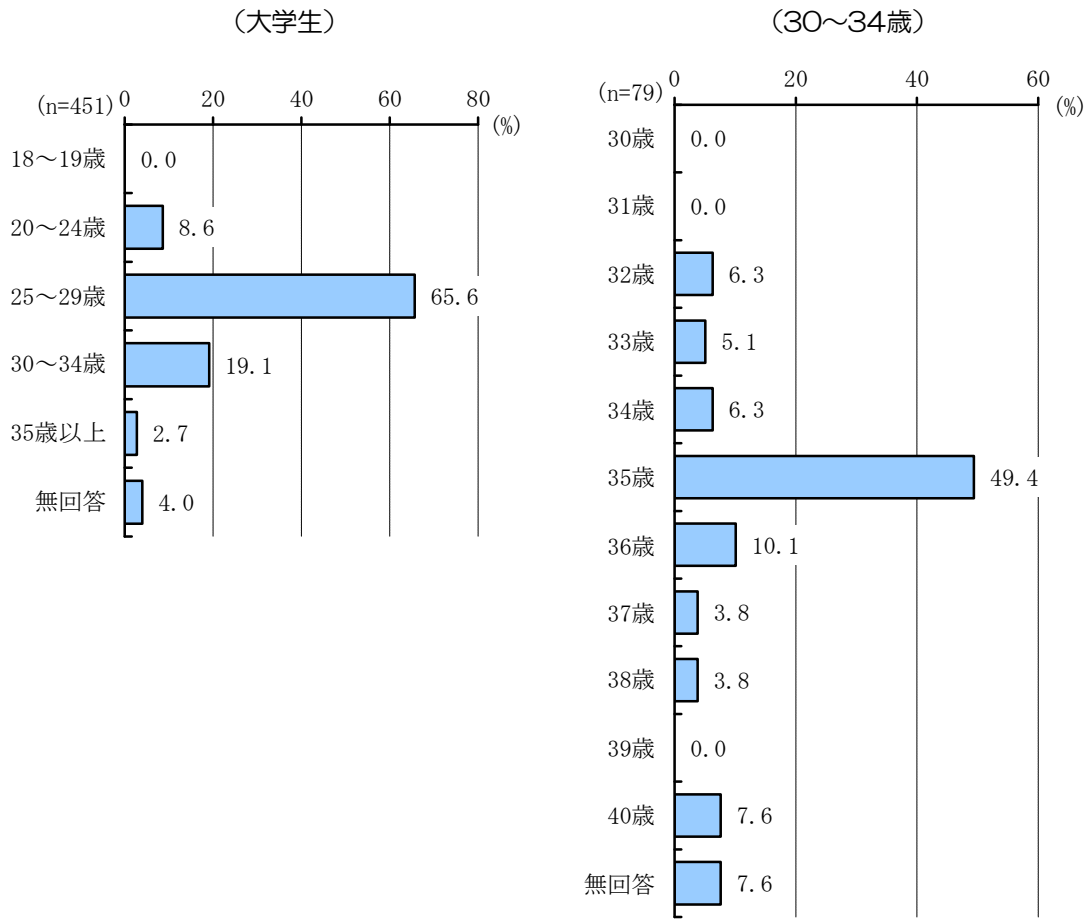
（４）結婚したい時期（年齢）

【「いつかは結婚したい」と回答した方におうかがいします。】
問　あなたは、何歳ぐらいのときに結婚したいと思いますか。希望する年齢を（　）内に記入してください。

いつかは結婚したいと回答した人の結婚したい時期（年齢）は、大学生の場合、「25～29歳」が65.6%で最も多く、次いで「30～34歳」が19.1%、「20～24歳」が8.6%となっている。

30～34歳の場合は、「35歳」が49.4%で最も多く、次いで「36歳」が10.1%、「40歳」が7.6%となっている。（図表2-4）

【図表2-4　結婚したい時期（年齢）】

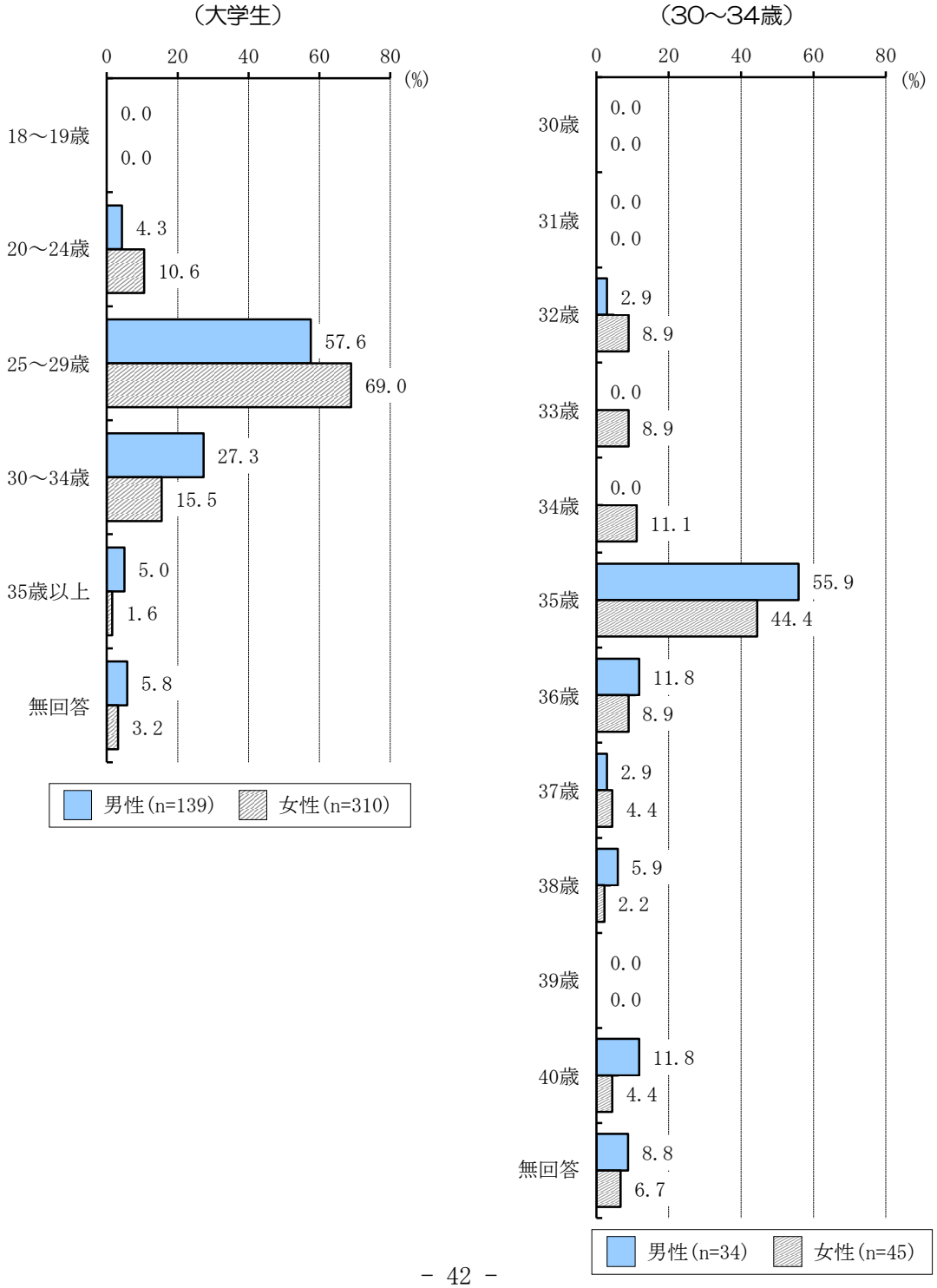


［性別］

大学生の場合は、男女とも「25～29歳」が過半数を占め、男性が57.6%に対し、女性は69.0%で、女性のほうが11.4ポイント高くなっている。これに次いで、「30～34歳」が多く、男性（27.3%）のほうが女性（15.5%）に比べ11.8ポイント高くなっている。また、「20歳代」の割合は女性のほうが、「30歳以上」の割合は男性のほうが高い。

30～34歳の場合は、男女とも「35歳」が最も多く、男性が55.9%に対し、女性は44.4%で、男性のほうが11.5ポイント高くなっている。これに次いで男性は「36歳」と「40歳」が11.8%となっている。一方、女性は「34歳」が11.1%と続き、30歳代前半の割合が28.9%を占める。（図表2-4-1）

【図表2-4-1　性別　結婚したい時期（年齢）】

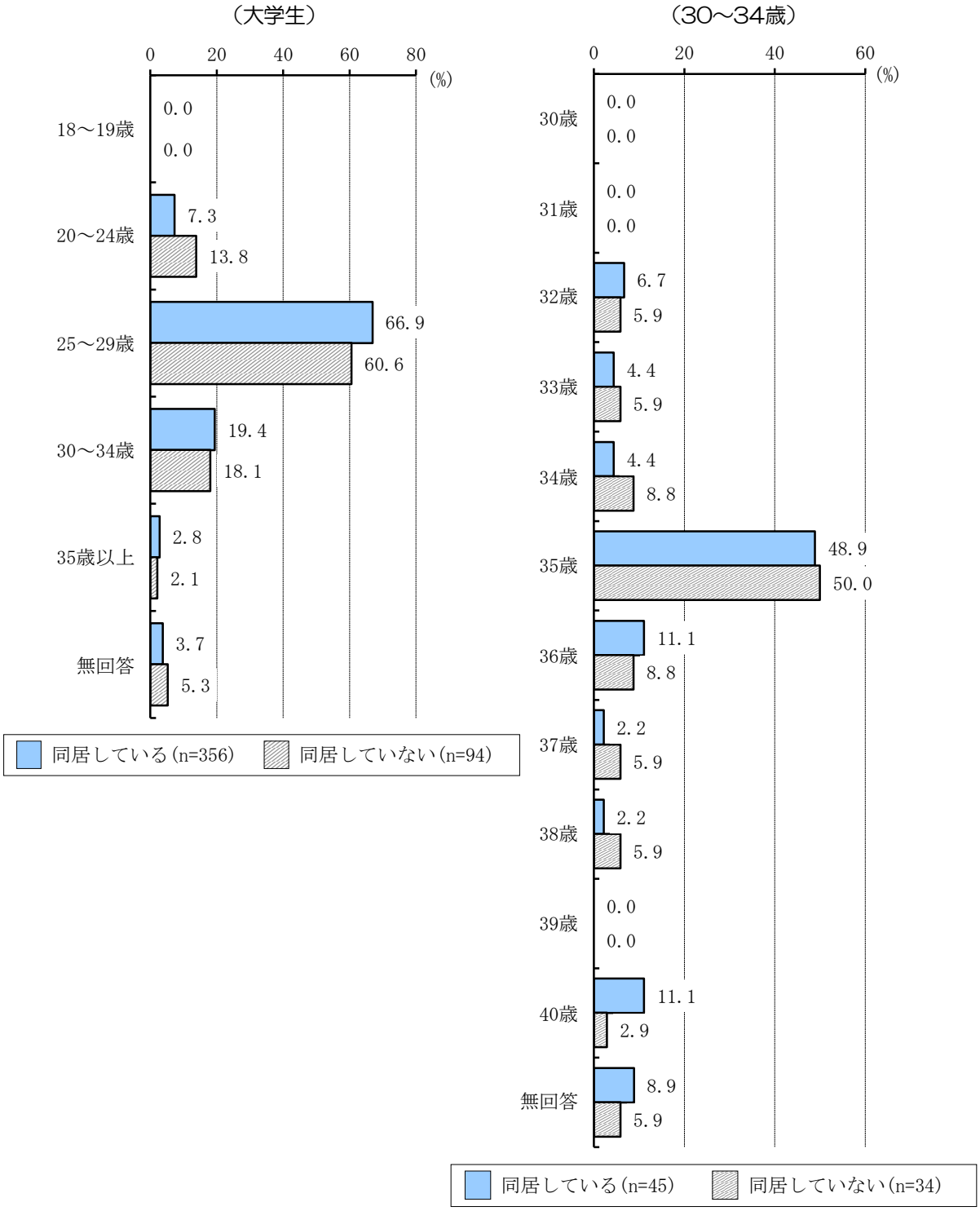


［親との同居・別居別］

大学生の場合は、親との同居・別居に関わらず、「25～29歳」が最も多く、次いで「30～34歳」となっている。「20～24歳」は、親と同居していない人（13.8%）のほうが親と同居している人（7.3%）に比べ6.5ポイント高い。

30～34歳の場合は、親との同居・別居に関わらず、「35歳」がほぼ半数を占める。また、親と同居している人では「40歳」が11.1%で、親と同居していない人（2.9%）に比べ8.2ポイント高い。親と同居していない人では、30歳代前半の割合が20.6%で、親と同居している人（15.5%）に比べ5.1ポイント高くなっている。（図表2-4-2）

【図表2-4-2　親との同居・別居別　結婚したい時期（年齢）】

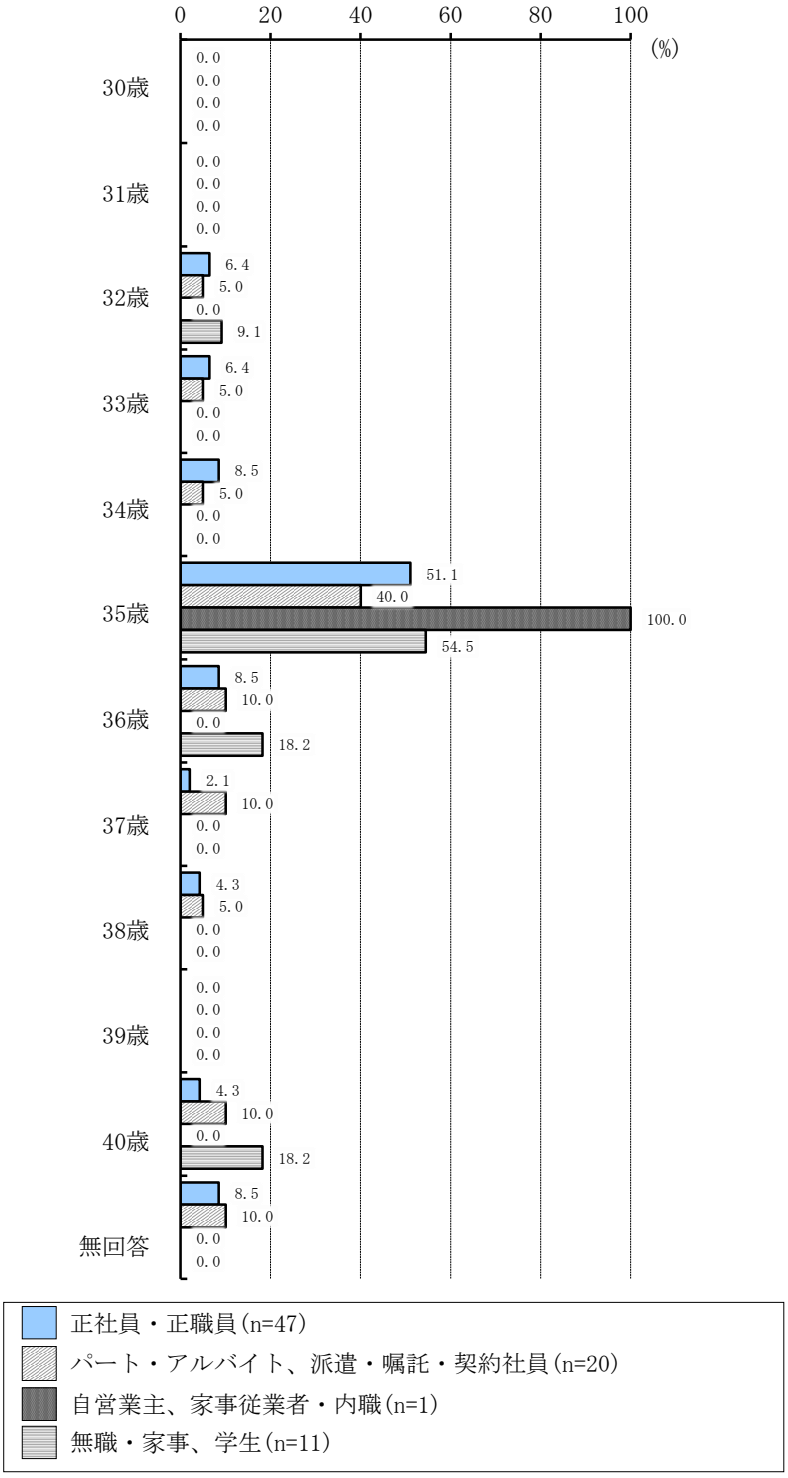


［30～34歳／現在の就労形態別］

就労形態に関わらず、「35歳」が最も多い。正規労働者は51.1％に対し、非正規労働者は40.0％（８人）となっている。

また、30歳代前半の割合は、正規労働者が21.3％に対し非正規労働者は15.0％（3人）となっている。（図表2-4-3）

【図表2-4-3　現在の就労形態別　結婚したい時期（年齢）（30～34歳）】

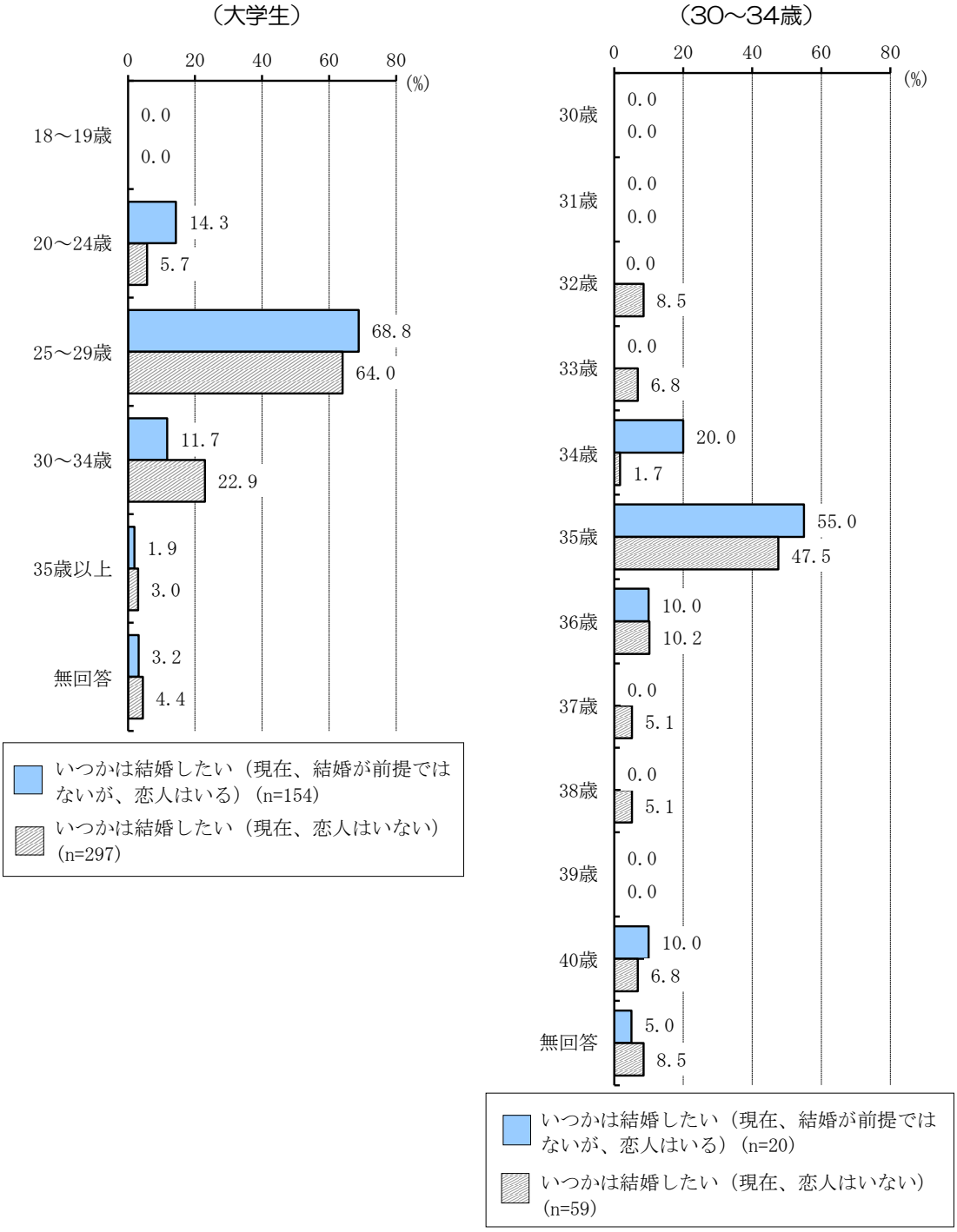


［恋人の有無別］

大学生の場合は、恋人の有無に関わらず、「25～29歳」が最も多くなっている。これに次いで、恋人がいる人では「20～24歳」が14.3%、「30～34歳」が11.7%となっている。一方、恋人がいない人では、「30～34歳」が22.9%で、恋人がいる人より11.2ポイント高くなっている。

30～34歳の場合は、恋人の有無に関わらず、「35歳」が最も多くなっている。恋人がいる人では、これに次いで「34歳」が20.0%（4人）となっている。一方、恋人がいない人では、30歳代前半の割合が17.0%、36歳以降の割合は27.2%となっている。（図表2-4-4）

【図表2-4-4　恋人の有無別　結婚したい時期（年齢）】



（５）結婚する気はない又は生涯独身でいたい理由

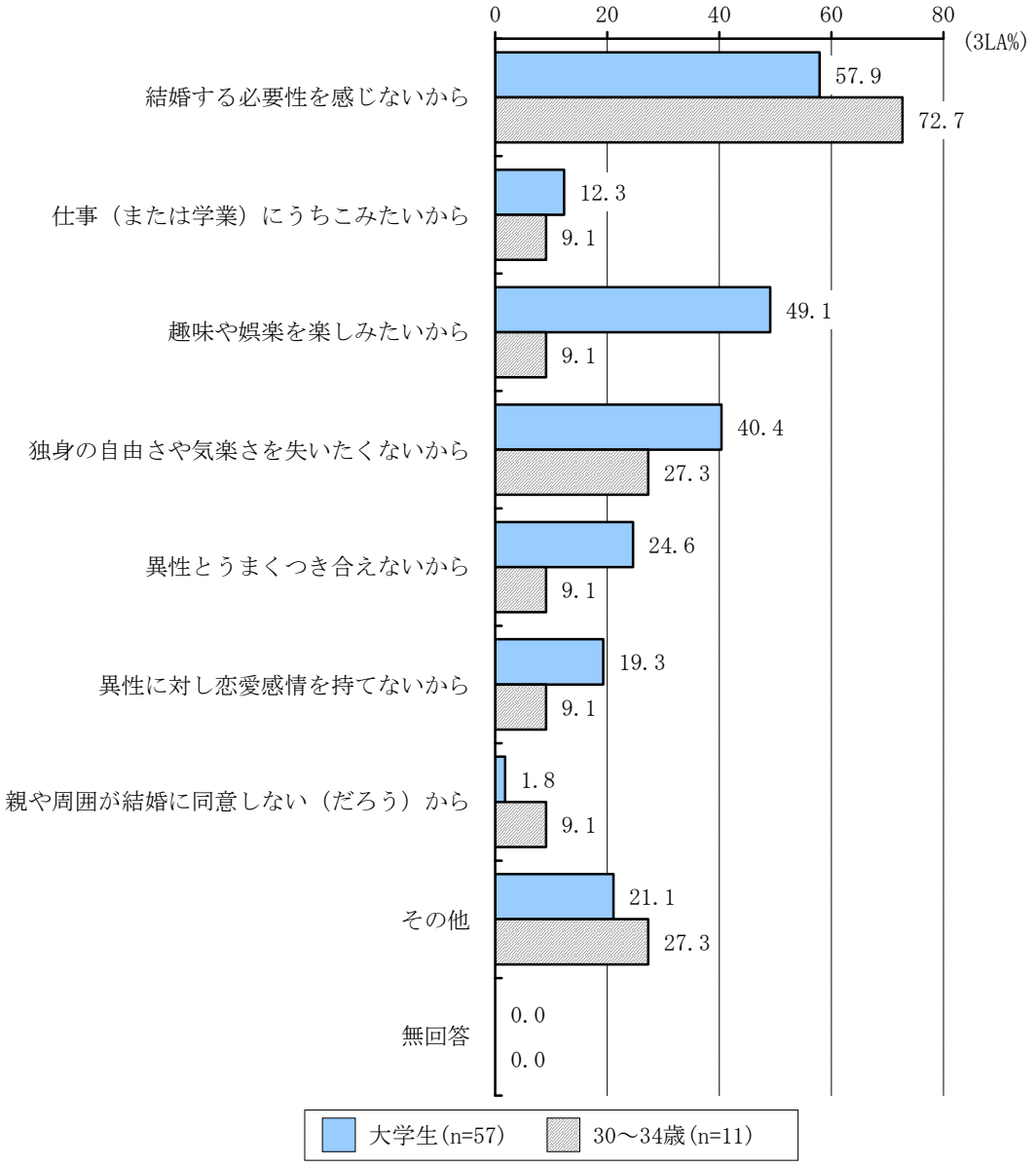
【「結婚する気はない・生涯独身でいたい」と回答した方におうかがいします。】
問　あなたが結婚する気はない、または生涯独身でいたい理由は何ですか。（○は３つまで）

結婚する気はない・生涯独身でいたい理由は、大学生の場合は、「結婚する必要性を感じないから」が57.9%で最も多く、次いで「趣味や娯楽を楽しみたいから」が49.1%、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が40.4%と続いている。

一方、30～34歳は、「結婚する必要性を感じないから」が72.7%（８人）で最も多く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が27.3%（３人）となっている。

「その他」（27.3%　３人）の意見では「離婚経験がある」（２人）や「経済的に無理」（１人）が挙げられている。（図表2-5）

【図表2-5　結婚する気はない又は生涯独身でいたい理由】

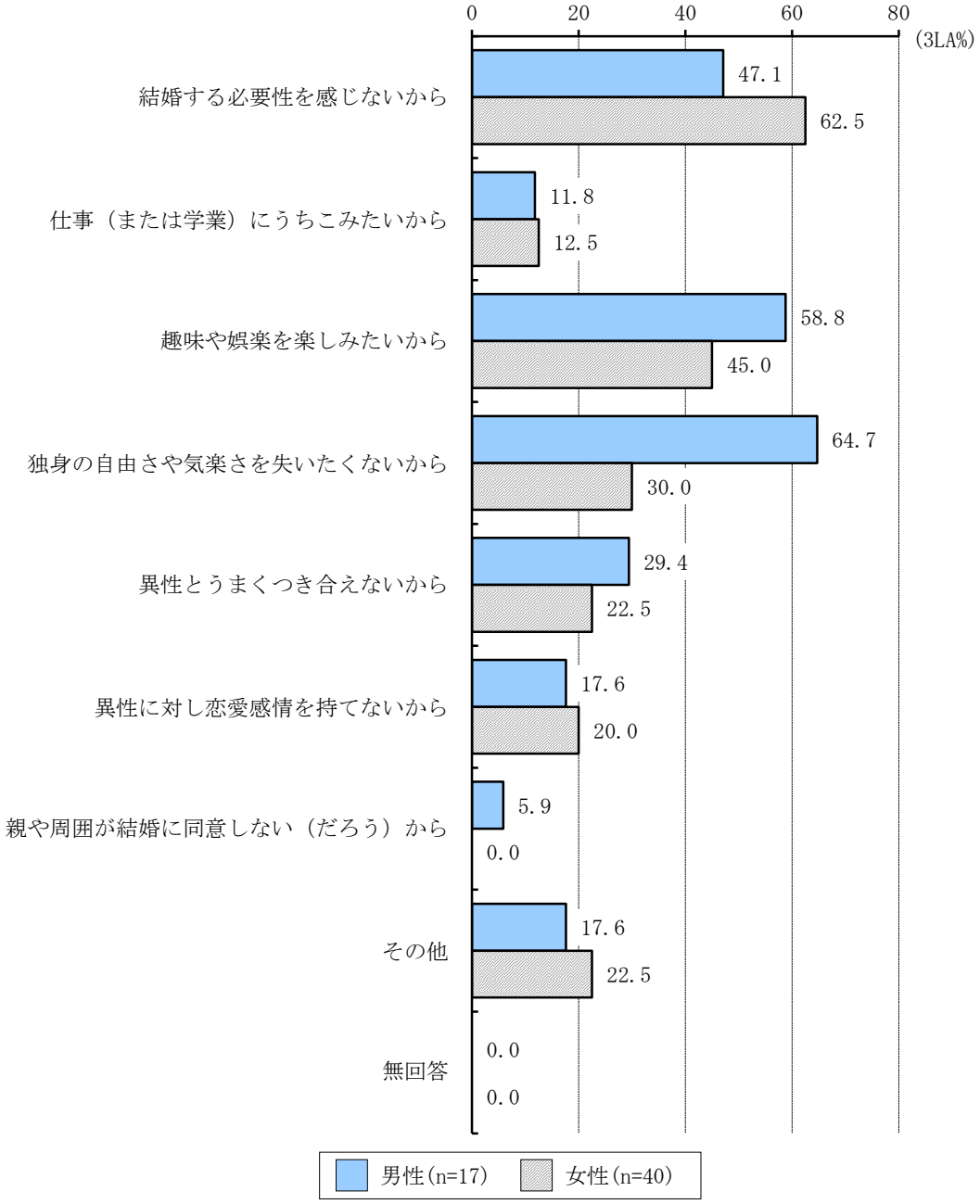


［大学生／性別］

男性は「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が64.7%（11人）で最も多く、次いで「趣味や娯楽を楽しみたいから」が58.8%（10人）と続いている。

一方、女性は「結婚する必要性を感じないから」が62.5%で最も多く、次いで「趣味や娯楽を楽しみたいから」が45.0%と続いている。（図表2-5-1）

【図表2-5-1　性別　結婚する気はない又は生涯独身でいたい理由（大学生）】

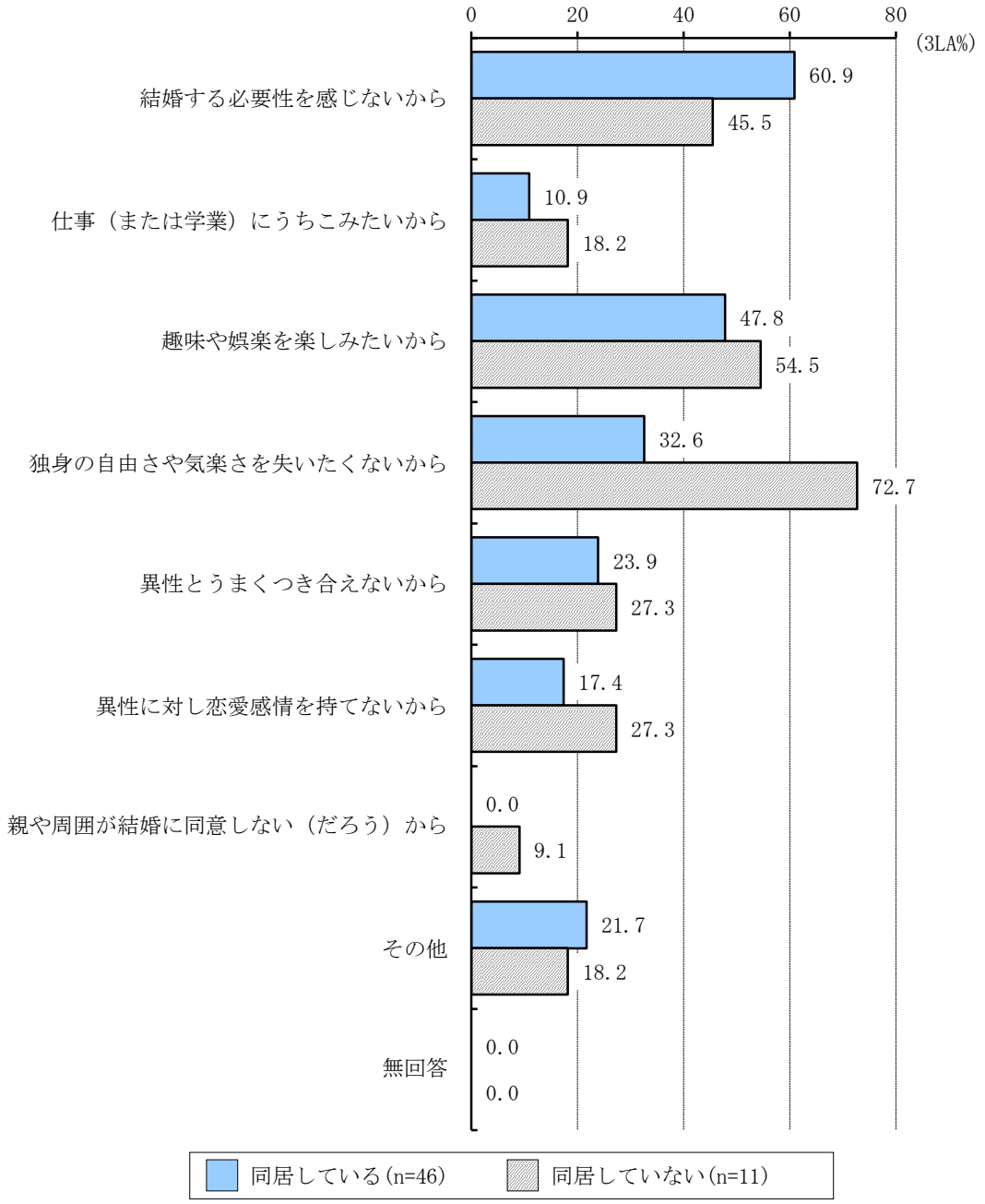


［大学生／親との同居・別居別］

親と同居している人は「結婚する必要性を感じないから」が60.9%で最も多く、次いで「趣味や娯楽を楽しみたいから」が47.8%と続いている。

一方、親と同居していない人は、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が72.7%（８人）で最も多く、次いで「趣味や娯楽を楽しみたいから」が54.5%（６人）と続いている。（図表2-5-2）

【図表2-5-2　親との同居・別居別　結婚する気はない又は生涯独身でいたい理由（大学生）】



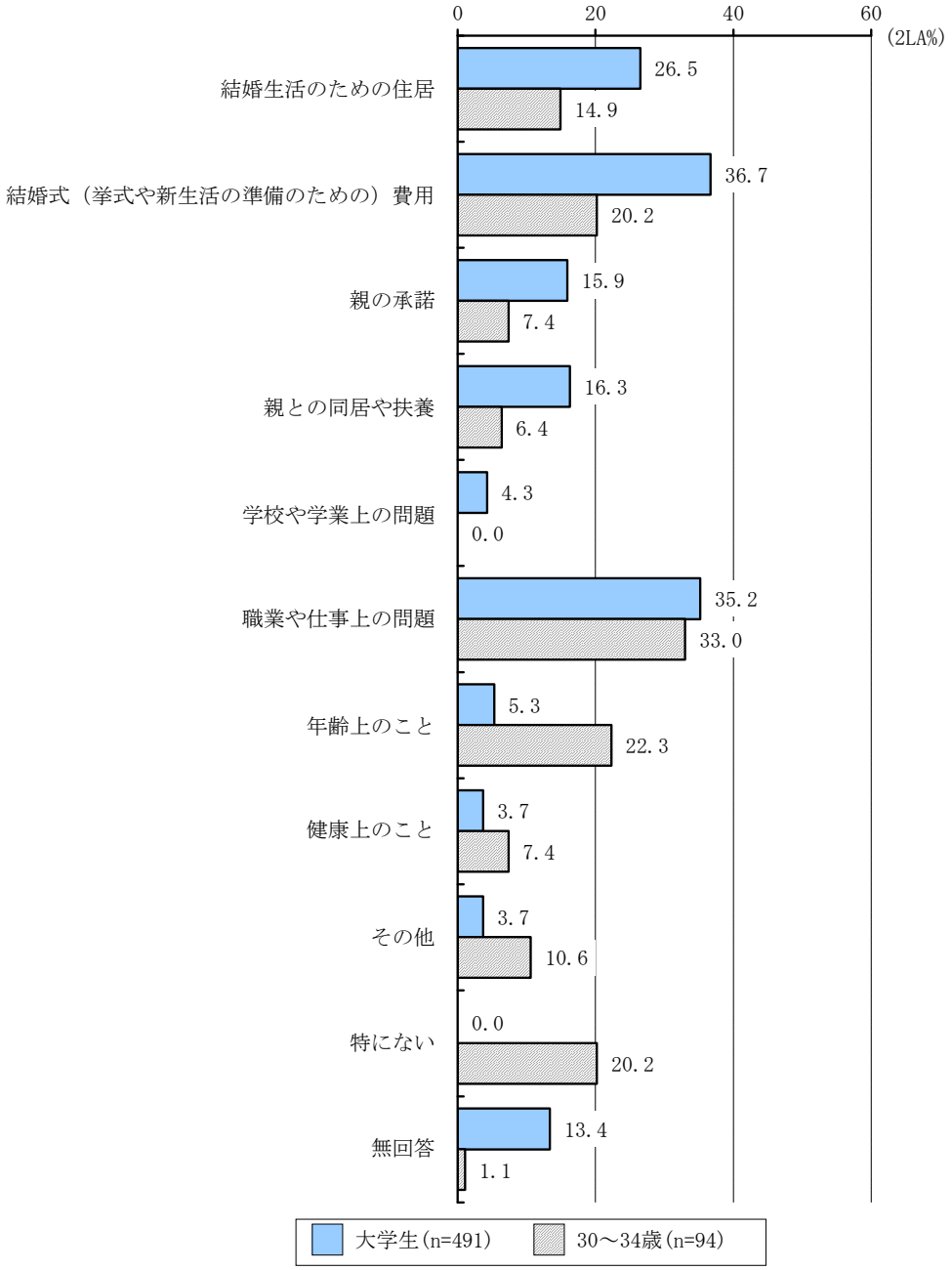
（６）結婚する際の障害（独身者）

【「結婚を前提に付き合っている相手がいる」もしくは「いつかは結婚したい」と回答した方におうかがいします。】
問　あなたは、結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。
（○は２つまで）

結婚の意向がある人にとっての結婚の際の障害は、大学生の場合、「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が36.7%で最も多く、次いで「職業や仕事上の問題」が35.2%、「結婚生活のための住居」が26.5%と続いている。

一方、30～34歳の場合は、「職業や仕事上の問題」が33.0%で最も多く、次いで「年齢上のこと」が22.3%、「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が20.2%となっている。（図表2-6）

【図表2-6　結婚する際の障害（独身者）】



※大学生は、「特にない」の項目の設定はない。

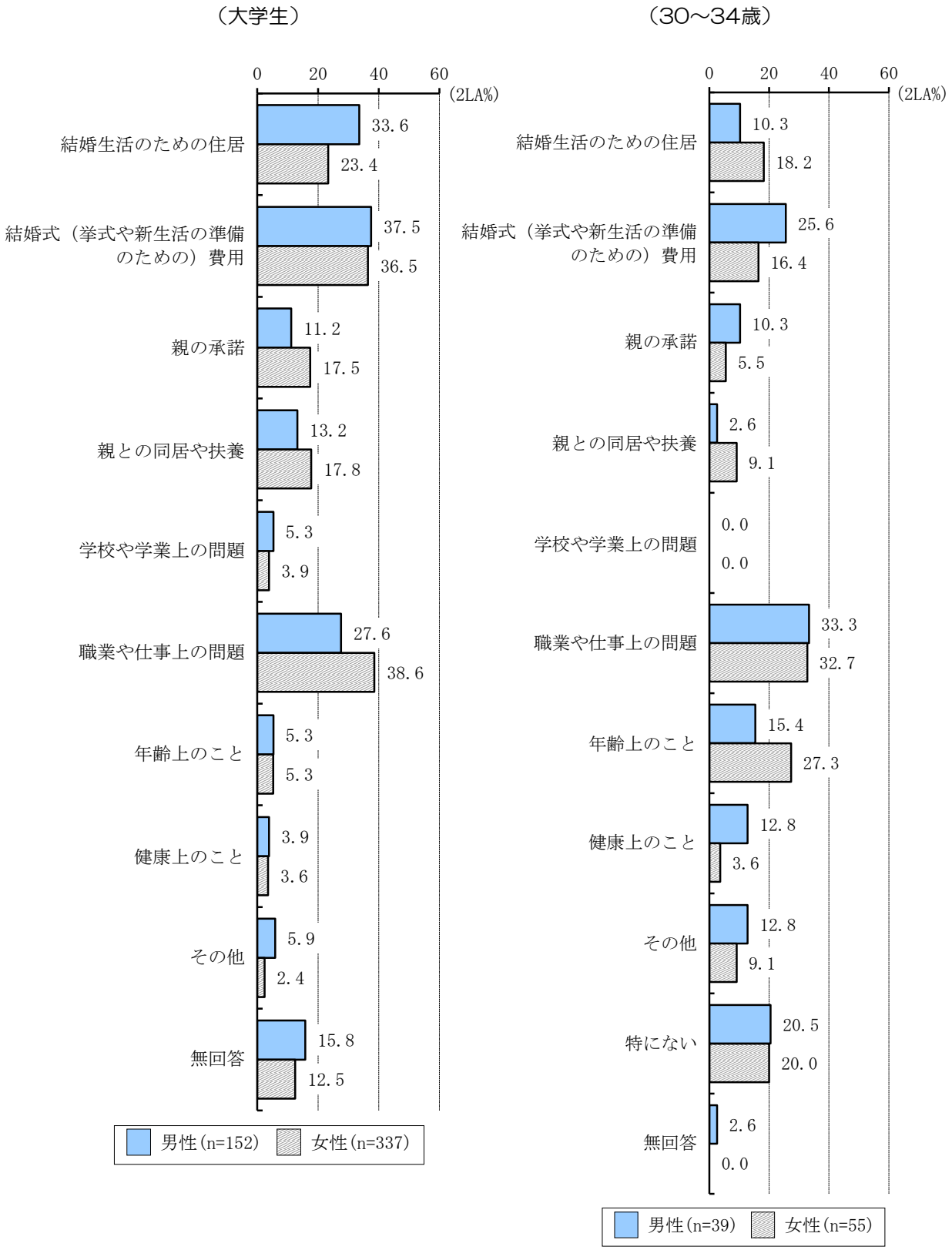
［性別］

大学生の場合、男性は「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が37.5%で最も多くなっている。「結婚生活のための住居」は33.6%で２番目に高く、女性（23.4%）に比べ10.2ポイント高くなっている。一方、女性は「職業や仕事上の問題」が38.6%で最も多く、男性（27.6%）より11ポイント高くなっている。これに次いで「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が36.5%と続いている。

30～34歳の場合、男女とも「職業や仕事上の問題」（男性 33.3%、女性 32.7%）が３割台で最も多くなっている。これに次いで、男性は「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が25.6%、「年齢上のこと」が15.4%、「健康上のこと」が12.8%となっている。「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」と「健康上のこと」は、どちらも女性に比べ9.2ポイント高い。

一方、女性は、「年齢上のこと」が27.3%と多く、男性に比べ11.9ポイント高くなっている。また、「結婚生活のための住居」は、女性が18.2%で男性（10.3%）に比べ7.9ポイント高くなっている。（図表2-6-1）

【図表2-6-1　性別　結婚する際の障害】



［親との同居・別居別］

大学生の場合、親と同居している人は「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が38.7％で最も多く、親と同居していない人（29.8％）に比べ8.9ポイント高くなっている。

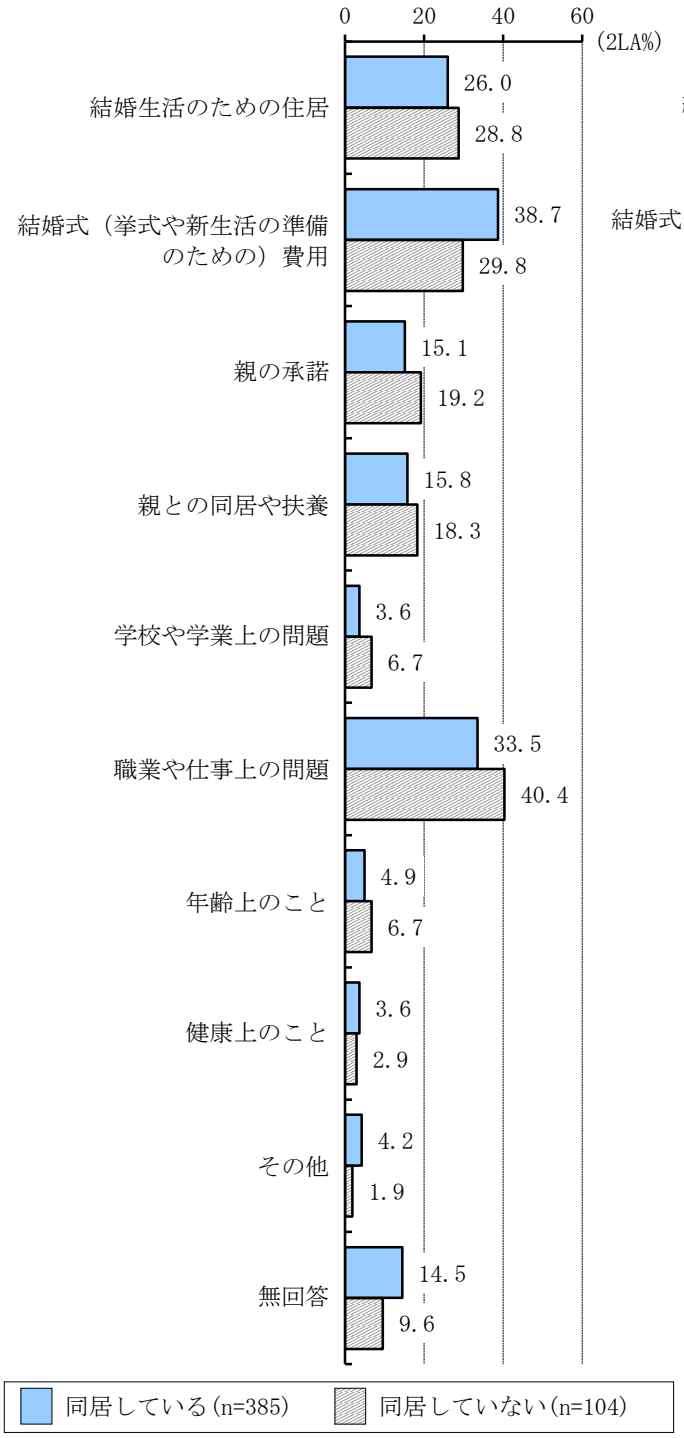
一方、親と同居していない人は「職業や仕事上の問題」が40.4％で最も多く、親と同居している人（33.5％）に比べ6.9ポイント高くなっている。

30～34歳の場合、親との同居・別居に関わらず、「職業や仕事上の問題」（同居している 31.5％、同居していない 35.0％）が３割台で最も多くなっている。これに次いで、親と同居している人は「特にない」が25.9％を占めており、親と同居していない人（12.5％）より13.4ポイント高くなっている。また、「結婚生活のための住居」は、親と同居している人が20.4％で、親と同居していない人（7.5％）に比べ12.9ポイント高くなっている。

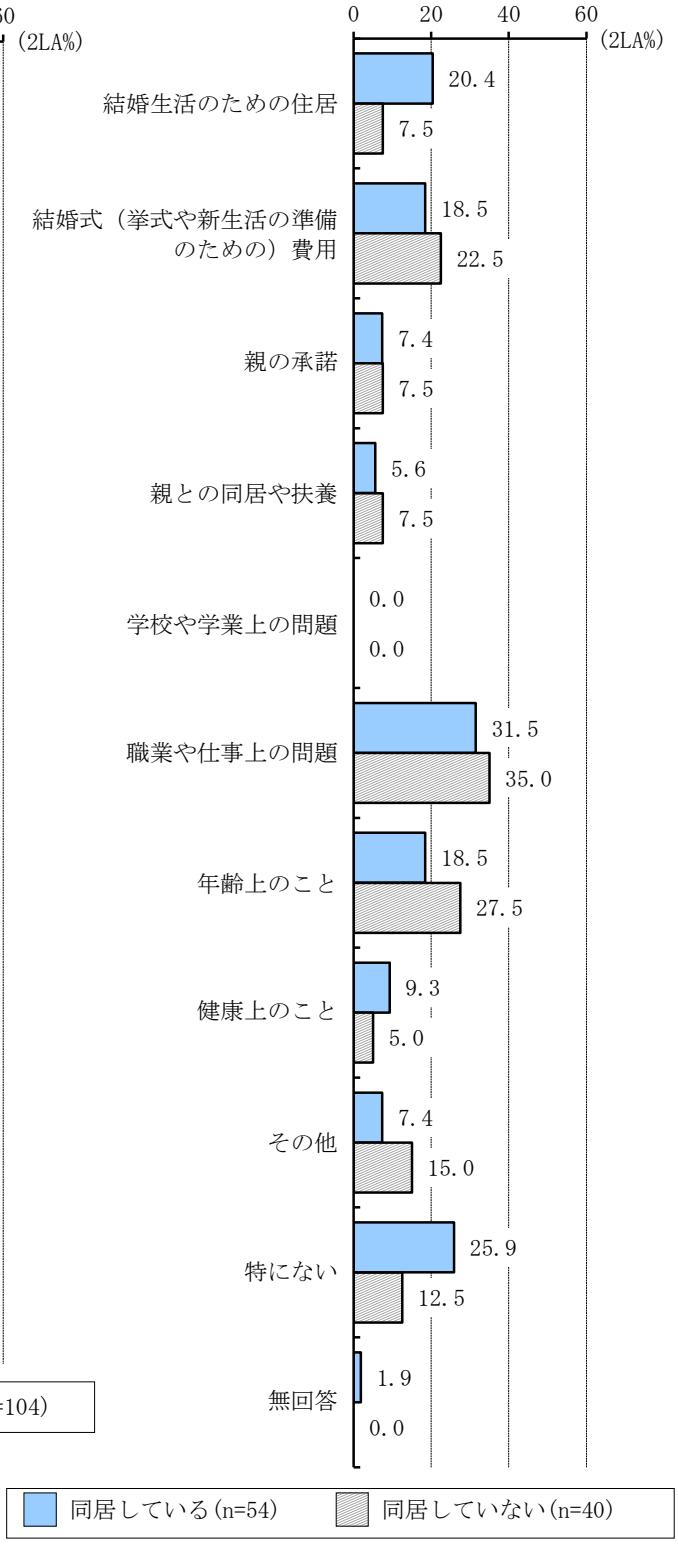
一方、親と同居していない人は「年齢上のこと」が27.5％と多く、親と同居している人（18.5％）より９ポイント高くなっている。（図表2-6-2）

【図表2-6-2　親との同居・別居別　結婚する際の障害】

（大学生）



（30～34歳）

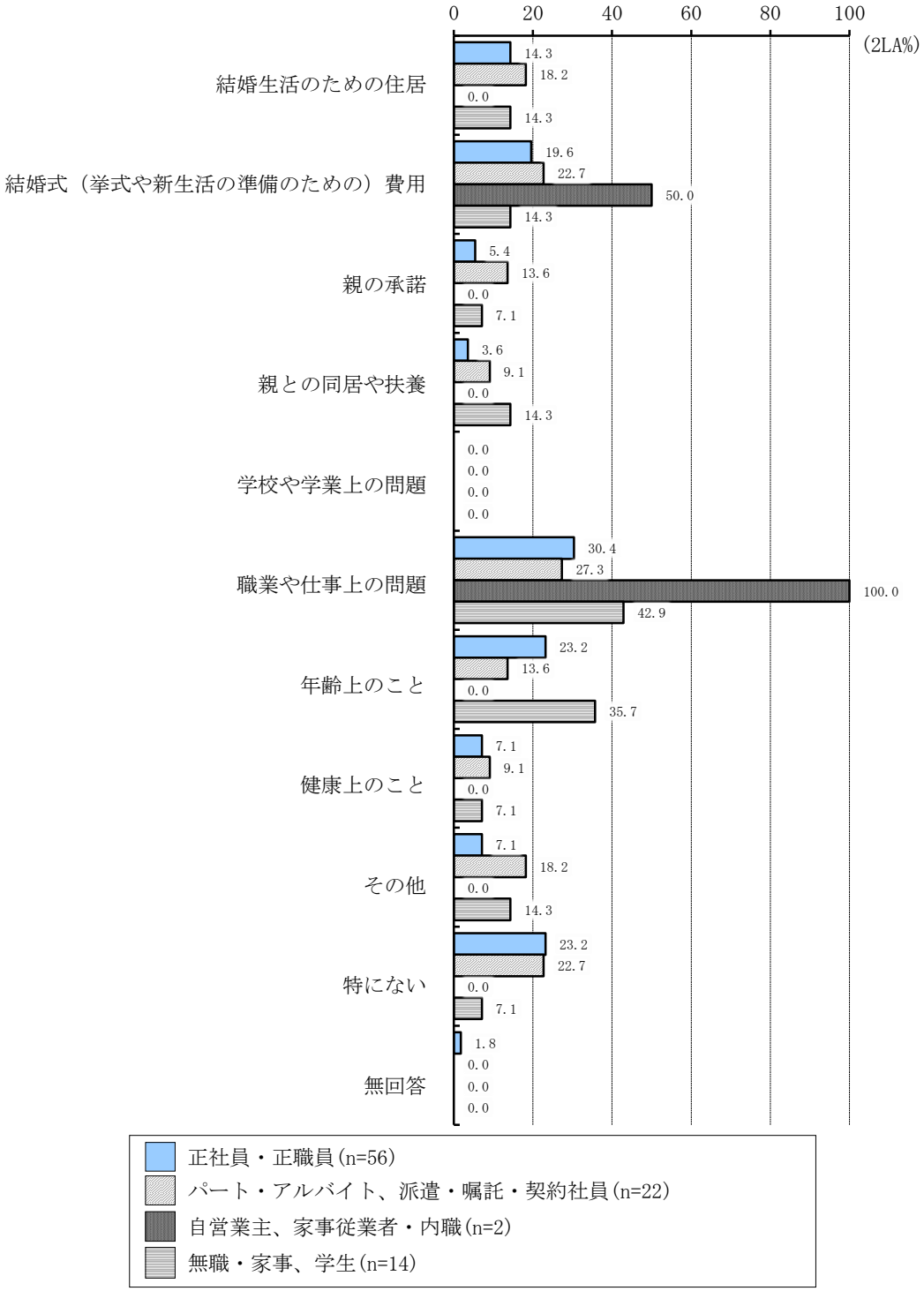


［30～34歳／現在の就労形態別］

正規労働者は、「職業や仕事上の問題」が30.4%で最も多く、次いで「年齢上のこと」と「特にない」がともに23.2%となっている。

非正規労働者では、「職業や仕事上の問題」が27.3%（６人）で最も多く、次いで「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」と「特にない」がともに22.7%（５人）となっている。（図表2-6-3）

【図表2-6-3　現在の就労形態別　結婚する際の障害（30～34歳）】



［結婚の意向別］

大学生の場合、結婚を前提に付き合っている相手がいる人は「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」（47.5%）や「職業や仕事上の問題」（42.5%）が、恋人の有無に関わらず、いつかは結婚したい人に比べ10ポイント前後高くなっている。

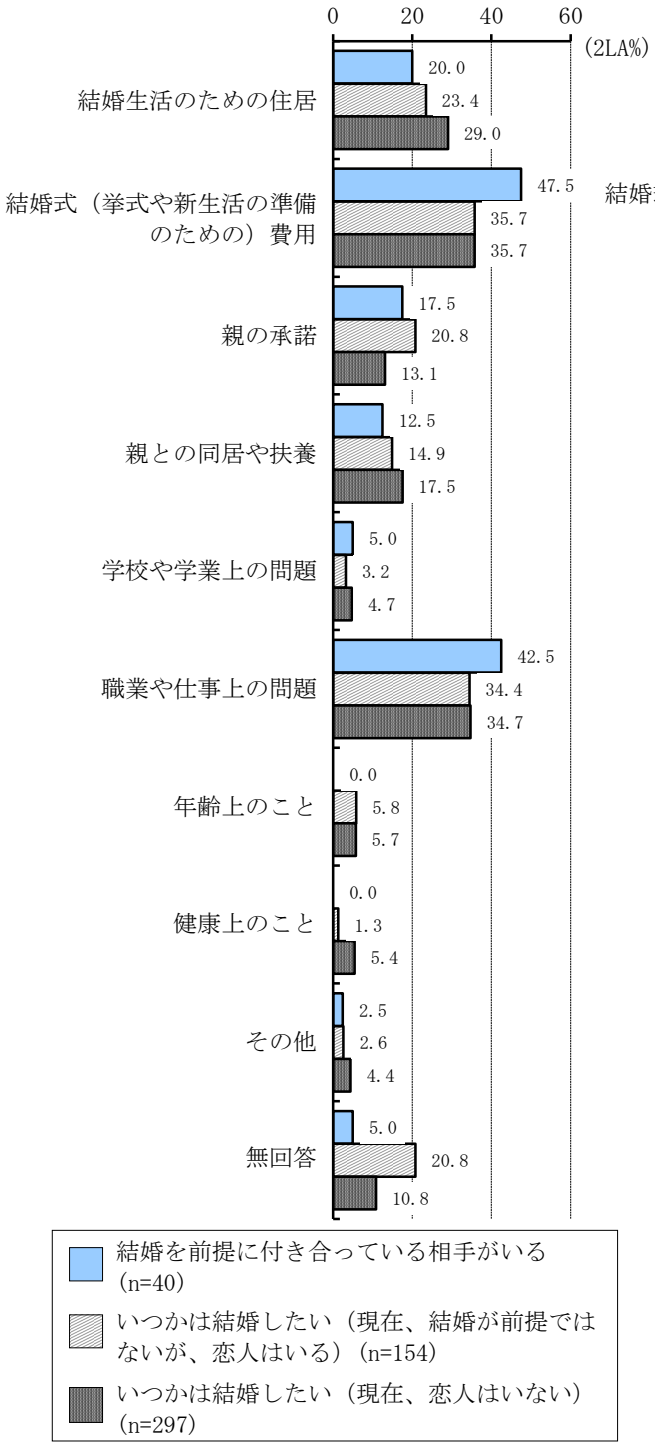
結婚が前提ではないが恋人がいる人では、「親の承諾」（20.8%）が他に比べて高く、また、結婚が前提ではないが恋人はいる、または、恋人はいない人では、「結婚生活のための住居」や「親との同居や扶養」が高くなっている。

30～34歳の場合は、「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」や「職業や仕事上の問題」では、結婚を前提に付き合っている人で最も高いのに対し、恋人はいない人で最も低くなっている。

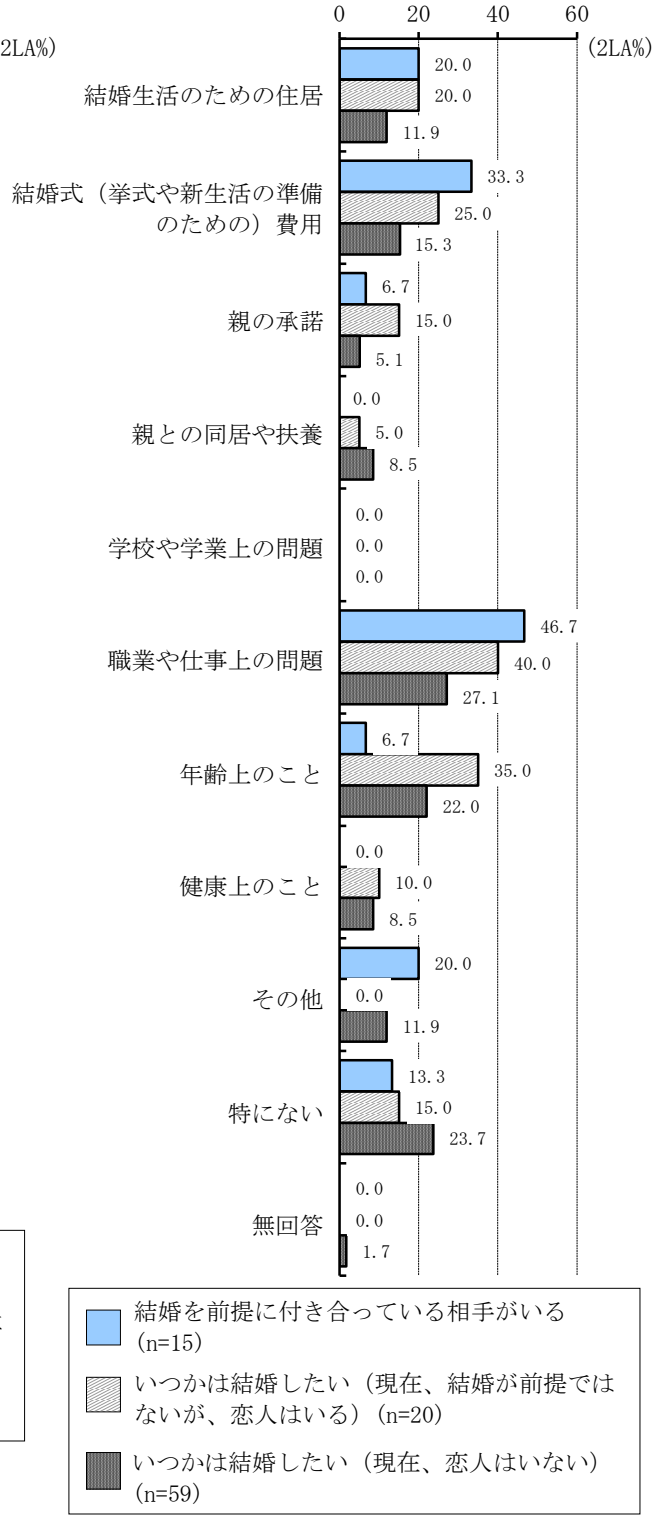
また、結婚が前提ではないが恋人がいる人は「親の承諾」（15.0%・３人）や「年齢上のこと」（35.0%・７人）が他に比べて高くなっている。一方、恋人がいない人では「特にない」が23.7%で交際相手がいる人より割合が高くなっている。（図表2-6-4）

【図表2-6-4　結婚の意向別　結婚する際の障害】

（大学生）



（30～34歳）



［結婚のタイミングについての考え方別］

大学生の場合、ある程度の年齢までには結婚するつもりの人は「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が37.1％で最も多い。「親との同居や扶養」（18.8％）は、理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないという人（12.6％）に比べ6.2ポイント高い。

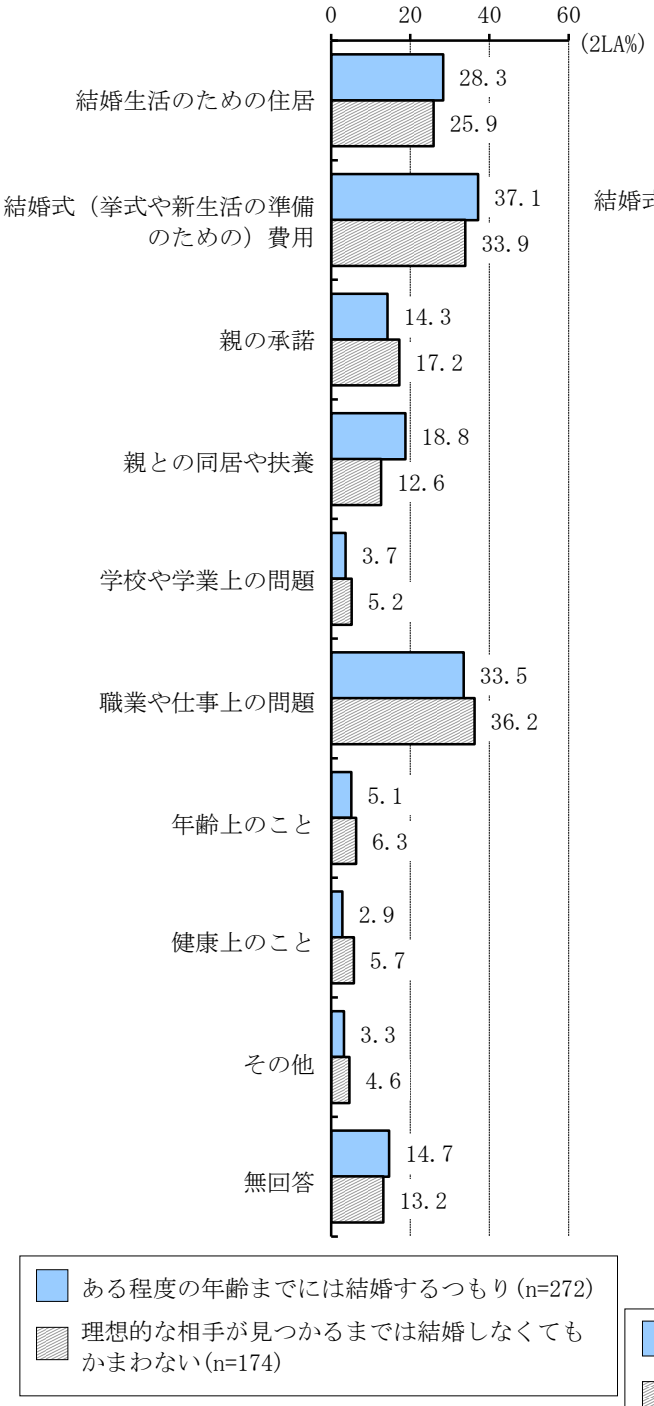
一方、理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないという人では、「職業や仕事上の問題」が36.2％で最も多い。「親の承諾」（17.2％）は、ある程度の年齢までには結婚するつもりの人（14.3％）に比べ2.9ポイント高くなっている。

30～34歳の場合、ある程度の年齢までには結婚するつもりの人では、「職業や仕事上の問題」が40.5％で最も多く、理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないという人（21.4％）に比べ19.1ポイント高くなっている。これに次いで「年齢上のこと」が29.7％が、理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないという人（21.4％）より8.3ポイント高い。

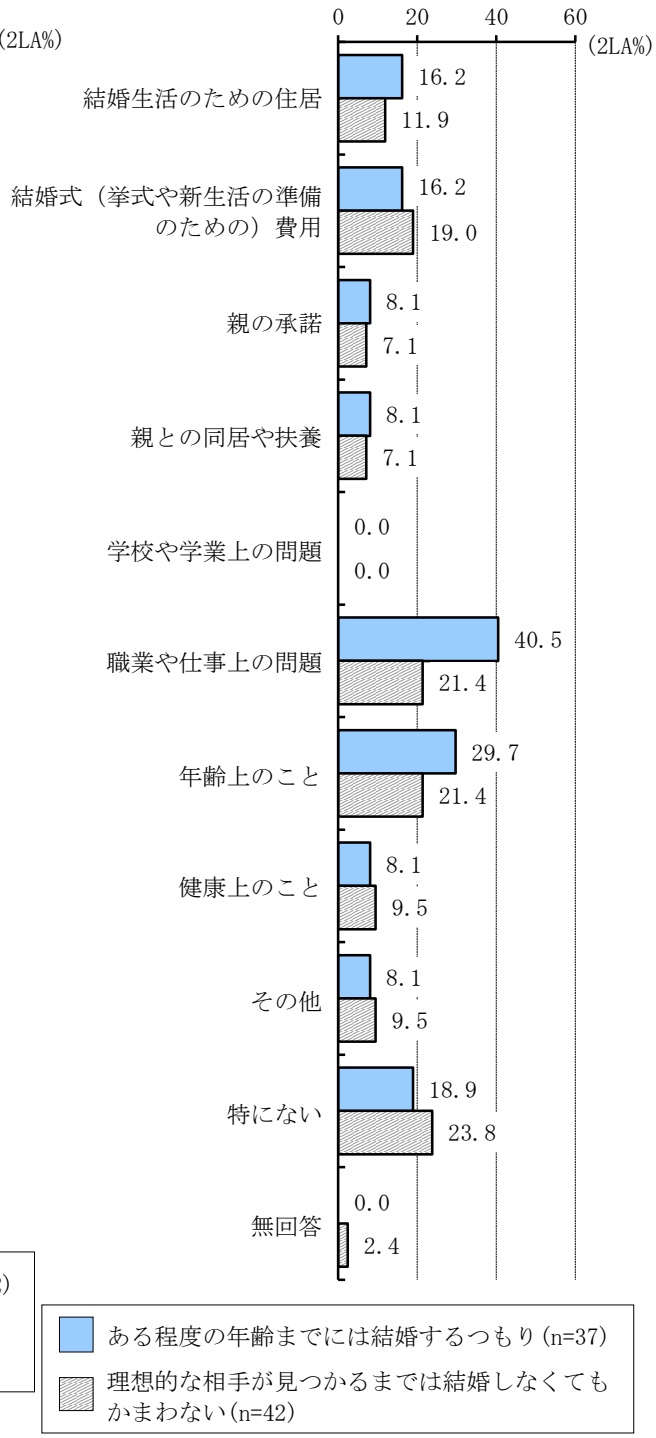
一方、理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないという人では、「特にない」が23.8％で、ある程度の年齢までには結婚するつもりの人（18.9％）に比べ4.9ポイント高くなっている。（図表2-6-5）

【図表2-6-5　結婚のタイミングについての考え方別　結婚する際の障害】

（大学生）



（30～34歳）



［結婚したい時期別（年齢別）］

大学生の場合は、20歳代で結婚を考えている人では「職業や仕事上の問題」が35.2%で最も多く、「親の承諾」（17.0%）が30歳以降に結婚を考えている人（11.2%）に比べ5.8ポイント高くなっている。

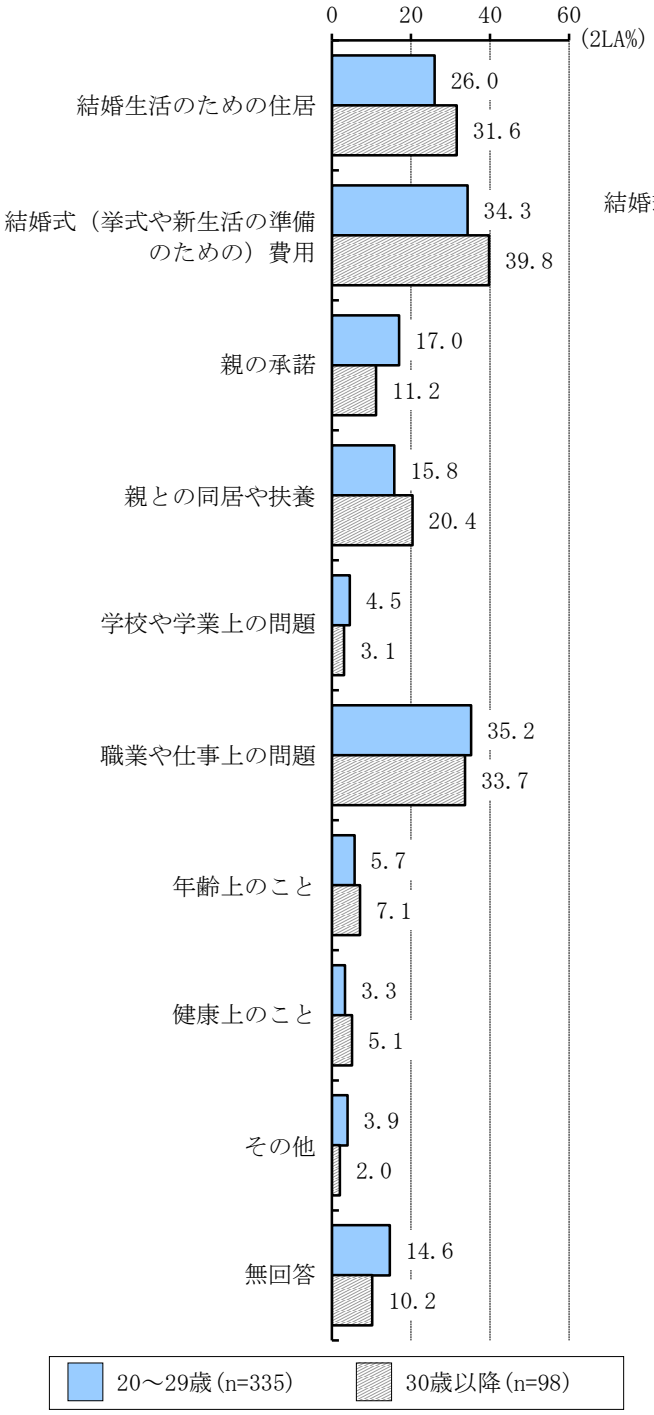
一方、30歳以降に結婚を考えている人では、「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が39.8%で最も多く、20歳代で結婚を考えている人に比べ「結婚生活のための住居」（31.6%）が5.6ポイント差、「親との同居や扶養」（20.4%）は4.6ポイント差で、それぞれ高くなっている。

30～34歳の場合、30歳代前半に結婚を考えている人では、「職業や仕事上の問題」が50.0%（７人）で最も多く、次いで「年齢上のこと」が42.9%（６人）、「結婚生活のための住居」が28.6%（４人）と続いている。

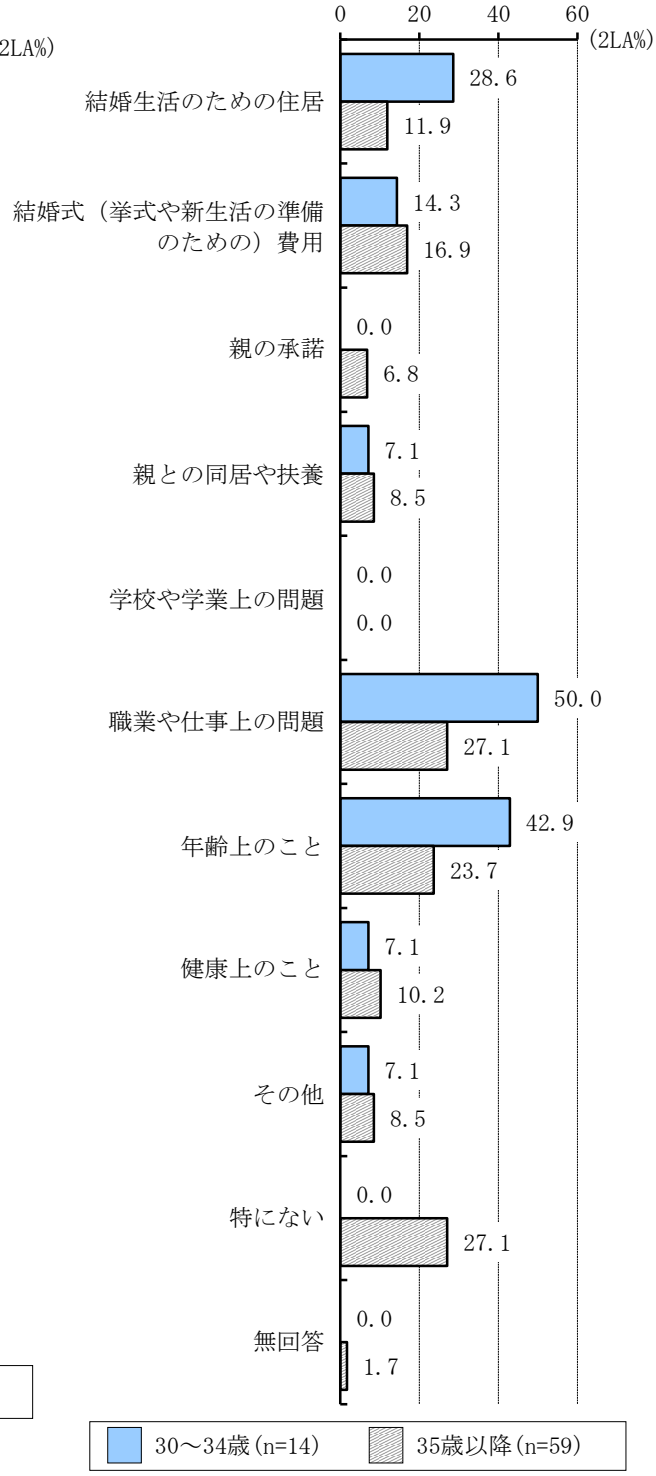
一方、35歳以降に結婚を考えている人では、「職業や仕事上の問題」が27.1%で最も多く、同率で「特にない」も多くなっている。（図表2-6-6）

【図表2-6-6　結婚したい時期（年齢別）　結婚する際の障害】

（大学生）



（30～34歳）



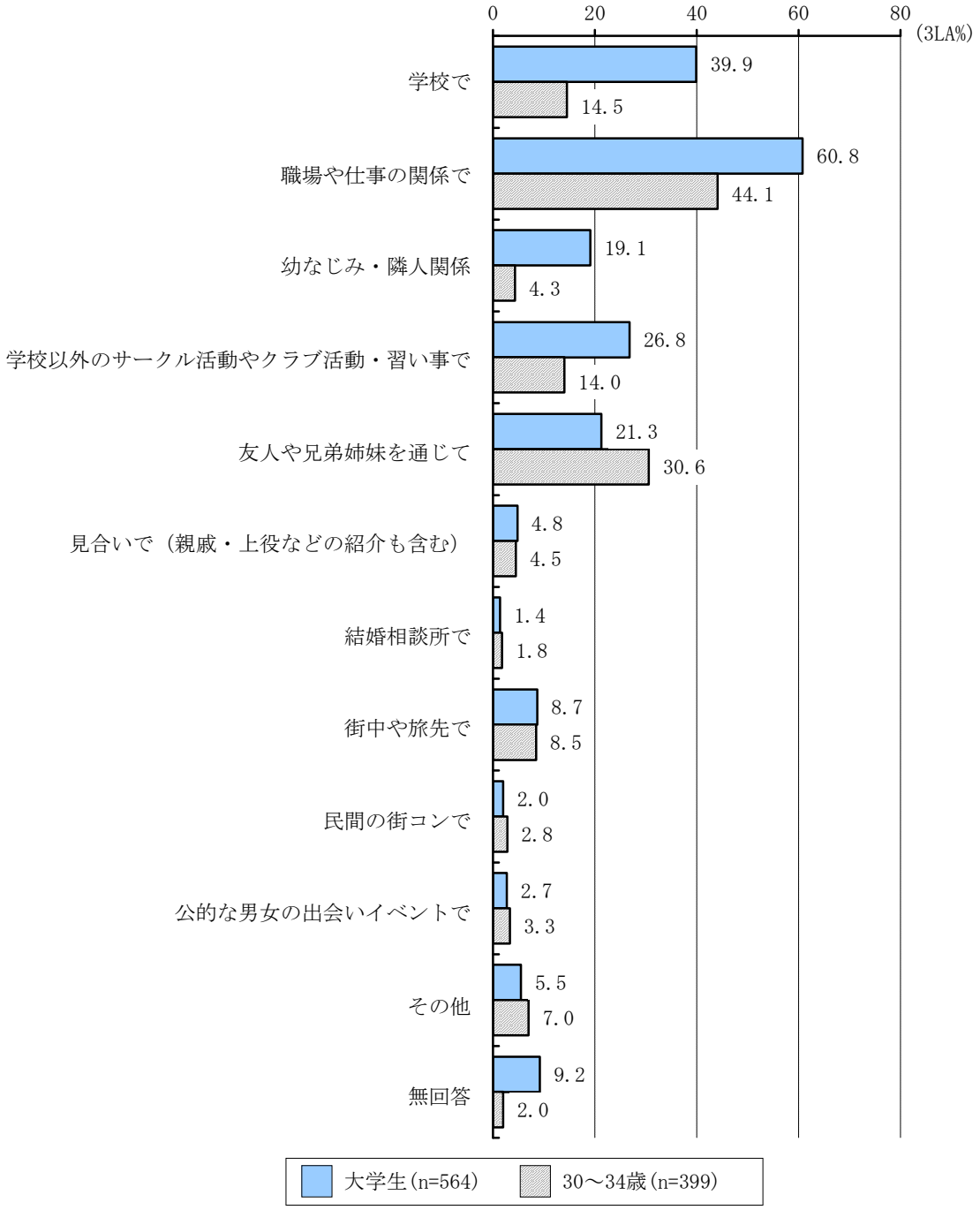
（7）交際（結婚）相手と知り合いたい（知り合った）きっかけ

問　あなたはどのようなきっかけで交際相手と知り合いたいですか（結婚相手と知り合いましたか）。（○は３つまで）

現在独身の大学生の交際相手と知り合いたいきっかけをみると、「職場や仕事の関係で」が60.8%で最も多く、次いで「学校で」が39.9%、「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で」が26.8%と続いている。

一方、30～34歳（独身含む）は「職場や仕事の関係で」が44.1%で最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」が30.6%、「学校で」が14.5%と続いている。（図表2-7）

【図表2-7　交際（結婚）相手と知り合いたい（知り合った）きっかけ】



［性別］

大学生は、男女とも「職場や仕事の関係で」が最も多く、男性が53.2%に対し、女性は64.2%で、女性のほうが11ポイント高くなっている。これに次いで「学校で」が多く、男性が48.6%で女性（36.1%）より12.5ポイント高くなっている。

30～34歳では、男女間で大きな違いはみられない。（図表2-7-1）

【図表2-7-1　性別　交際（結婚）相手と知り合いたい（知り合った）きっかけ】

(3LA%)

		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
大学生	男性(n=173)	職場や仕事の関係で 53.2	学校で 48.6	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 29.5	幼なじみ・隣人関係 22.0	友人や兄弟姉妹を通じて 16.2
	女性(n=388)	職場や仕事の関係で 64.2	学校で 36.1	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 25.8	友人や兄弟姉妹を通じて 23.7	幼なじみ・隣人関係 17.5
30～34歳	男性(n=145)	職場や仕事の関係で 42.1	友人や兄弟姉妹を通じて 31.7	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 15.9	学校で 15.2	街中や旅先で 10.3
	女性(n=254)	職場や仕事の関係で 45.3	友人や兄弟姉妹を通じて 29.9	学校で 14.2	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 13.0	街中や旅先で 7.5

［30～34歳／未既婚別］

いずれも「職場や仕事の関係で」（既婚者 41.8%、未婚者 50.5%）が最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」（既婚者 29.1%、未婚者 34.6%）となっている。これらに続いて、既婚者は「学校で」（18.2%）が多くなっている。未婚者は「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で」（23.4%）と「街中や旅先で」（21.5%）が、既婚者に比べ10ポイント以上高くなっている。（図表2-7-2）

【図表2-7-2　未既婚別　交際（結婚）相手と知り合いたい（知り合った）きっかけ（30～34歳）】

(3LA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
結婚している（事実婚を含む）(n=292)	職場や仕事の関係で 41.8	友人や兄弟姉妹を通じて 29.1	学校で 18.2	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 10.6	街中や旅先で 3.8
独身(n=107)	職場や仕事の関係で 50.5	友人や兄弟姉妹を通じて 34.6	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 23.4	街中や旅先で 21.5	見合いで（親戚・上役などの紹介も含む）／民間の街コンで 8.4

［結婚の意向別］

大学生の場合、結婚を前提に付き合っている相手がいる人は「学校で」が52.5%で最も多い。いつかは結婚したい、または、結婚する気はない人では、「職場や仕事の関係で」が最も多く、特に恋人がいない人の割合が71.7%と高くなっている。

30～34歳の場合は、結婚の意向の有無に関わらず、「職場や仕事の関係で」が最も多くなっている。結婚したいと考えている人では「友人や兄弟姉妹を通じて」、結婚する気はない人では「公的な男女の出会いイベントで」が、それぞれ２番目に多い。（図表2-7-3）

【図表2-7-3　結婚の意向別　交際（結婚）相手と知り合いたい（知り合った）きっかけ】

(3LA%)

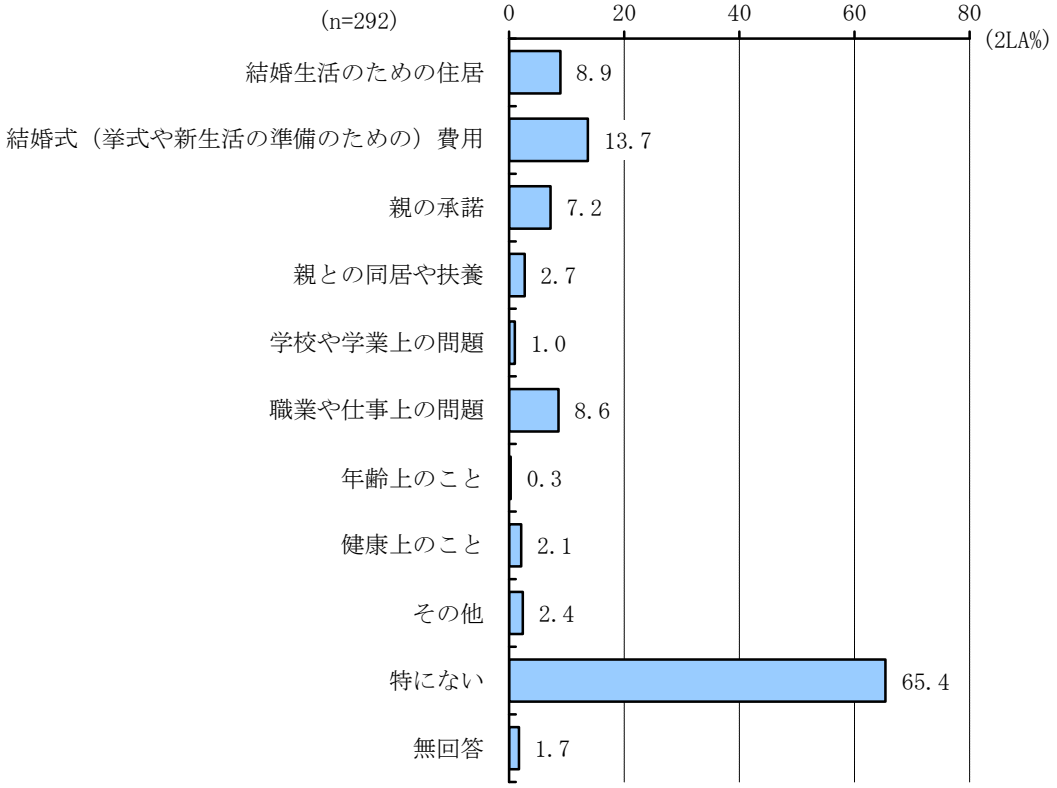
		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
大学生	結婚を前提に付き合っている相手がいる (n=40)	学校で 52.5	職場や仕事の関係で 30.0	友人や兄弟姉妹を通じて 22.5	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 15.0	街中や旅先で 12.5
	いつかは結婚したい（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる） (n=154)	職場や仕事の関係で 57.1	学校で 48.7	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 26.6	友人や兄弟姉妹を通じて 20.1	幼なじみ・隣人関係 19.5
	いつかは結婚したい（現在、恋人はいない） (n=297)	職場や仕事の関係で 71.7	学校で 39.1	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 32.0	友人や兄弟姉妹を通じて 22.9	幼なじみ・隣人関係 22.2
	結婚する気はない・生涯独身でいたい (n=57)	職場や仕事の関係で 40.4	学校で 15.8	友人や兄弟姉妹を通じて 14.0	幼なじみ・隣人関係 12.3	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 10.5
30～34歳	結婚を前提に付き合っている相手がいる (n=15)	職場や仕事の関係で 60.0	友人や兄弟姉妹を通じて 40.0	街中や旅先で 20.0	学校で 13.3	結婚相談所で 6.7
	いつかは結婚したい（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる） (n=20)	職場や仕事の関係で 65.0	友人や兄弟姉妹を通じて 30.0	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 20.0	街中や旅先で 15.0	民間の街コンで 15.0
	いつかは結婚したい（現在、恋人はいない） (n=59)	職場や仕事の関係で 47.5	友人や兄弟姉妹を通じて 39.0	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で 33.9	街中や旅先で 25.4	幼なじみ・隣人関係／見合いで（親戚・上役などの紹介も含む） 10.2
	結婚する気はない・生涯独身でいたい (n=11)	職場や仕事の関係で 36.4	公的な男女の出会いイベントで 27.3	友人や兄弟姉妹を通じて／見合いで（親戚・上役などの紹介も含む）／街中や旅先で／民間の街コンで 18.2		

（８）結婚した際の障害（現在結婚している30～34歳の方のみ回答）

問　あなたは、結婚したとき、なにか障害がありましたか。（○は２つまで）

現在結婚している30～34歳の人で、結婚したときの障害は「特にない」が65.4％を占めている。何らかの障害があった人は32.9％で、そのうち「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」が13.7％で最も多くなっている。以下、「結婚生活のための住居」（8.9％）、「職業や仕事上の問題」（8.6％）、「親の承諾」（7.2％）が続いている。（図表2-8）

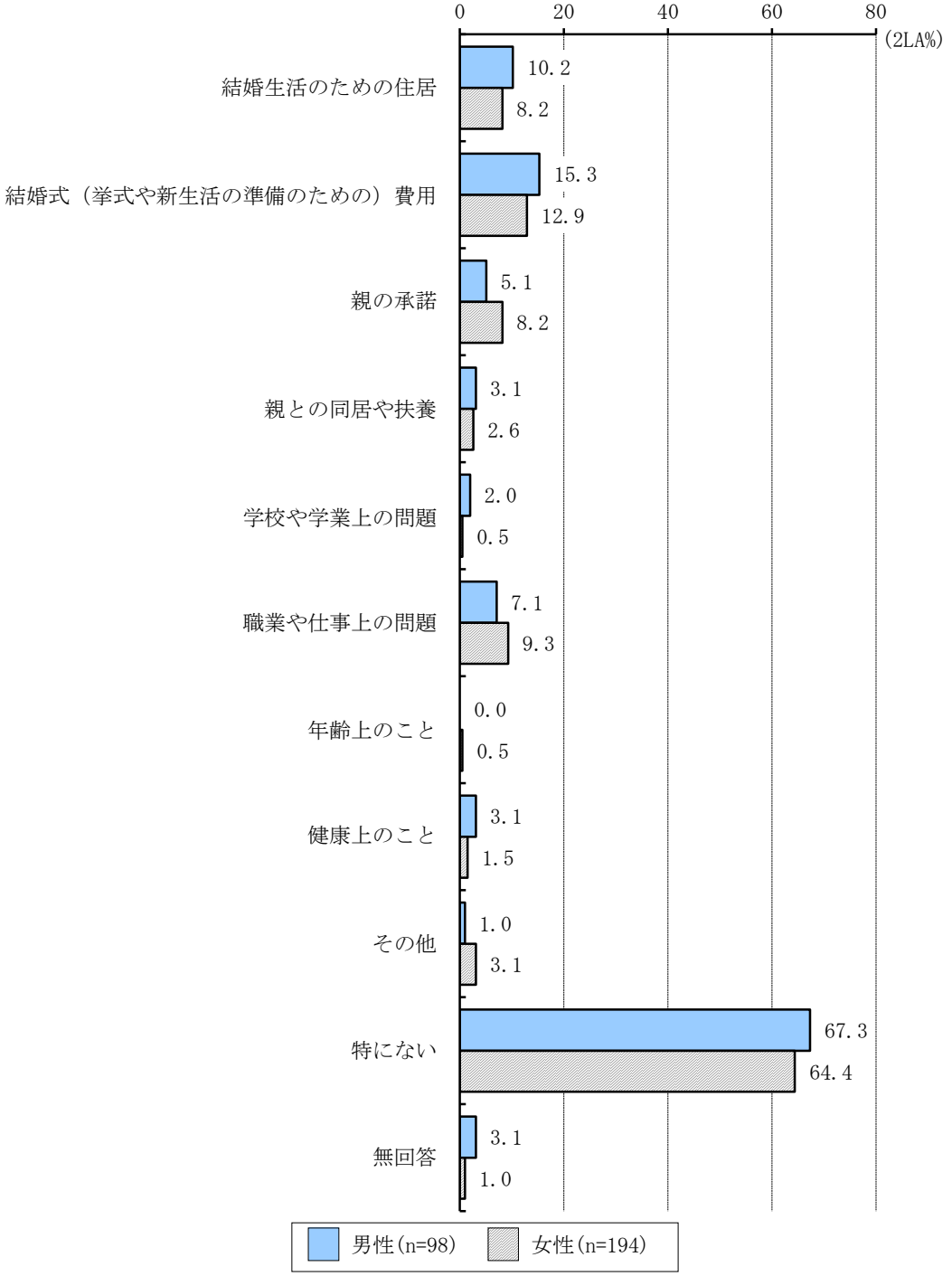
【図表2-8　結婚した際の障害】



［性別］

男女とも「特にない」が６割台を占めている。何らか障害があった人では、男女とも「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」（男性 15.3%、女性 12.9%）が最も多くなっている。これに次いで、男性は「結婚生活のための住居」が10.2%、女性は「職業や仕事上の問題」が9.3%と続いている。（図表2-8-1）

【図表2-8-1　性別　結婚した際の障害】



〔3〕子どもを生み育てることについて

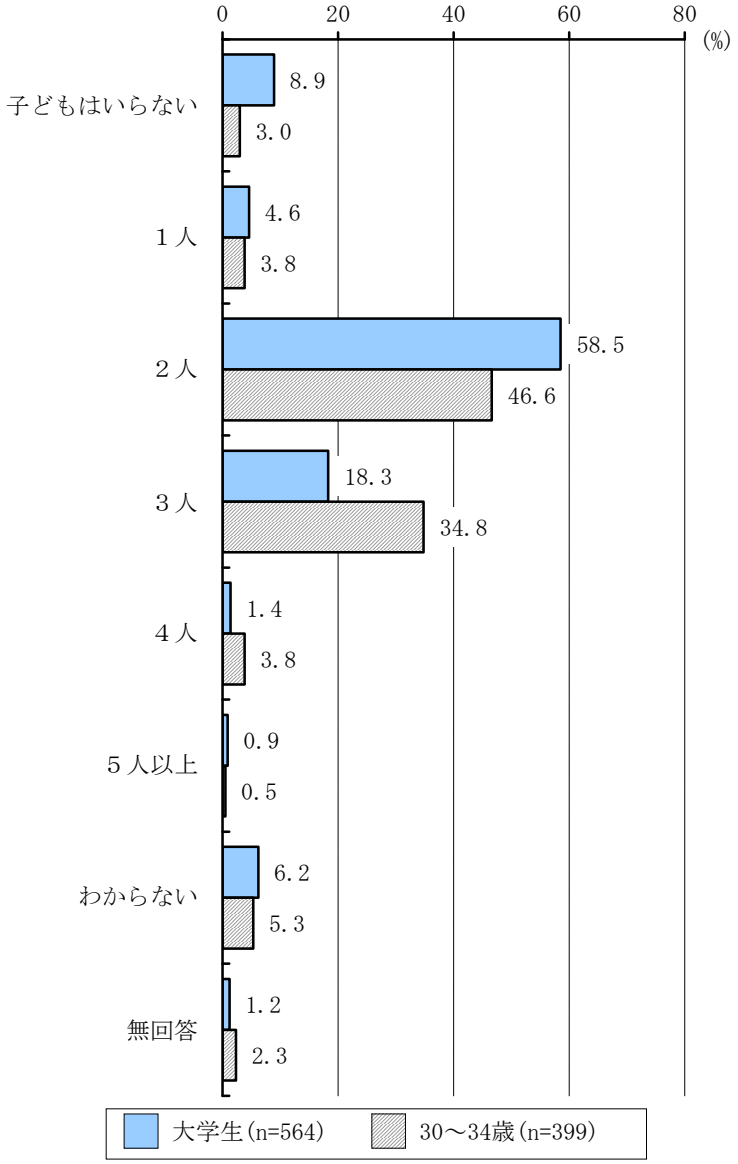
（1）理想とする子どもの人数

問　あなたにとって理想とする子どもの数は何人ですか。あてはまる番号に○をつけ、５人以上の場合は（　）内に人数を記入してください。（○は１つ）

理想の子どもの人数は、大学生・30～34歳とも「２人」が最も多く、大学生が58.5%に対し、30～34歳は46.6%で、大学生のほうが11.9ポイント高い。これに次いで「３人」が多く、30～34歳が34.8%で大学生（18.3%）に比べ16.5ポイント高くなっている。

一方、「子どもはいらない」は、大学生が8.9%に対し、30～34歳は3.0%で、大学生のほうが5.9ポイント高くなっている。（図表3-1）

【図表3-1　理想とする子どもの人数】

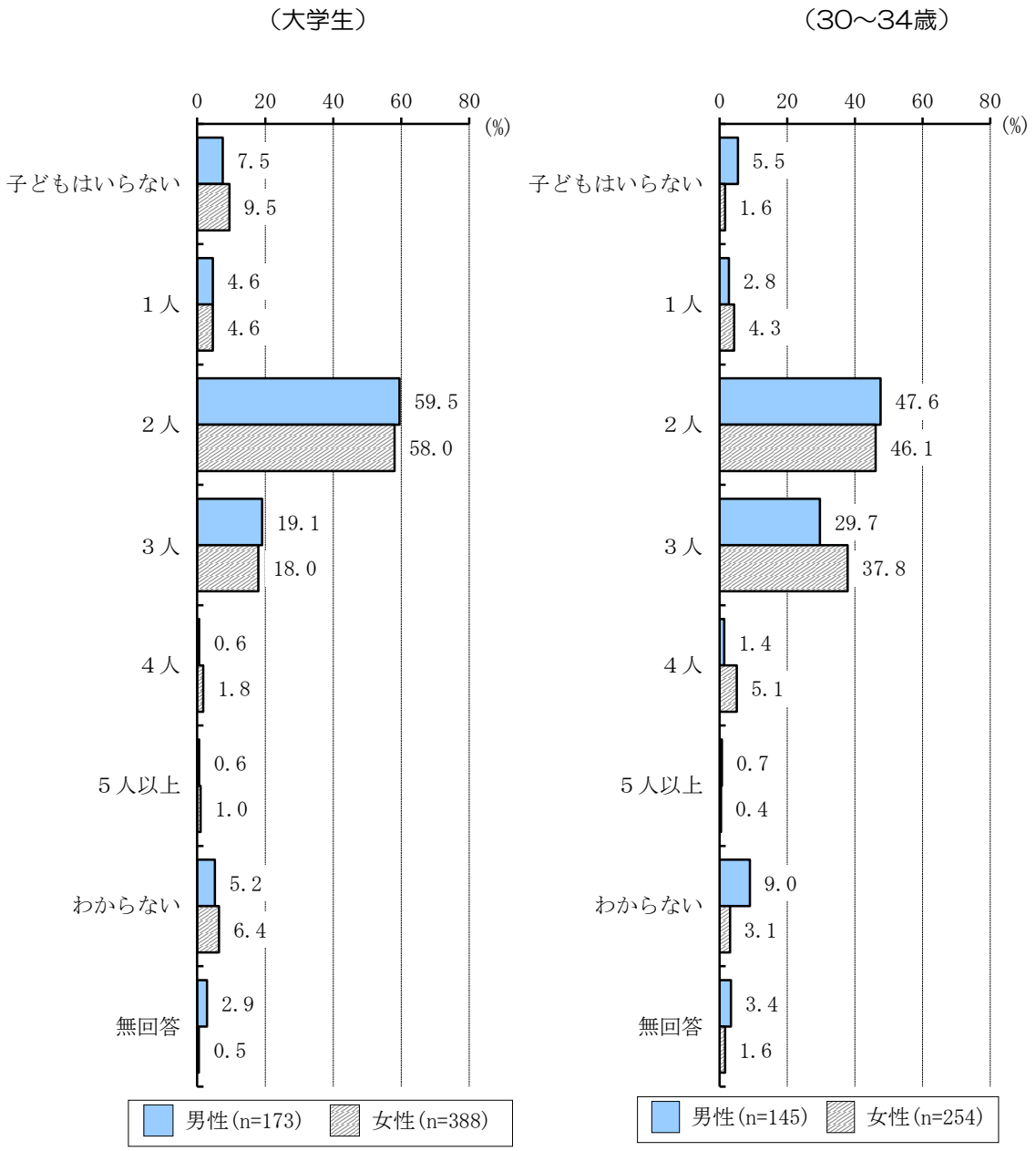


［性別］

大学生は、男女とも「２人」（男性 59.5%、女性 58.0%）が約６割を占め、次いで「３人」（男性 19.1%、女性 18.0%）となっている。

30～34歳も、男女とも「２人」（男性 47.6%、女性 46.1%）が４割台で最も多くなっている。これに次いで「３人」が多く、女性が37.8%で男性（29.7%）に比べ8.1ポイント高くなっている。（図表3-1-1）

【図表3-1-1　性別　理想とする子どもの人数】



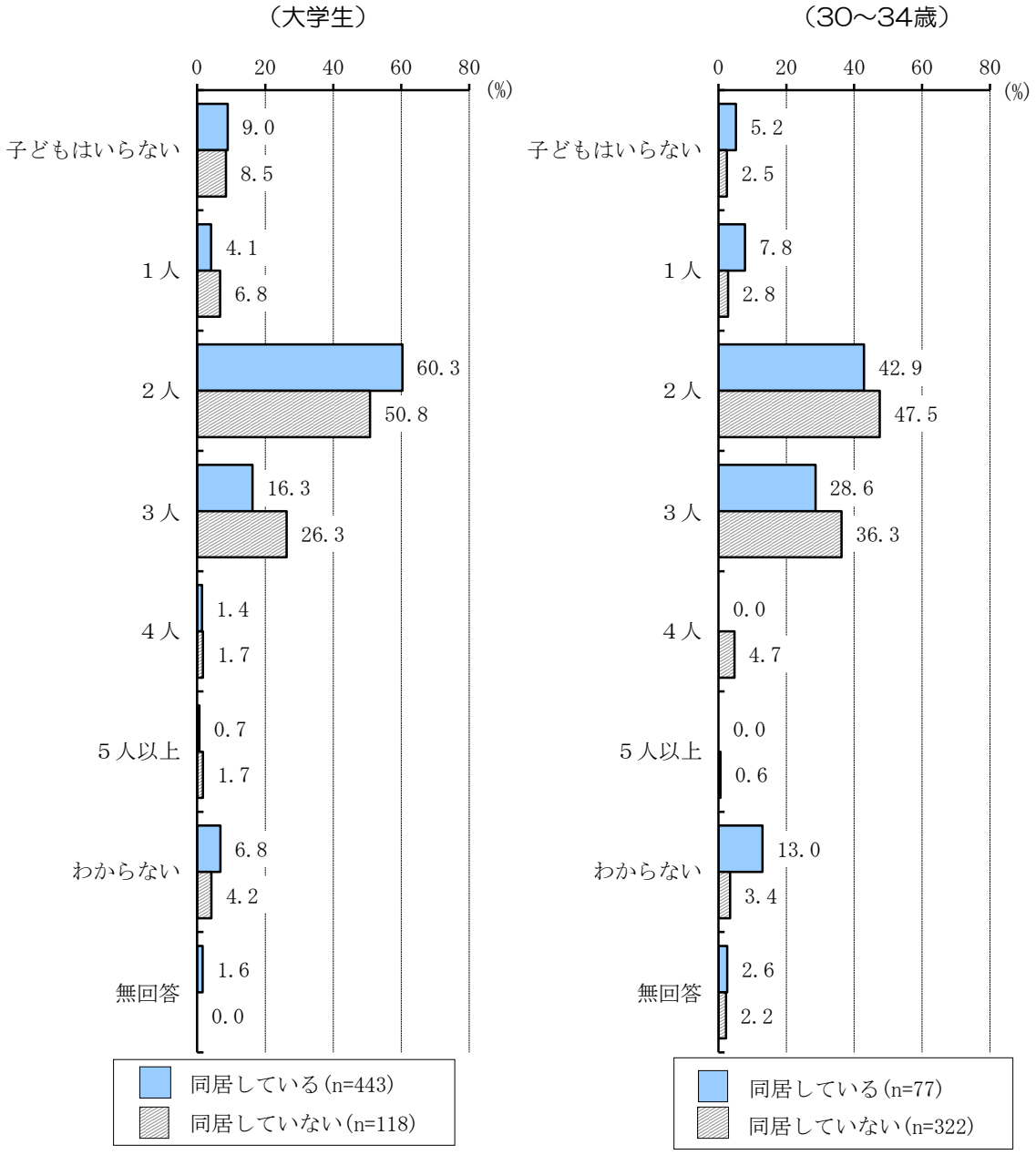
［親との同居・別居別］

大学生の場合、親との同居・別居に関わらず、「２人」が最も多く、親と同居している人は60.3%、親と同居していない人は50.8%となっている。これに次いで「３人」が多い。

30～34歳の場合も、親との同居・別居に関わらず、「２人」（同居している 42.9%、同居していない 47.5%）が最も多くなっている。これに次いで「３人」が多くなっている。

また、親と同居している人では、「子どもはいらない」が5.2%、「１人」は7.8%で、親と同居していない人に比べ、これらの割合は高くなっている。（図表3-1-2）

【図表3-1-2　親との同居・別居別　理想とする子どもの人数】

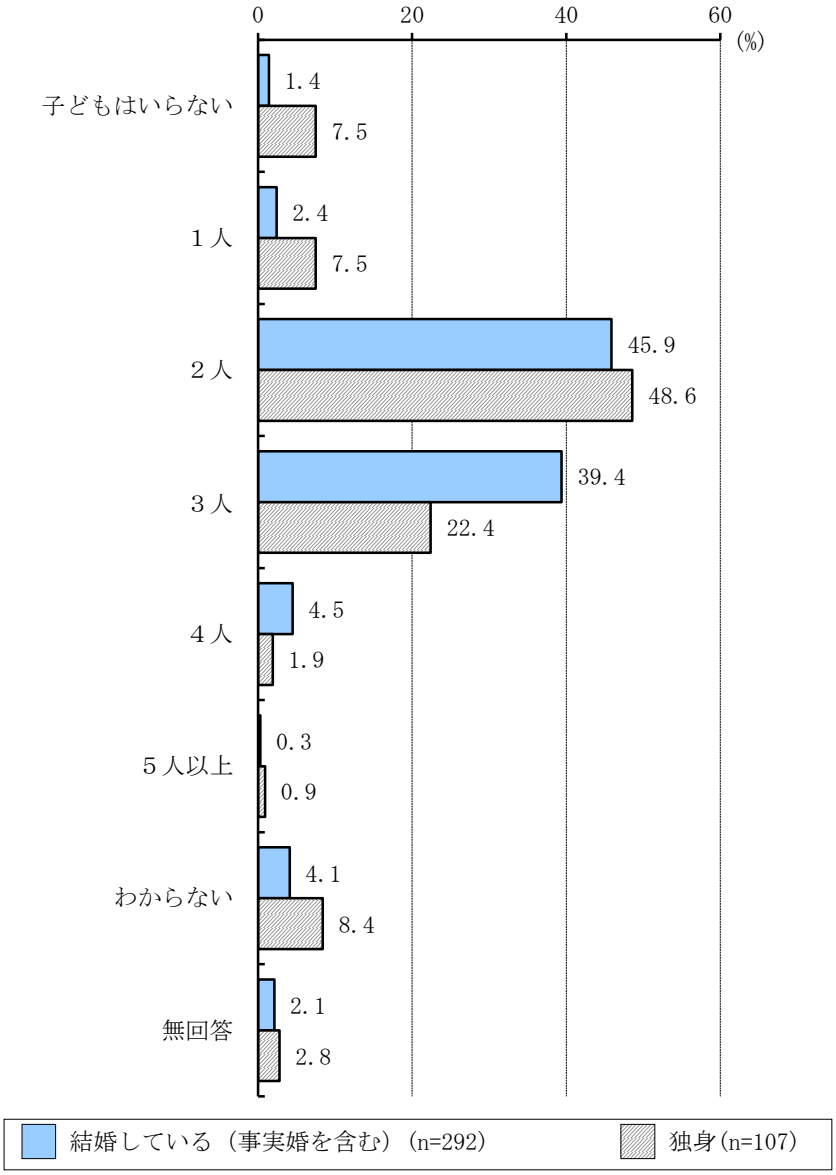


［30～34歳／未既婚別］

未既婚に関わらず、「２人」（既婚者 45.9%、未婚者 48.6%）が４割台で最も多くなっている。これに次いで「３人」が多く、既婚者が39.4%で未婚者（22.4%）より17ポイント高くなっている。

また、未婚者は「子どもはいらない」と「１人」がともに7.5%で、既婚者に比べ５ポイント以上高くなっている。（図表3-1-3）

【図表3-1-3　未既婚別　理想とする子どもの人数（30～34歳）】



［30～34歳／現在いる子どもの人数別］

現在、子どもが１人いる人の理想の子どもの人数は「２人」が57.8%で最も多く、次いで「３人」が30.3%となっている。子どもが２人いる人では「３人」（55.3%）が、３人以上いる人でも「３人」（66.7%）がそれぞれ最も多くなっている。（図表3-1-4）

【図表3-1-4　現在いる子どもの人数別　理想とする子どもの人数（30～34歳）】

(%)

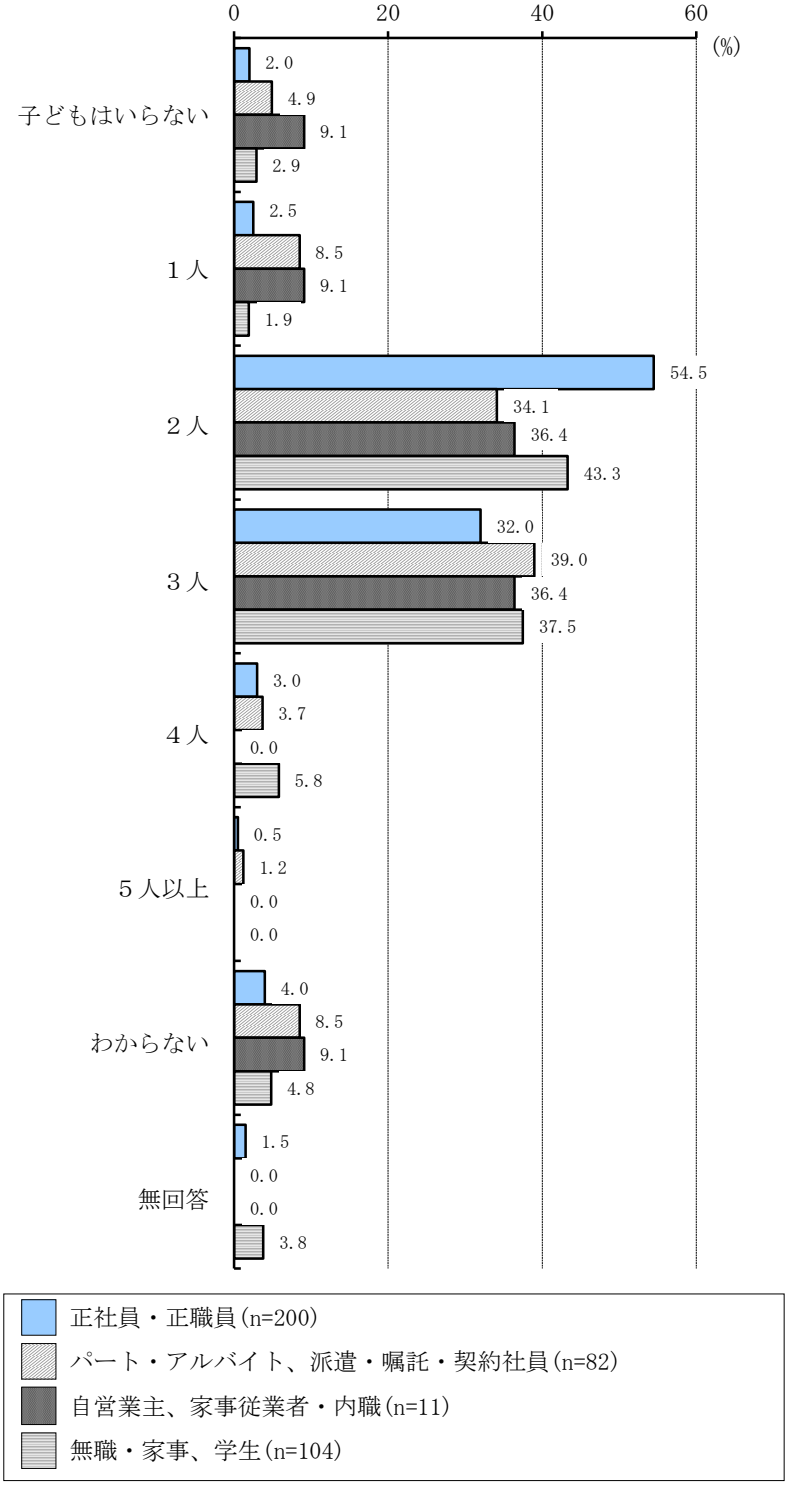
	n	子どもはいらない	1人	2人	3人	4人	5人以上	わからない	無回答
１人	109	0.9	4.6	57.8	30.3	－	－	4.6	1.8
２人	94	－	1.1	31.9	55.3	7.4	1.1	3.2	－
３人以上	27	－	－	3.7	66.7	11.1	－	11.1	7.4

［30～34歳／現在の就労形態別］

正規労働者と無職等は「２人」（正規労働者 54.5%、無職等 43.3%）が最も多く、非正規労働者は「３人」（39.0%）が最も多い。

また、「１人」は、非正規労働者が8.5%で、正規労働者（2.5%）と無職等（1.9%）に比べ高くなっている。（図表3-1-5）

【図表3-1-5　現在の就労形態別　理想とする子どもの人数（30～34歳）】

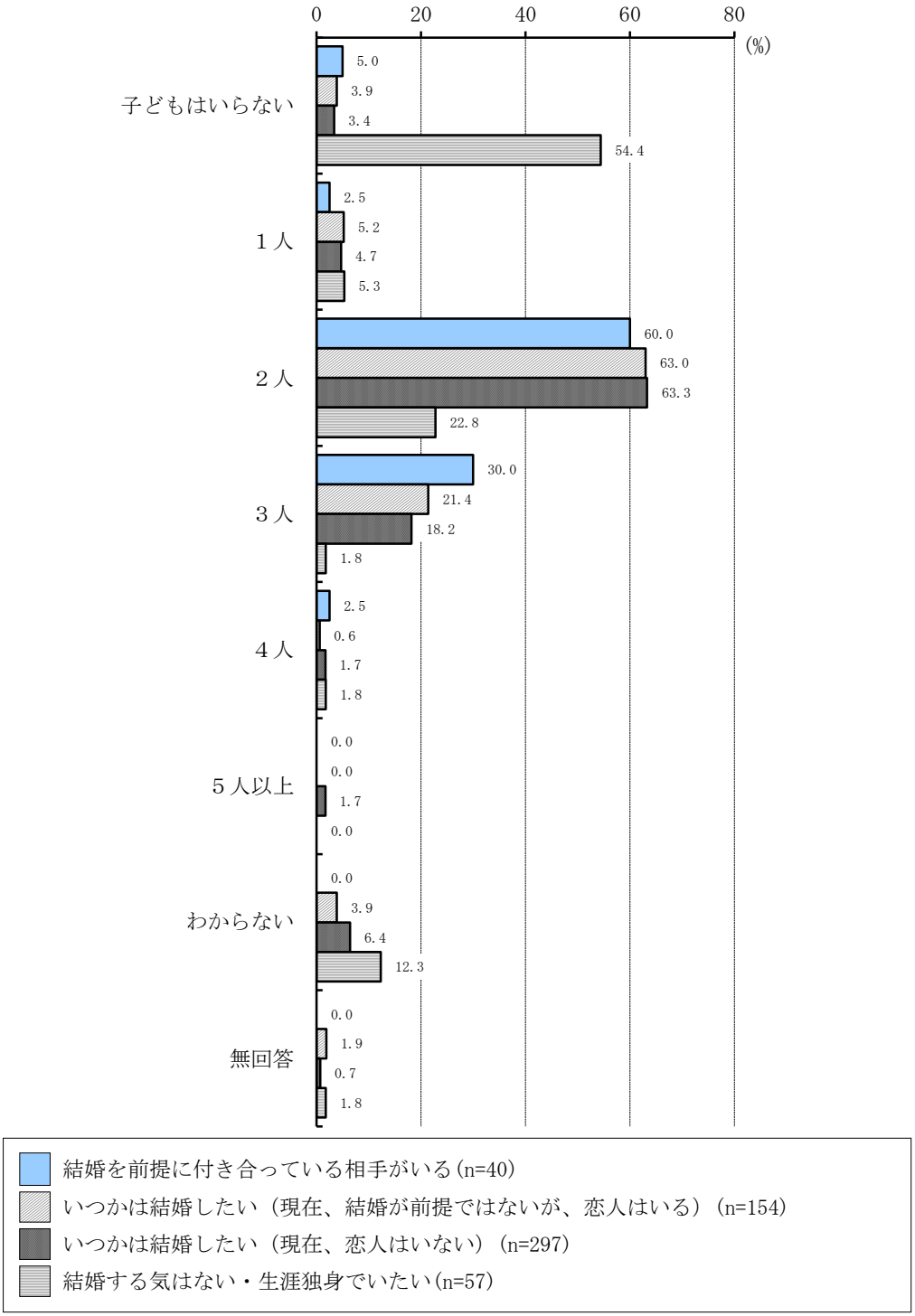


［大学生／結婚の意向別］

結婚を前提に付き合っている相手がいる、または、いつかは結婚したいと考えている人では、「２人」が６割台で最も多くなっている。これに次いで「３人」が多く、結婚を前提に付き合っている相手がいる、または、恋人がいる人で高くなっている。

一方、結婚する気はない人では、「子どもはいらない」が54.4％を占める。（図表3-1-6）

【図表3-1-6　結婚の意向別　理想とする子どもの人数（大学生）】



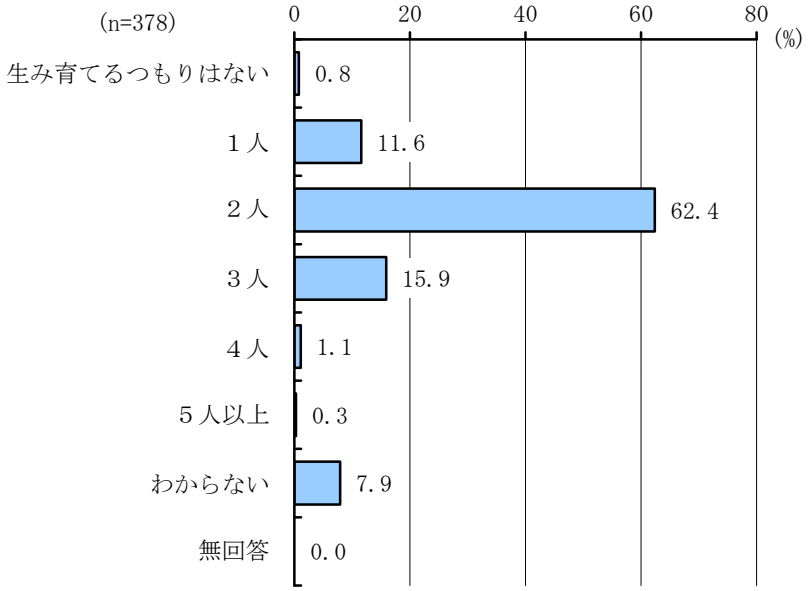
（２）現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数（30～34歳のみ回答）

問　あなたが現実として子どもを生み育てようと思う子どもの数は何人ですか。あてはまる番号に○をつけ、５人以上の場合は（　）内に人数を記入してください。（○は１つ）

理想としてほしい子どもの人数が１人以上の30～34歳の人に、現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数をたずねた。

「２人」が62.4％で最も多く、次いで「３人」が15.9％、「１人」が11.6％となっている。（図表3-2）

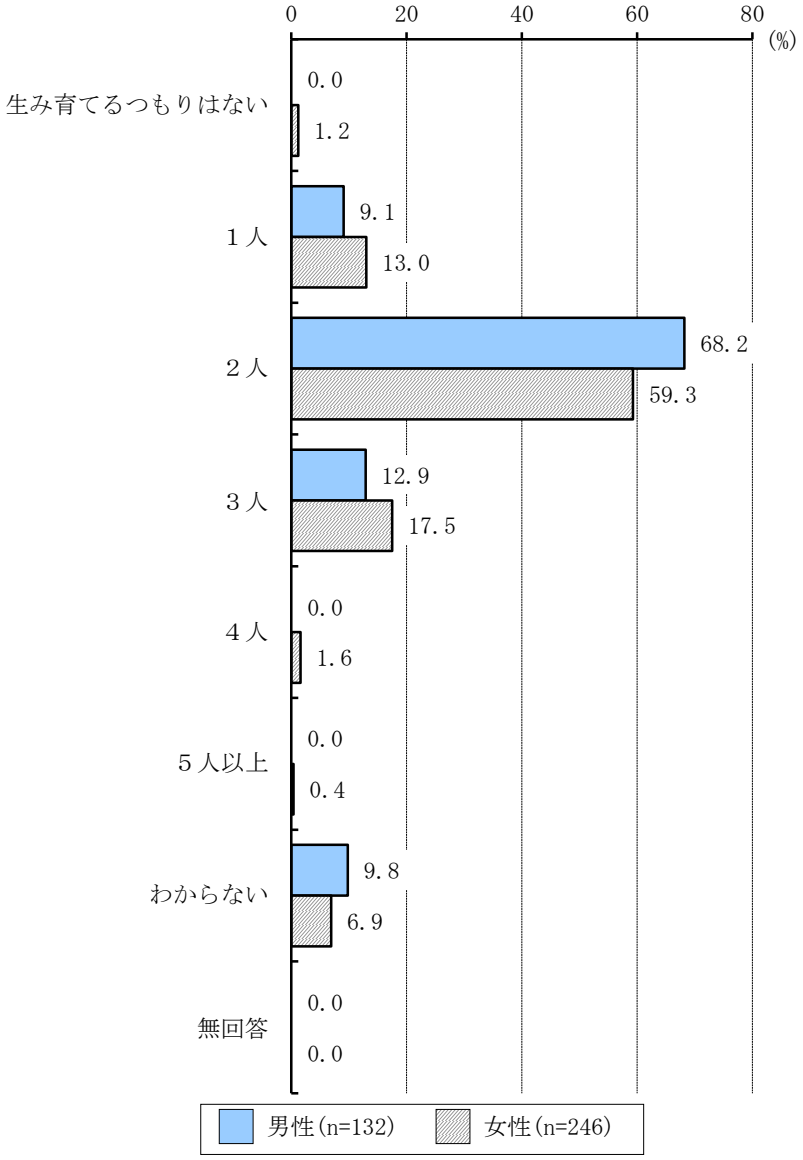
【図表3-2　現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数】



［性別］

男女とも「２人」が最も多く、男性が68.2%に対し、女性は59.3%で、男性のほうが8.9ポイント高くなっている。これに次いで「３人」（男性 12.9%、女性 17.5%）、「１人」（男性 9.1%、女性 13.0%）で、どちらも女性のほうが高くなっている。（図表3-2-1）

【図表3-2-1　性別　現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数】

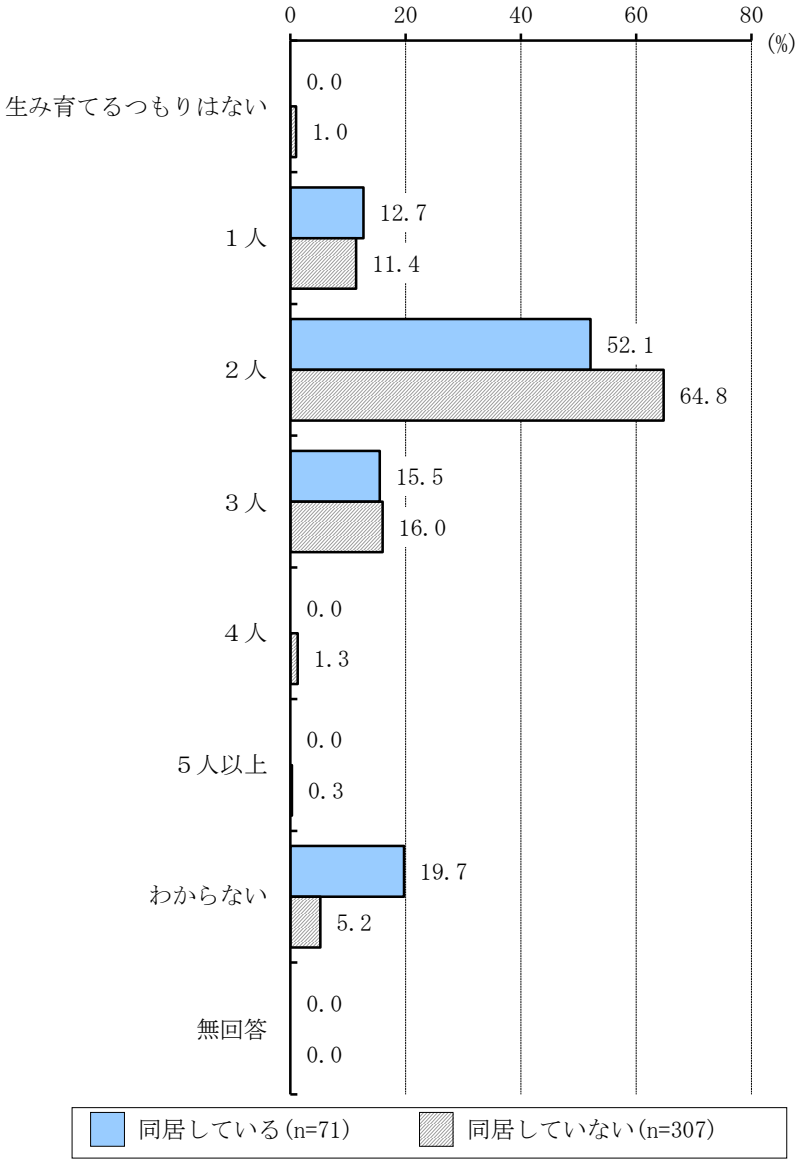


［親との同居・別居別］

親との同居・別居に関わらず、「２人」が最も多く、親と同居している人が52.1％に対し、親と同居していない人は64.8％で、親と同居していない人のほうが12.7ポイント高くなっている。

また、親と同居している人では、「わからない」が19.7％と多くなっている。（図表3-2-2）

【図表3-2-2　親との同居・別居別　現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数】

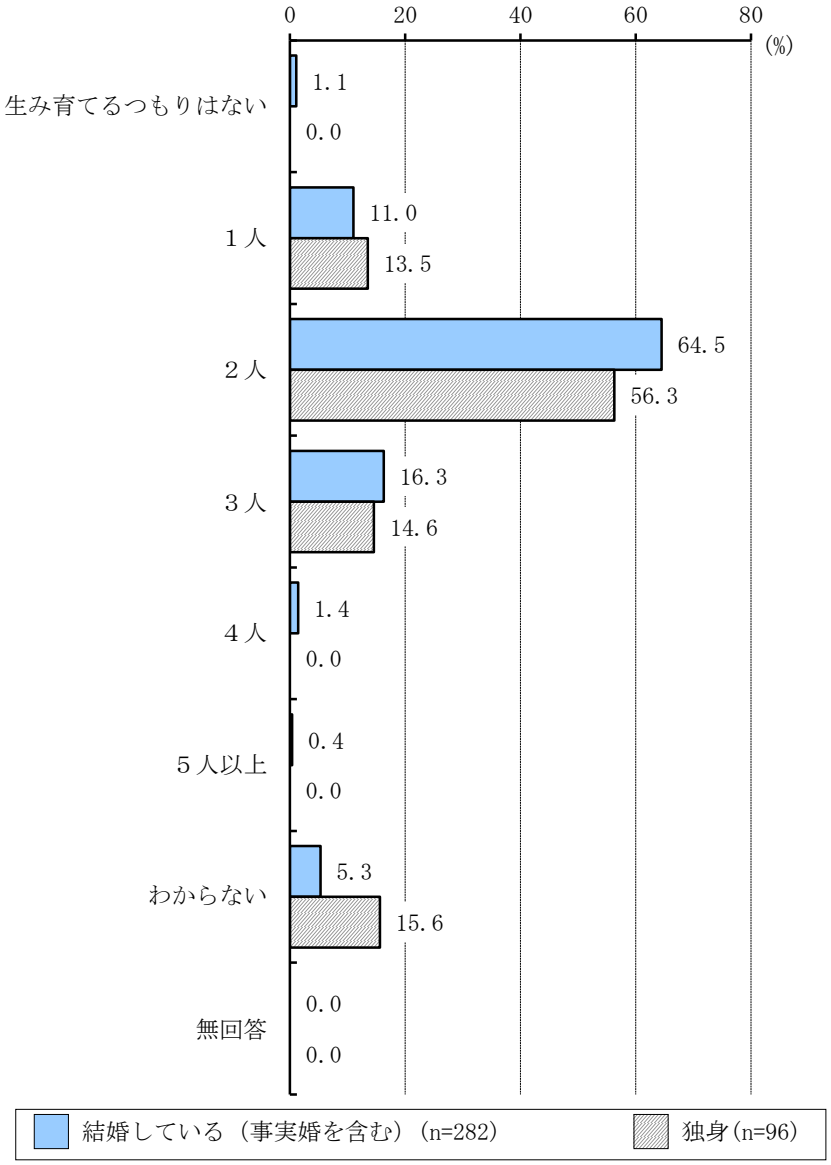


［未既婚別］

未既婚に関わらず、「２人」が最も多く、既婚者が64.5%に対し、未婚者は56.3%で、既婚者のほうが8.2ポイント高くなっている。

また、未婚者は「わからない」が15.6%と多くなっている。（図表3-2-3）

【図表3-2-3　未既婚別　現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数】



［30～34歳／現在いる子どもの人数別］

現在、子どもが１人いる人の現実として生み育てたい子どもの人数は「２人」が66.0%で最も多く、次いで「１人」が19.8%となっている。子どもが２人いる人では、現実の人数も「２人」（74.5%）が、３人以上いる人では「３人」（68.0%）がそれぞれ最も多くなっている。（図表3-2-4）

【図表3-2-4　現在いる子どもの人数別　現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数】

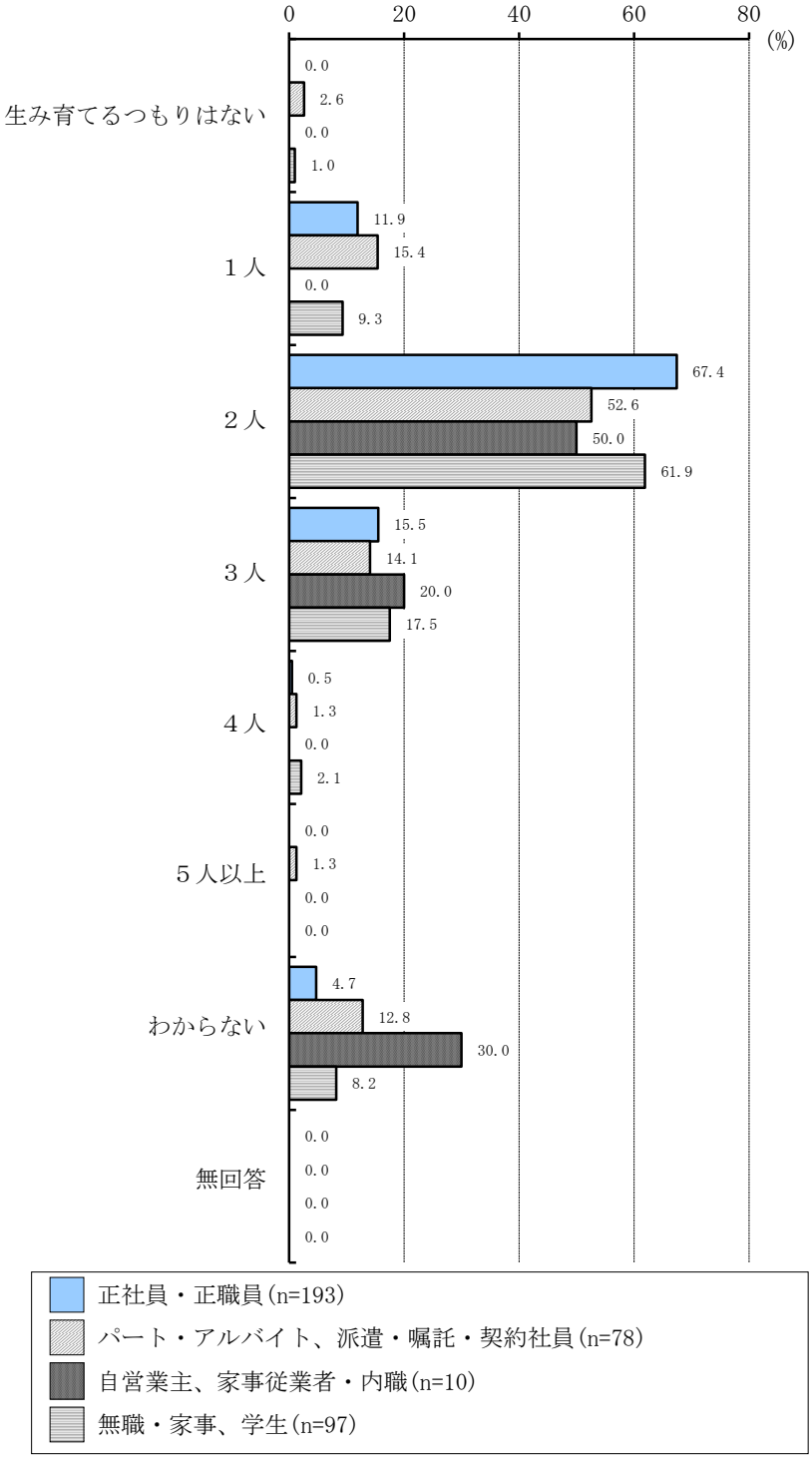
(%)

	n	生み育てるつもりはない	1人	2人	3人	4人	5人以上	わからない	無回答
１人	106	0.9	19.8	66.0	8.5	－	－	4.7	－
２人	94	－	－	74.5	19.1	1.1	1.1	4.3	－
３人以上	25	－	－	16.0	68.0	8.0	－	8.0	－

［現在の就労形態別］

いずれも「２人」（正規労働者 67.4%、非正規労働者 52.6%、無職等 61.9%）が最も多くなっている。これに次いで、正規労働者と無職等は「３人」（正規労働者 15.5%、無職等 17.5%）が多く、非正規労働者は「１人」（15.4%）が多くなっている。（図表3-2-5）

【図表3-2-5　現在の就労形態別　現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数】



［現在子どもがいない人／理想の子どもの人数別］

現在、子どもがいない人で、理想の子どもの人数と現実に生み育てようと思う子どもの人数は、概ね一致しているが、２人が理想の人は、現実の人数は「１人」が19.3%、３人が理想の人は、現実の人数は「２人」が45.5%、４人が理想の人は、現実の人数は「２人」が80.0%と、理想の人数が多い人ほど、現実の人数は少なくなっている。（図表3-2-6）

【図表3-2-6　理想の子どもの人数別　現実として子どもを生み育てようと思う子どもの人数】

《子どもがいない人》　(%)

		n	現実として生み育てようと思う子どもの人数							
			生み育てるつもりはない	1人	2人	3人	4人	5人以上	わからない	無回答
全　体		140	1.4	15.7	57.9	10.7	0.7	－	13.6	－
理想とする子どもの人数	子どもはいらない	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	１人	8	－	62.5	－	－	－	－	37.5	－
	２人	83	1.2	19.3	74.7	－	－	－	4.8	－
	３人	33	3.0	3.0	45.5	42.4	－	－	6.1	－
	４人	5	－	－	80.0	－	20.0	－	－	－
	５人以上	1	－	－	－	100.0	－	－	－	－
	わからない	10	－	－	－	－	－	－	100.0	－

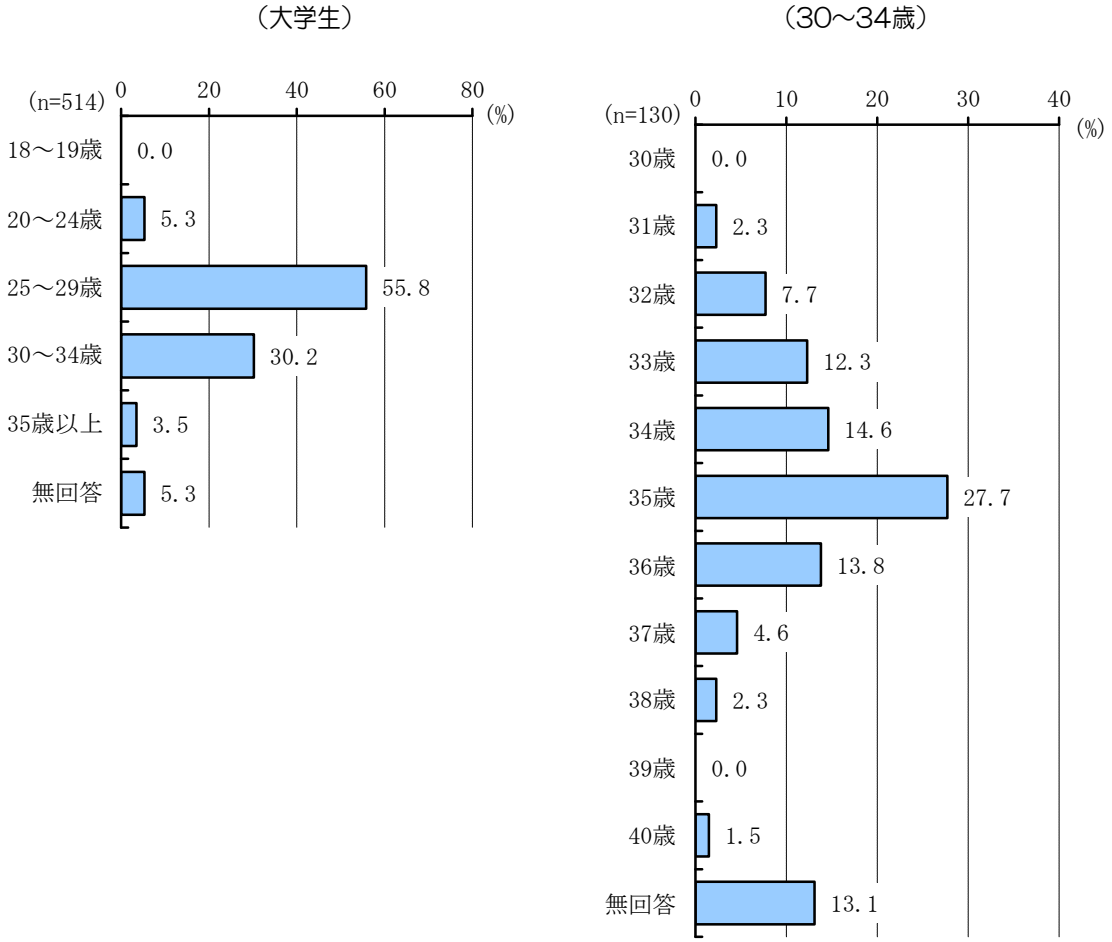
（３）第１子目がほしい時期（年齢）

【現在子どもがいない方で、30～34歳の方は現実として子どもを１人以上生み育てたいと回答した方におうかがいします。】
問　最初のお子さんを持ちたい年齢を記入してください。

現在子どもがいない大学生が、第１子目のほしい時期（年齢）は、「25～29歳」が55.8%で最も多く、次いで「30～34歳」が30.2%、「20～24歳」が5.3%となっている。

また、30～34歳の人のうち、現在子どもがいない人で、かつ現実として子どもを１人以上生み育てたいと回答した人が、第１子目のほしい時期（年齢）は、「35歳」が27.7%で最も多く、次いで「34歳」が14.6%、「36歳」が13.8%となっている。（図表3-3）

【図表3-3　第１子がほしい自分の年齢】

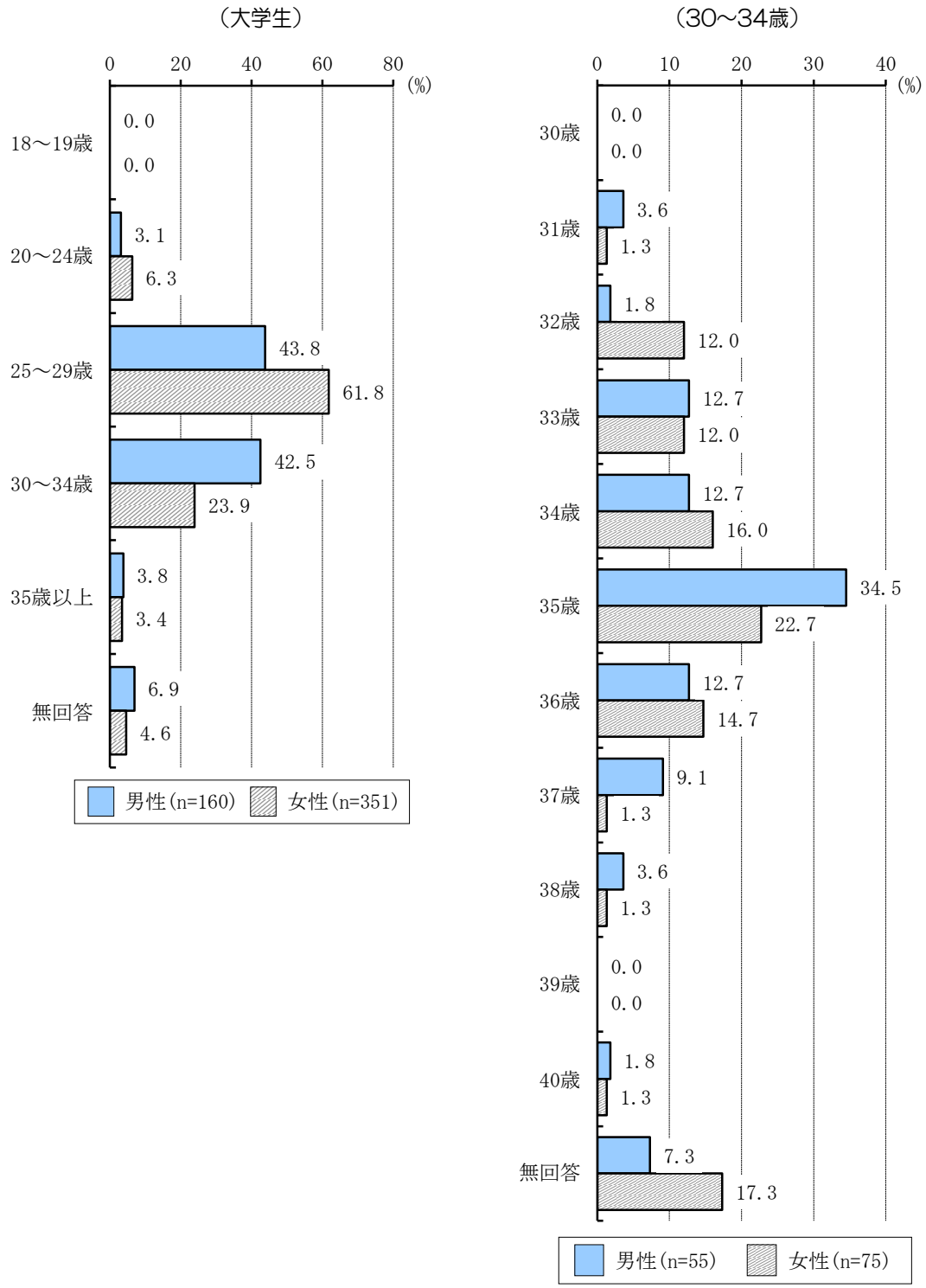


［性別］

大学生の場合は、男女とも「25～29歳」が最も多く、男性43.8%に対し、女性61.8%で、女性のほうが18ポイント高い。また、男性は20歳代・30歳以上の両割合が46%台で大差はないが、女性は20歳代の割合が68.1%で過半数を占める。

30～34歳の場合は、男女とも「35歳」が最も多く、男性34.5%に対し、女性22.7%で、男性のほうが11.8ポイント高くなっている。30歳代前半の割合は、男性が30.8%に対し女性は41.3%で、女性のほうが10.5ポイント高い。（図表3-3-1）

【図表3-3-1　性別　第１子目がほしい時期（年齢）】



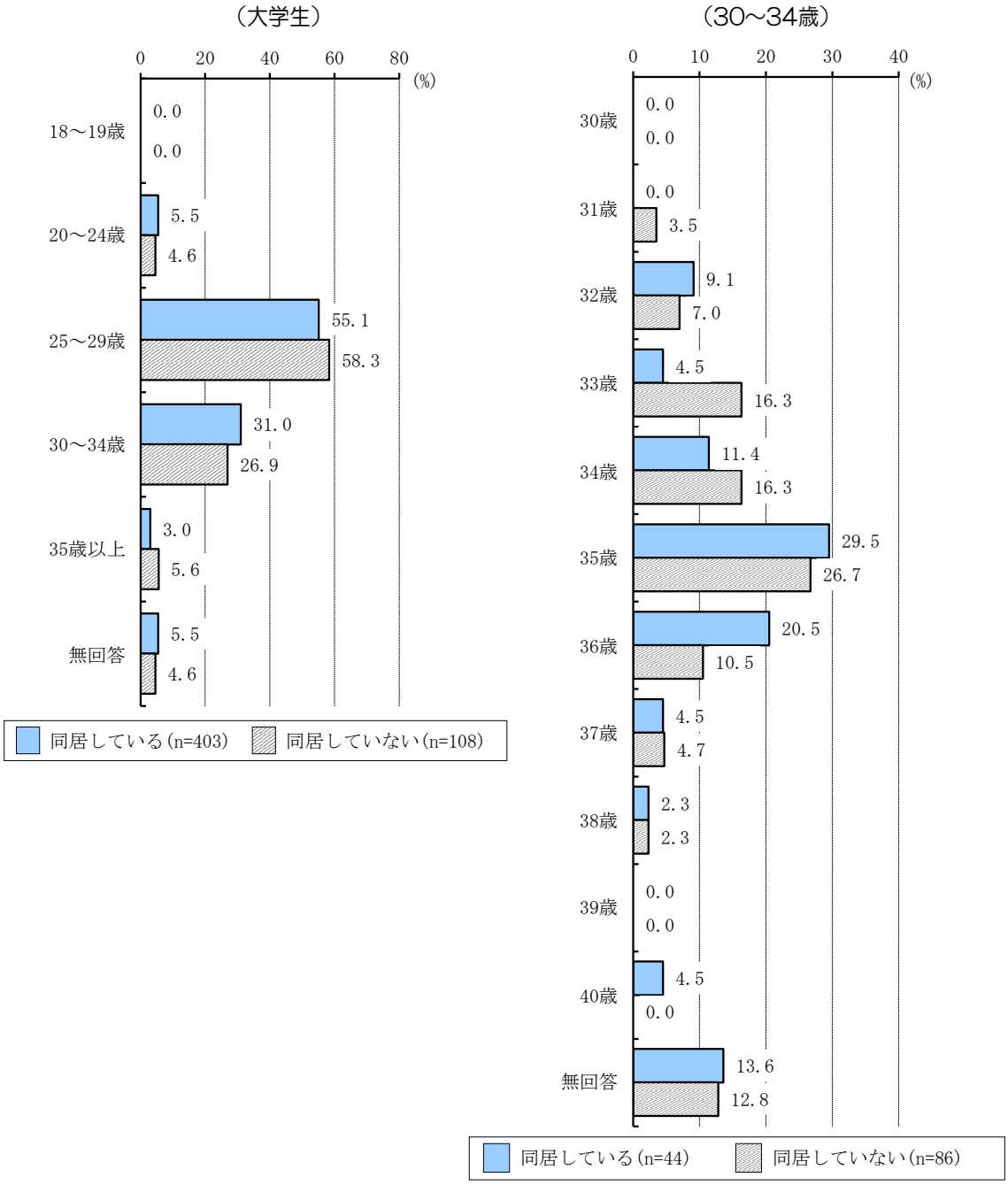
［親との同居・別居別］

大学生の場合は、親との同居・別居に関わらず、「25～29歳」（同居している 55.1%、同居していない 58.3%）が過半数を占めている。これに次いで「30～34歳」が多く、親と同居している人で 31.0%、親と同居していない人は26.9%となっている。

30～34歳の場合は、親との同居・別居に関わらず、「35歳」（同居している 29.5%、同居していない 26.7%）が最も多くなっている。これに次いで、親と同居している人は「36歳」（20.5%）、親と同居していない人は「33歳」と「34歳」（ともに16.3%）となっている。

また、30歳代前半の割合は、親と同居している人が25.0%に対し、親と同居していない人は43.1%で、親と同居していない人のほうが18.1ポイント高くなっている。（図表3-3-2）

【図表3-3-2　親との同居・別居別　第１子目がほしい時期（年齢）】

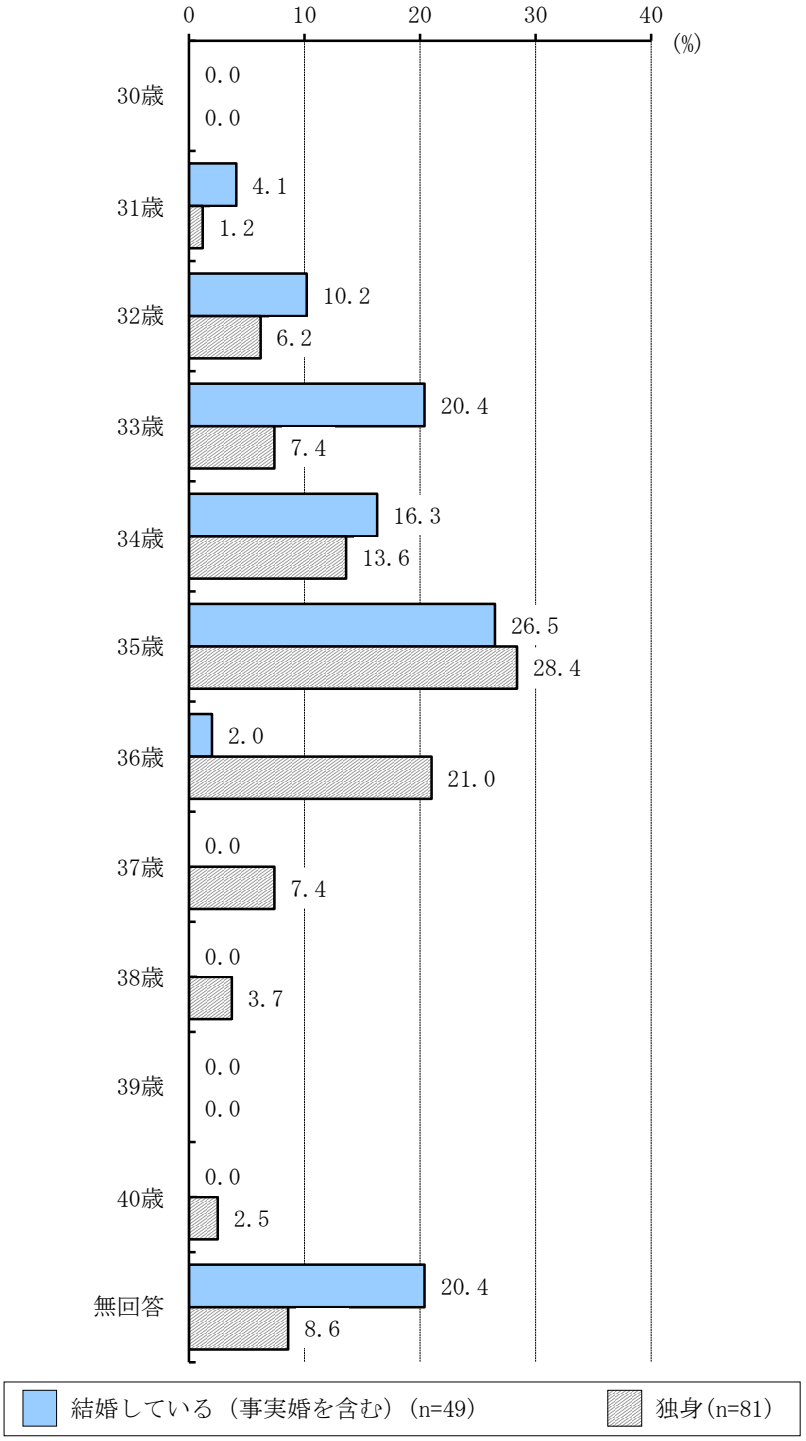


［30～34歳／未既婚別］

未既婚に関わらず、「35歳」（既婚者 26.5%、未婚者 28.4%）が最も多くなっている。これに次いで既婚者は「33歳」（20.4%）、「34歳」（16.3%）が、未婚者は「36歳」（21.0%）、「34歳」（13.6%）が多くなっている。

また、30歳代前半の割合は、既婚者が51.0%に対し、未婚者は28.4%で、既婚者のほうが22.6ポイント高くなっている。（図表3-3-3）

【図表3-3-3　未既婚別　第１子目がほしい時期（年齢）（30～34歳）】

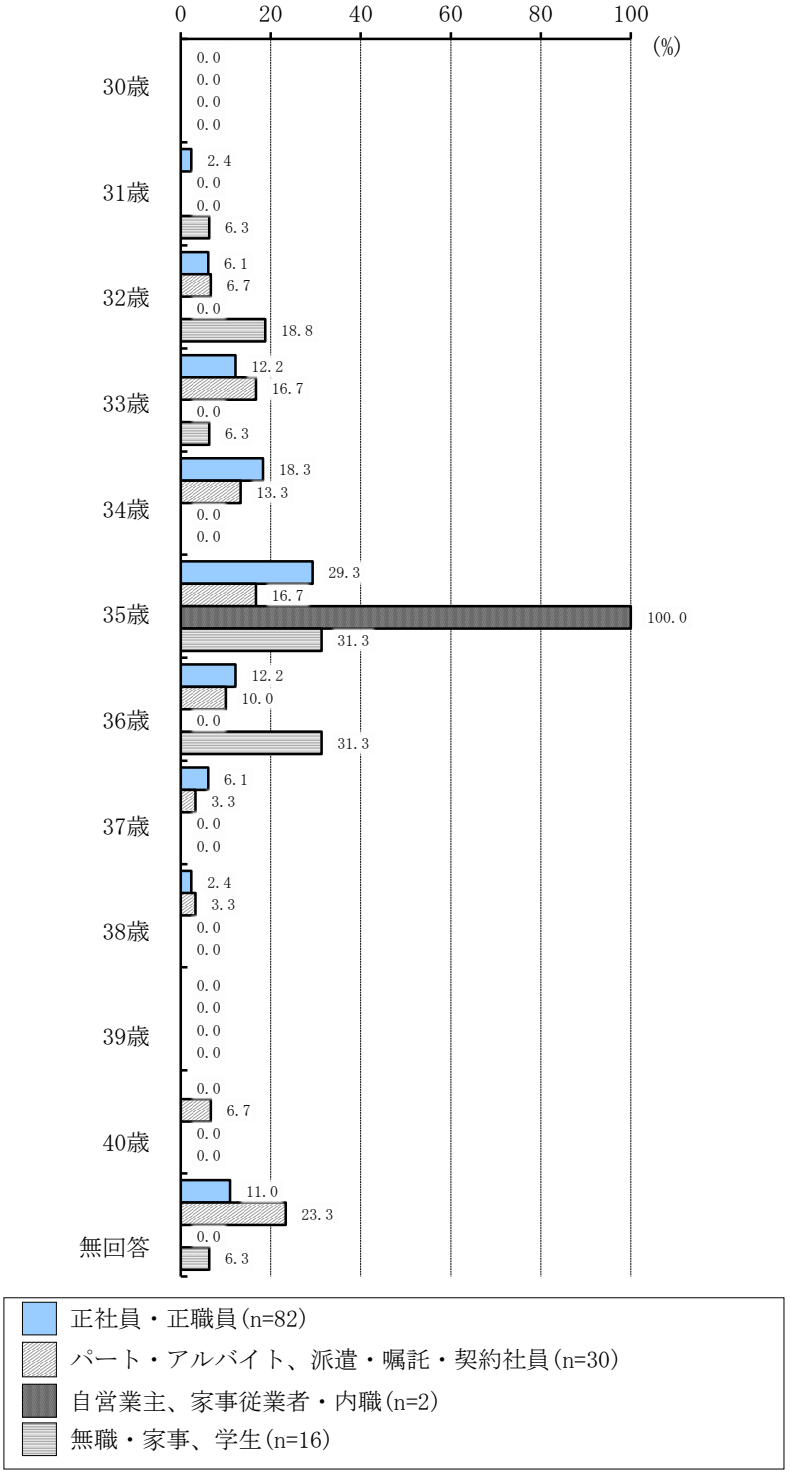


［30～34歳／現在の就労形態別］

正規労働者は、「35歳」が29.3%で最も多く、次いで「34歳」が18.3%となっている。一方、非正規労働者は「33歳」と「35歳」がともに16.7%（５人）で最も多くなっている。

また、30歳代前半の割合は、正規労働者が39.0%、非正規労働者は36.7%（11人）となっている。（図表3-3-4）

【図表3-3-4　現在の就労形態別　第１子目がほしい時期（年齢）（30～34歳）】

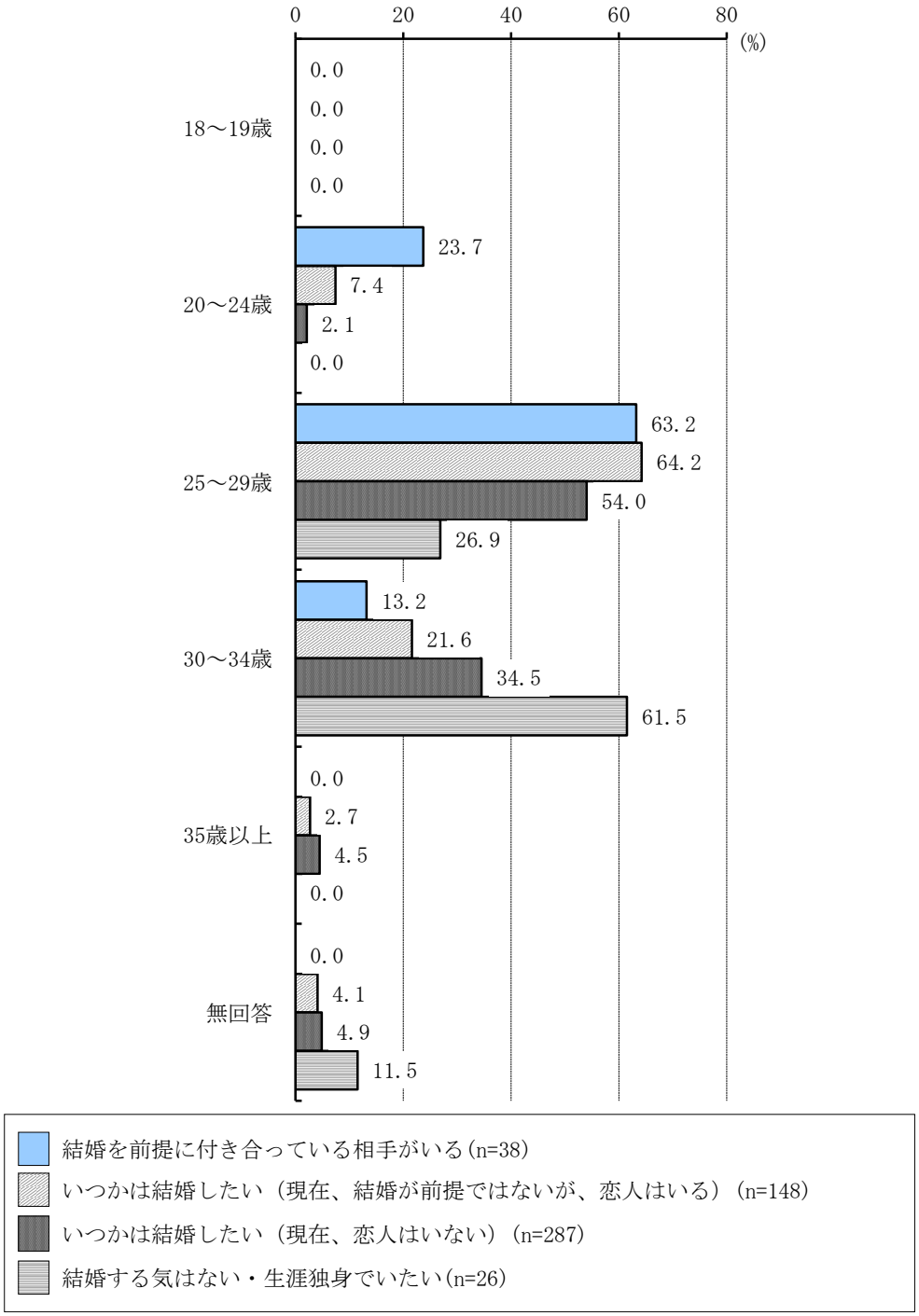


［大学生／結婚の意向別］

結婚を前提に付き合っている相手がいる、または、いつか結婚したいと考えている人では、「25～29歳」が最も多い。これに次いで、結婚を前提に付き合っている相手がいる人は「20～24歳」が23.7%で、20歳代の割合が86.9%を占めている。

また、「30～34歳」は、結婚する気はない人では61.5%で最も高く、次いで、恋人がいない人の34.5%となっている。（図表3-3-5）

【図表3-3-5　結婚の意向別　第１子目がほしい時期（年齢）（大学生）】



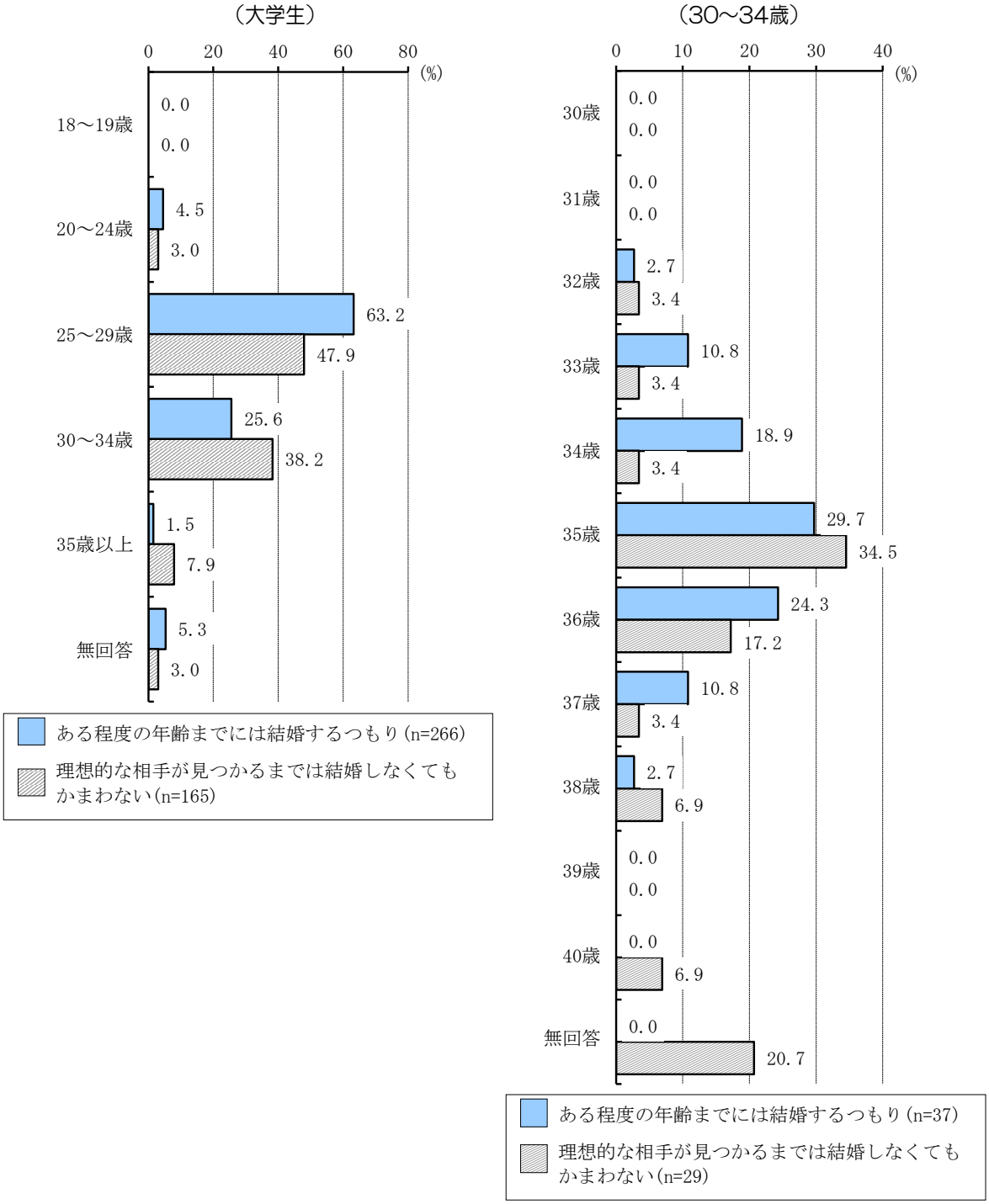
［結婚のタイミング別］

大学生の場合は、いずれのタイミングも「25～29歳」（ある程度の年齢までに 63.2%、理想的な相手が見つかるまで 47.9%）が最も多い。

一方、「30歳以上」の割合は、ある程度の年齢までに結婚するつもりの人が27.1%に対し、理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないと考えている人では46.1%で19ポイント高くなっている。

30～34歳の場合は、結婚のタイミングに関わらず、「35歳」が最も多く、ある程度の年齢までに結婚するつもりの人が29.7%に対し、理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないと考えている人は34.5%となっている。（図表3-3-6）

【図表3-3-6　結婚のタイミング別　第１子目がほしい時期（年齢）】



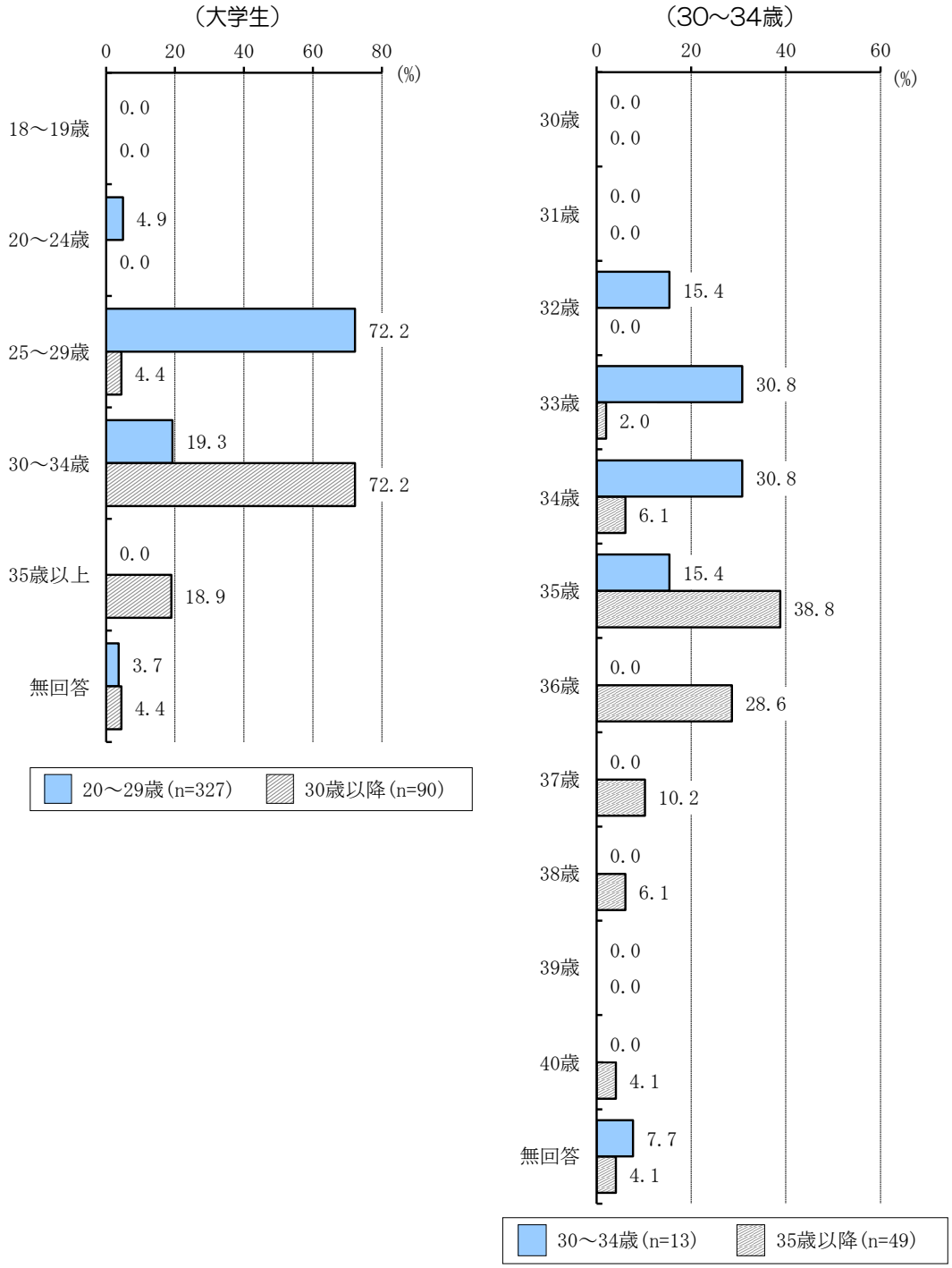
［結婚したい時期（年齢）別］

大学生の場合、20歳代に結婚を考えている人は、「25～29歳」が72.2%、30歳以降に結婚を考えている人は「30～34歳」が72.2%と、それぞれ最も多くなっている。

30～34歳の場合、30歳代前半に結婚を考えている人は、「33歳」と「34歳」がともに30.8%（４人）で最も多く、次いで「32歳」と「35歳」が15.4%（2人）となっている。

一方、35歳以降に結婚を考えている人は、35歳以降が87.8%を占め、そのうち「35歳」が38.8%で最も多く、次いで「36歳」が28.6%となっている。（図表3-3-7）

【図表3-3-7　結婚したい時期（年齢）　第１子目がほしい時期（年齢）】



（4）子どもがいらない理由

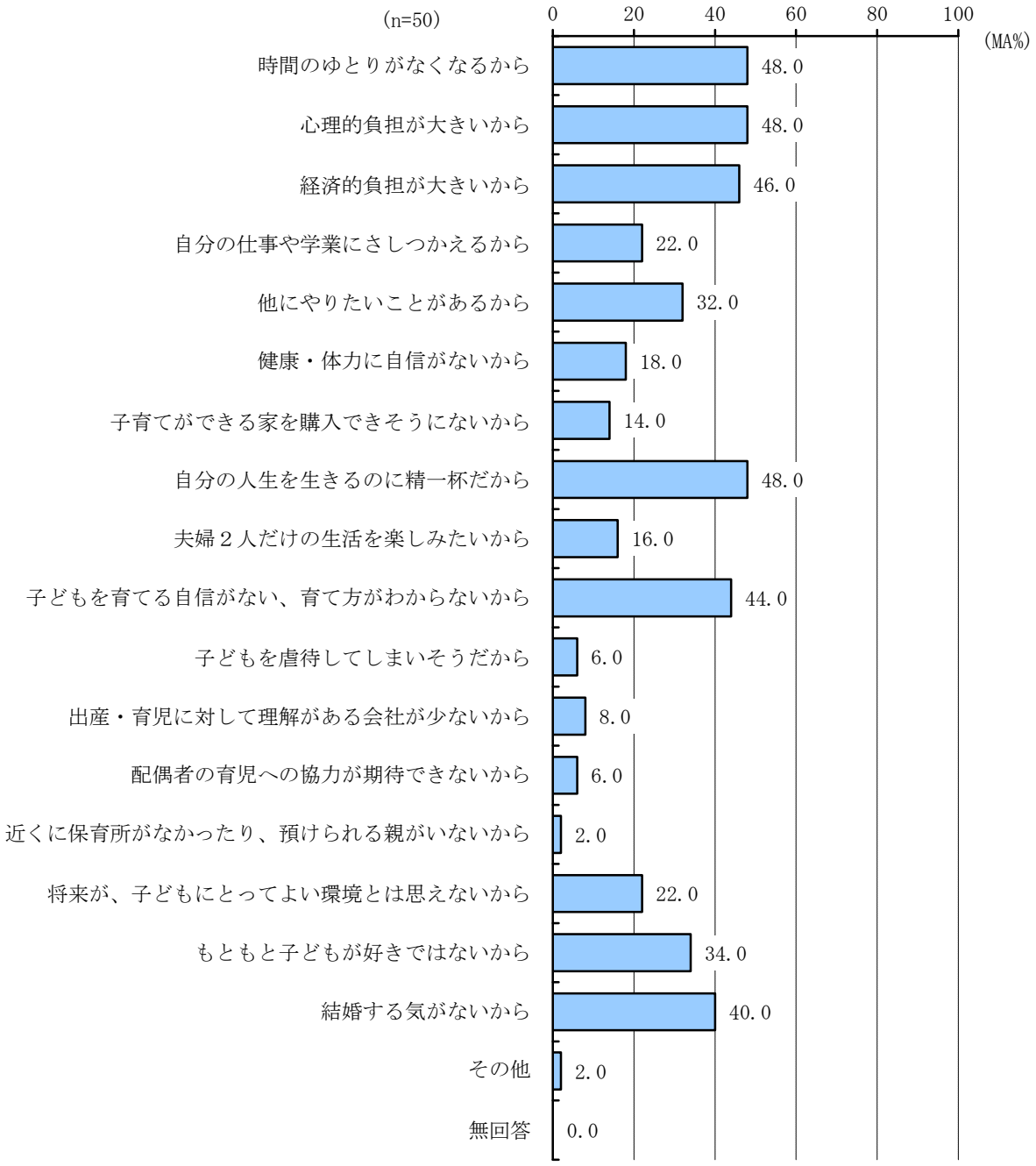
【「子どもはいらない」もしくは、30～34歳の方で「生み育てるつもりはない」と回答した方、または理想の子どもの数より現実として生み育てようと思う子どもの数が少ない方におうかがいします。】
問　子どもがいらない・生み育てるつもりはない理由、または理想の人数の子どもを生み育てない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

［大学生］

子どもはいらないと回答した大学生に、その理由をたずねた。

「時間のゆとりがなくなるから」と「心理的負担が大きいから」「自分の人生を生きるのに精一杯だから」が各々48.0%で最も多い。（図表3-4①）

【図表3-4①　子どもがいらない理由（大学生）】

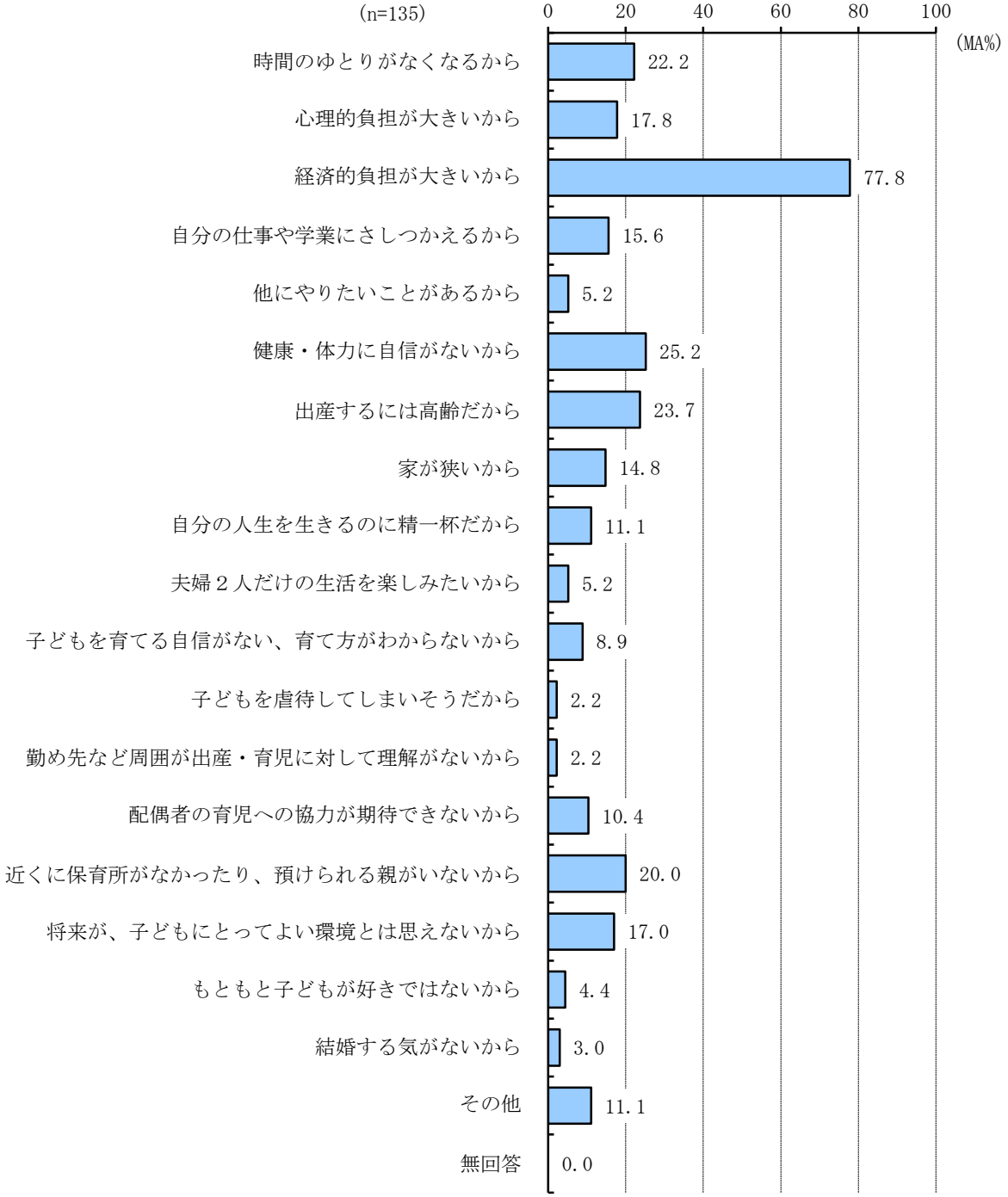


［30～34歳］

子どもはいらないと回答、もしくは生み育てるつもりはない、理想より現実に生み育てる子ども数が少ない30～34歳の人に、それらの理由をたずねた。

「経済的負担が大きいから」が77.8%で最も多く、次いで「健康・体力に自信がないから」が25.2%、「出産するには高齢だから」が23.7%と続いている。（図表3-4②）

【図表3-4②　子どもがいらない理由（30～34歳）】



また、大学生と30～34歳に共通する項目を比較すると、多くは大学生のほうが高い割合となっており、特に「他にやりたいことがあるから」（32.0%）や「自分の人生を生きるのに精一杯だから」（48.0%）、「子どもを育てる自信がない、育て方がわからないから」（44.0%）、「もともと子どもが好きではないから」（34.0%）、「結婚する気がないから」（40.0%）は、30～34歳に比べかなり高くなっている。

一方、30～34歳のほうが高い項目は、「経済的負担が大きいから」（77.8%）や「健康・体力に自信がないから」（25.2%）、「配偶者の育児への協力が期待できないから」（10.4%）、「近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから」（20.0%）が挙げられる。

［性別］

大学生の場合、男性は、「経済的負担が大きいから」が53.8%（７人）で最も多く、次いで「子どもを育てる自信がない、育て方がわからないから」が46.2%（６人）と続いている。

一方、女性は、「自分の人生を生きるのに精一杯だから」が56.8%で最も多く、次いで「心理的負担が大きいから」が54.1%、「時間のゆとりがなくなるから」が51.4%と続いている。（図表3-4①-1）

【図表3-4①-1　性別　子どもがいらない理由（大学生）】

(MA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
男性(n=13)	経済的負担が大きいから 53.8	子どもを育てる自信がない、育て方がわからないから 46.2	時間のゆとりがなくなるから／結婚する気がないから 38.5		心理的負担が大きいから／他にやりたいことがあるから／もともと子どもが好きではない 30.8
女性(n=37)	自分の人生を生きるのに精一杯だから 56.8	心理的負担が大きいから 54.1	時間のゆとりがなくなるから 51.4	経済的負担が大きいから／子どもを育てる自信がない、育て方がわからないから 43.2	

30～34歳の場合は、男女とも「経済的負担が大きいから」が最も多く、男性72.7%、女性80.2%となっている。これに次いで、男性は「時間のゆとりがなくなるから」と「将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから」がともに25.0%、「自分の人生を生きるのに精一杯だから」が18.2%と続いている。一方、女性は「健康・体力に自信がないから」が30.8%、「出産するには高齢だから」が27.5%、「近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから」が24.2%と続いている。（図表3-4②-1）

【図表3-4②-1　性別　子どもがいらない理由（30～34歳）】

(MA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
男性(n=44)	経済的負担が大きいから 72.7	時間のゆとりがなくなるから／将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから 25.0		自分の人生を生きるのに精一杯だから 18.2	出産するには高齢だから 15.9
女性(n=91)	経済的負担が大きいから 80.2	健康・体力に自信がないから 30.8	出産するには高齢だから 27.5	近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから 24.2	時間のゆとりがなくなるから／心理的負担が大きいから 20.9

［30～34歳／親との同居・別居別］

親との同居・別居に関わらず、「経済的負担が大きいから」が最も多く、親と同居している人81.0%（17人）、親と同居していない人77.2%となっている。これに次いで、親と同居している人では「出産するには高齢だから」が42.9%（９人）、「子どもを育てる自信がない、育て方がわからないから」が28.6%（６人）と続いている。

一方、親と同居していない人は「健康・体力に自信がないから」が25.4%、「時間のゆとりがなくなるから」が22.8%、「近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから」が21.1%と続いている。（図表3-4②-2）

【図表3-4②-2　親との同居・別居別　子どもがいらない理由（30～34歳）】

(MA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
同居している (n=21)	経済的負担が大きいから 81.0	出産するには高齢だから 42.9	子どもを育てる自信がない、育て方がわからないから 28.6	心理的負担が大きいから／健康・体力に自信がないから 23.8	
同居していない (n=114)	経済的負担が大きいから 77.2	健康・体力に自信がないから 25.4	時間のゆとりがなくなるから 22.8	近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから 21.1	出産するには高齢だから 20.2

［30～34歳／未既婚別］

既婚者は「経済的負担が大きいから」が80.2%で最も多く、次いで「健康・体力に自信がないから」が25.5%、「時間のゆとりがなくなるから」が24.5%、「近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから」が21.7%となっている。

一方、未婚者でも、「経済的負担が大きいから」が69.0%（20人）で最も多く、「出産するには高齢だから」が48.3%（14人）、「健康・体力に自信がないから」と「自分の人生を生きるのに精一杯だから」、「将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから」が24.1%（７人）となっている。（図表3-4②-3）

【図表3-4②-3　未既婚別　子どもがいらない理由（30～34歳）】

(MA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
結婚している (事実婚を含む) (n=106)	経済的負担が大きいから 80.2	健康・体力に自信がないから 25.5	時間のゆとりがなくなるから 24.5	近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから 21.7	心理的負担が大きいから／家が狭いから 18.9
独身 (n=29)	経済的負担が大きいから 69.0	出産するには高齢だから 48.3	健康・体力に自信がないから／自分の人生を生きるのに精一杯だから／将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから 24.1		

［30～34歳／子どもの有無別］

子どもの有無に関わらず、「経済的負担が大きいから」が最も多く、子どもがいる人は84.7%に対し、子どもがいない人は66.0%で、子どもがいる人のほうが18.7ポイント高くなっている。これに次いで、子どもがいる人は「時間のゆとりがなくなるから」と「健康・体力に自信がないから」、「家が狭いから」、「近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから」が22.4%となっている。子どもがいない人は「出産するには高齢だから」が46.0%、「将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから」が34.0%と続いている。（図表3-4②-4）

【図表3-4②-4　子どもの有無別　子どもがいらない理由（30～34歳）】

(MA%)

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
いる (妊娠中も含む) (n=85)	経済的負担が大きいから 84.7	時間のゆとりがなくなるから／健康・体力に自信がないから／家が狭いから／近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから 22.4			
いない (n=50)	経済的負担が大きいから 66.0	出産するには高齢だから 46.0	将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから 34.0	健康・体力に自信がないから 30.0	自分の人生を生きるのに精一杯だから 24.0

［30～34歳／現在の就労形態別］

いずれも「経済的負担が大きいから」が７割以上で最も多く、特に非正規労働者では81.3%と高くなっている。これに次いで、正規労働者は「時間のゆとりがなくなるから」（24.2%）、非正規労働者と無職等は「健康・体力に自信がないから」（非正規 37.5%、無職等 28.9%）が続いている。（図表3-4②-5）

【図表3-4②-5　現在の就労形態別　子どもがいらない理由（30～34歳）】

(MA%)

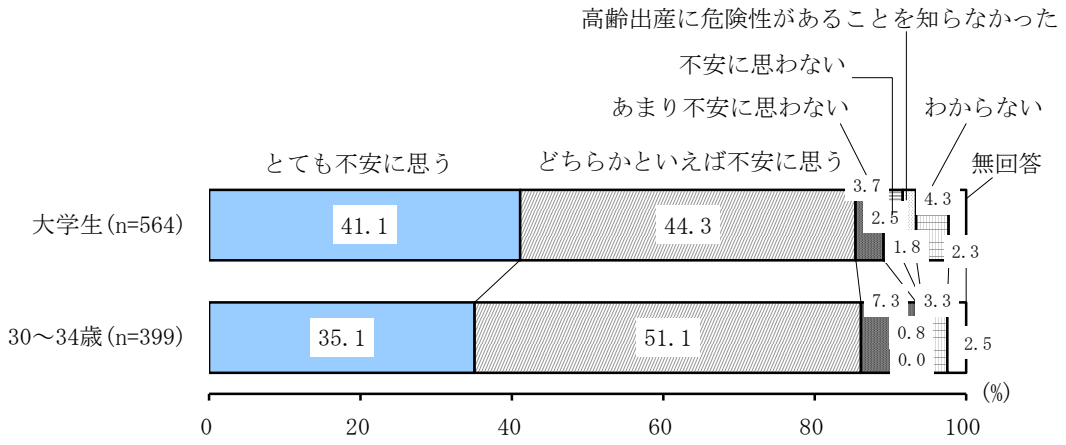
	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
正社員・正職員 (n=62)	経済的負担が大きいから 74.2	時間のゆとりがなくなるから 24.2	出産するには高齢だから 21.0	自分の仕事や学業にさしつかえるから／健康・体力に自信がないから 17.7	
パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約社員 (n=32)	経済的負担が大きいから 81.3	健康・体力に自信がないから 37.5	出産するには高齢だから 34.4	心理的負担が大きいから／将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから 28.1	
自営業主、家事従業者・内職 (n=3)	経済的負担が大きいから 100.0	自分の仕事や学業にさしつかえるから／近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから 66.7		時間のゆとりがなくなるから／出産するには高齢だから 33.3	
無職・家事、学生 (n=38)	経済的負担が大きいから 78.9	健康・体力に自信がないから 28.9	出産するには高齢だから／家が狭いから／近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから 18.4		

（5）高齢出産に対する不安感

問　高齢出産（本調査では、35歳以上での初産とします）は、生まれた赤ちゃんに先天的な異常をもたらす確率が高くなったり、流産や妊娠高血圧症候群など母体に影響を及ぼす危険性が高まると言われています。あなたは、高齢出産について、どのように考えますか。（○は１つ）

高齢出産について、「とても不安に思う」が大学生で41.1％、30～34歳は35.1％となっている。「どちらかといえば不安に思う」を合わせた『不安に思う』割合は、大学生が85.4％、30～34歳は86.2％を占めている。（図表3-5）

【図表3-5　高齢出産に対する不安感】

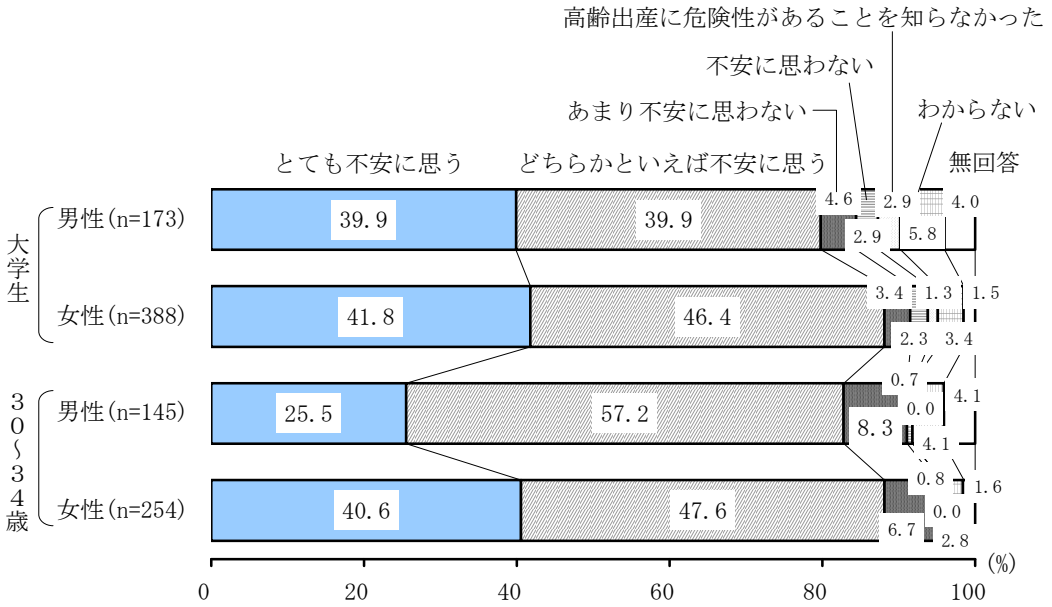


［性別］

大学生の場合は、男女とも「とても不安に思う」が４割前後を占め、『不安に思う』割合は男性79.8％に対し、女性88.2％で、女性のほうが8.4ポイント高い。

一方、30～34歳の場合は、「とても不安に思う」は男性が25.5％に対し、女性は40.6％で、女性のほうが15.1ポイント高くなっている。『不安に思う』割合は、男性82.7％、女性88.2％を占めている。（図表3-5-1）

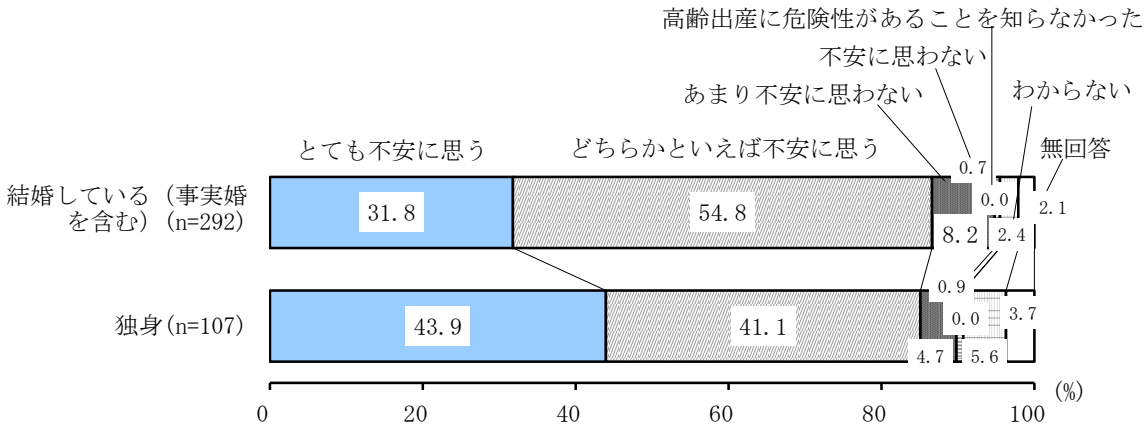
【図表3-5-1　性別　高齢出産に対する不安感】



［30～34歳／未既婚別］

「とても不安に思う」の割合は、既婚者が31.8%に対し、未婚者は43.9%で、未婚者のほうが12.1ポイント高い。『不安に思う』割合は、既婚者が86.6%、未婚者は85.0%を占めている。（図表3-5-2）

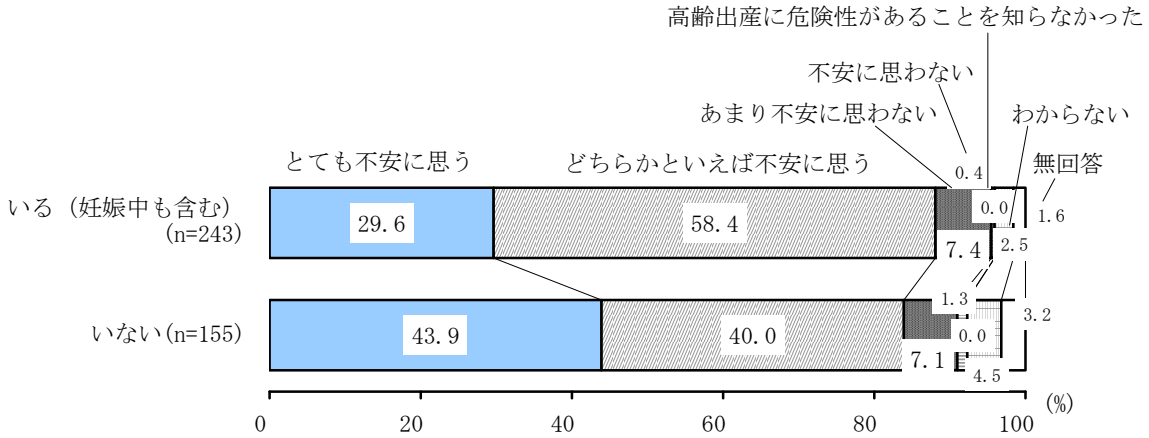
【図表3-5-2　未既婚別　高齢出産に対する不安感（30～34歳）】



［30～34歳／子どもの有無別］

「とても不安に思う」の割合は、子どもがいる人が29.6%に対し、子どもがいない人は43.9%で、子どものいない人のほうが14.3ポイント高い。『不安に思う』割合は、子どもがいる人が88.0%、子どもがいない人は83.9%を占めている。（図表3-5-3）

【図表3-5-3　子どもの有無別　高齢出産に対する不安感（30～34歳）】



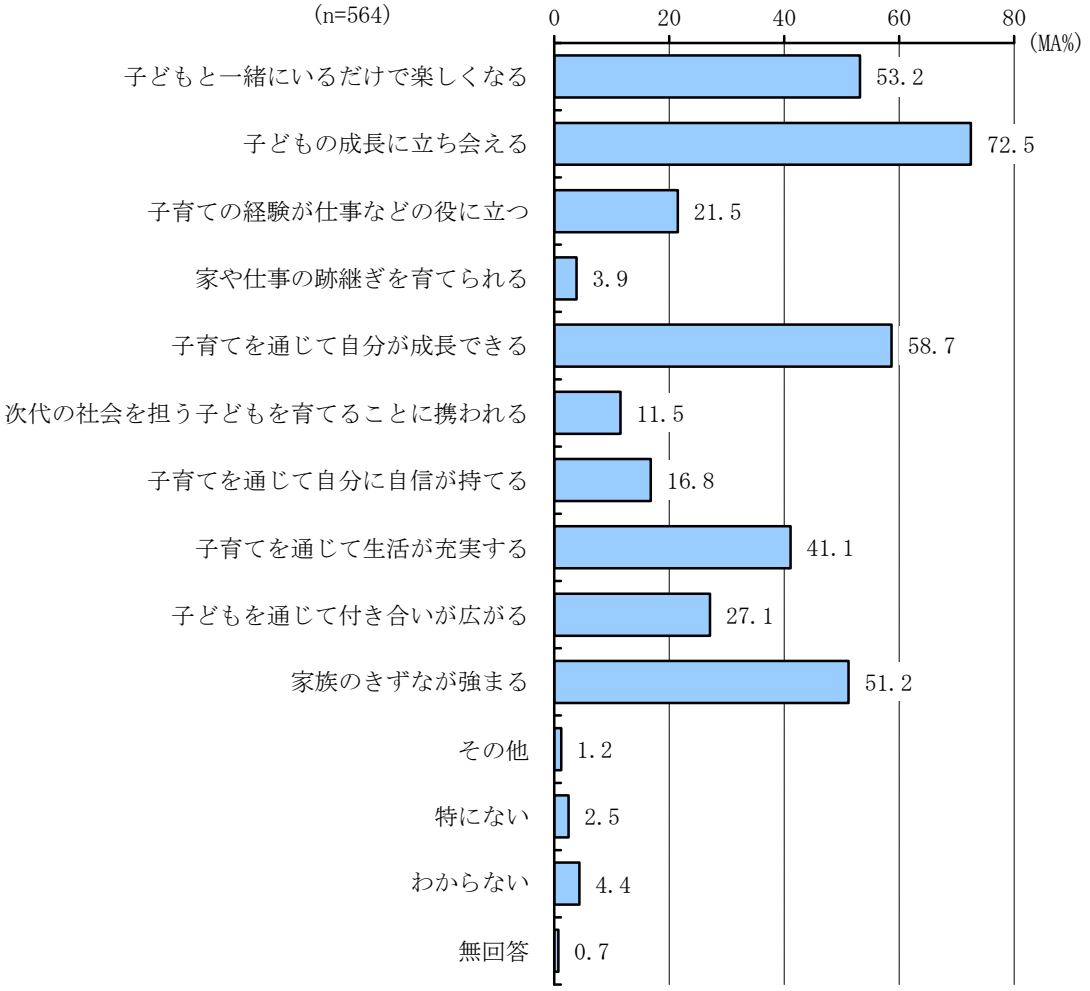
〔4〕子育てについて（大学生のみ回答）

（１）子育て観

問　あなたにとって子育てとはどんなことだと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

大学生に、子育て観をたずねると、「子どもの成長に立ち会える」が72.5%で最も多く、次いで「子育てを通じて自分が成長できる」が58.7%、「子どもと一緒にいるだけで楽しくなる」が53.2%、「家族のきずなが強まる」が51.2%、「子育てを通じて生活が充実する」が41.1%と続いている。（図表4-1）

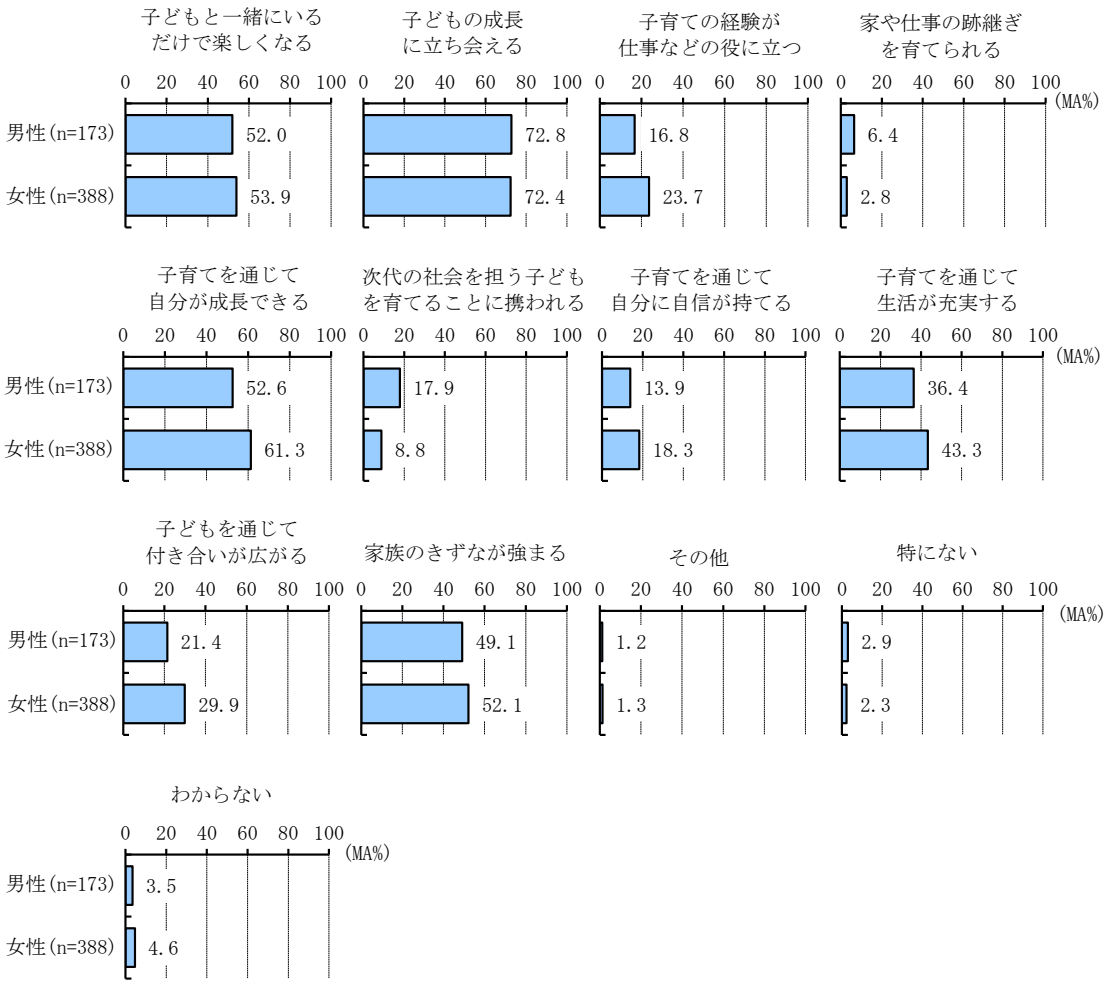
【図表4-1　子育て観】



［性別］

男女とも「子どもの成長に立ち会える」が７割台で最も多くなっている。これに次いで「子育てを通じて自分が成長できる」が多く、男性が52.6%に対し、女性は61.3%で、女性のほうが8.7ポイント高くなっている。また、男性は「次代の社会を担う子どもを育てることに携われる」（17.9%）が女性（8.8%）より9.1ポイント高くなっている。一方、男性に比べ、女性では「子育てを通じて生活が充実する」（43.3%）が6.9ポイント差、「子どもを通じて付き合いが広がる」（29.9%）が8.5ポイント差、「子育ての経験が仕事などの役に立つ」（23.7%）が6.9ポイント差で、それぞれ高くなっている。（図表4-1-1）

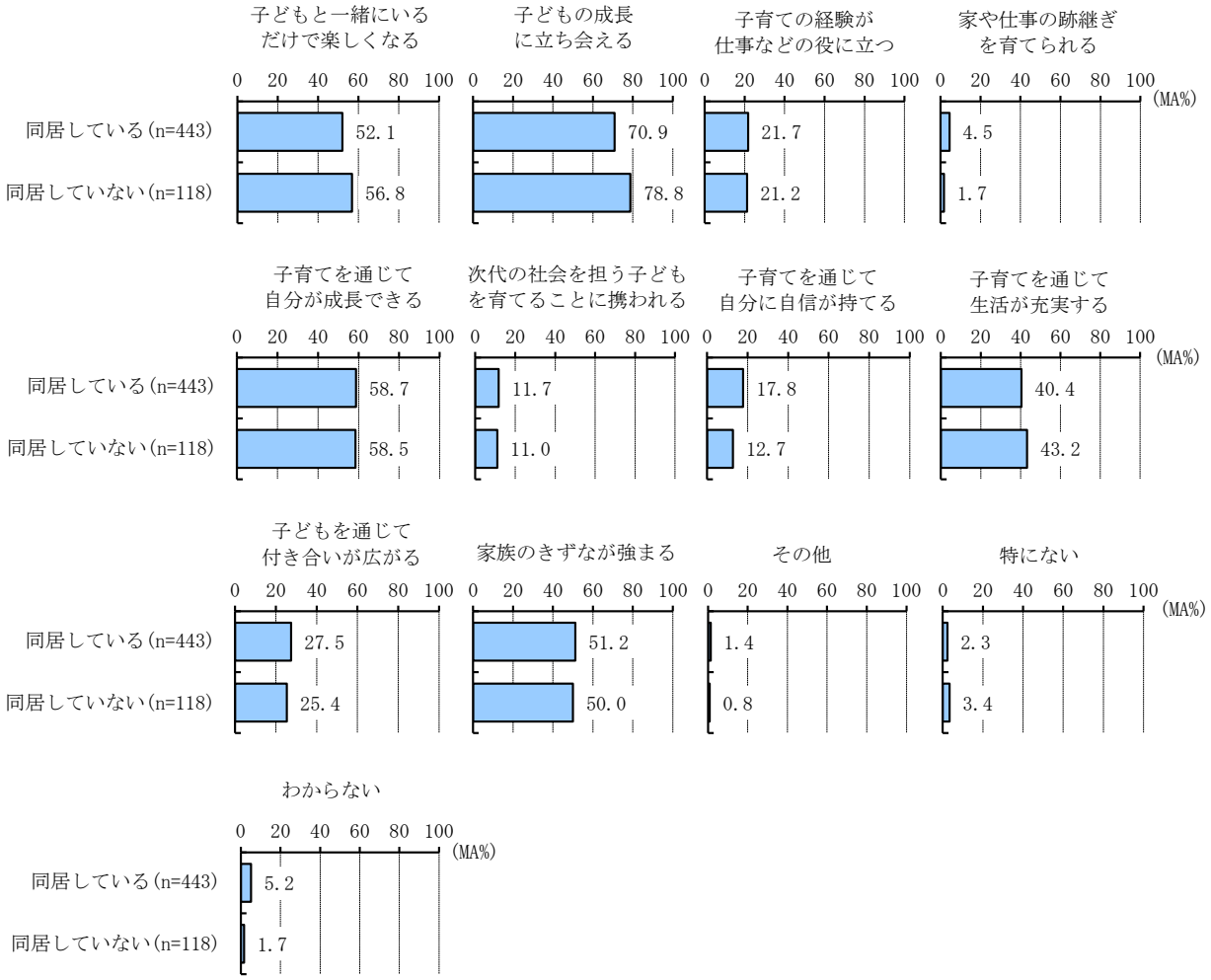
【図表4-1-1　性別　子育て観】



［親との同居・別居別］

親との同居・別居に関わらず、「子どもの成長に立ち会える」が７割台で最も多く、親と同居している人が70.9%に対し、親と同居していない人は78.8%で、親と同居していない人のほうが7.9ポイント高くなっている。また、「子育てを通じて自分が成長できる」や「子どもと一緒にいるだけで楽しくなる」「家族のきずなが強まる」は、それぞれ５割台となっており、親との同居・別居による差はほとんどみられない。（図表4-1-2）

【図表4-1-2　親との同居・別居別　子育て観】

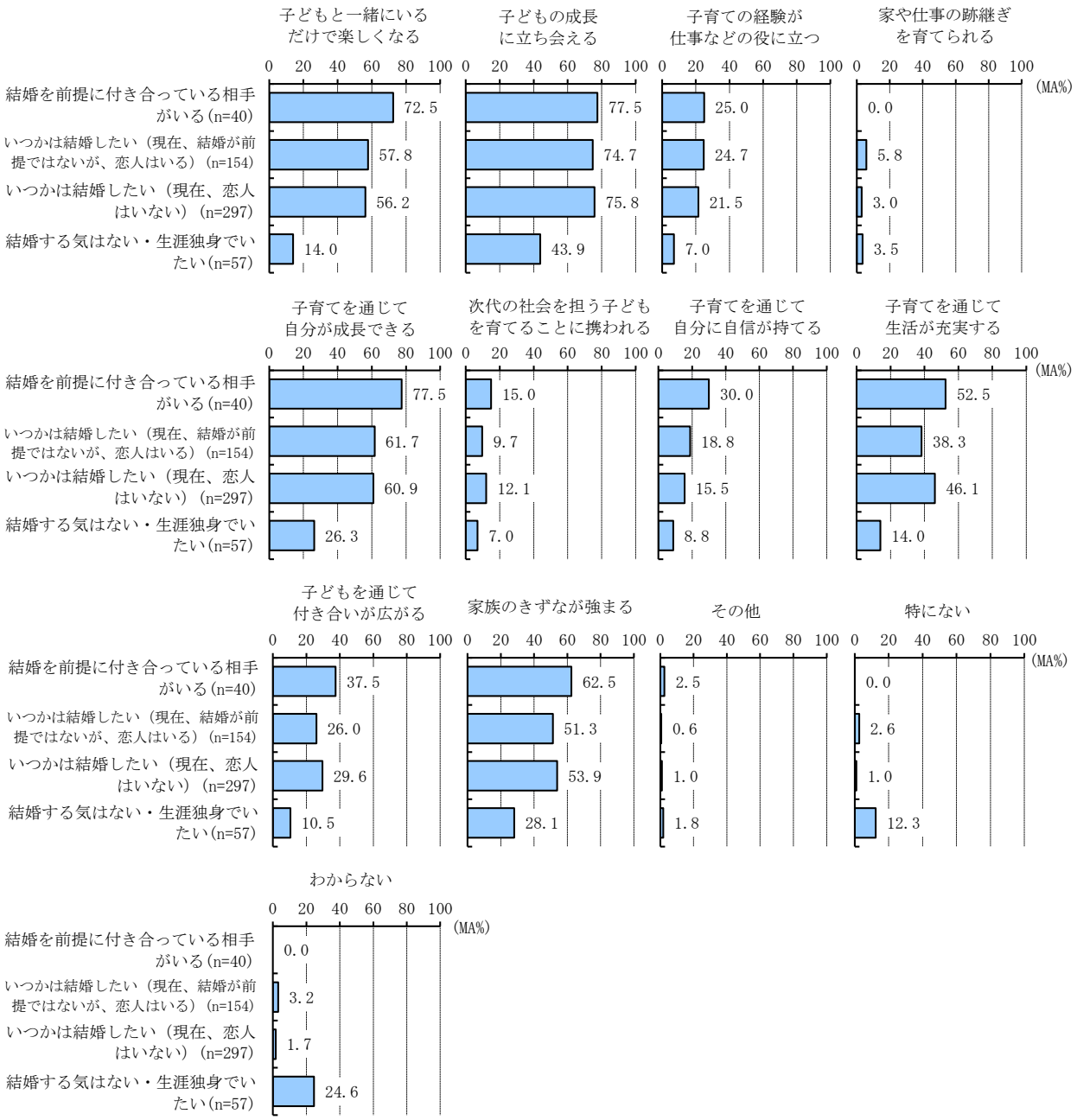


［結婚の意向別］

結婚の意向の有無に関わらず、「子どもの成長に立ち会える」が最も多く、結婚したいと考えている人が７割台に対して、結婚する気はない人は43.9%と低くなっている。また、結婚を前提に付き合っている相手がいる人は「子育てを通じて自分が成長できる」（77.5%）も同率で多い。また、結婚を前提に付き合っている相手がいる人は、「子どもと一緒にいるだけで楽しくなる」（72.5%）や「子育てを通じて自分に自信が持てる」（30.0%）が、いつかは結婚したい人に比べて10ポイント以上高くなっている。

一方、結婚する気はない人は、各項目の割合は最も低くなっており、「特にない」（12.3%）と「わからない」（24.6%）が高くなっている。（図表4-1-3）

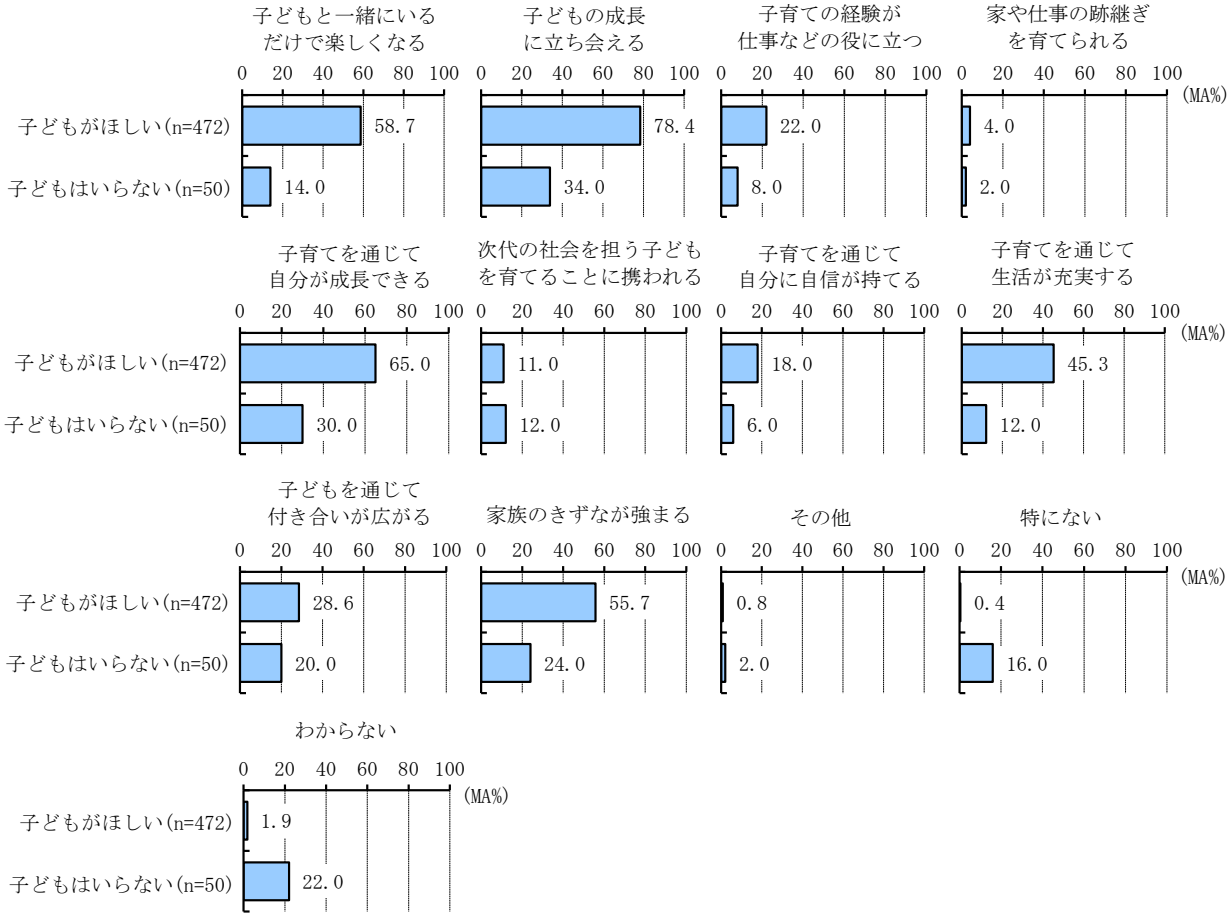
【図表4-1-3　結婚の意向別　子育て観】



［子どもがほしい・いらない別］

子どもがほしい・いらないに関わらず、「子どもの成長に立ち会える」が最も多いが、子どもがほしい人が78.4%に対して、子どもはいらない人は34.0%と低い。また、子どもがほしい人のほうがいずれの項目も、いらないという人に比べ高くなっており、「子どもの成長に立ち会える」と「子どもと一緒にいるだけで楽しくなる」（58.7%）は40ポイント以上の差、「子育てを通じて自分が成長できる」（65.0%）や「家族のきずなが強まる」（55.7%）、「子育てを通じて生活が充実する」（45.3%）は30ポイント以上の差、「子育ての経験が仕事などの役に立つ」（22.0%）と「子育てを通じて自分に自信が持てる」（18.0%）は10ポイント以上の差で高くなっている。（図表4-1-4）

【図表4-1-4　子どもがほしい・いらない別　子育て観】

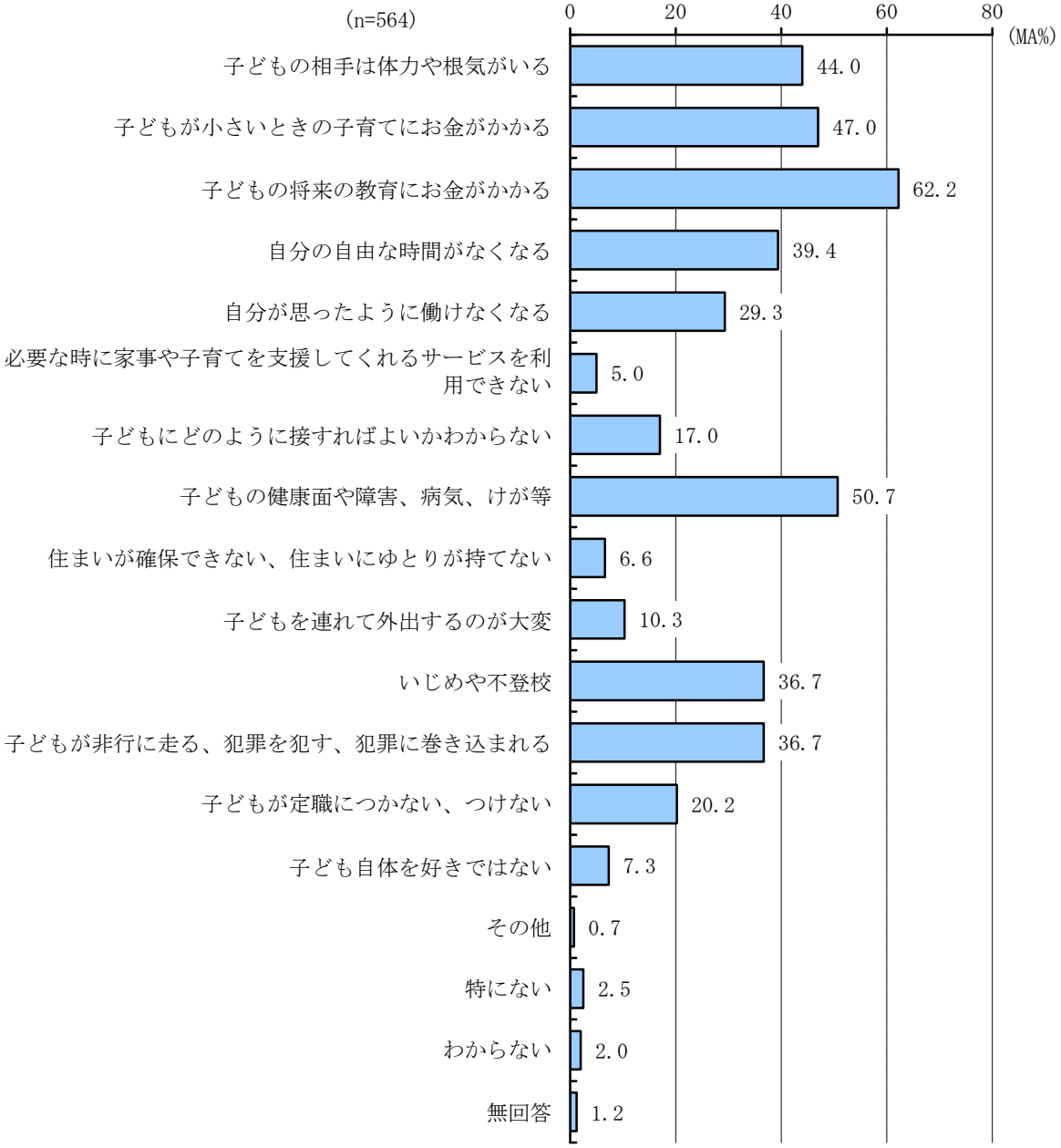


（2）子育ての負担や不安に思うこと

問　あなたにとって、子育てで負担に思うことや不安に思うことは、どんなことだと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

大学生に、子育ての負担や不安に思うことをたずねると、「子どもの将来の教育にお金がかかる」が62.2%で最も多く、次いで「子どもの健康面や障害、病気、けが等」が50.7%、「子どもが小さいときの子育てにお金がかかる」が47.0%、「子どもの相手は体力や根気がいる」が44.0%と続いている。（図表4-2）

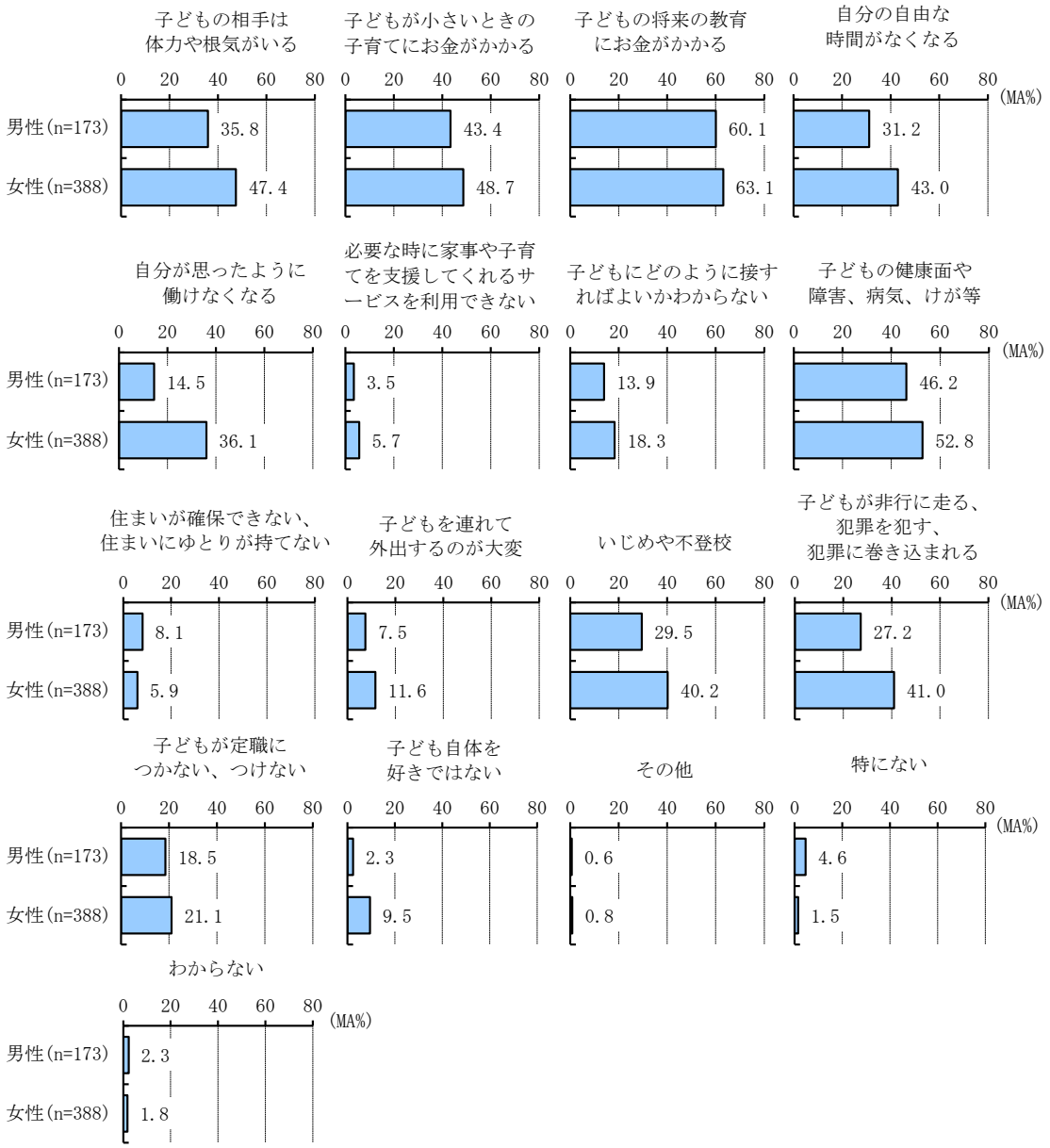
【図表4-2　子育ての負担や不安に思うこと】



［性別］

男女とも「子どもの将来の教育にお金がかかる」（男性 60.1%、女性 63.1%）が6割台で最も多くなっている。これに次いで「子どもの健康面や障害、病気、けが等」が多く、男性が46.2%に対し、女性は52.8%で、女性のほうが6.6ポイント高くなっている。また、女性のほうが10ポイント以上高い項目は、「自分が思ったように働けなくなる」（36.1%）が21.6ポイント差、「子どもが非行に走る、犯罪を犯す、犯罪に巻き込まれる」（41.0%）が13.8ポイント差、「自分の自由な時間がなくなる」（43.0%）が11.8ポイント差、「子どもの相手は体力や根気がいる」（47.4%）が11.6ポイント差、「いじめや不登校」（40.2%）が10.7ポイント差で、それぞれ高くなっている。（図表4-2-1）

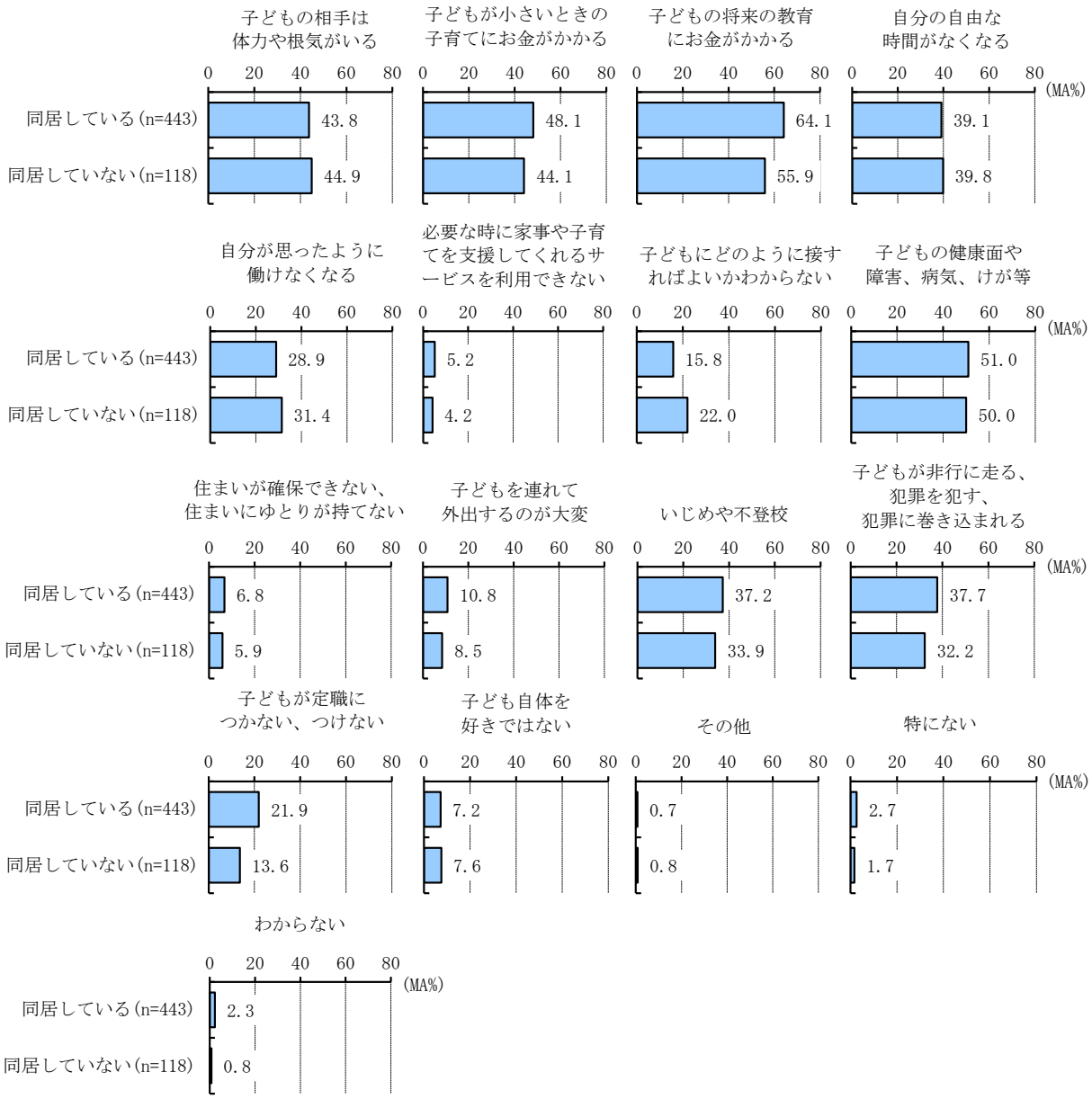
【図表4-2-1　性別　子育ての負担や不安に思うこと】



［親との同居・別居別］

親との同居・別居に関わらず、「子どもの将来の教育にお金がかかる」が最も多く、親と同居している人が64.1％に対し、親と同居していない人は55.9％で、親と同居している人のほうが8.2ポイント高くなっている。また、親と同居している人は、同居していない人に比べ、「子どもが非行に走る、犯罪を犯す、犯罪に巻き込まれる」（37.7％）が5.5ポイント差、「子どもが定職につかない、つけない」（21.9％）が8.3ポイント差で高くなっている。一方、親と同居していない人では「子どもにどのように接すればよいかわからない」が22.0％で、親と同居している人（15.8％）より6.2ポイント高くなっている。（図表4-2-2）

【図表4-2-2　親との同居・別居別　子育ての負担や不安に思うこと】

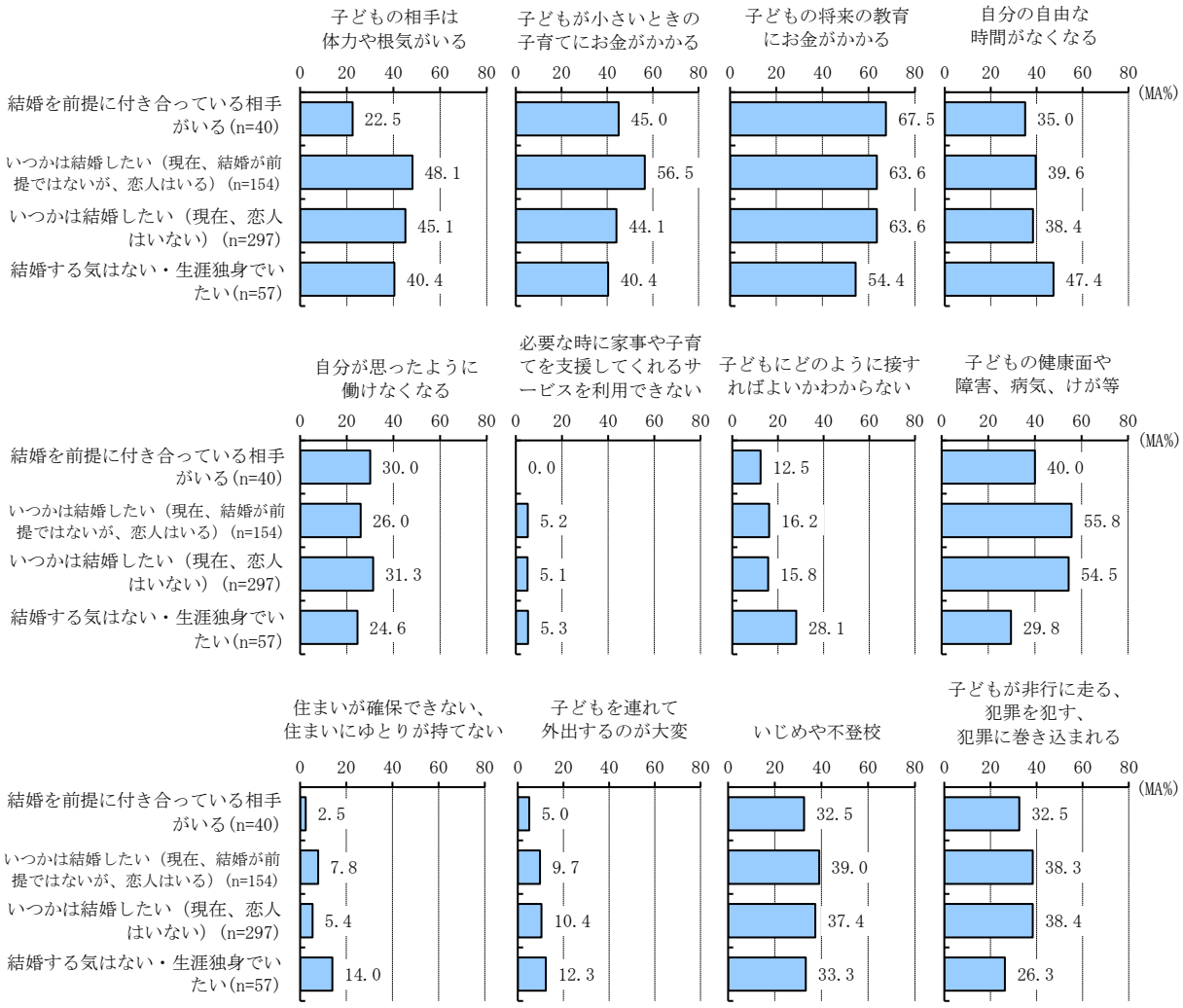


［結婚の意向別］

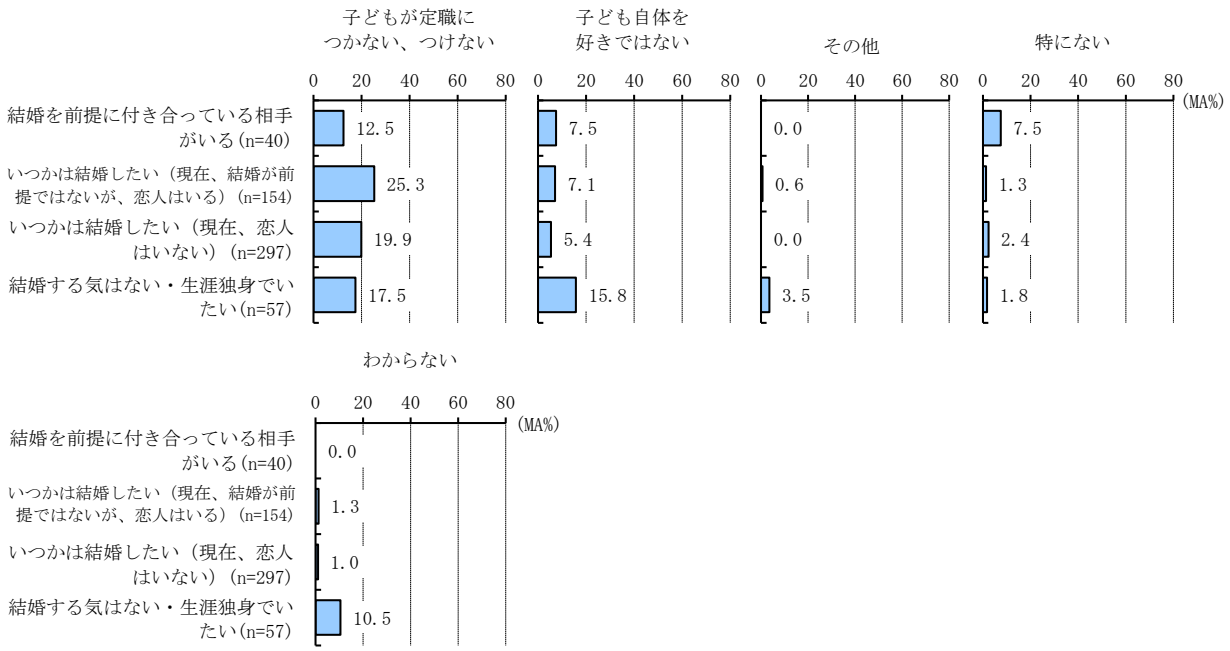
結婚の意向の有無に関わらず、「子どもの将来の教育にお金がかかる」が最も多く、結婚したいと考えている人が６割台に対して、結婚する気はない人は54.4％と低くなっている。また、「子どもの相手は体力や根気がいる」は、結婚を前提に付き合っている相手がいる人では22.5％に対して、いつかは結婚したい人、または結婚する気はない人では４割台と高くなっている。「子どもが小さいときの子育てにお金がかかる」では、いつかは結婚したい人（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる）が56.5％で他に比べ10ポイント以上高く、「子どもの健康面や障害、病気、けが等」も、いつかは結婚したい人で５割台と高くなっている。

一方、結婚する気はない人は、「自分の自由な時間がなくなる」（47.4％）や「子どもにどのように接すればよいかわからない」（28.1％）、「子ども自体を好きではない」（15.8％）、「住まいが確保できない、住まいにゆとりが持てない」（14.0％）の各割合が結婚したいと考えている人に比べ高くなっている。（図表4-2-3）

【図表4-2-3　結婚の意向別　子育ての負担や不安に思うこと①】



【図表4-2-3　結婚の意向別　子育ての負担や不安に思うこと②】

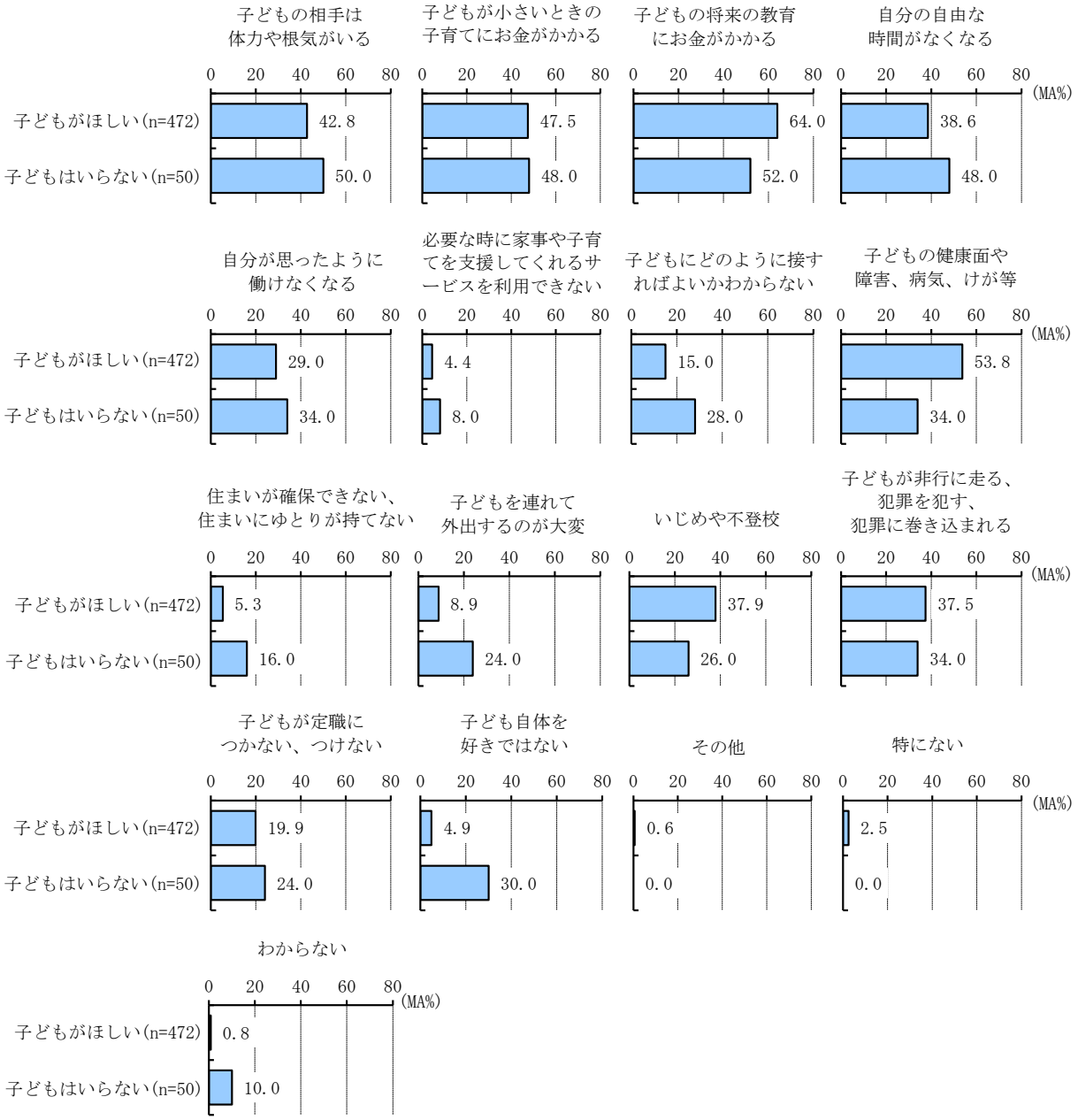


［子どもがほしい・いらない別］

子どもがほしい・いらないに関わらず、「子どもの将来の教育にお金がかかる」が最も多く、子どもがほしい人は64.0%で、子どもはいらない人の52.0%に比べ12ポイント高くなっている。また、子どもがほしい人では、「子どもの健康面や障害、病気、けが等」（53.8%）や「いじめや不登校」（37.9%）が、子どもはいらない人に比べ10ポイント以上高くなっている。

一方、子どもはいらない人は「自分の自由な時間がなくなる」（48.0%）や「子どもにどのように接すればよいかわからない」（28.0%）、「子どもを連れて外出するのが大変」（24.0%）、「住まいが確保できない、住まいにゆとりが持てない」（16.0%）で、子どもがほしいという人に比べ10ポイント前後高く、特に「子ども自体を好きではない」（30.0%）は25.1ポイント高くなっている。（図表4-2-4）

【図表4-2-4　子どもがほしい・いらない別　子育ての負担や不安に思うこと】



〔5〕結婚・子育て等への意識について（大学生のみ回答）

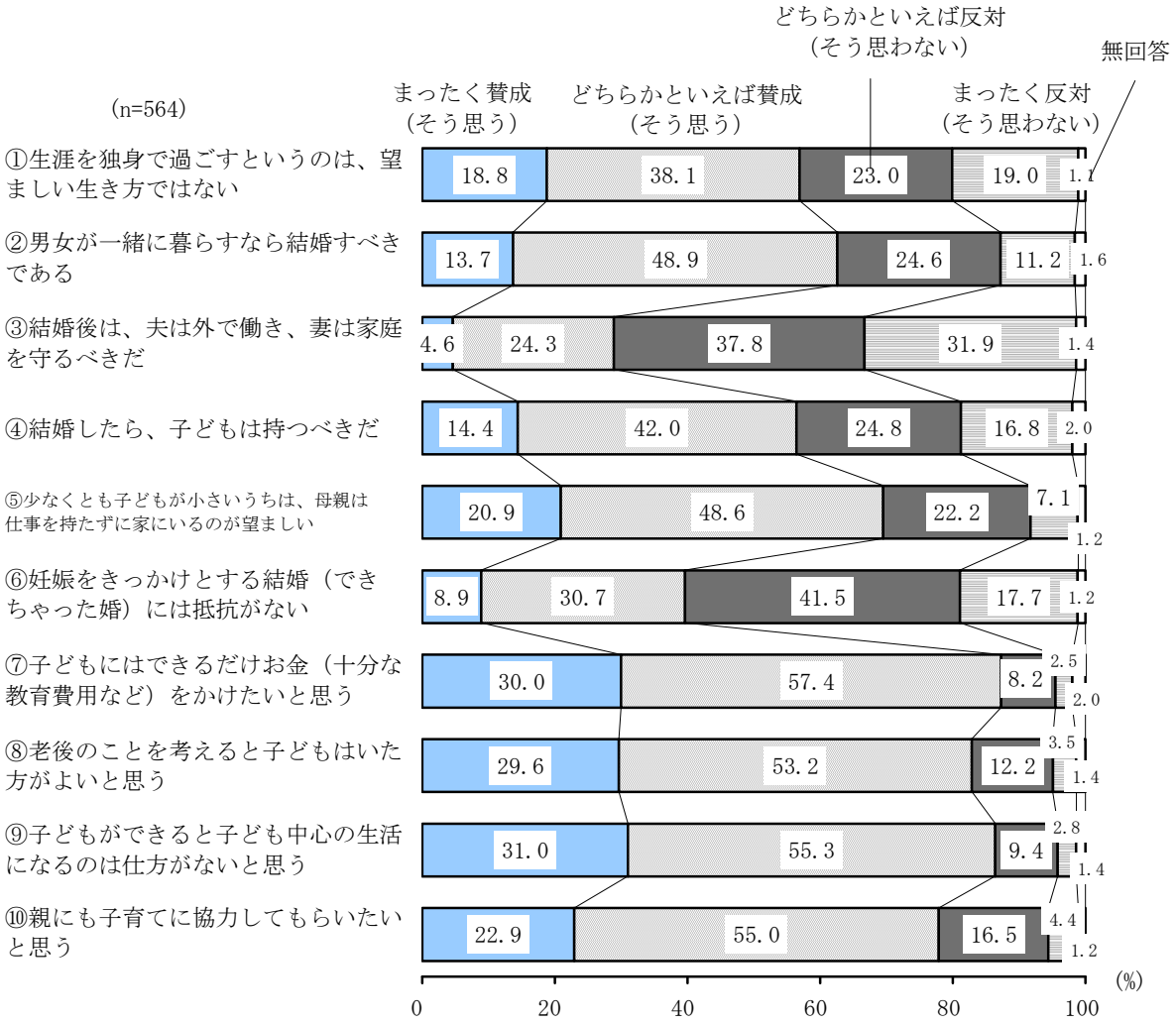
（１）結婚・子育て等への意識

問　結婚、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑩のような考え方を示しました。それぞれについて、あなたご自身はどのようにお考えでしょうか。①～⑩について、それぞれ右の欄にあてはまる番号に○をつけてください。

大学生の結婚や子育て等の意識をみた。賛成意見（「まったく賛成（そう思う）」と「どちらかといえば賛成（そう思う）」を合わせた割合）のほうが多い項目は、“⑦子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う”が87.4%で最も高く、次いで“⑨子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う”が86.3%、“⑧老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う”が82.8%、“⑩親にも子育てに協力してもらいたいと思う”が77.9%、“⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい”が69.5%と続いている。

一方、反対意見（「どちらかといえば反対（そう思わない）」と「まったく反対（そう思わない）」を合わせた割合）のほうが多い項目は、“③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ”が69.7%で最も高く、次いで“⑥妊娠をきっかけとする結婚（できちゃった婚）には抵抗がない”が59.2%となっている。（図表5-1）

【図表5-1　結婚・子育て等への意識】



［性別］

男性では、「まったく賛成（そう思う）」の割合は、“⑦子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う”が35.8%で最も高く、次いで割合が高い順に、“①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない”が31.2%、“⑨子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う”が28.3%、“⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい”が27.2%となっている。

また、「まったく賛成（そう思う）」について、男性の割合のほうが10ポイント以上高い項目は“①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない”（17.8ポイント差）、“④結婚したら、子どもは持つべきだ”（11.9ポイント差）である。

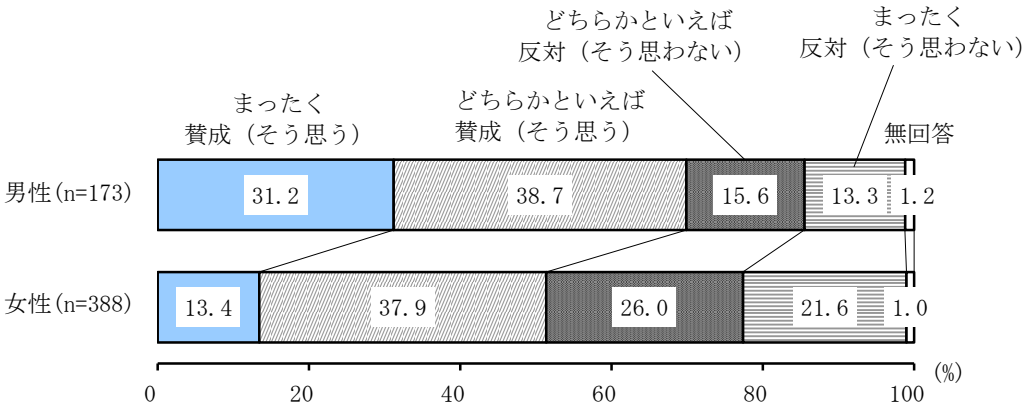
さらに、女性より賛成意見が高い項目は、“②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである”（69.9%）で、女性より10.6ポイント高くなっている。

一方、女性の「まったく賛成（そう思う）」は、“⑨子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う”が32.2%で最も高く、次いで割合が高い順に、“⑧老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う”が30.9%、“⑦子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う”が27.6%、“⑩親にも子育てに協力してもらいたいと思う”が27.3%となっている。また、「まったく賛成（そう思う）」について、女性の割合のほうが10ポイント以上高い項目は、“⑩親にも子育てに協力してもらいたいと思う”（14ポイント差）で、賛成意見（84.3%）では20.1ポイント差となっている。

さらに、“⑧老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う”は賛成意見（85.8%）が男性より10.1ポイント高くなっている。逆に、「まったく反対（そう思わない）」の割合は、“③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ”（35.3%）が男性に比べ11.6ポイント高くなっている。（図表5-1-1）

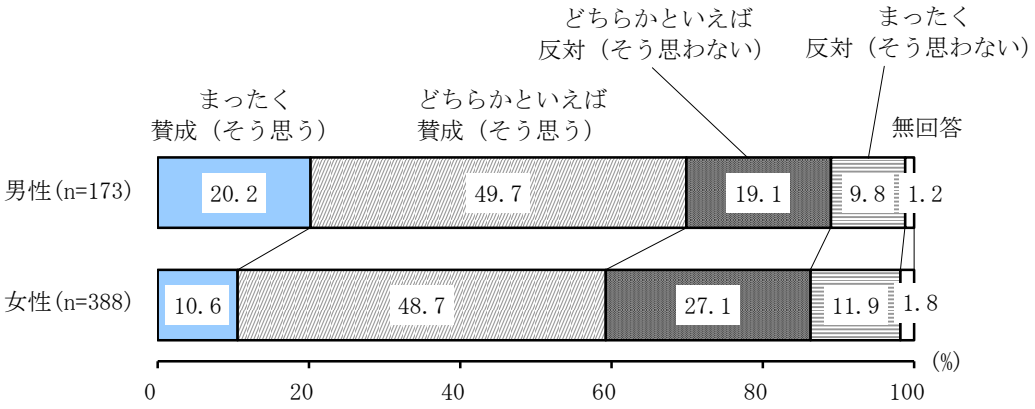
【図表5-1-1　性別　結婚・子育て等への意識①】

〔①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない〕

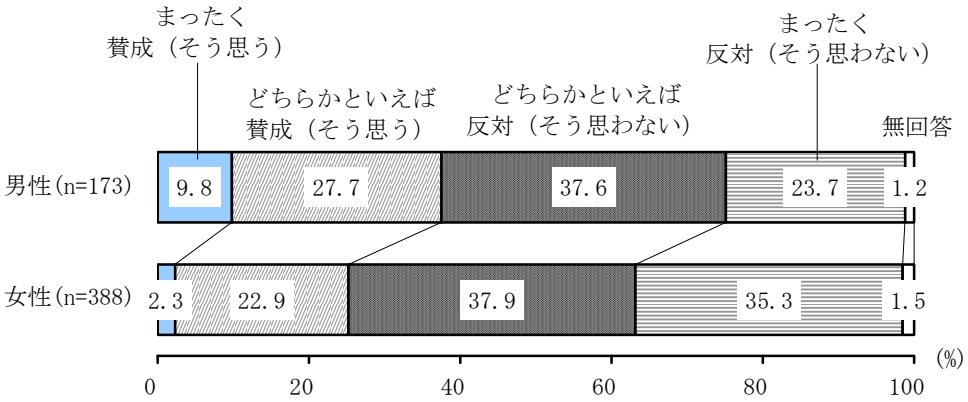


【図表5-1-1　性別　結婚・子育て等への意識②】

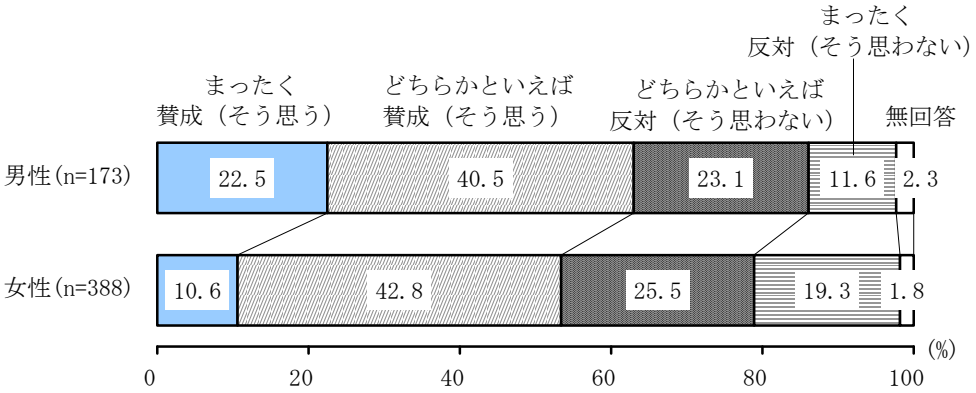
〔②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである〕



〔③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ〕

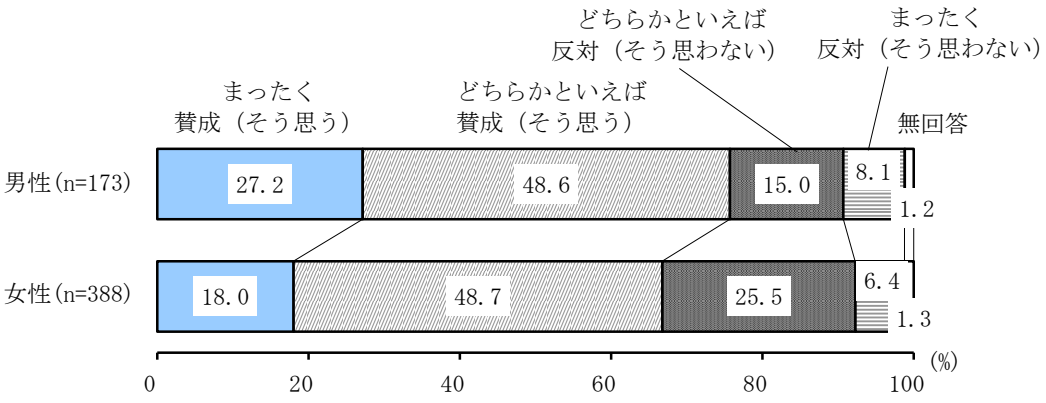


〔④結婚したら、子どもは持つべきだ〕

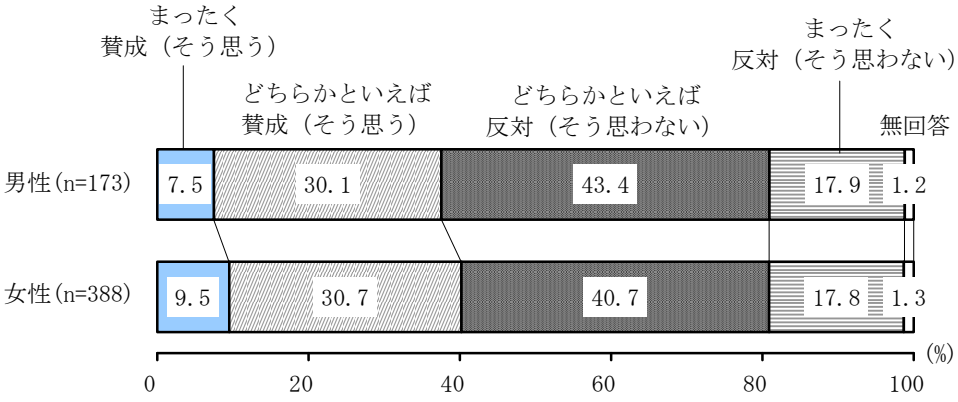


【図表5-1-1　性別　結婚・子育て等への意識③】

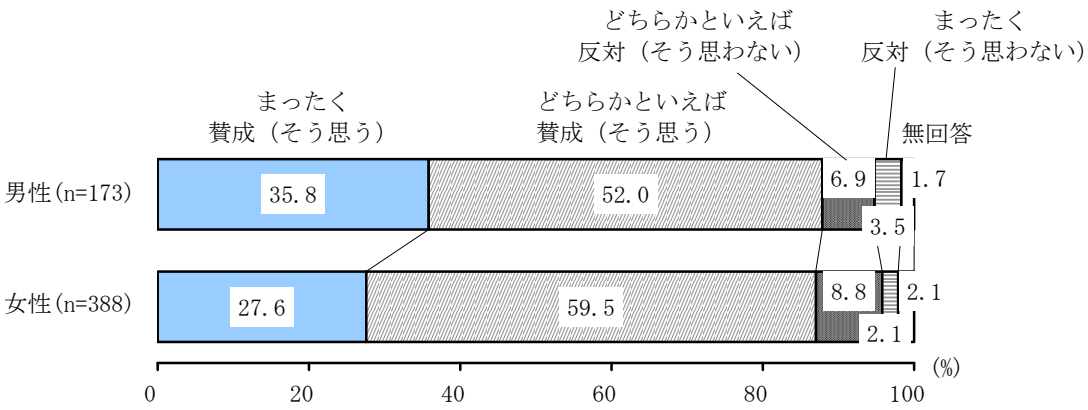
〔⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい〕



〔⑥妊娠をきっかけとする結婚（できちゃった婚）には抵抗がない〕

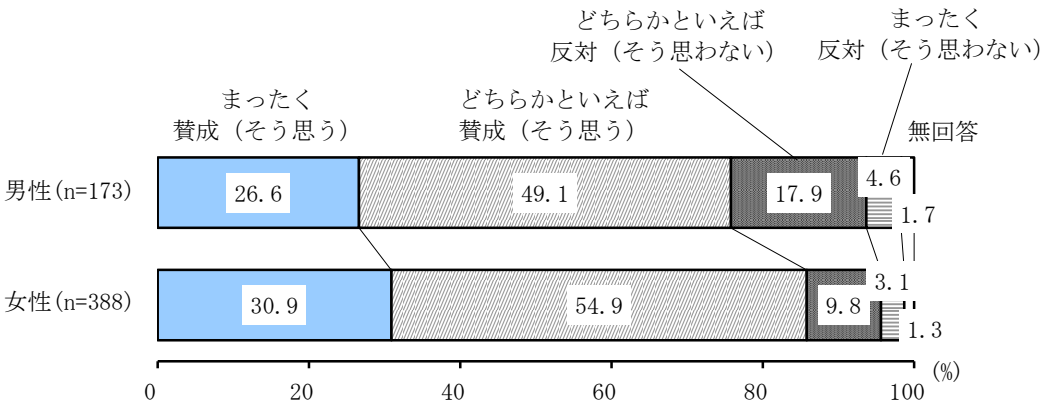


〔⑦子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う〕

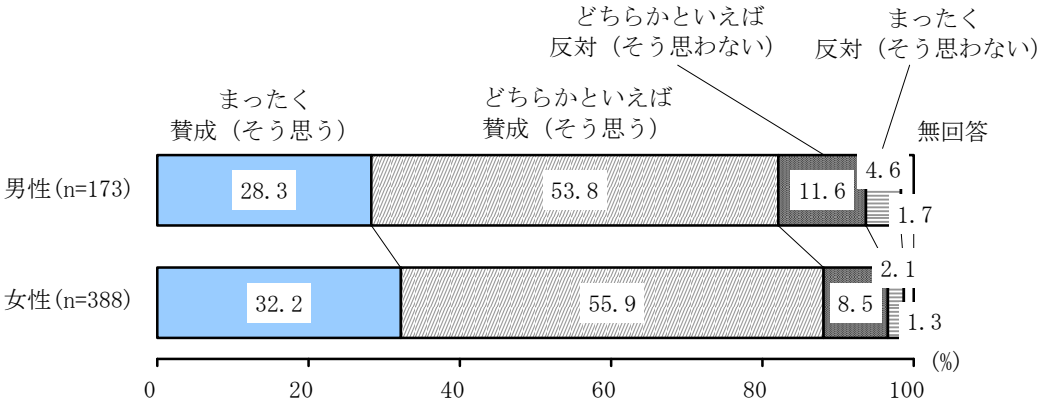


【図表5-1-1　性別　結婚・子育て等への意識④】

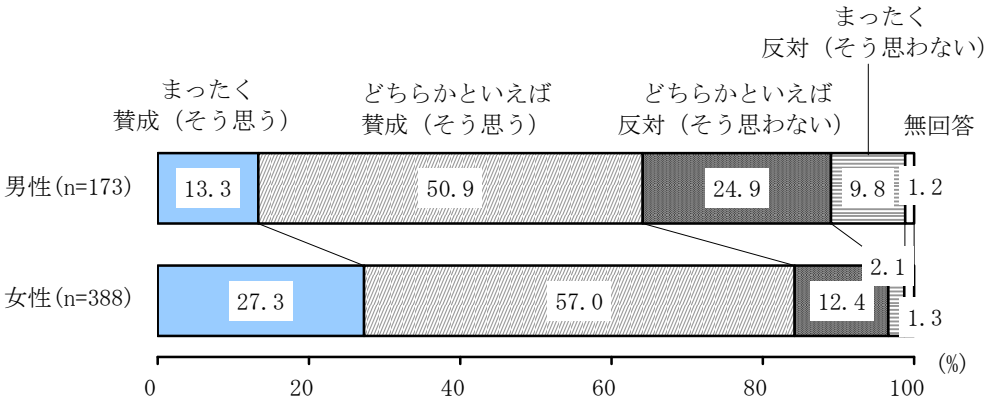
〔⑧老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う〕



〔⑨子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う〕



〔⑩親にも子育てに協力してもらいたいと思う〕



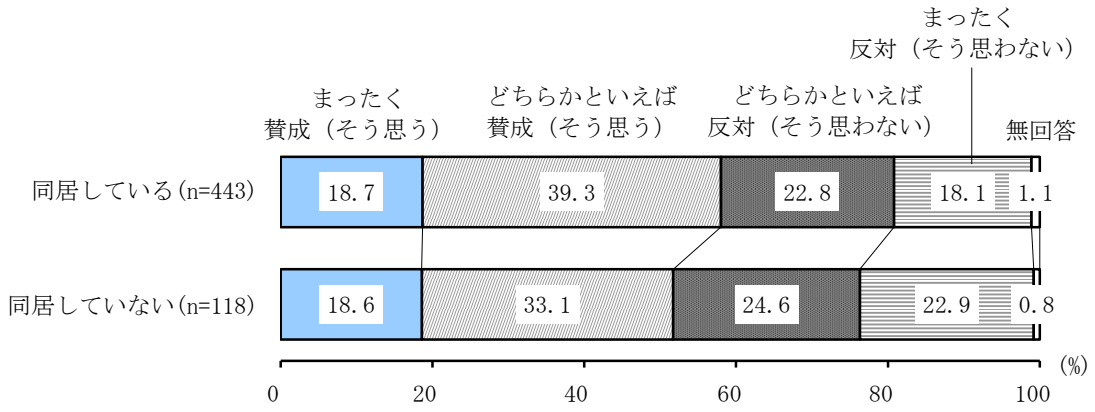
［親との同居・別居別］

賛成意見について、親と同居している人のほうが高い項目は、“⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい”（70.6%）、“②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである”（63.6%）、“①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない”（58.0%）となっている。

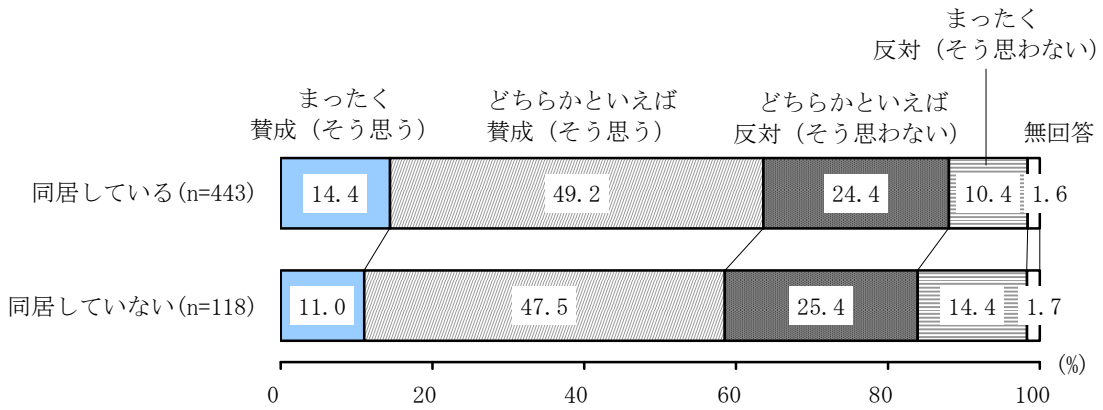
一方、親と同居していない人では、“③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ”は「まったく反対（そう思わない）」が40.7%と高く、親と同居している人（29.8%）より10.9ポイント高い。逆に、賛成意見の割合について、同居していない人のほうが高い項目は、“⑧老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う”（83.9%）、“⑩親にも子育てに協力してもらいたいと思う”（80.5%）、“④結婚したら、子どもは持つべきだ”（59.3%）、“⑥妊娠をきっかけとする結婚（できちゃった婚）には抵抗がない”（39.8%）となっている。（図表5-1-2）

【図表5-1-2　親との同居・別居別　結婚・子育て等への意識①】

〔①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない〕

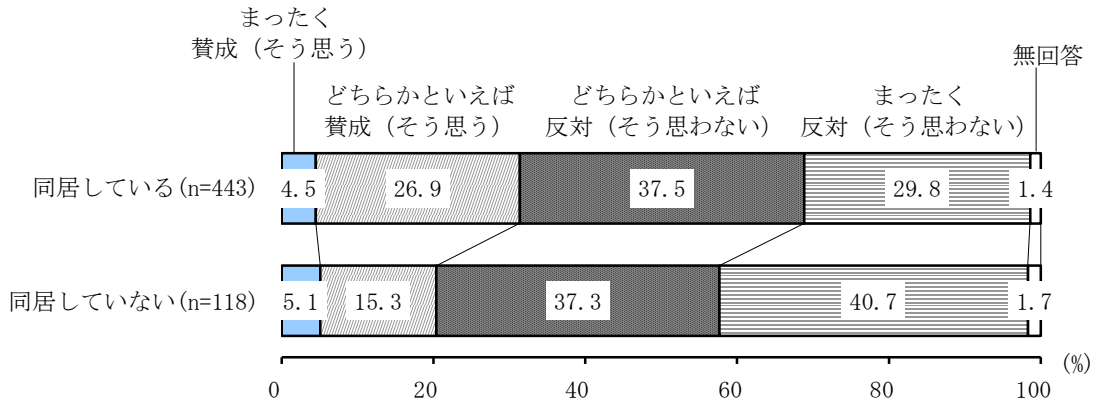


〔②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである〕

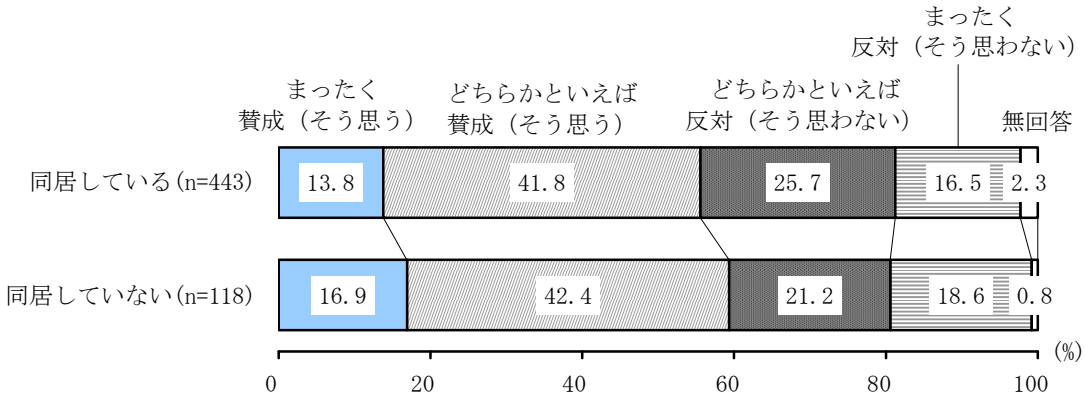


【図表5-1-2　親との同居・別居別　結婚・子育て等への意識②】

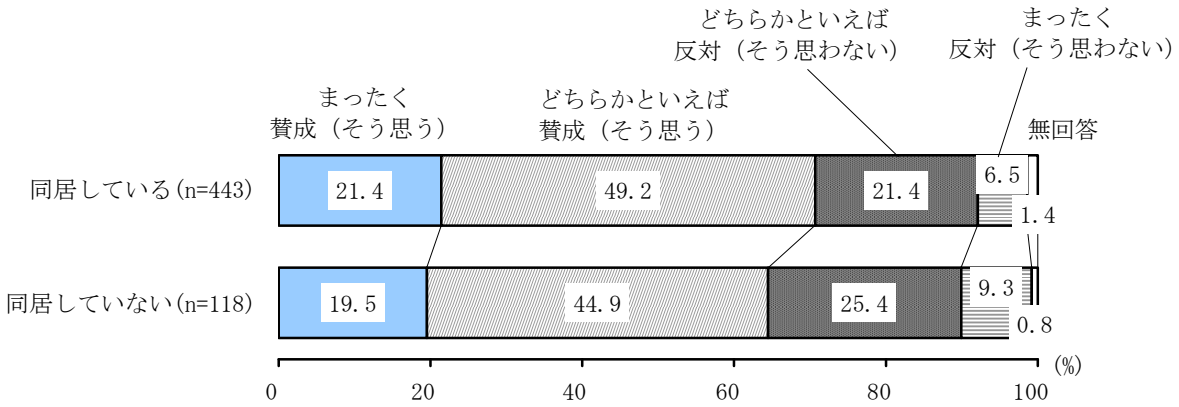
〔③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ〕



〔④結婚したら、子どもは持つべきだ〕

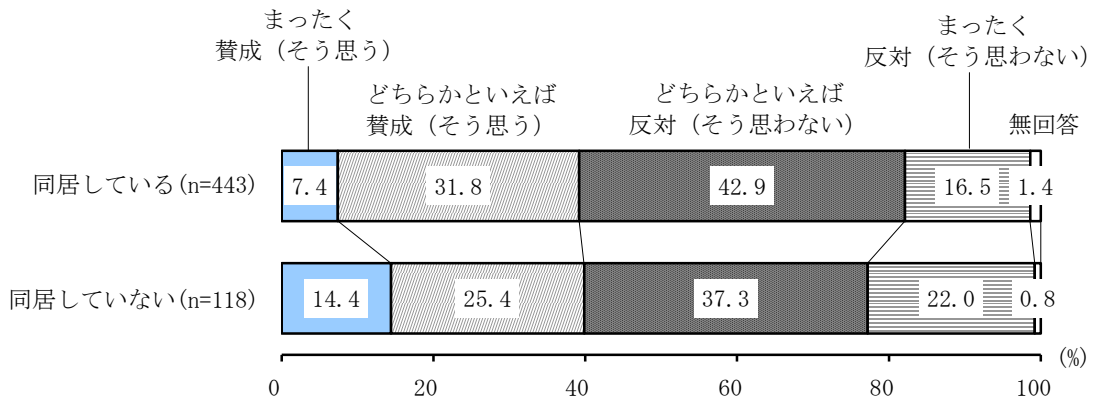


〔⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい〕

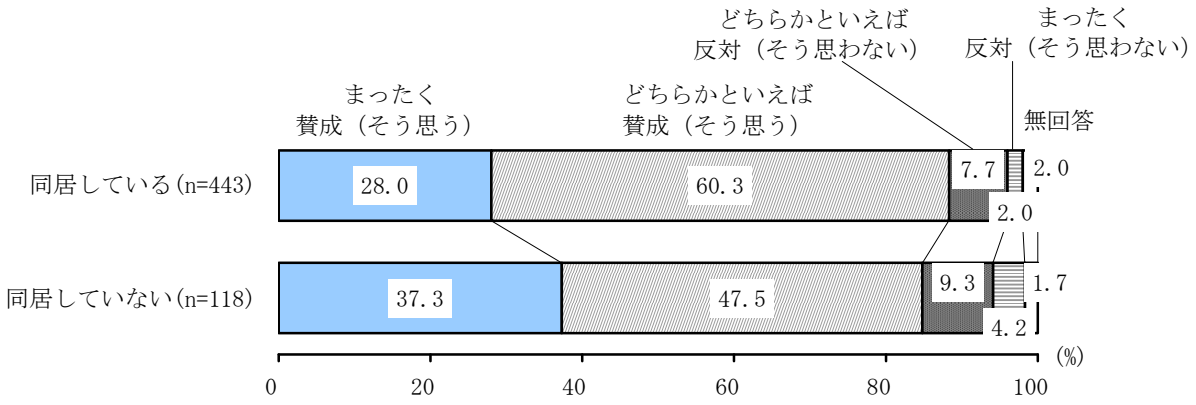


【図表5-1-2　親との同居・別居別　結婚・子育て等への意識③】

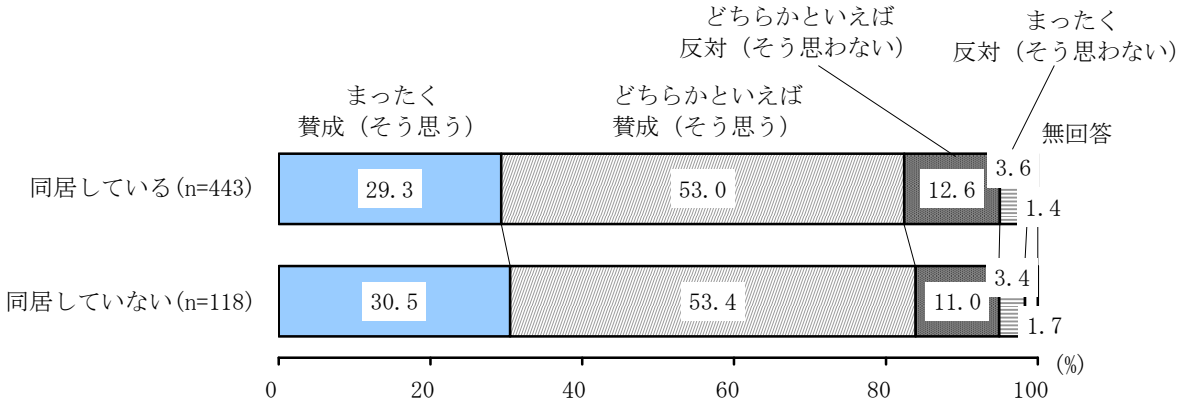
〔⑥妊娠をきっかけとする結婚（できちゃった婚）には抵抗がない〕



〔⑦子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う〕

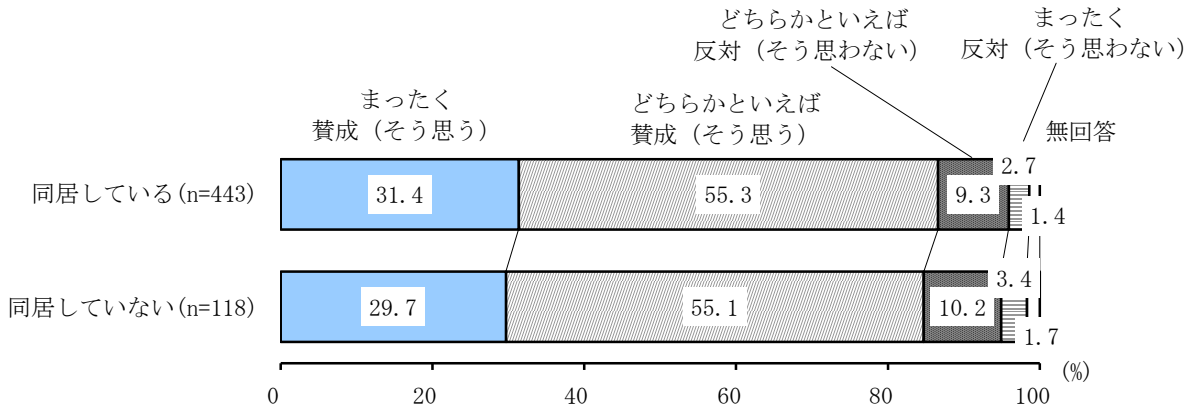


〔⑧老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う〕

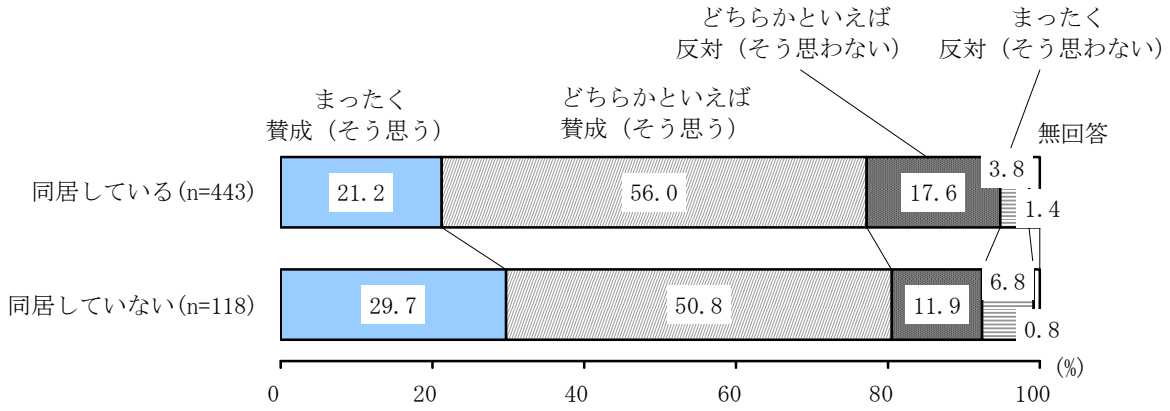


【図表5-1-2　親との同居・別居別　結婚・子育て等への意識④】

〔⑨子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う〕



〔⑩親にも子育てに協力してもらいたいと思う〕



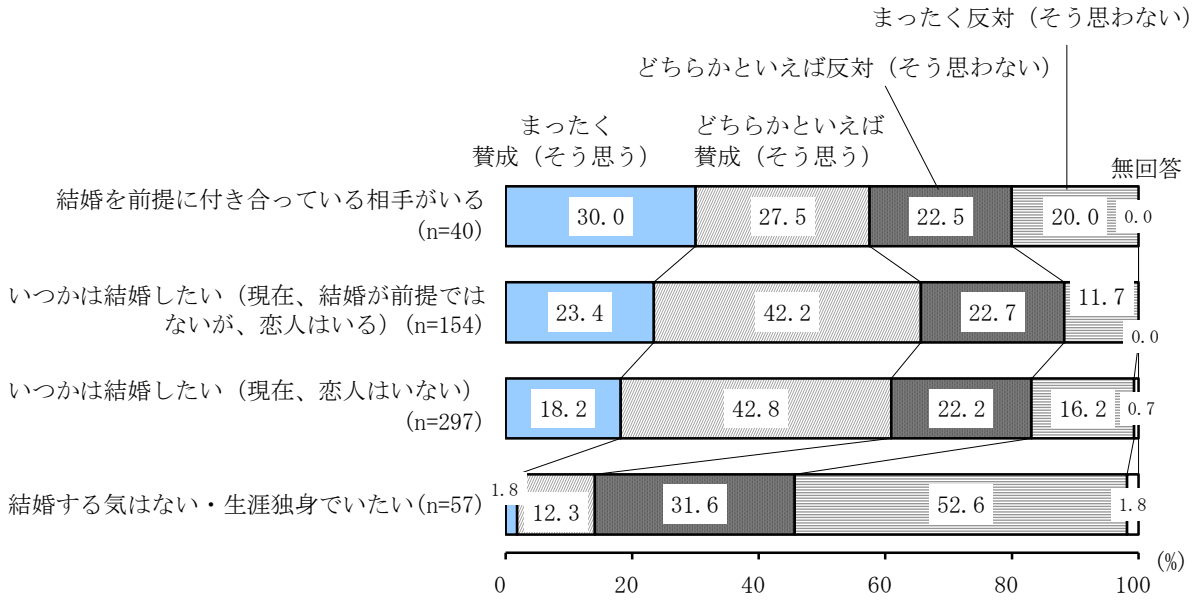
［結婚の意向別］

結婚したいと考えている人は、結婚する気はない人に比べ、いずれの項目も賛成意見の割合が高い。「まったく賛成（そう思う）」の割合は、特に結婚を前提に付き合っている相手がいる人で高く、特に“⑨子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う”（55.0%）及び“⑩親にも子育てを協力してもらいたいと思う”（45.0%）は、いつかは結婚したいと思っている人に比べ20ポイント以上高くなっている。

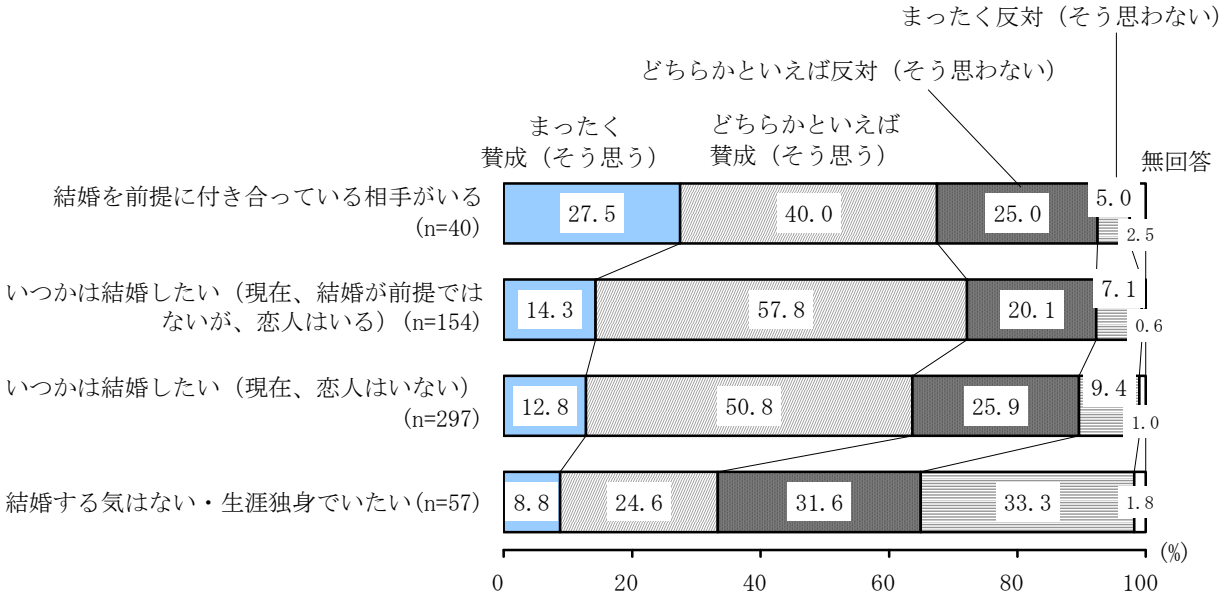
一方、結婚する気はない人は、結婚したいと考えている人に比べ、いずれの項目も反対意見の割合が高い。特に「まったく反対（そう思わない）」の割合は、“①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない”が52.6%で最も高く、次いで“③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ”が45.6%、“④結婚したら、子どもは持つべきだ”が42.1%、“②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである”が33.3%となっている。（図表5-1-3）

【図表5-1-3　結婚の意向別　結婚・子育て等への意識①】

〔①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない〕

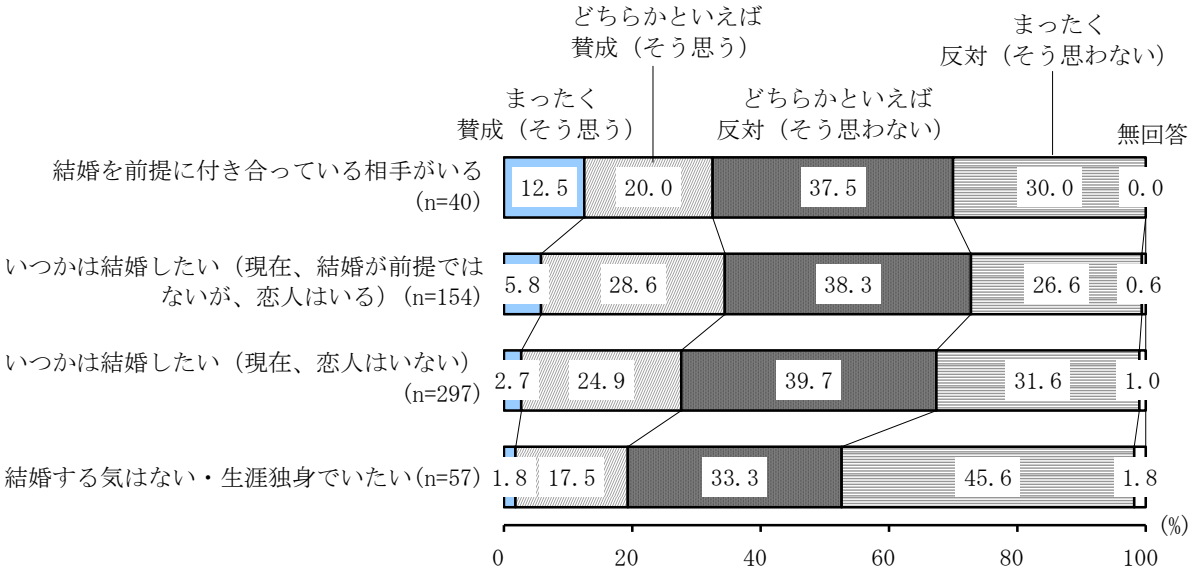


〔②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである〕

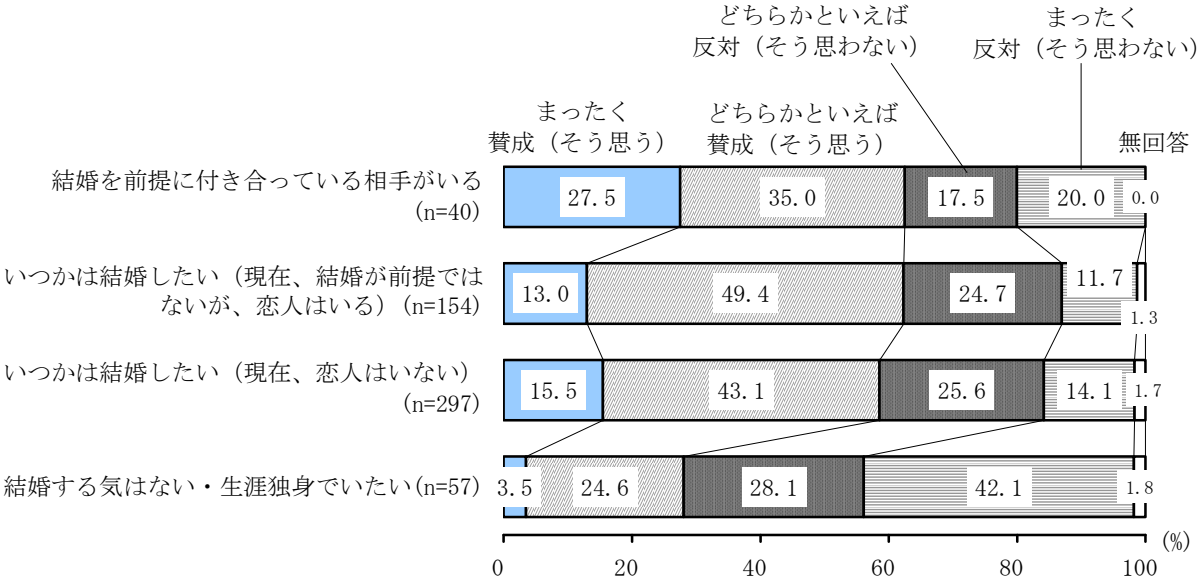


【図表5-1-3　結婚の意向別　結婚・子育て等への意識②】

〔③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ〕

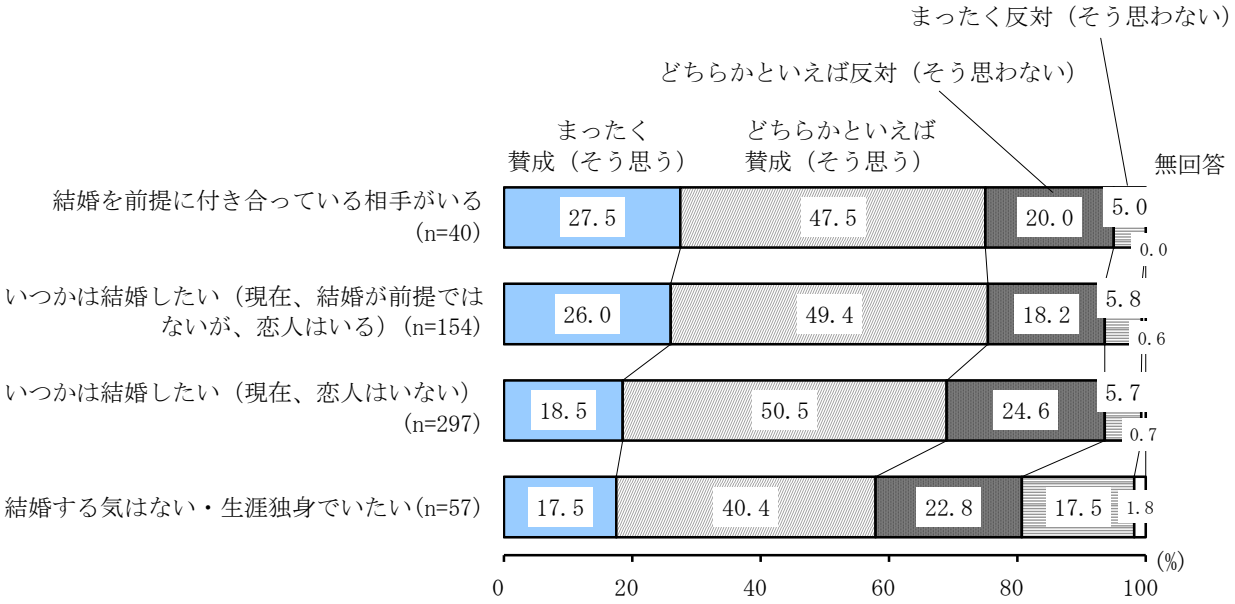


〔④結婚したら、子どもは持つべきだ〕

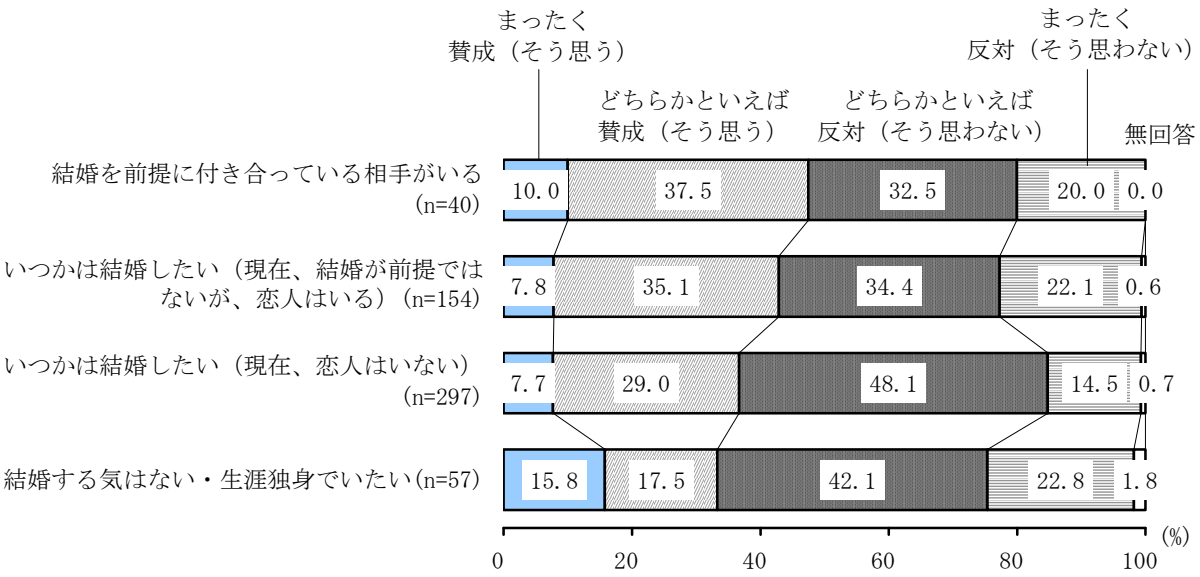


【図表5-1-3　結婚の意向別　結婚・子育て等への意識③】

〔⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい〕

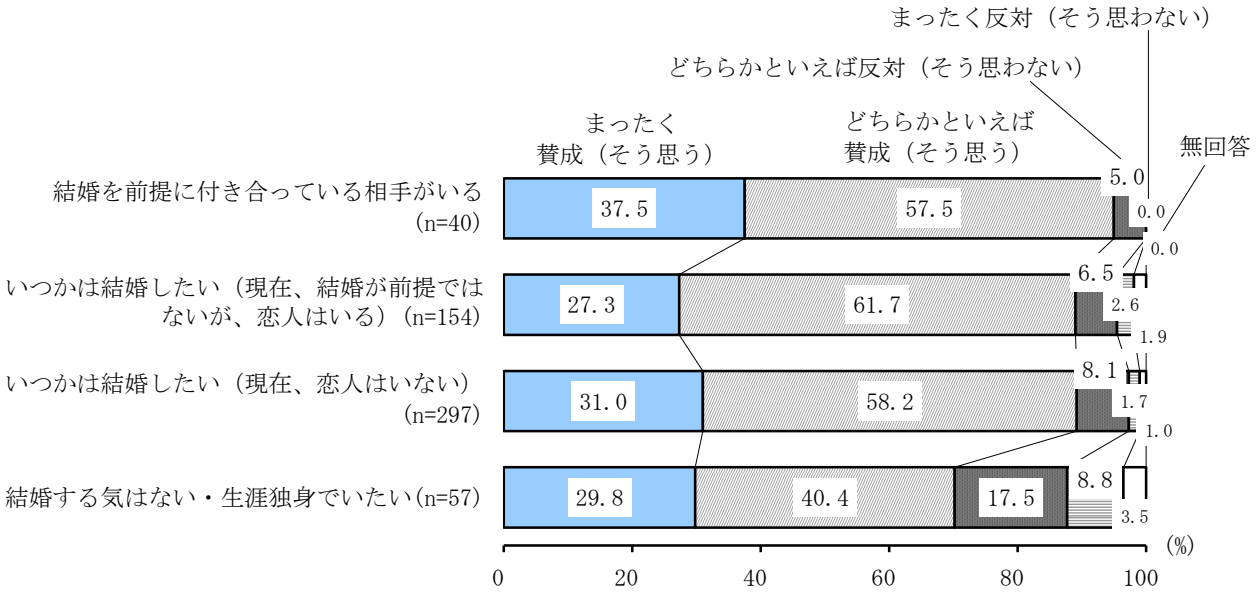


〔⑥妊娠をきっかけとする結婚（できちゃった婚）には抵抗がない〕

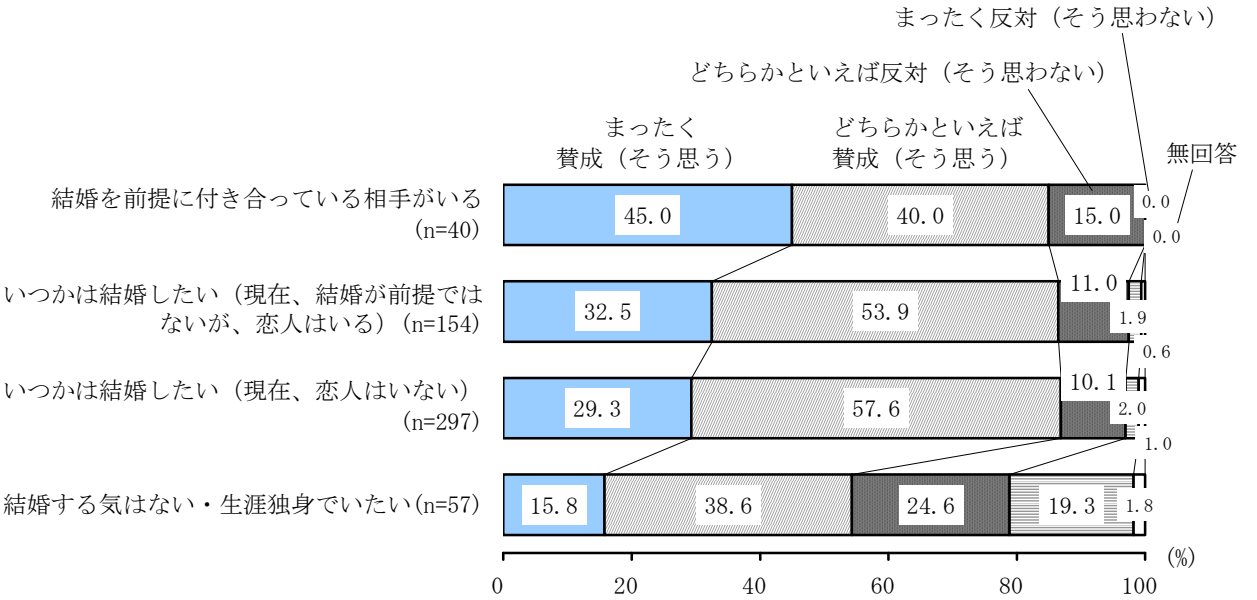


【図表5-1-3　結婚の意向別　結婚・子育て等への意識④】

〔⑦子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う〕

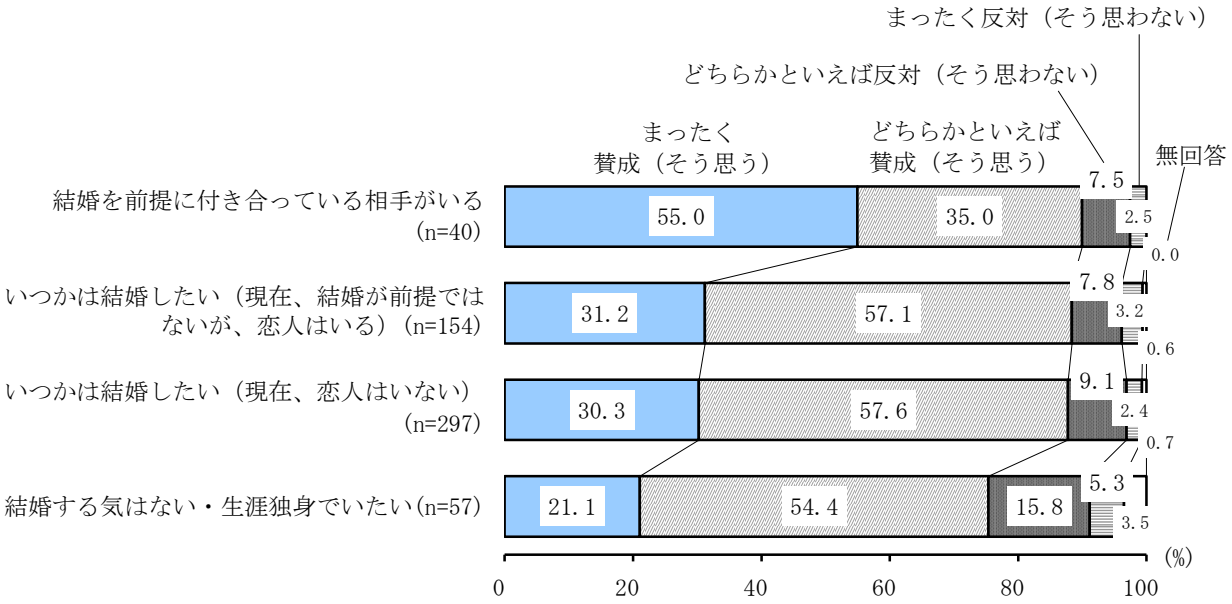


〔⑧老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う〕

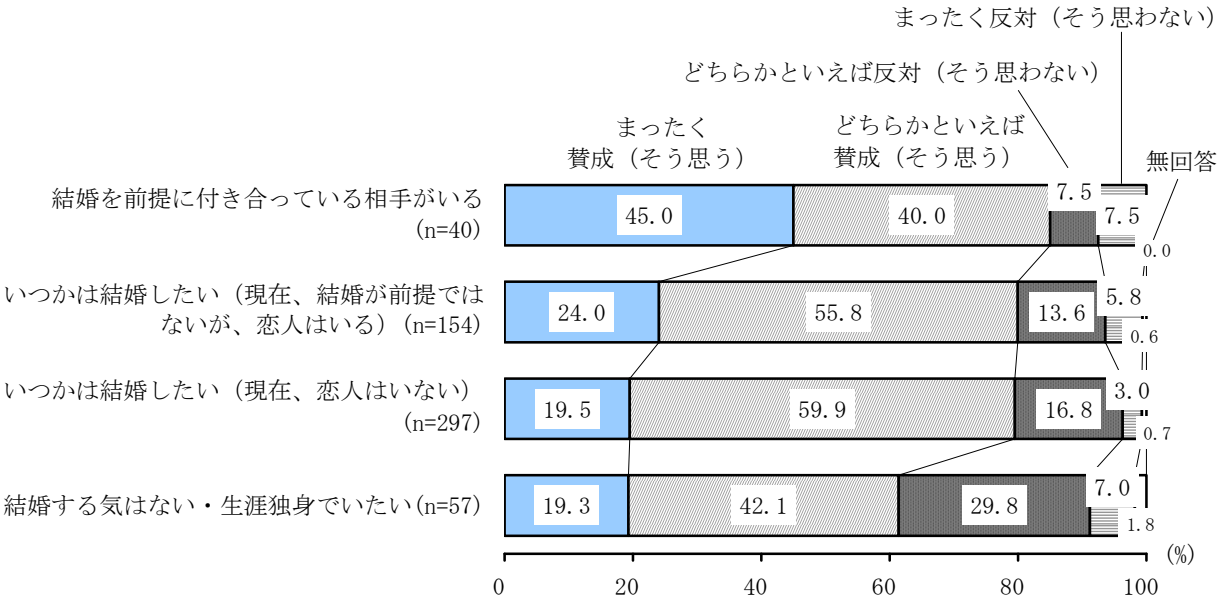


【図表5-1-3　結婚の意向別　結婚・子育て等への意識⑤】

〔⑨子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う〕



〔⑩親にも子育てに協力してもらいたいと思う〕



〔6〕結婚や安心して子どもを生み育てるための施策について（30～34歳のみ回答）

（１）結婚や安心して子どもを生み育てるための施策

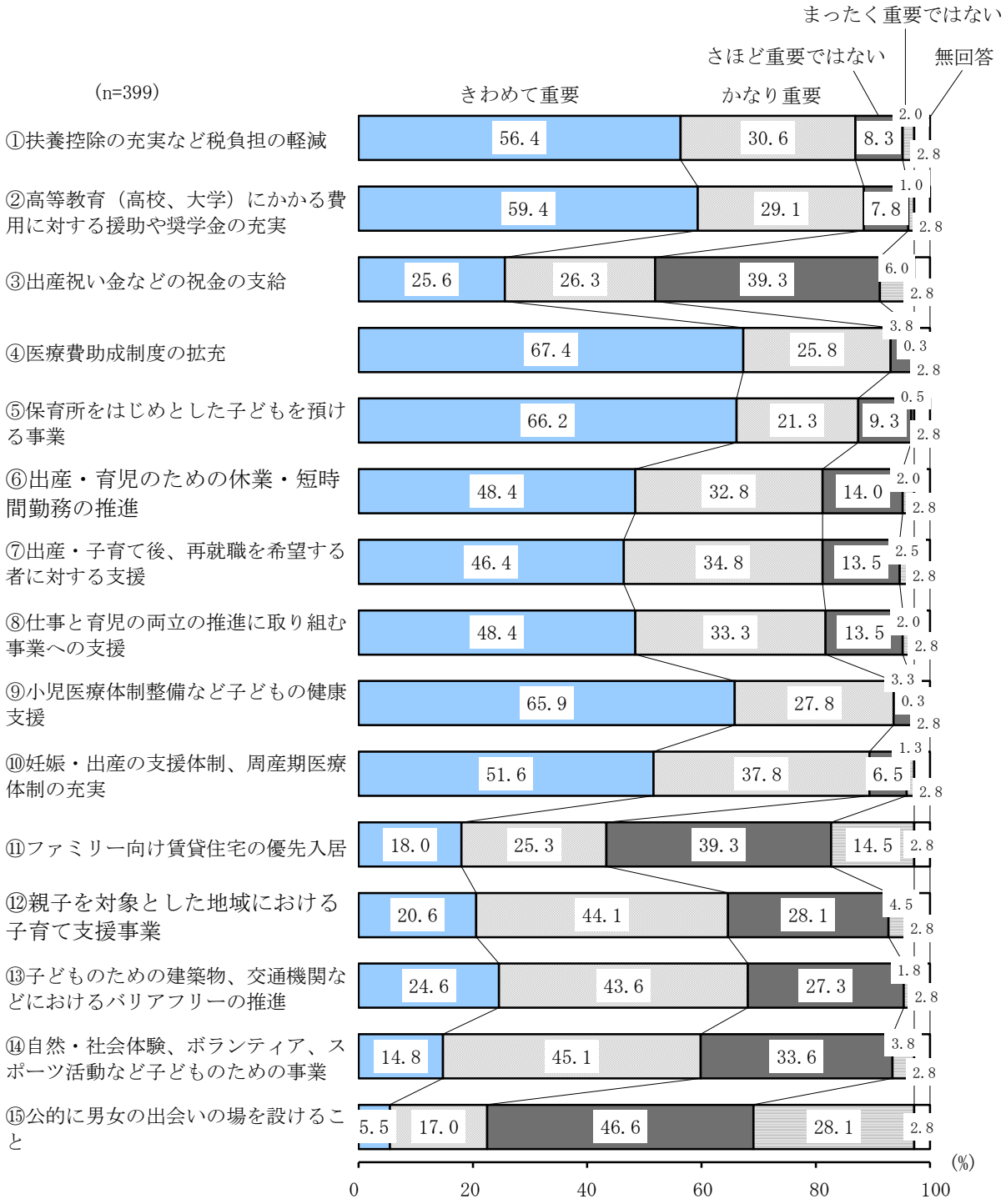
問　あなたが今、あるいは、これから茨木市で結婚したり子育てをするにあたり、次の各項目は、どのくらい重要ですか。各項目のそれぞれについて、あなたのお気持ちに最も近いものに１つ○をつけてください。

30～34歳の人に、結婚や安心して子どもを生み育てるために重要だと思う施策をたずねた。

『重要度が高い』（「きわめて重要」と「かなり重要」を合わせた割合）上位５項目をみると、“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”が93.7%で最も高く、次いで“④医療費助成制度の拡充”が93.2%、“⑩妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制の充実”が89.4%、“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”が88.5%、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が87.5%となっている。（図表6-1）

逆に、『重要度が低い』（「まったく重要ではない」と「さほど重要ではない」を合わせた割合）項目は、“⑮公的に男女の出会いの場を設けること”（74.7%）、“⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居”（53.8%）が半数を超え、“③出産祝い金などの祝金の支給”（45.3%）が半数近くを占めている。（図表6-1）

【図表6-1　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策】



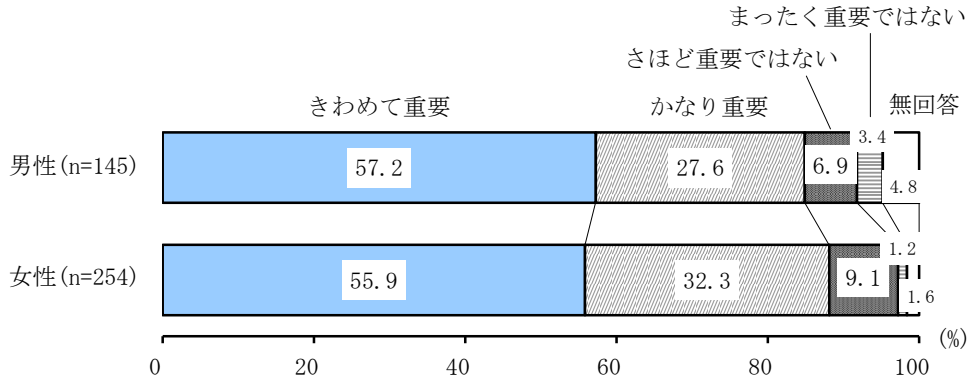
［性別］

男性において、「きわめて重要」の割合は、“④医療費助成制度の拡充”が63.4%で最も高く、次いで“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が62.8%、“①扶養控除の充実など税負担の軽減”が57.2%と続いている。また、“⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居”は『重要度が高い』（46.9%）が女性（41.3%）より5.6ポイント高い。

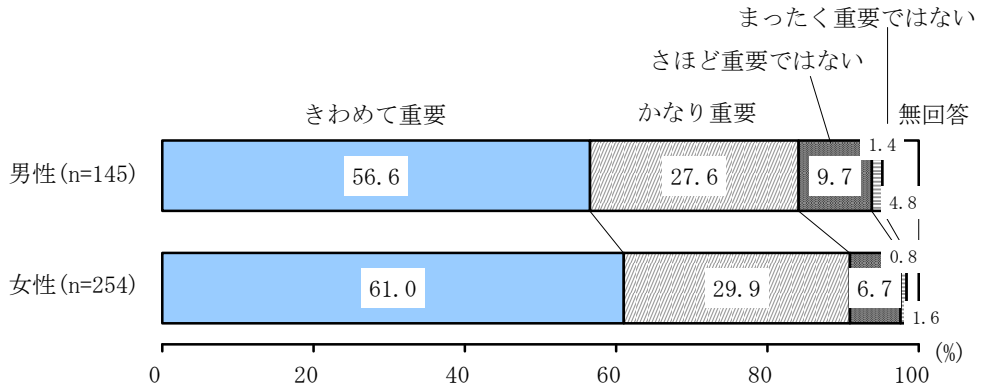
一方、女性において、「きわめて重要」の割合は、“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”が71.3%で最も高く、次いで“④医療費助成制度の拡充”が69.7%、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が68.1%と続いている。また、『重要度が高い』は、⑪以外の項目では、女性の割合のほうが高く、特に10ポイント以上高い項目は、“⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業”（69.3%）、“⑫親子を対象とした地域における子育て支援事業”（70.4%）、“⑧仕事と育児の両立の推進に取り組む事業への支援”（87.4%）、“⑥出産・育児のための休業・短時間勤務の推進”（86.2%）、“⑬子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進”（76.0%）、“③出産祝い金などの祝金の支給”（55.9%）などである。（図表6-1-1）

【図表6-1-1　性別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策①】

〔①扶養控除の充実など税負担の軽減〕

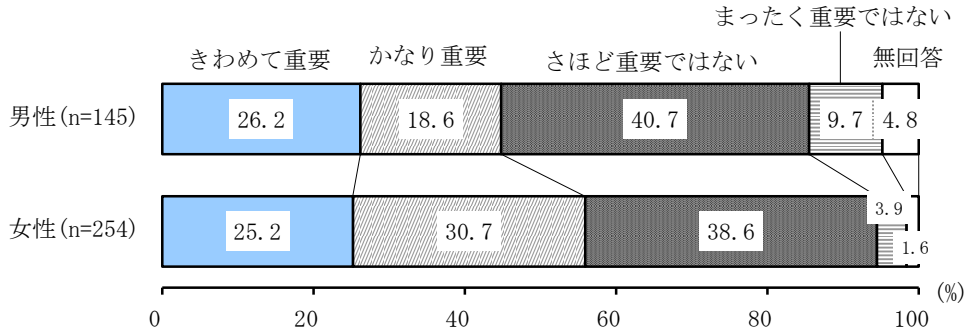


〔②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実〕

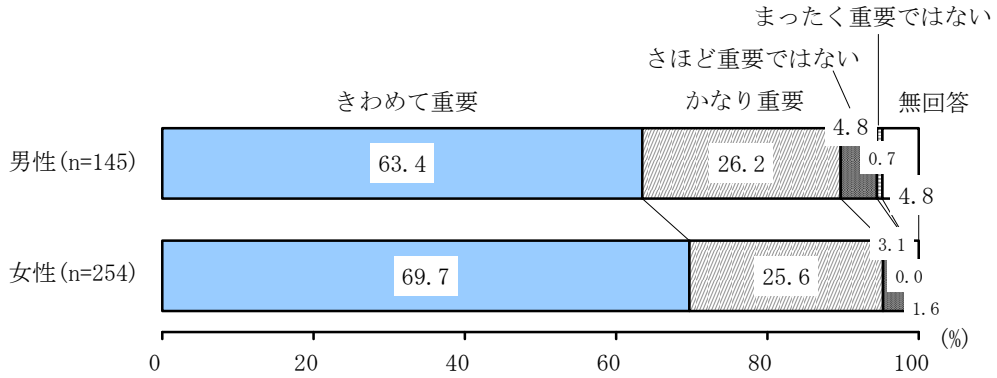


【図表6-1-1　性別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策②】

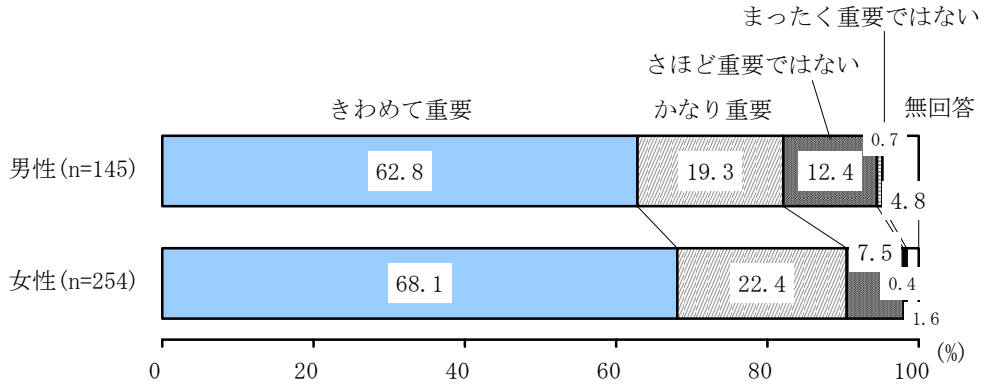
〔③出産祝い金などの祝金の支給〕



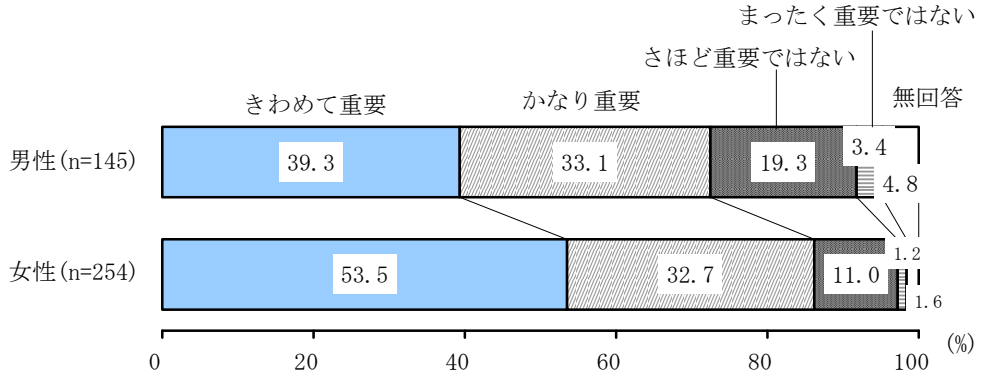
〔④医療費助成制度の拡充〕



〔⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業〕

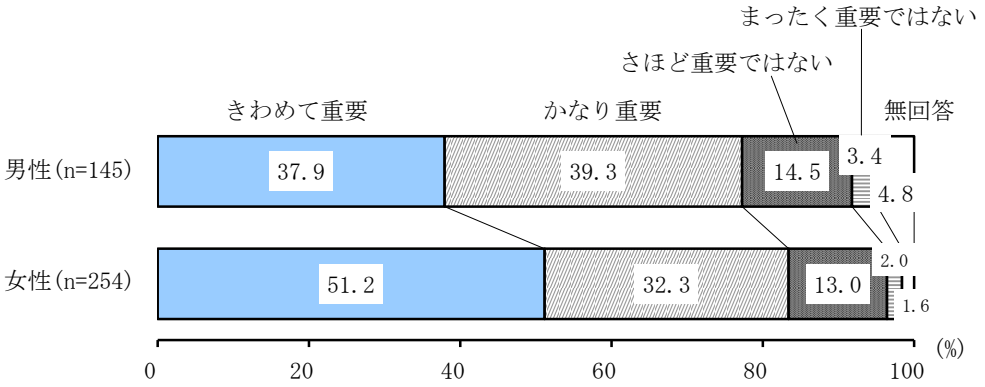


〔⑥出産・育児のための休業・短時間勤務の推進〕

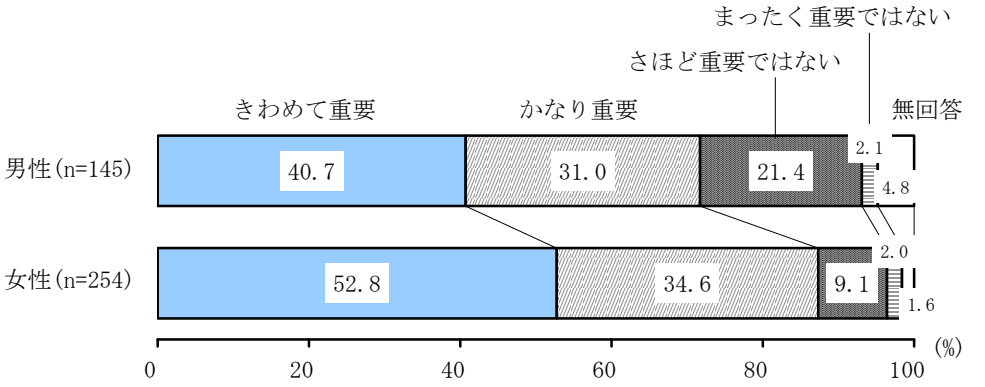


【図表6-1-1　性別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策③】

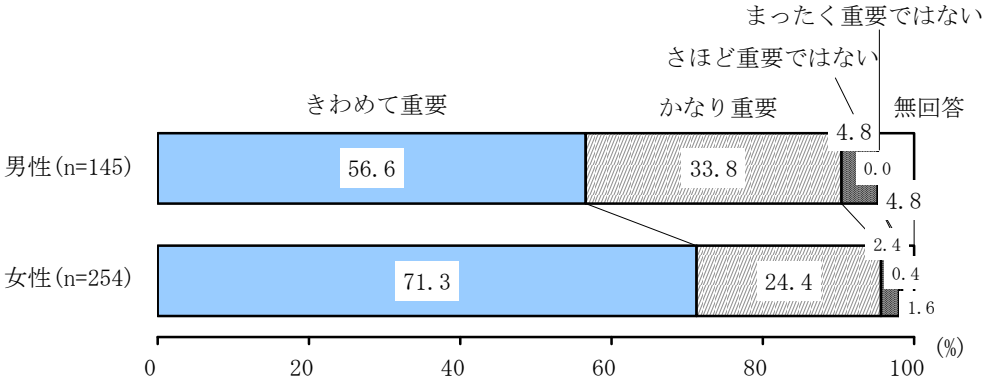
〔⑦出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援〕



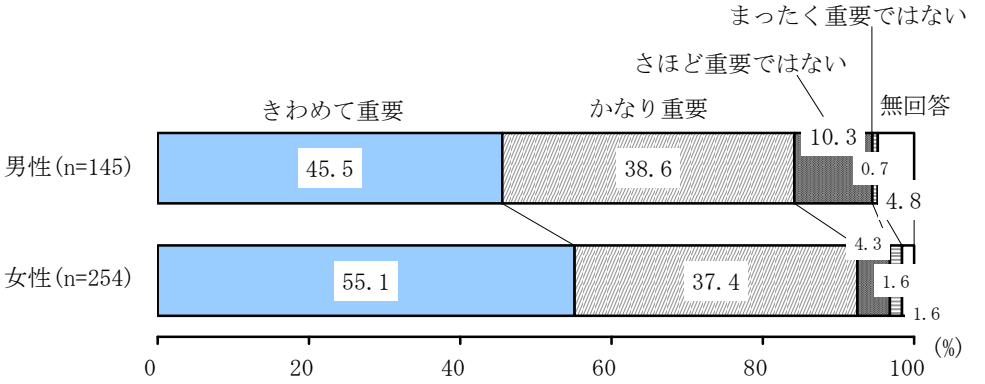
〔⑧仕事と育児の両立の推進に取り組む事業への支援〕



〔⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援〕

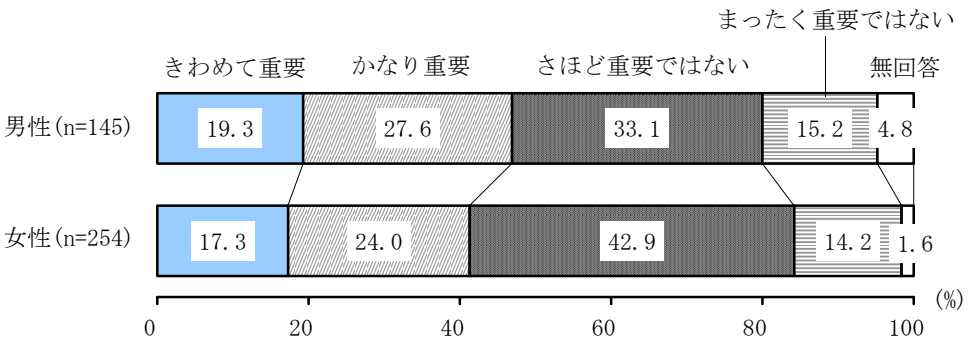


〔⑩妊娠・出産の支援体制・周産期医療体制の充実〕

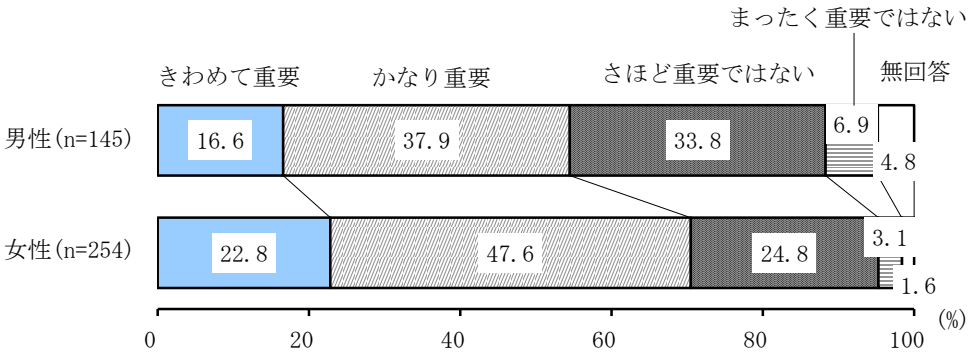


【図表6-1-1　性別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策④】

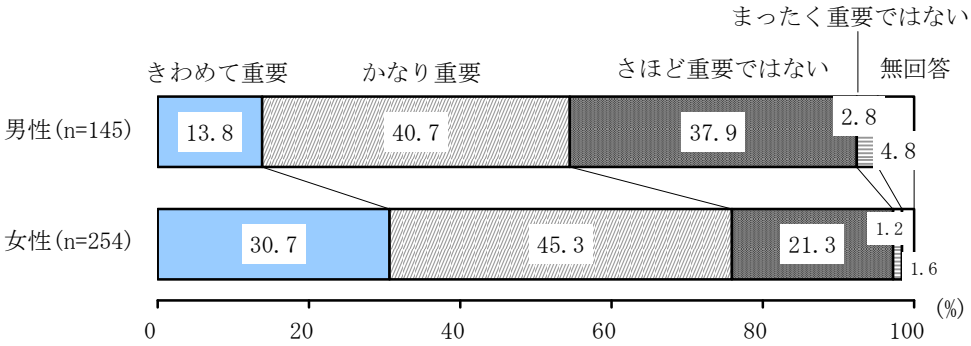
〔⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居〕



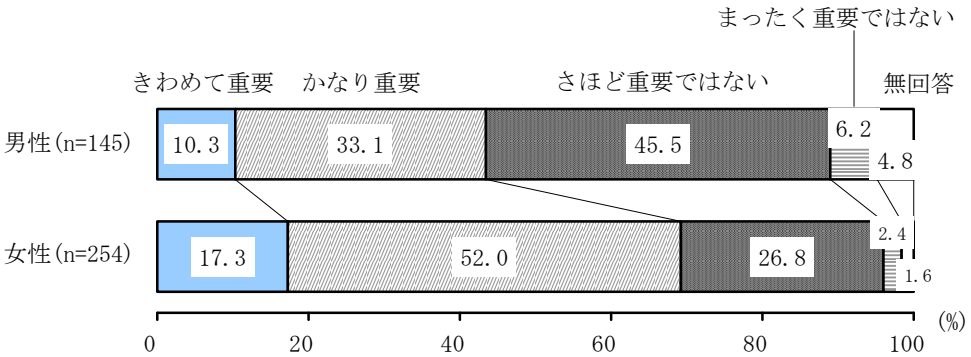
〔⑫親子を対象とした地域における子育て支援事業〕



〔⑬子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進〕

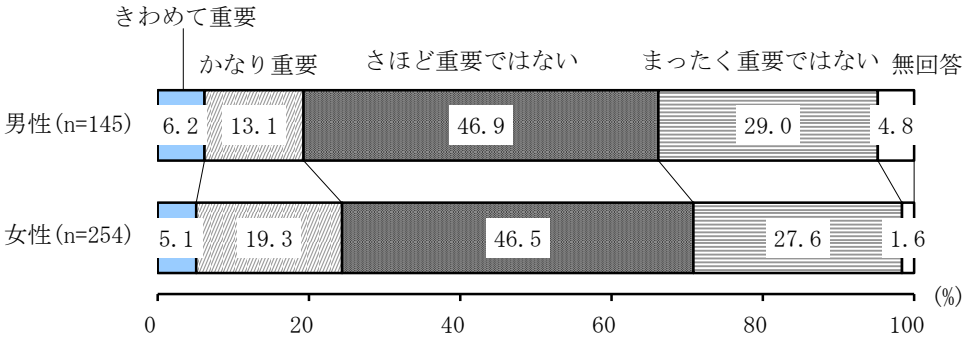


〔⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業〕



【図表6-1-1　性別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策⑤】

〔⑮公的に男女の出会いの場を設けること〕



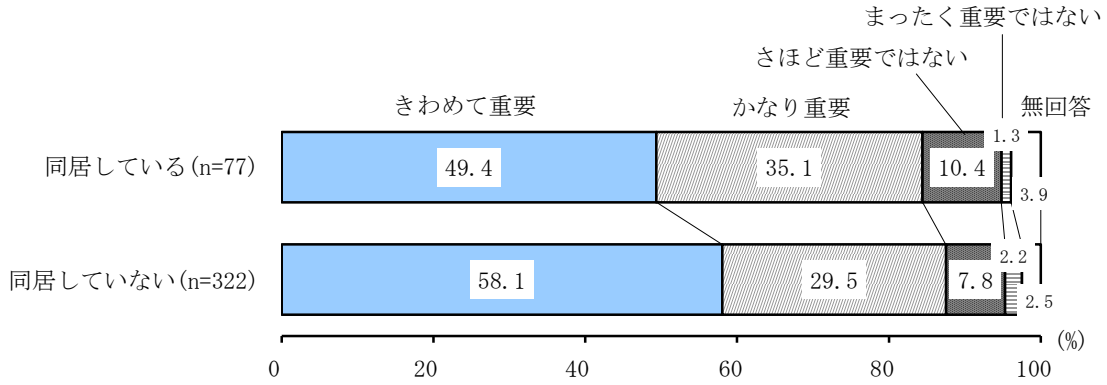
［親との同居・別居別］

親と同居している人では、「きわめて重要」の割合は、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が59.7%で最も高く、次いで“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”が55.8%、“④医療費助成制度の拡充”が54.5%、“⑥出産・育児のための休業・短時間勤務の推進”が53.2%となっている。また、“⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居”は「きわめて重要」が31.2%で、親と同居していない人（14.9%）より16.3ポイント高い。

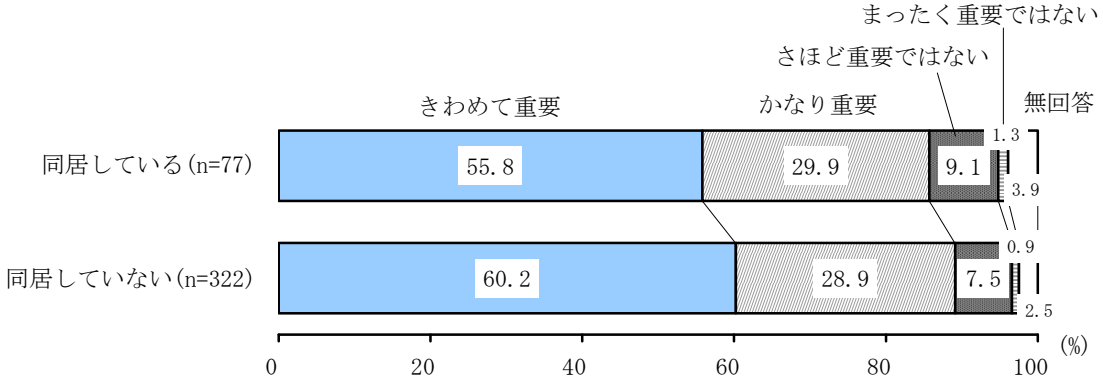
一方、親と同居していない人では、「きわめて重要」の割合は、“④医療費助成制度の拡充”が70.5%で最も高く、次いで“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”が69.3%、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が67.7%、“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”が60.2%となっている。また、「きわめて重要」の割合について、親と同居していない人のほうが10ポイント以上高い項目は、“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”（17.4ポイント差）、“④医療費助成制度の拡充”（16.0ポイント差）となっている。『重要度が高い』の割合は、“⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業”（63.3%）が親と同居している人（45.5%）より17.8ポイント高い。（図表6-1-2）

【図表6-1-2　親との同居・別居別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策①】

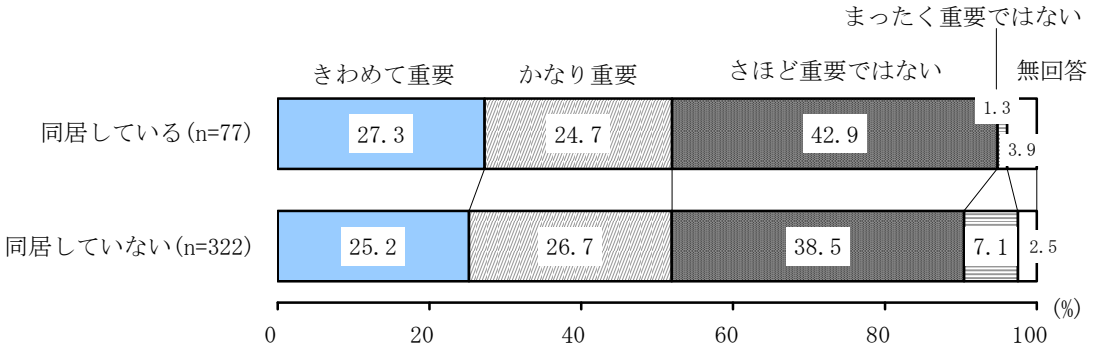
〔①扶養控除の充実など税負担の軽減〕



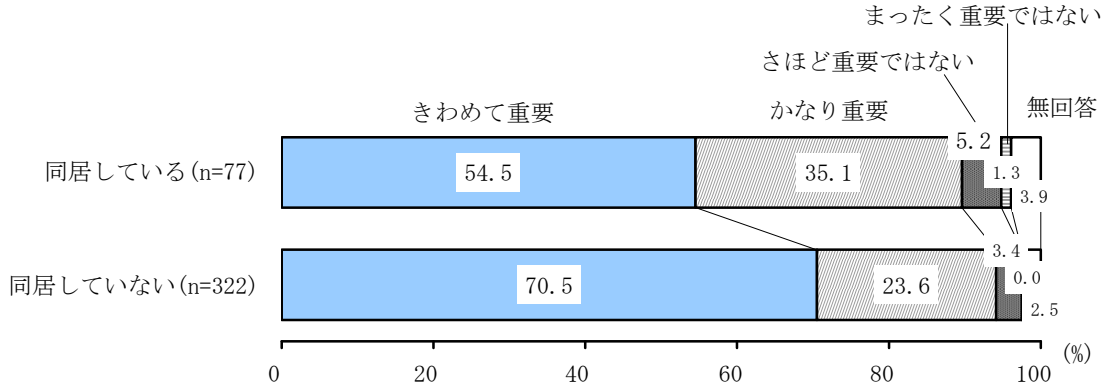
〔②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実〕



〔③出産祝い金などの祝金の支給〕

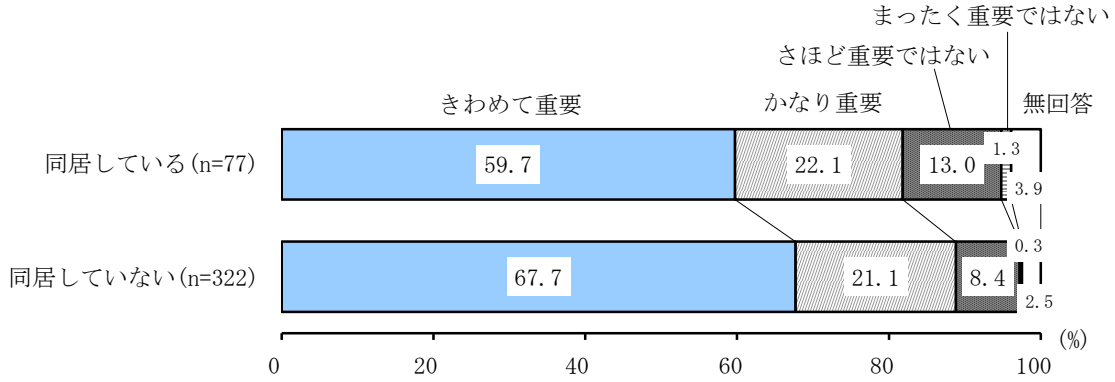


〔④医療費助成制度の拡充〕

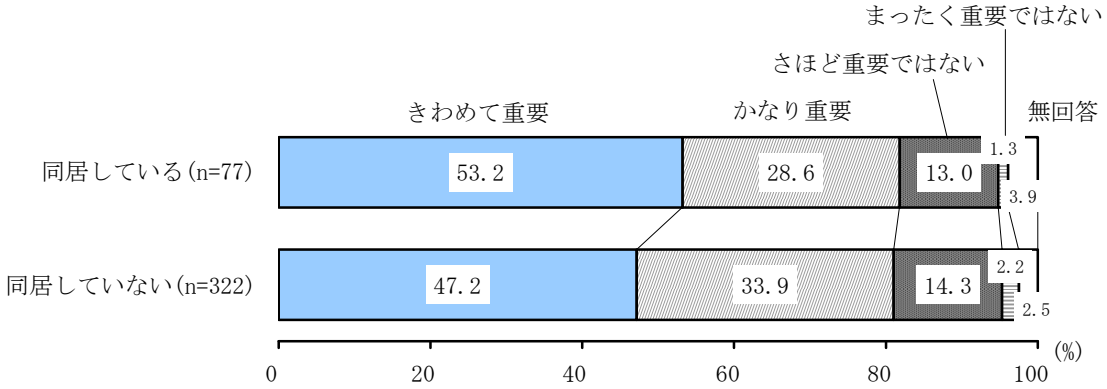


【図表6-1-2　親との同居・別居別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策②】

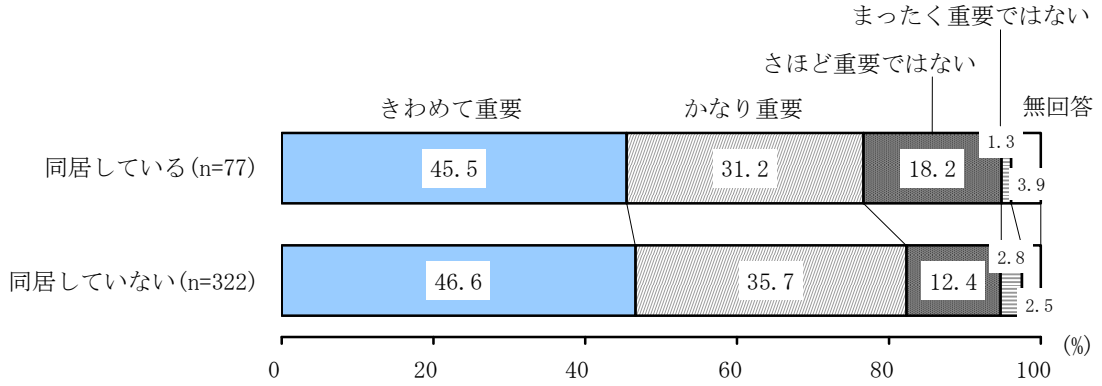
〔⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業〕



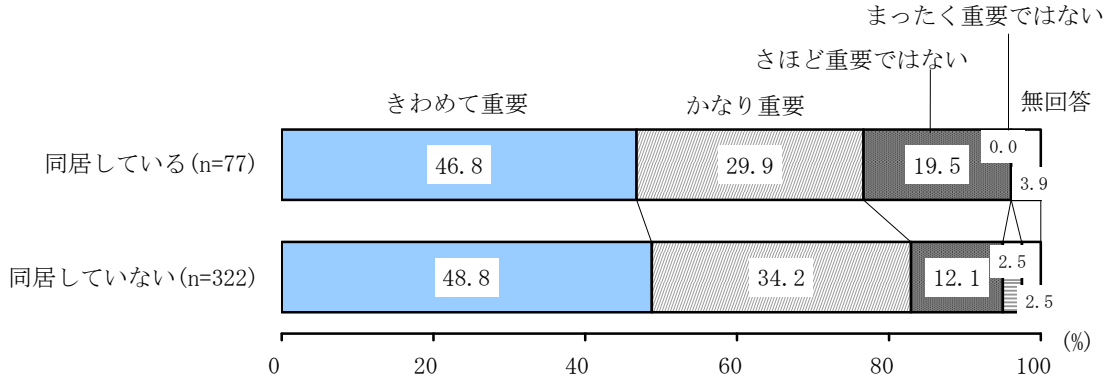
〔⑥出産・育児のための休業・短時間勤務の推進〕



〔⑦出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援〕

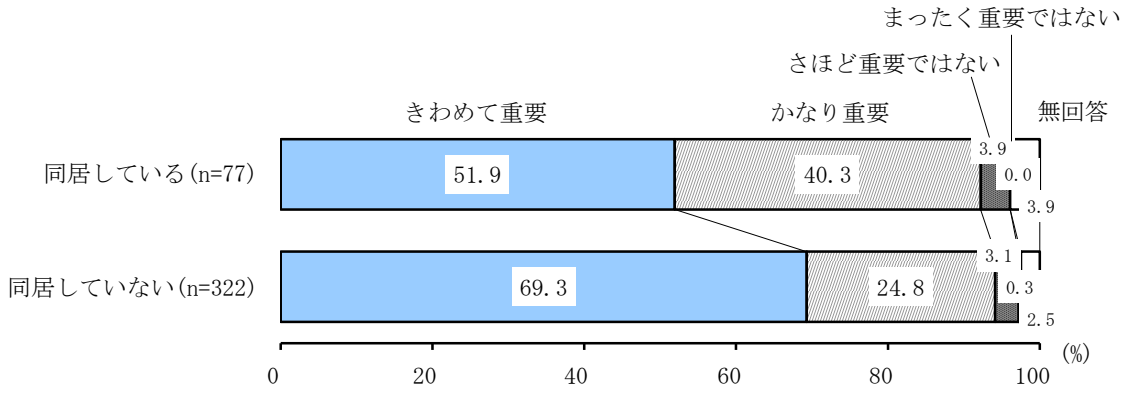


〔⑧仕事と育児の両立の推進に取り組む事業への支援〕

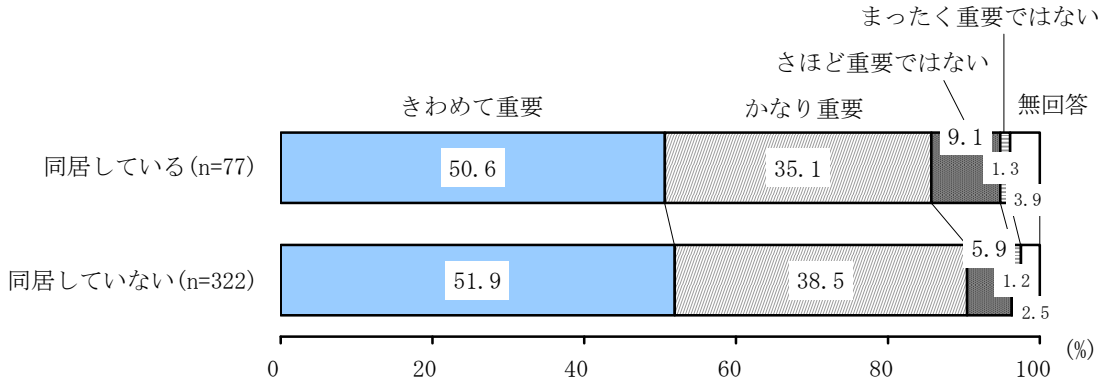


【図表6-1-2　親との同居・別居別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策③】

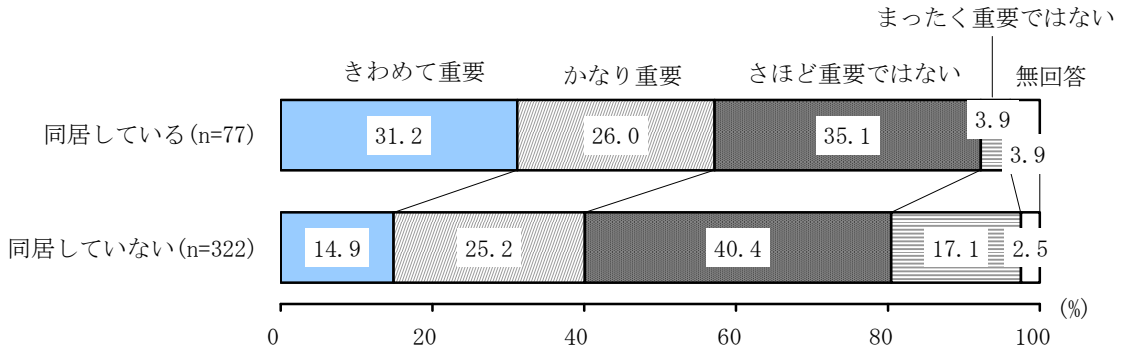
〔⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援〕



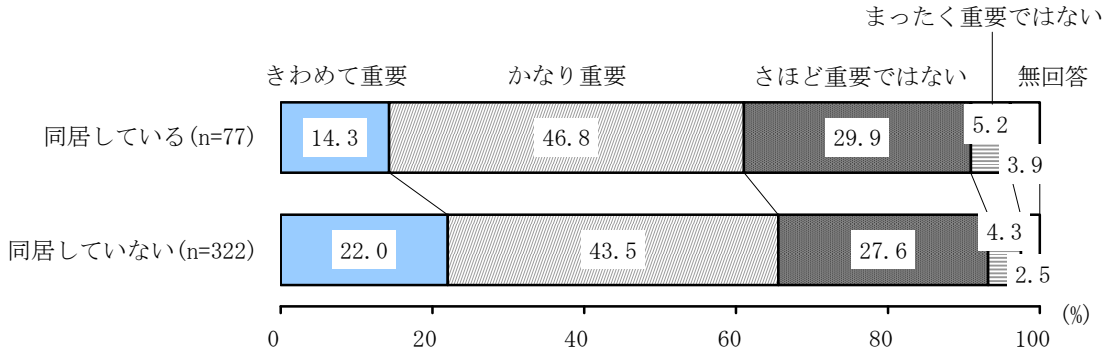
〔⑩妊娠・出産の支援体制・周産期医療体制の充実〕



〔⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居〕

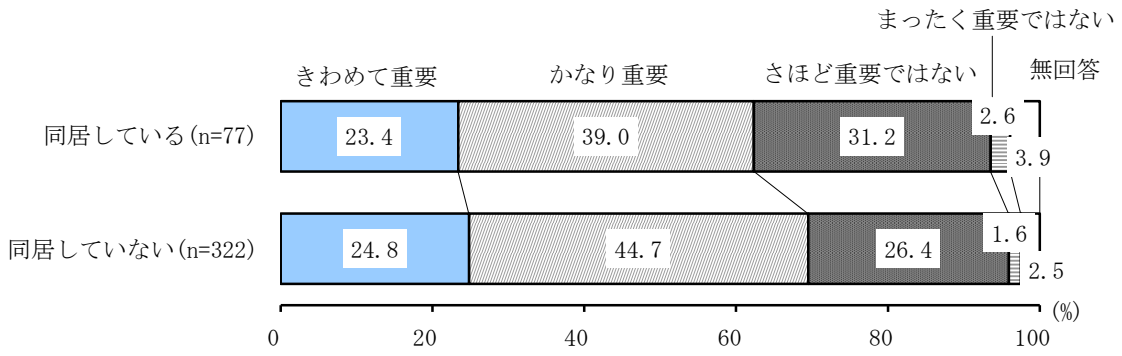


〔⑫親子を対象とした地域における子育て支援事業〕

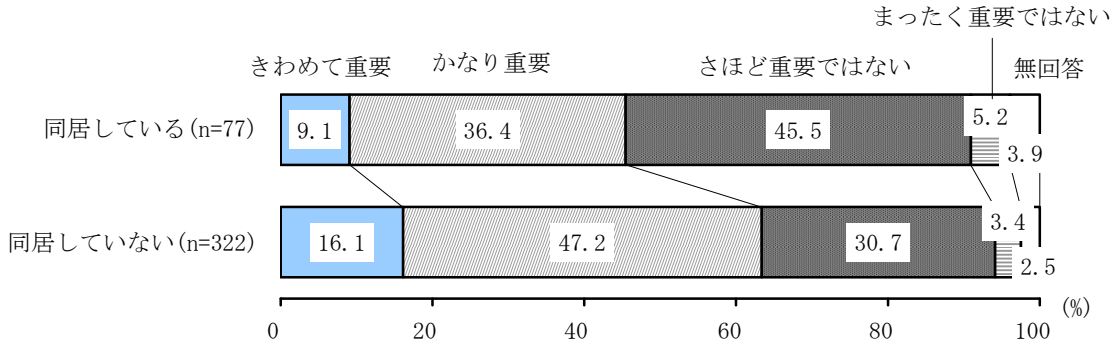


【図表6-1-2　親との同居・別居別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策④】

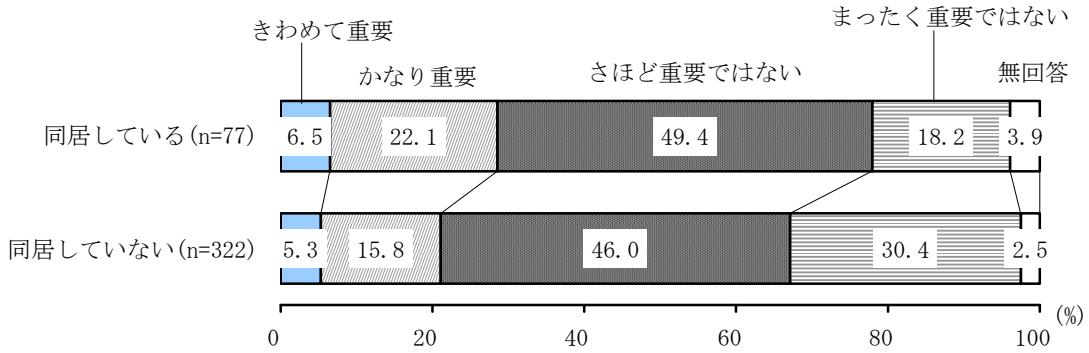
〔⑬子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進〕



〔⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業〕



〔⑮公的に男女の出会いの場を設けること〕



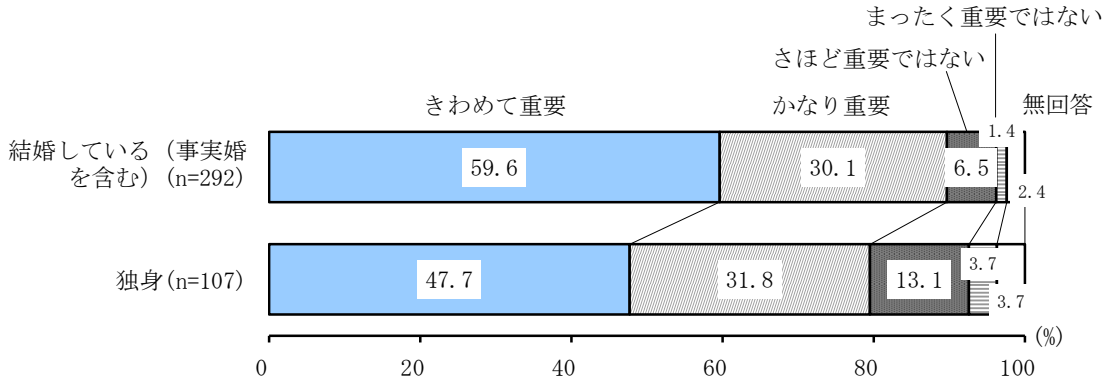
［未既婚別］

既婚者では、「きわめて重要」の割合は、“④医療費助成制度の拡充”が73.3%で最も高く、次いで“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”が68.5%、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が67.1%、“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”が63.0%となっている。また、「きわめて重要」の割合が既婚者で10ポイント以上高い項目は、“④医療費助成制度の拡充”（21.9ポイント差）、“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”（13.5ポイント差）、“①扶養控除の充実など税負担の軽減”（11.9ポイント差）である。『重要度が高い』の割合は“⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業”（63.3%）が未婚者（50.5%）より12.8ポイント高い。

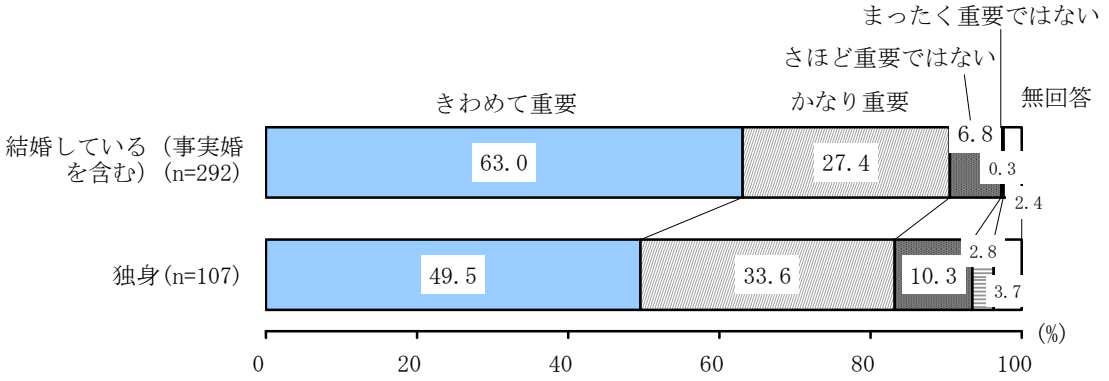
一方、未婚者では、「きわめて重要」の割合は、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が63.6%で最も高く、次いで“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”が58.9%、“⑩妊娠・出産の支援体制・周産期医療体制の充実”が55.1%、“⑥出産・育児のための休業・短時間勤務の推進”が52.3%となっている。また、“⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居”は、「きわめて重要」（29.9%）が既婚者（13.7%）に比べ16.2ポイント高く、『重要度が高い』（58.9%）では21.2ポイント高くなっている。さらに、“⑮公的に男女の出会いの場を設けること”の『重要度が高い』の割合（38.3%）は、既婚者（16.8%）に比べ21.5ポイント高い。（図表6-1-3）

【図表6-1-3　未既婚別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策①】

〔①扶養控除の充実など税負担の軽減〕

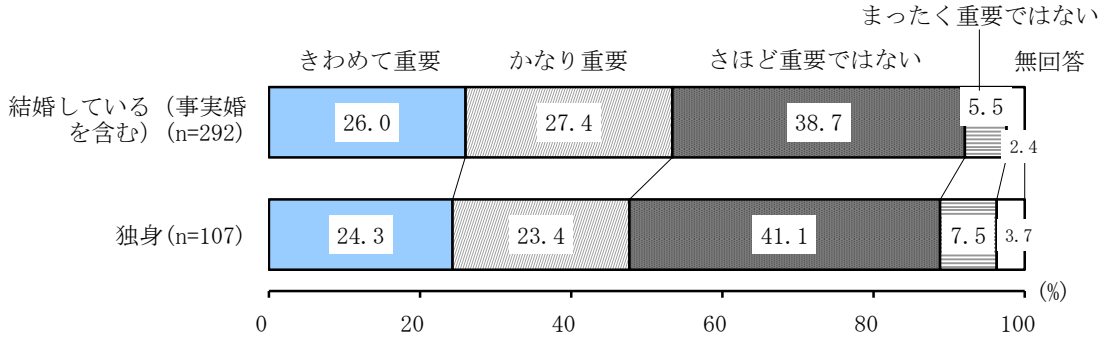


〔②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実〕

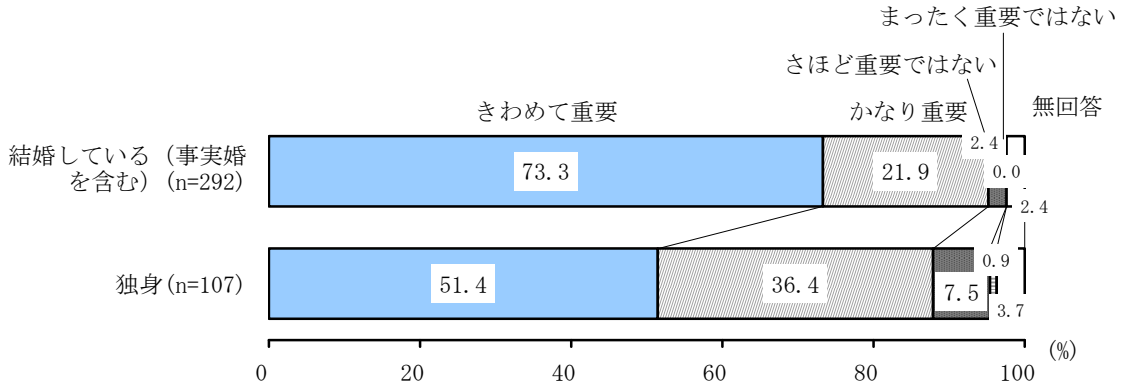


【図表6-1-3　未既婚別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策②】

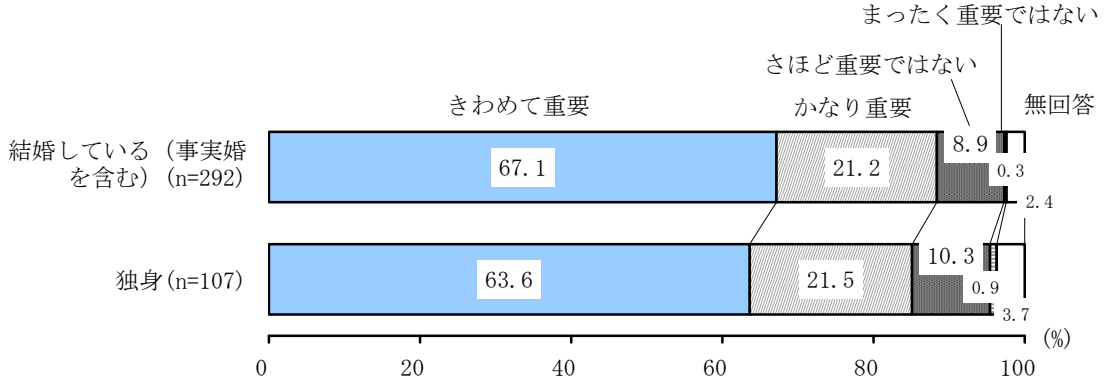
〔③出産祝い金などの祝金の支給〕



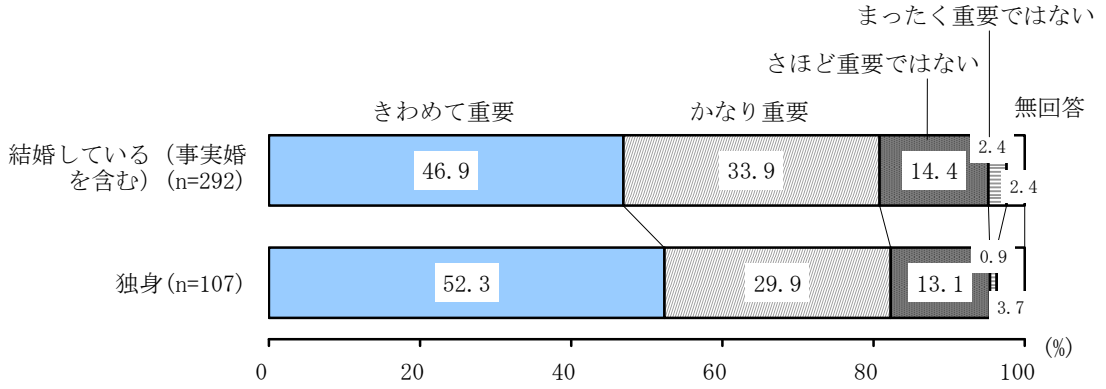
〔④医療費助成制度の拡充〕



〔⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業〕

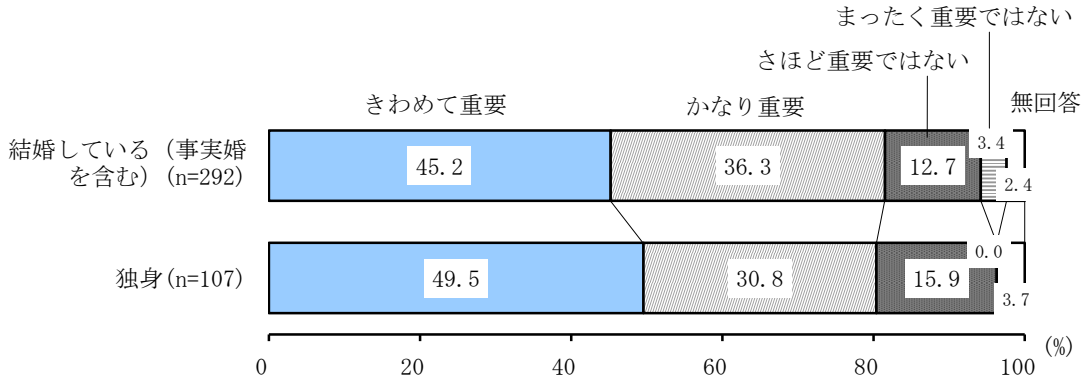


〔⑥出産・育児のための休業・短時間勤務の推進〕

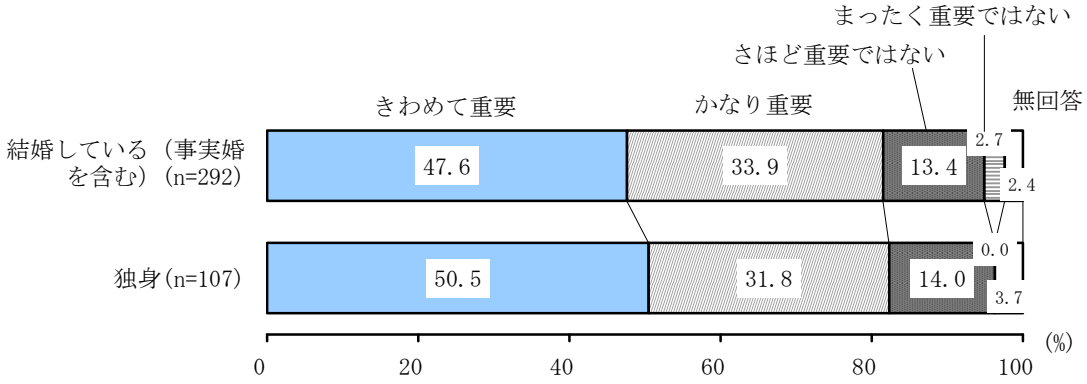


【図表6-1-3　未既婚別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策③】

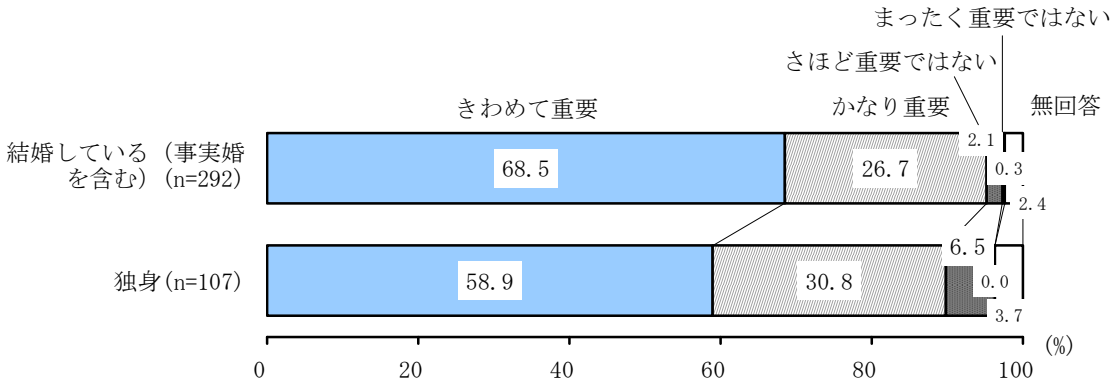
〔⑦出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援〕



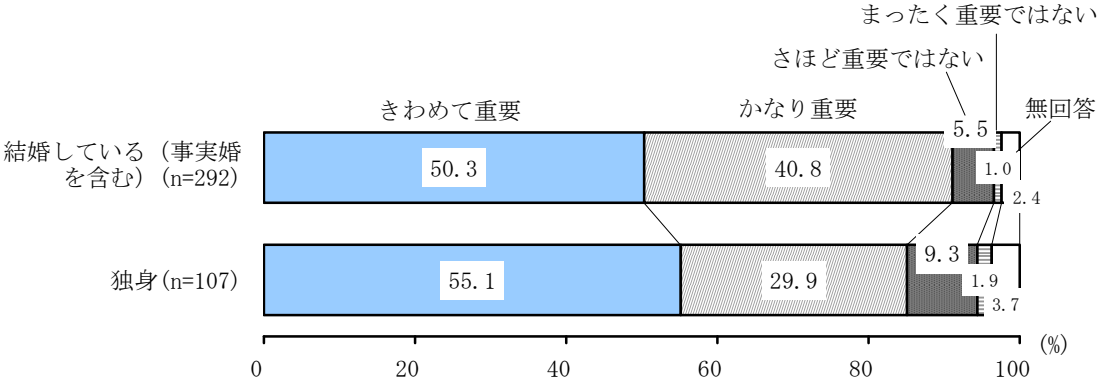
〔⑧仕事と育児の両立の推進に取り組む事業への支援〕



〔⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援〕

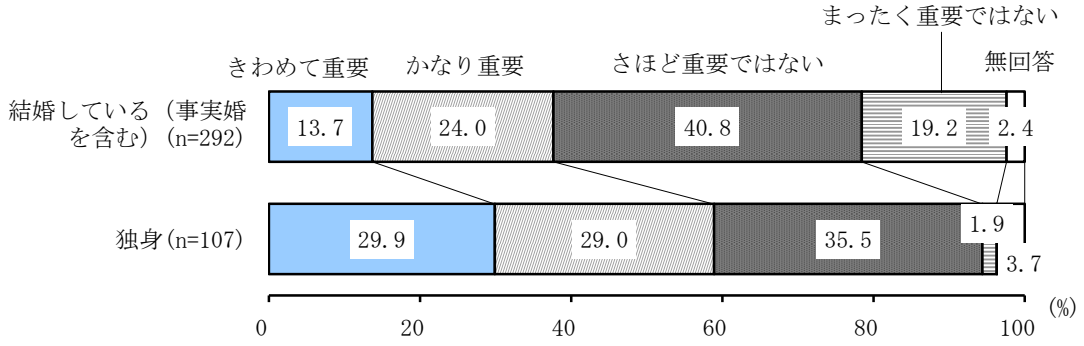


〔⑩妊娠・出産の支援体制・周産期医療体制の充実〕

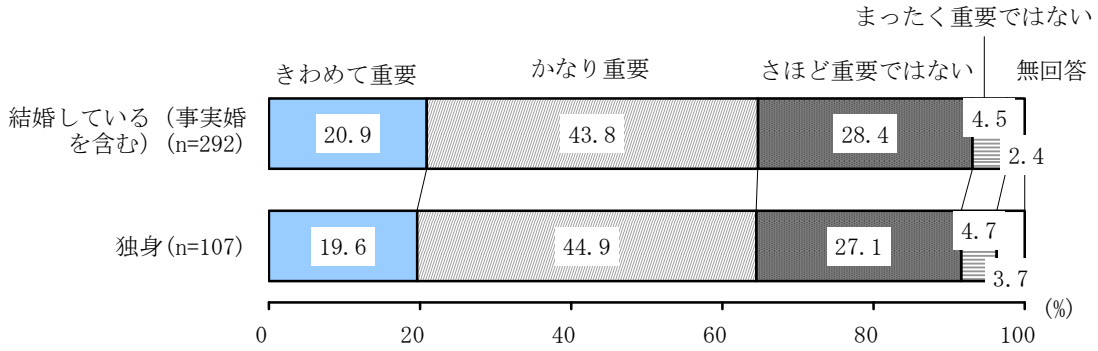


【図表6-1-3　未既婚別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策④】

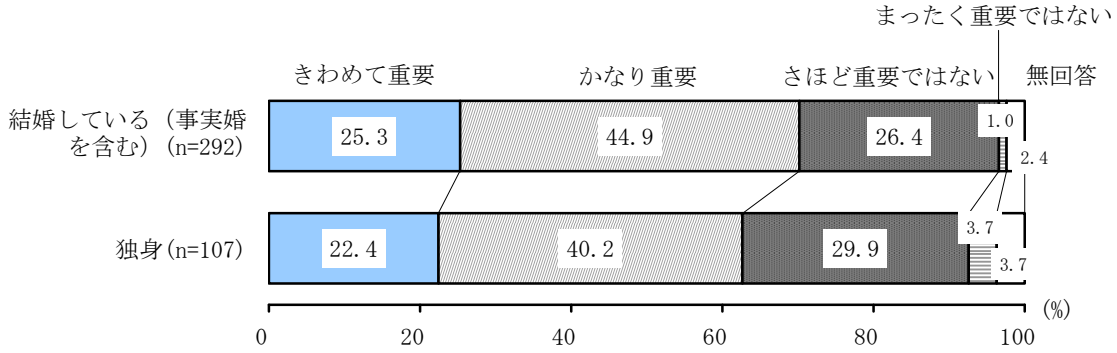
〔⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居〕



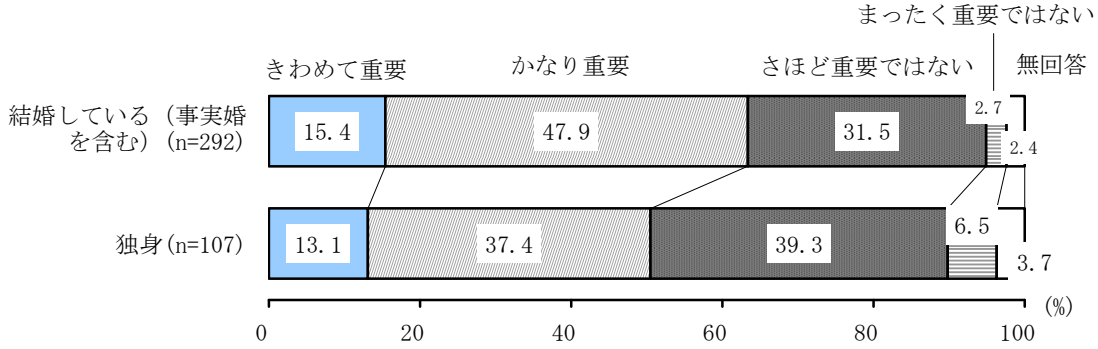
〔⑫親子を対象とした地域における子育て支援事業〕



〔⑬子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進〕

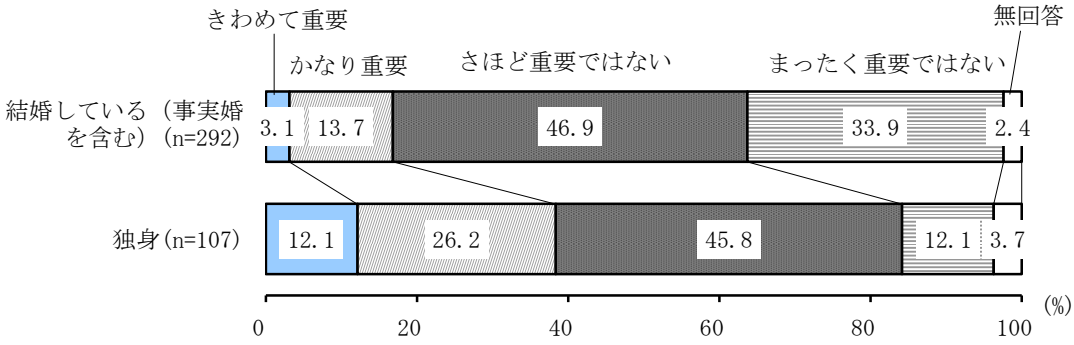


〔⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業〕



【図表6-1-3　未既婚別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策⑤】

〔⑮公的に男女の出会いの場を設けること〕



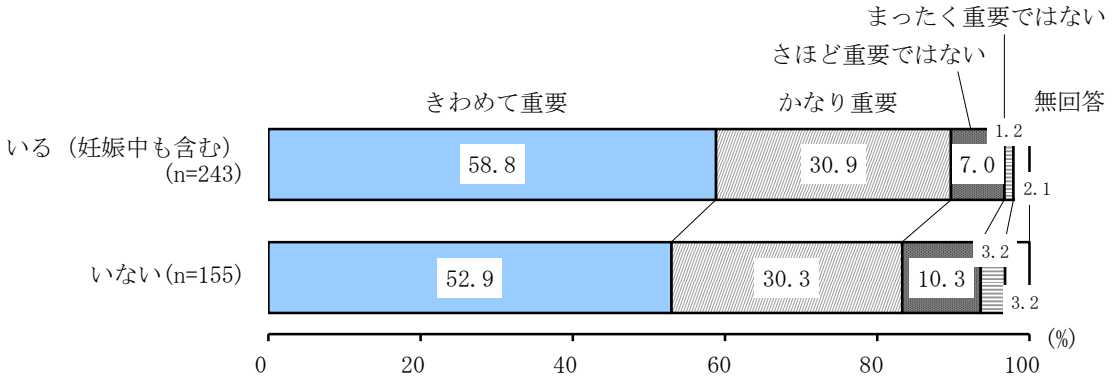
［子どもの有無別］

子どもがいる人では、「きわめて重要」の割合は、“④医療費助成制度の拡充”が75.7%で最も高く、次いで“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”が72.0%、“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”が67.1%、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が66.7%となっている。また、「きわめて重要」の割合が子どものいる人のほうが10ポイント以上高い項目は、“④医療費助成制度の拡充”（20.9ポイント差）、“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”（19.4ポイント差）、“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”（15.2ポイント差）で、『重要度が高い』の割合は、“⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業”（14.8ポイント差）、“⑬子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進”（14.7ポイント差）が高くなっている。

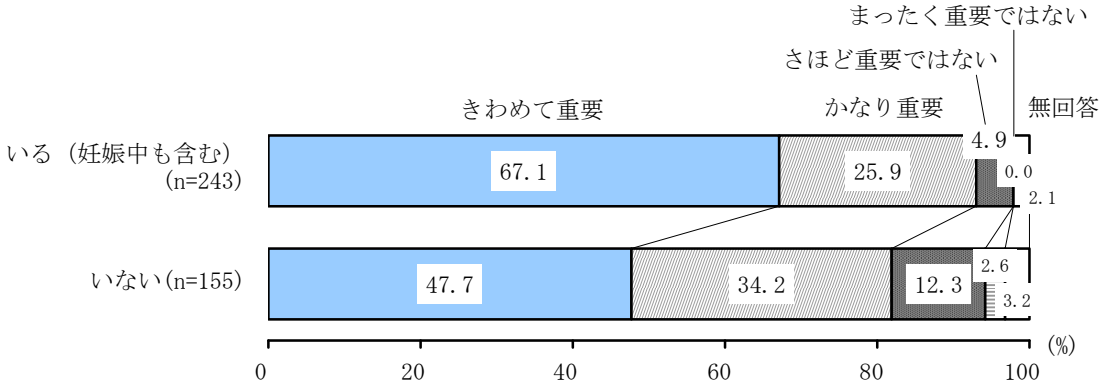
一方、子どもがいない人では、「きわめて重要」の割合は、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が65.8%で最も高く、次いで“⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援”と“⑩妊娠・出産の支援体制・周産期医療体制の充実”がともに56.8%、“④医療費助成制度の拡充”が54.8%となっている。また、『重要度が高い』の割合が、子どもがいない人のほうで10ポイント以上高い項目は、“⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居”（16.6ポイント差）、“⑮公的に男女の出会いの場を設けること”（11.5ポイント差）である。（図表6-1-4）

【図表6-1-4　子どもの有無別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策①】

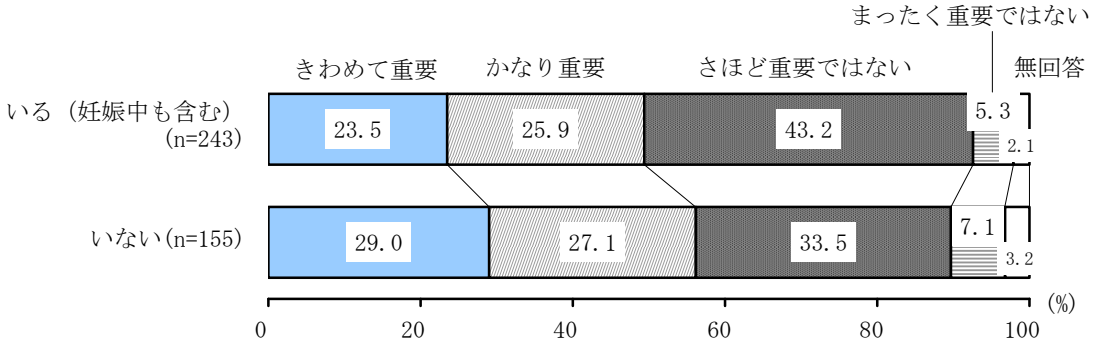
〔①扶養控除の充実など税負担の軽減〕



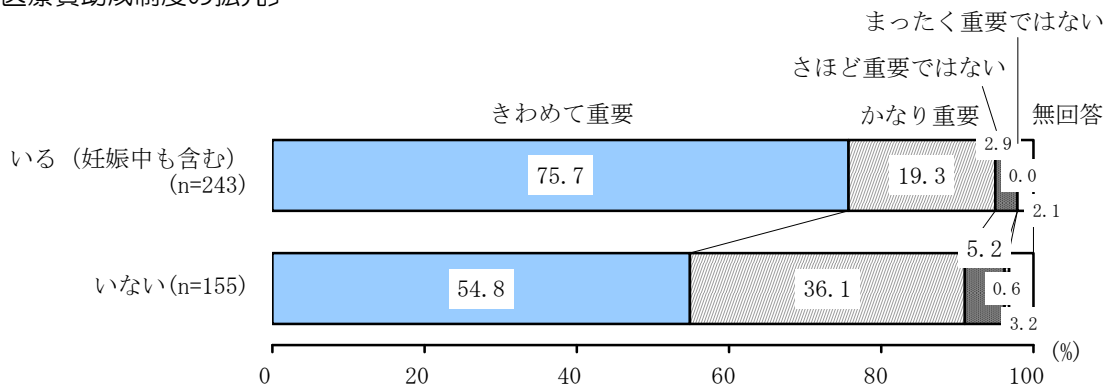
〔②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実〕



〔③出産祝い金などの祝金の支給〕

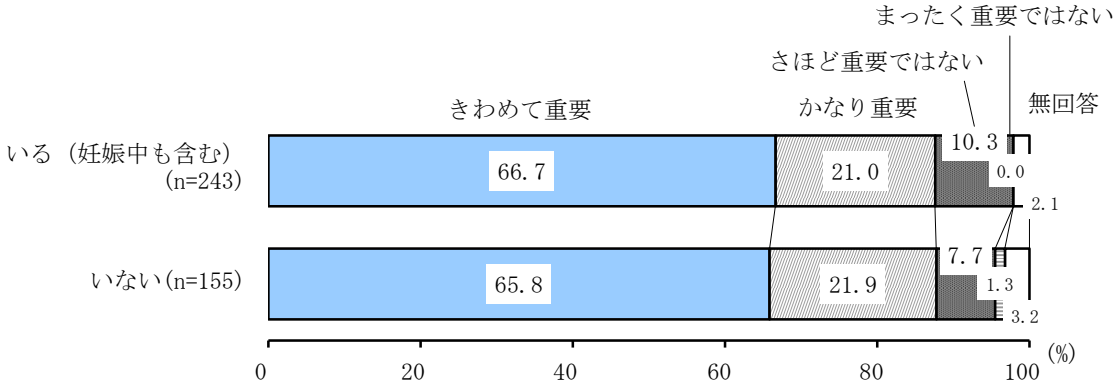


〔④医療費助成制度の拡充〕

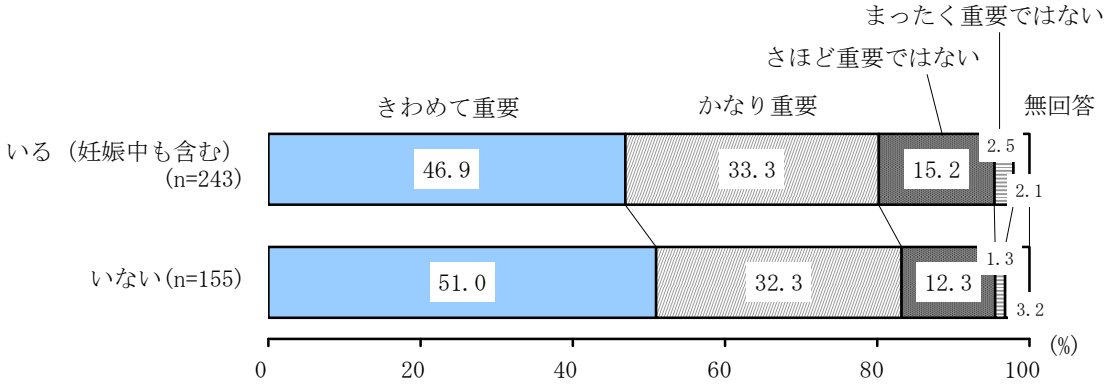


【図表6-1-4　子どもの有無別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策②】

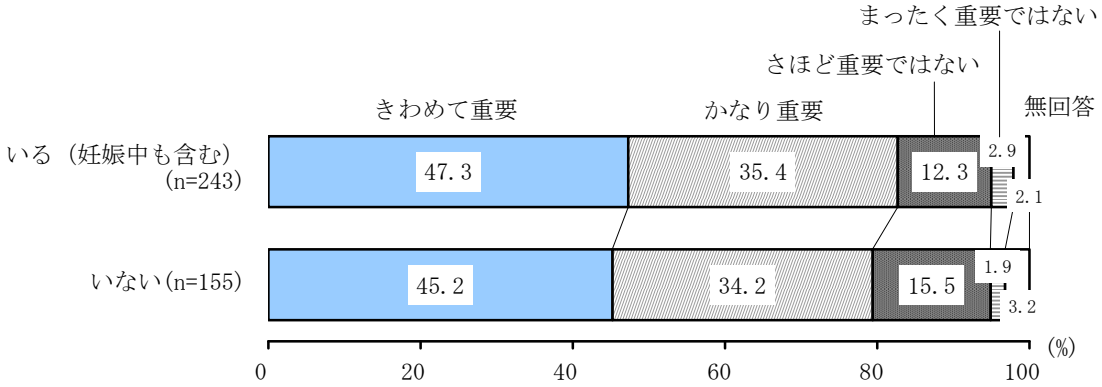
〔⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業〕



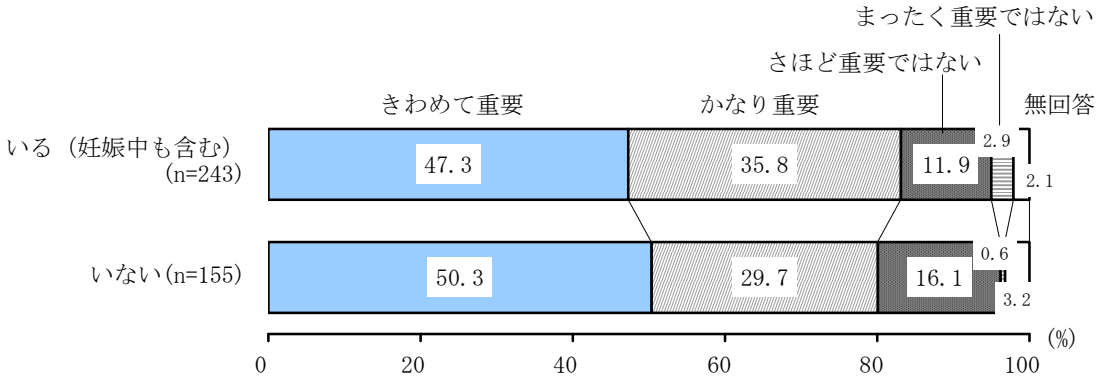
〔⑥出産・育児のための休業・短時間勤務の推進〕



〔⑦出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援〕

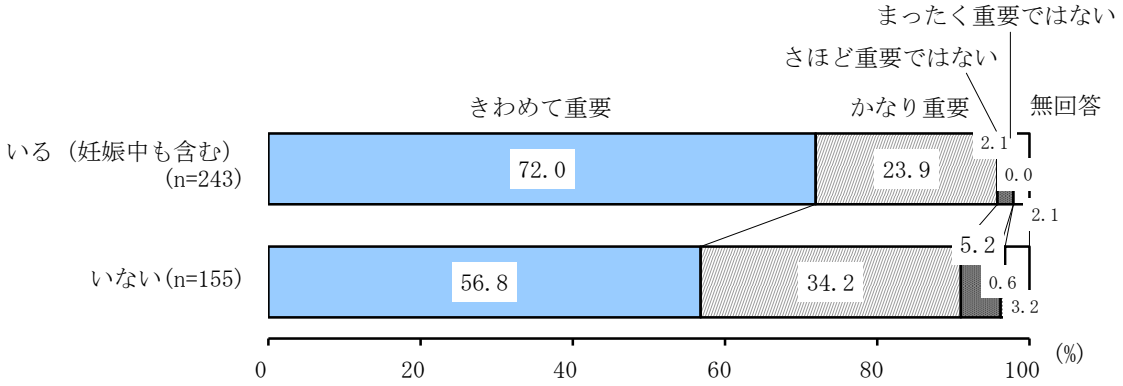


〔⑧仕事と育児の両立の推進に取り組む事業への支援〕

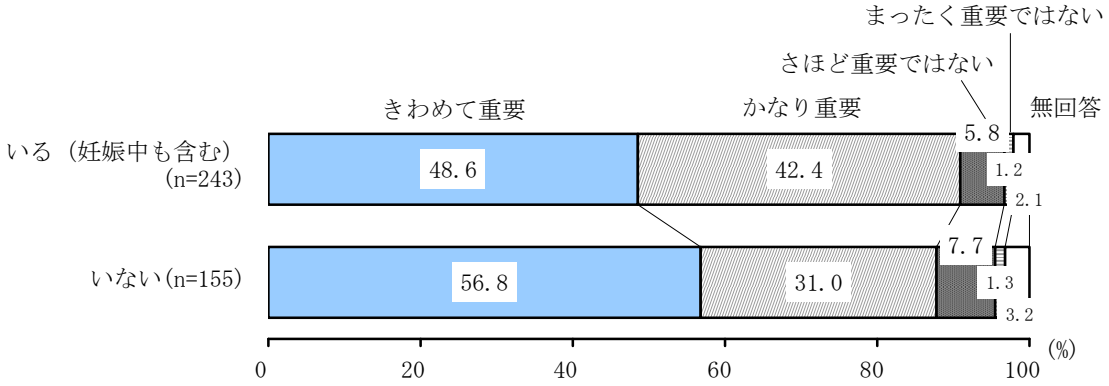


【図表6-1-4　子どもの有無別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策③】

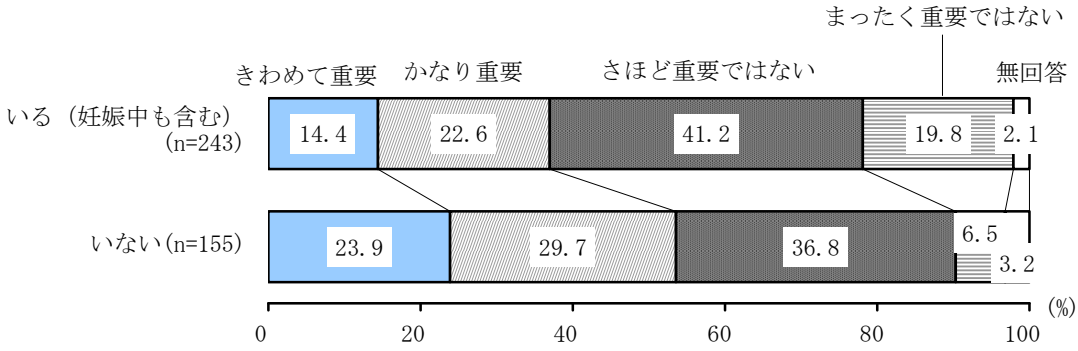
〔⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援〕



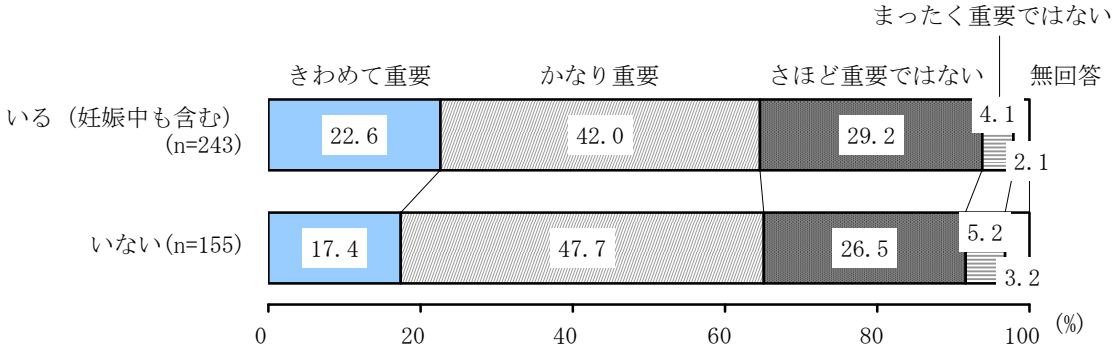
〔⑩妊娠・出産の支援体制・周産期医療体制の充実〕



〔⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居〕

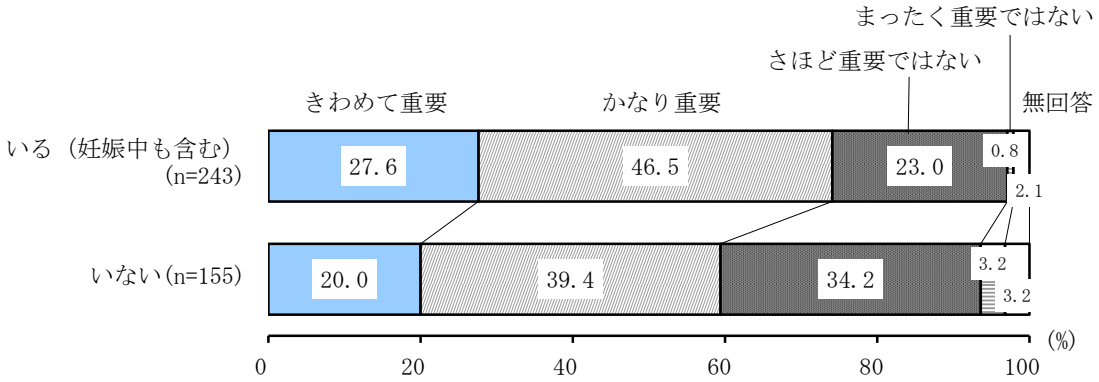


〔⑫親子を対象とした地域における子育て支援事業〕

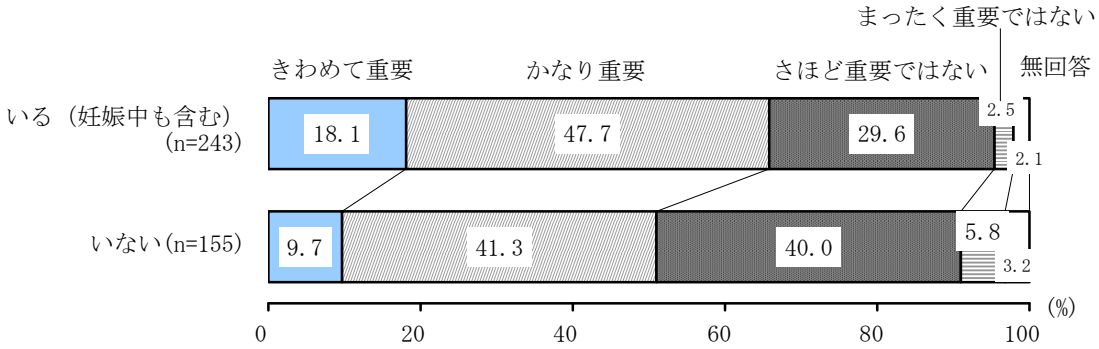


【図表6-1-4　子どもの有無別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策④】

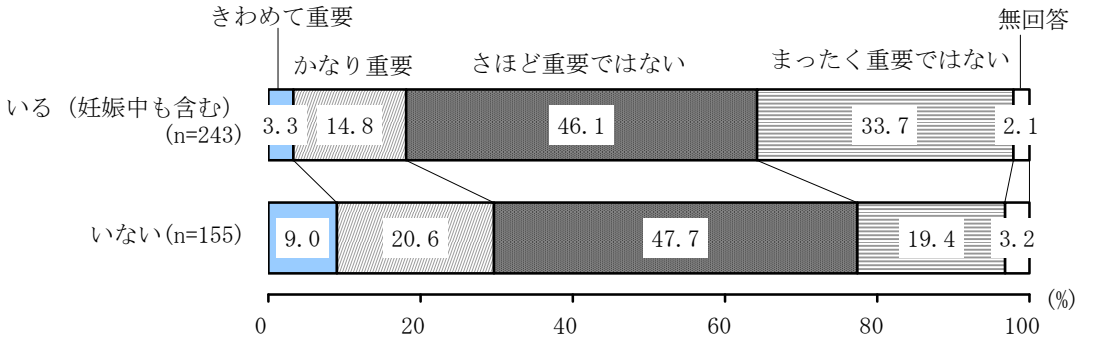
〔⑬子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進〕



〔⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業〕



〔⑮公的に男女の出会いの場を設けること〕



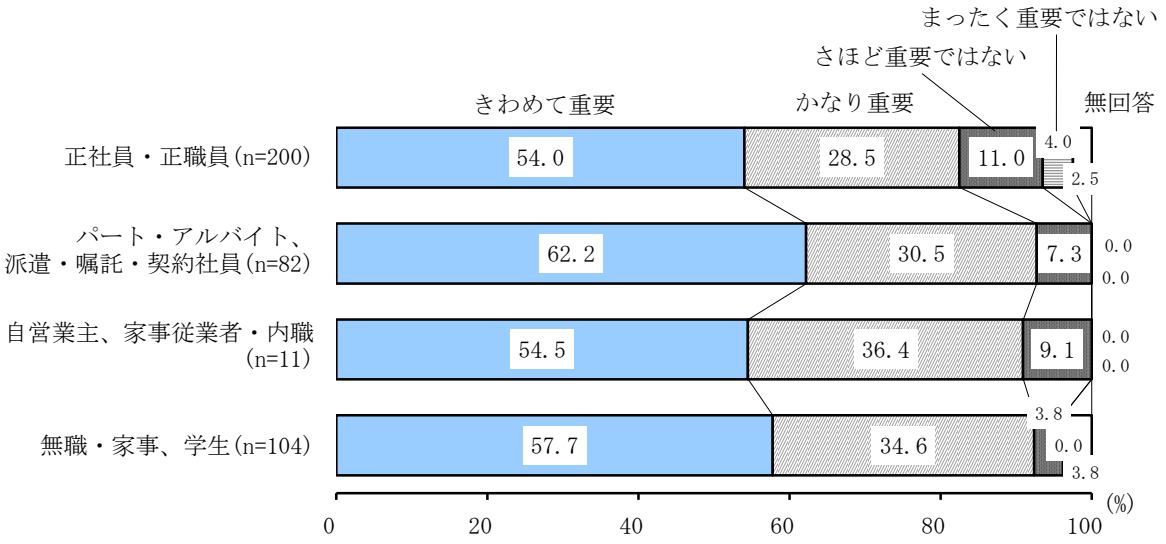
［現在の就労形態別］

「きわめて重要」の割合は、正規労働者では、“⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業”が74.0%で最も高く、非正規・無職等より10ポイント以上高くなっている。

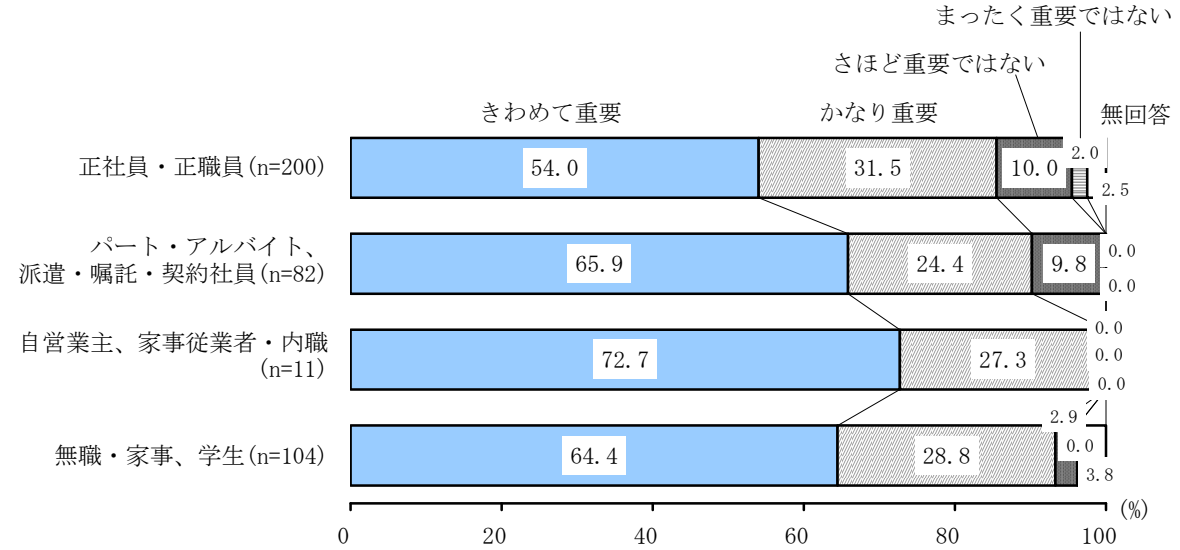
非正規労働者では、“④医療費助成制度の拡充”が70.7%で最も高く、無職等では“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”が64.4%で最も高くなっている。また、非正規労働者と無職等では、『重要度が高い』の割合が“①扶養控除の充実など税負担の軽減”、“②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実”、“③出産祝い金などの祝金の支給”などの経済的支援や“⑦出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援”など、正規労働者より高くなっている。無職等では、『重要度が高い』の割合は、正規・非正規労働者に比べて“⑧仕事と育児の両立の推進に取り組む事業への支援”（89.5%）や“⑫親子を対象とした地域における子育て支援事業”（73.1%）、“⑬子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進”（77.9%）が 10ポイント前後高くなっている。（図表6-1-5）

【図表6-1-5　現在の就労形態別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策①】

〔①扶養控除の充実など税負担の軽減〕

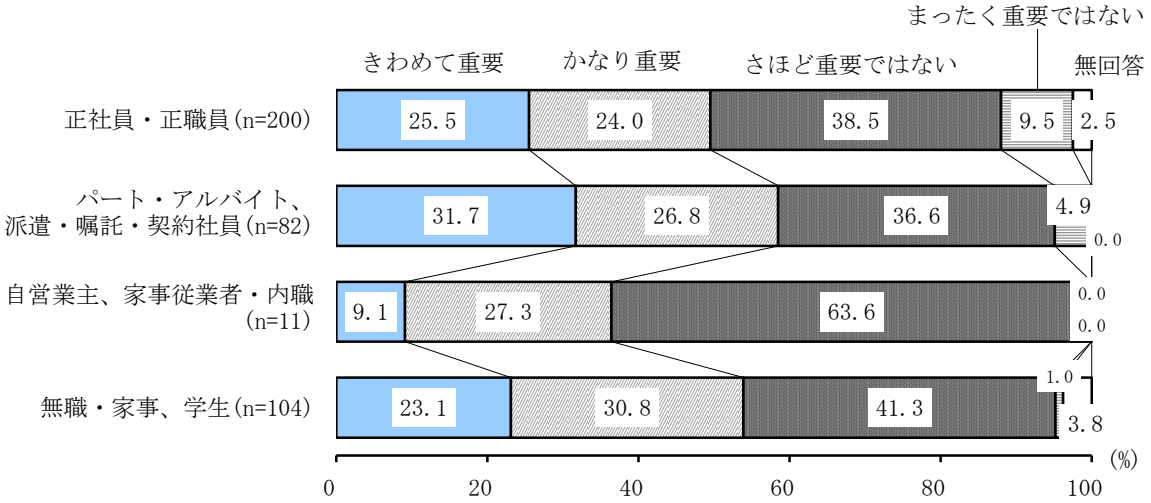


〔②高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実〕

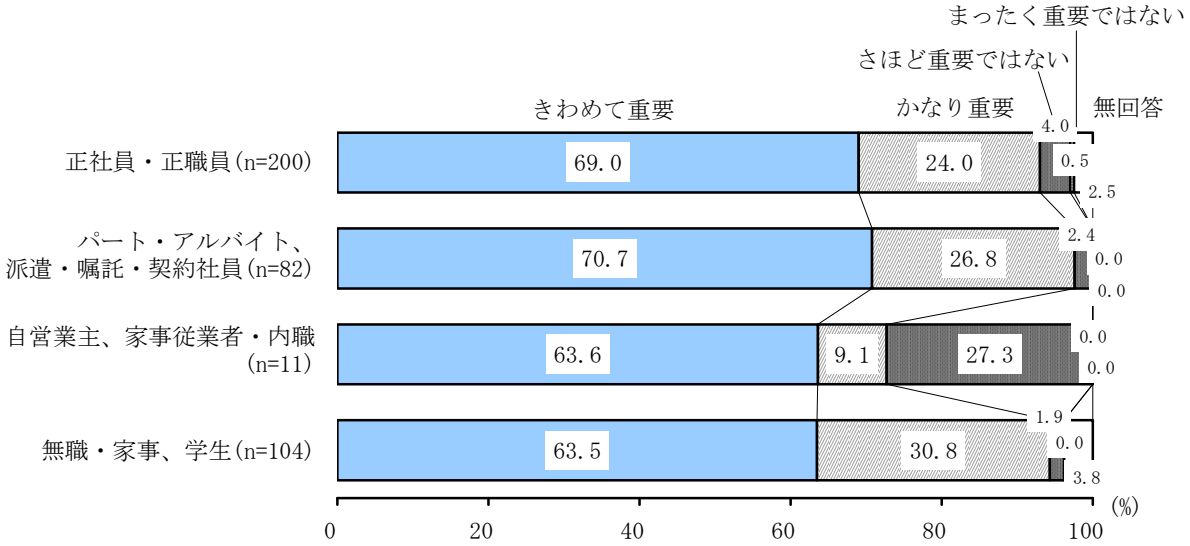


【図表6-1-5　現在の就労形態別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策②】

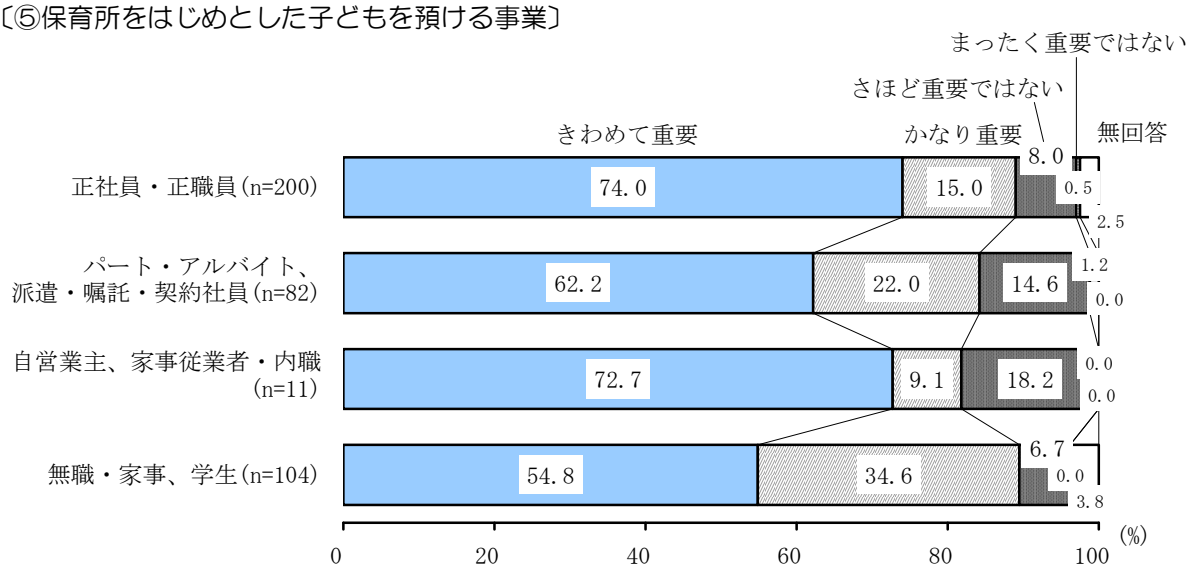
〔③出産祝い金などの祝金の支給〕



〔④医療費助成制度の拡充〕

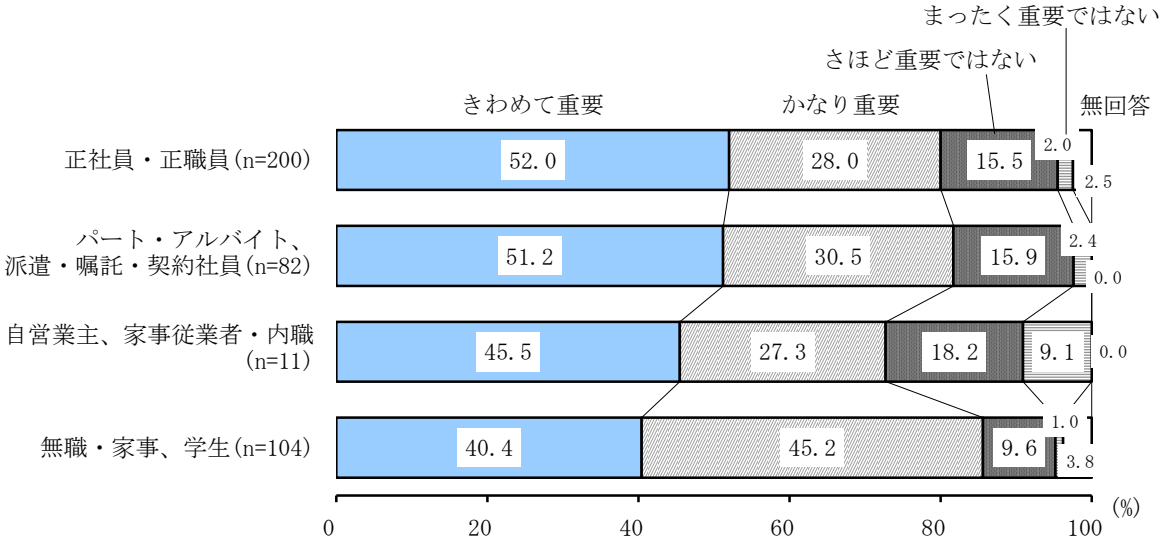


〔⑤保育所をはじめとした子どもを預ける事業〕

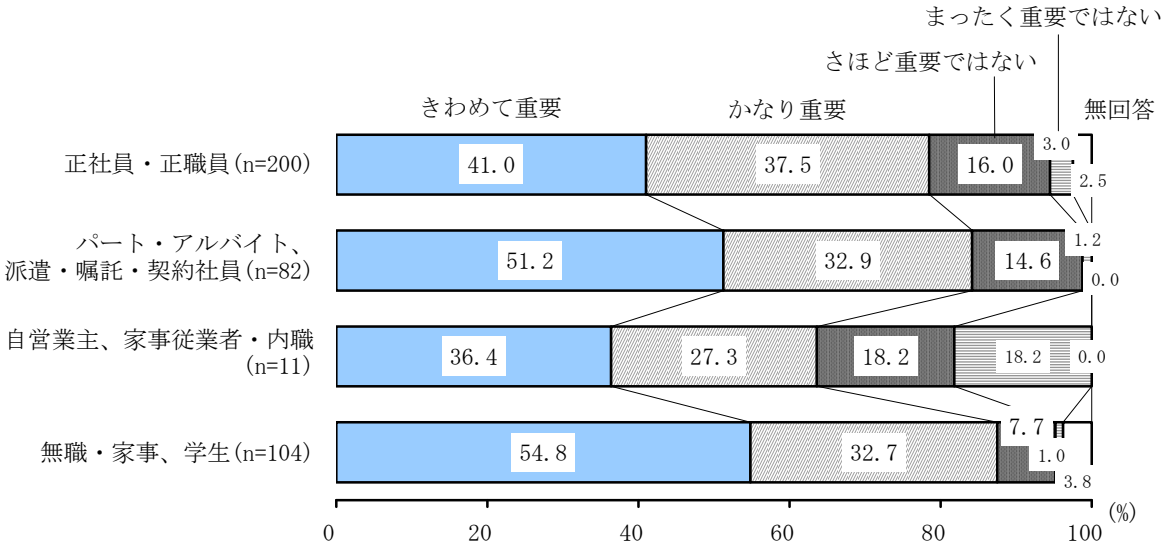


【図表6-1-5　現在の就労形態別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策③】

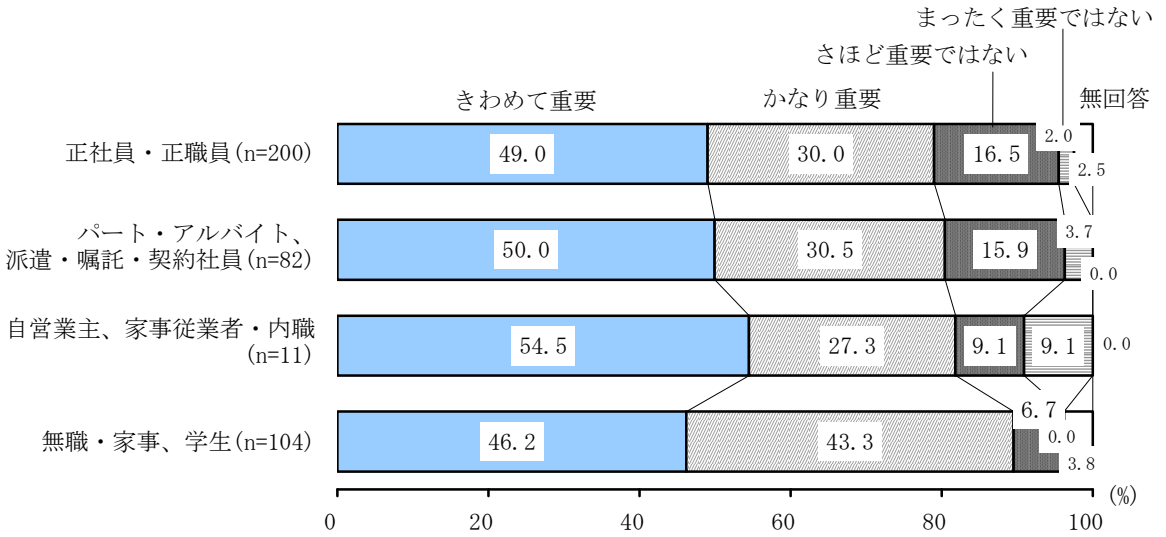
〔⑥出産・育児のための休業・短時間勤務の推進〕



〔⑦出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援〕

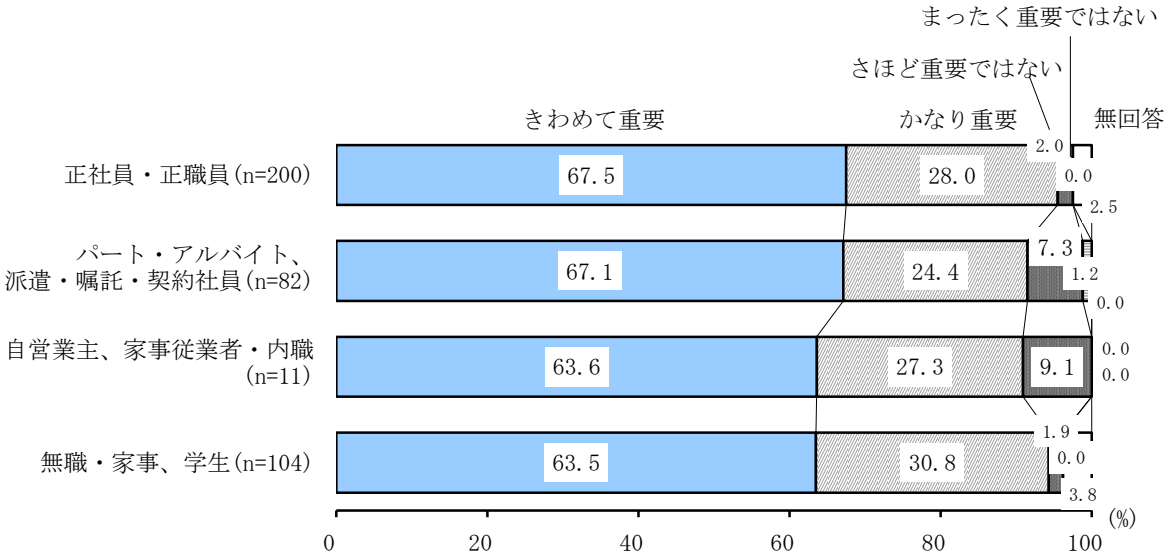


〔⑧仕事と育児の両立の推進に取り組む事業への支援〕

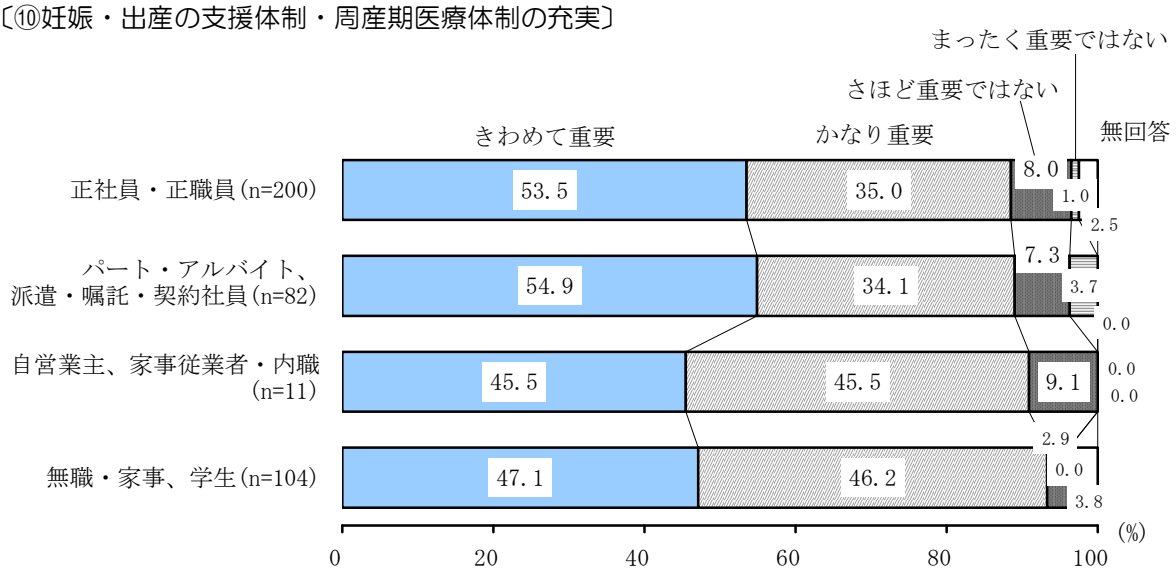


【図表6-1-5　現在の就労形態別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策④】

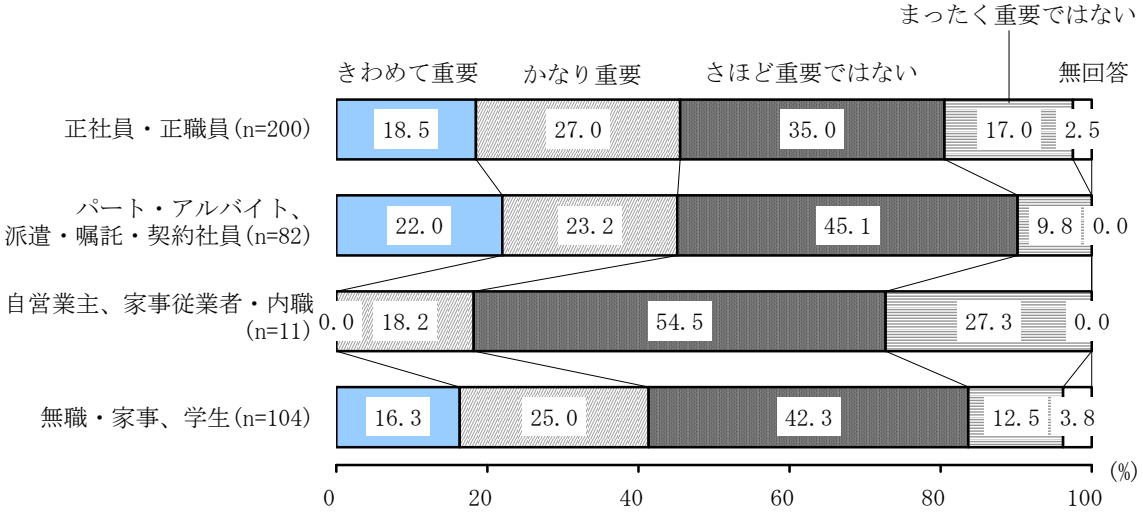
〔⑨小児医療体制整備など子どもの健康支援〕



〔⑩妊娠・出産の支援体制・周産期医療体制の充実〕

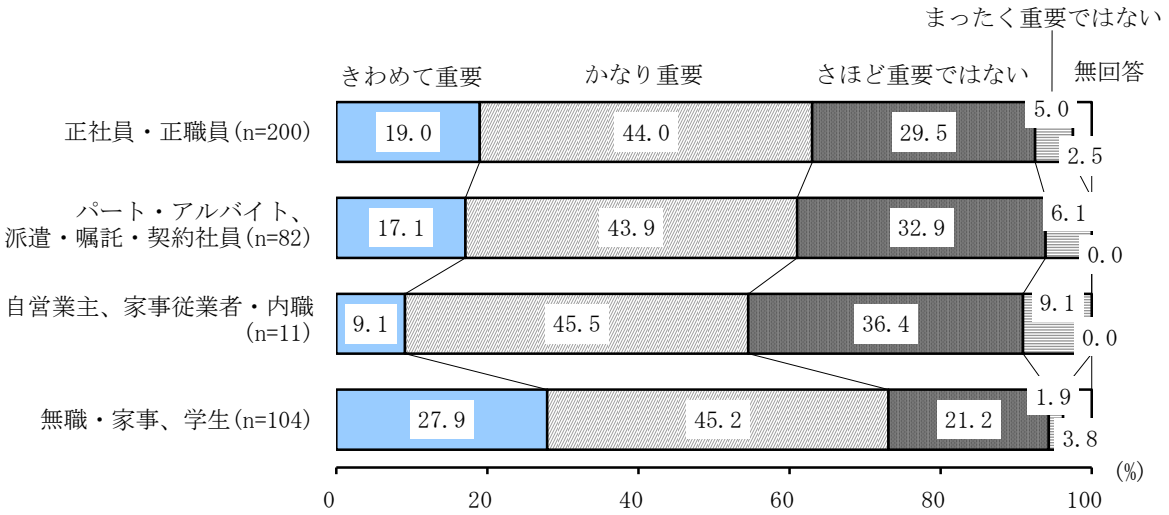


〔⑪ファミリー向け賃貸住宅の優先入居〕

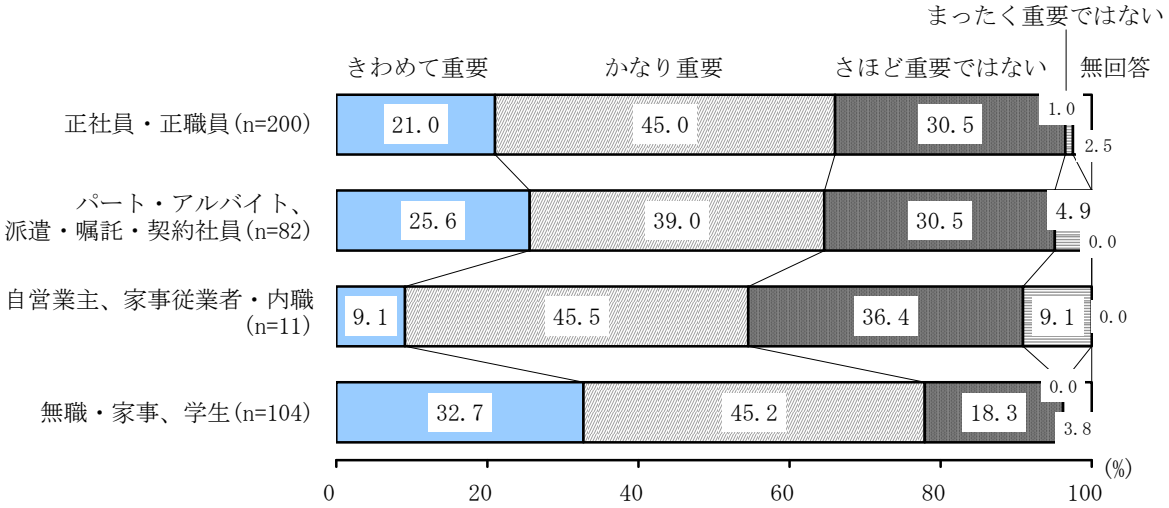


【図表6-1-5　現在の就労形態別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策⑤】

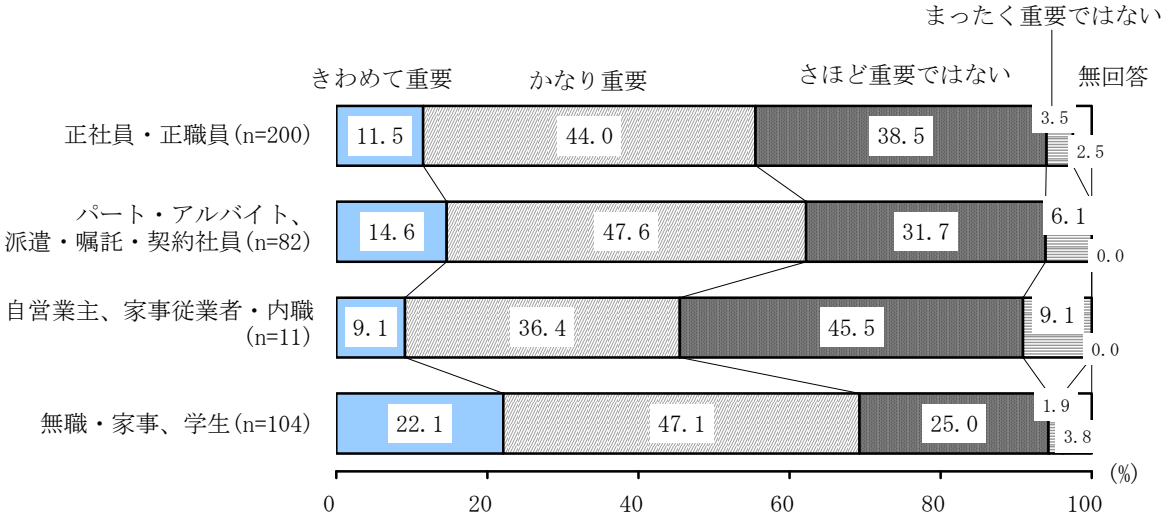
〔⑫親子を対象とした地域における子育て支援事業〕



〔⑬子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進〕

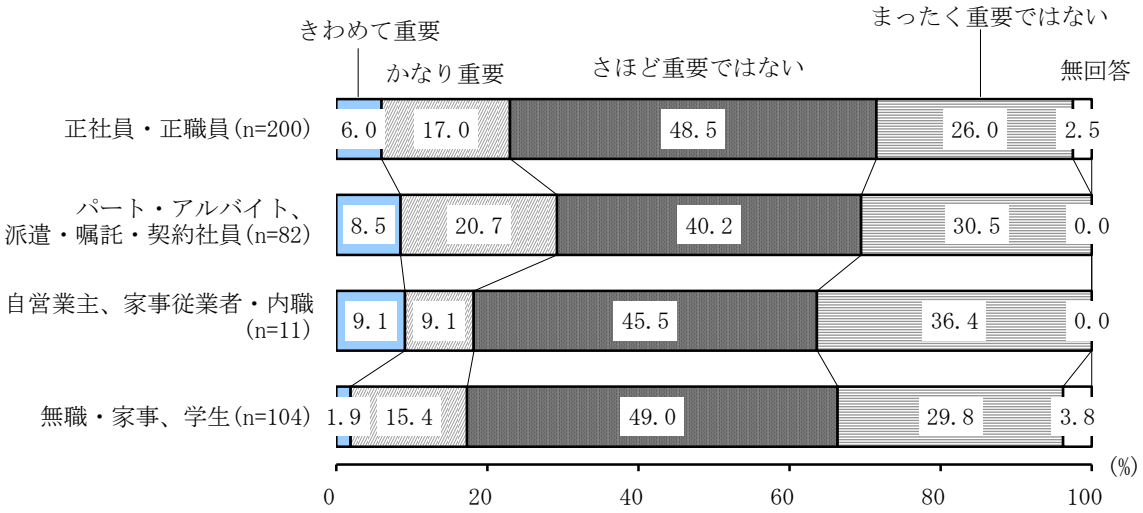


〔⑭自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業〕



【図表6-1-5　現在の就労形態別　結婚や安心して子どもを生み育てるための施策⑥】

〔⑮公的に男女の出会いの場を設けること〕



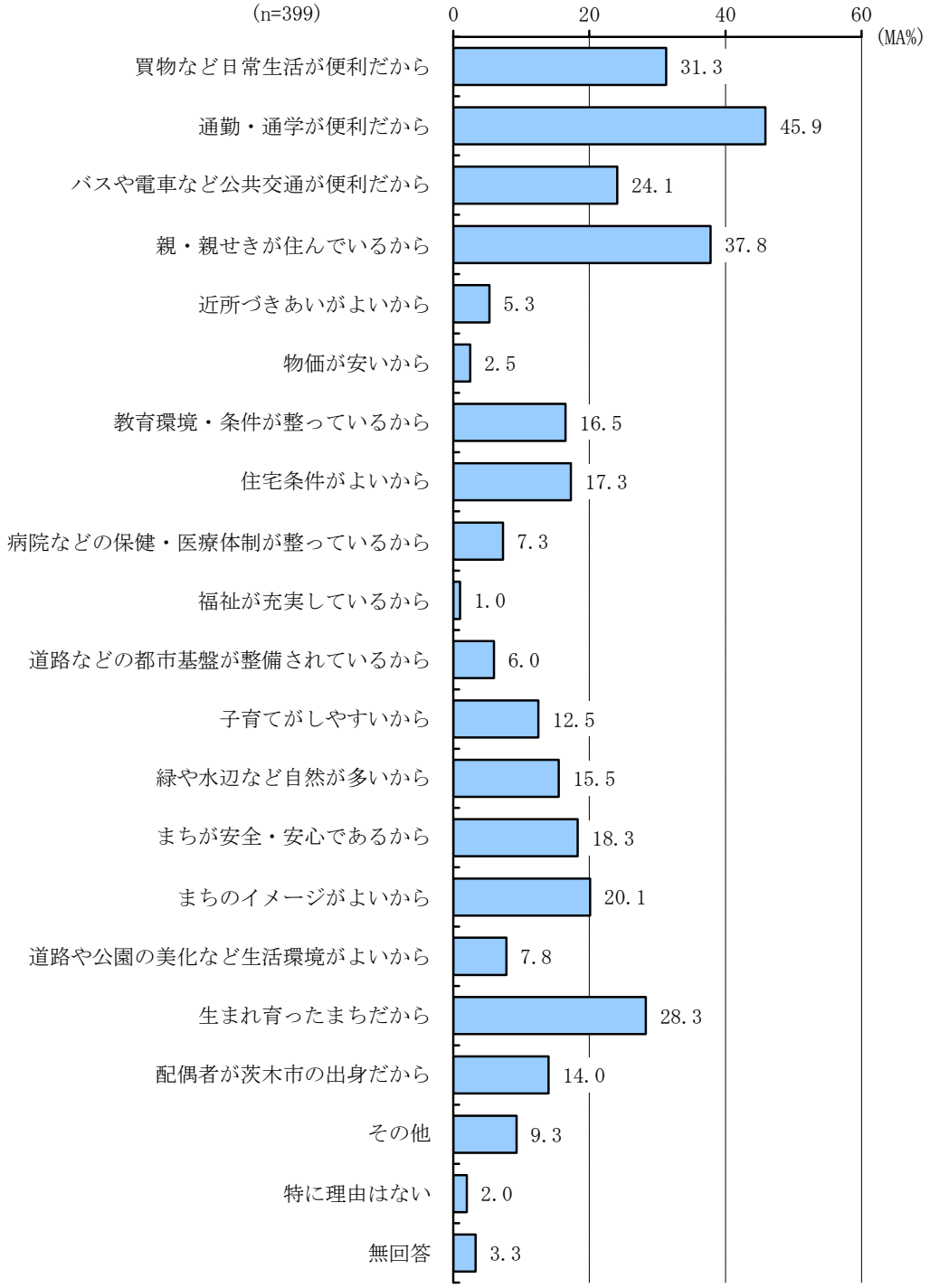
〔7〕茨木市での定住について（30～34 歳のみ回答）

（１）茨木市に住んでいる理由

問　あなたが茨木市に住んでいる理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

30～34歳の人に、茨木市に住んでいる理由をたずねると、「通勤・通学が便利だから」が45.9%で最も多く、次いで「親・親せきが住んでいるから」が37.8%、「買物など日常生活が便利だから」が31.3%、「生まれ育ったまちだから」が28.3%、「バスや電車など公共交通が便利だから」が24.1%となっている。（図表7-1）

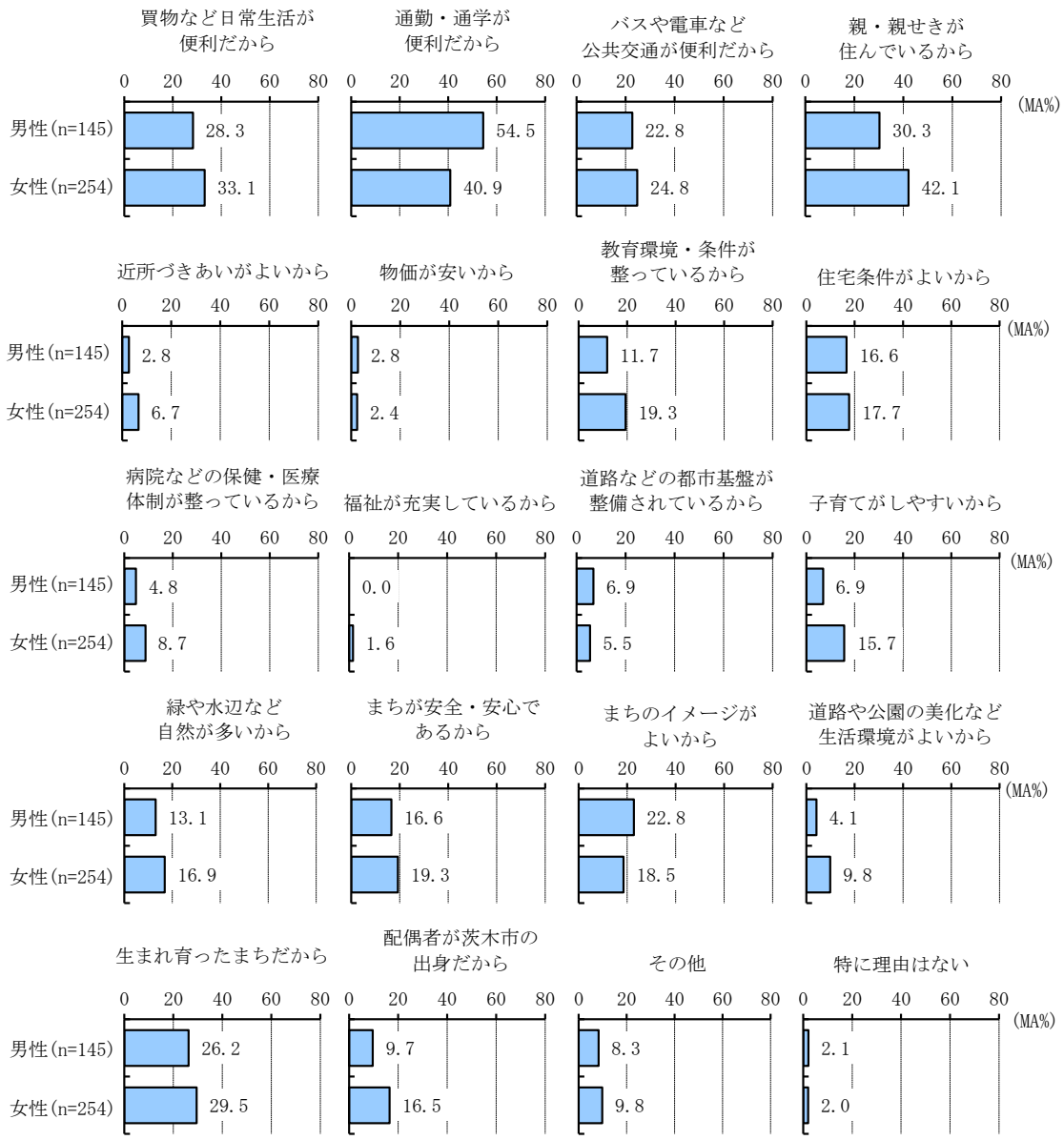
【図表7-1　茨木市に住んでいる理由】



［性別］

男性は「通勤・通学が便利だから」が54.5%で最も多く、女性（40.9%）より13.6ポイント高い。一方、女性は「親・親せきが住んでいるから」が42.1%で最も多く、男性（30.3%）より11.8ポイント高くなっている。また、男性に比べ、女性は「教育環境・条件が整っているから」（19.3%）が7.6ポイント差、「子育てがしやすいから」（15.7%）が8.8ポイント差で高くなっている。（図表7-1-1）

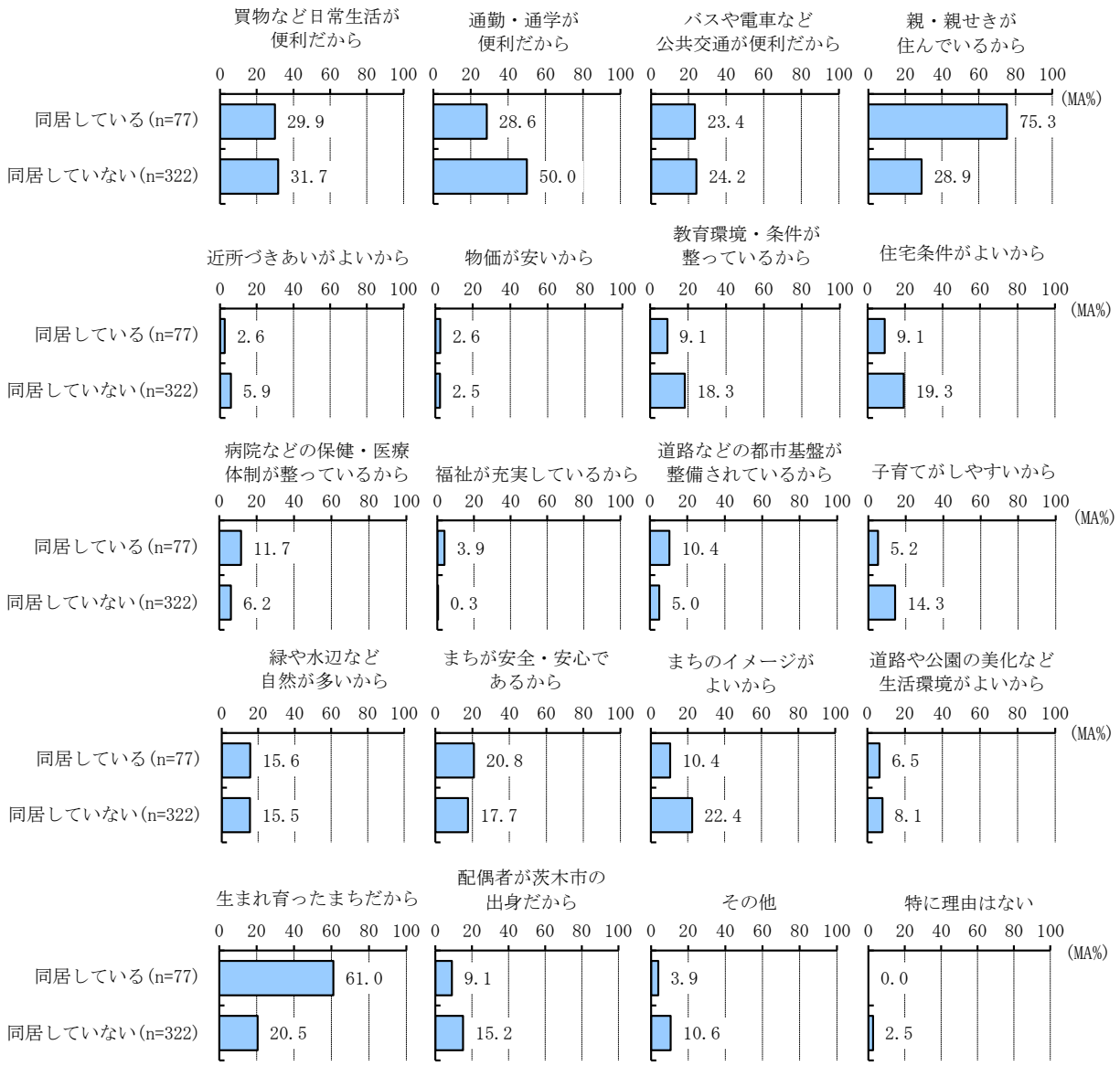
【図表7-1-1　性別　茨木市に住んでいる理由】



［親との同居・別居別］

親と同居している人は、「親・親せきが住んでいるから」が75.3%で最も多く、次いで「生まれ育ったまちだから」が61.0%となっている。一方、親と同居していない人は、「通勤・通学が便利だから」が50.0%で最も多く、次いで「買物など日常生活が便利だから」が31.7%となっている。また、親と同居している人に比べ、親と同居していない人では、「通勤・通学が便利だから」が21.4ポイント差、「まちのイメージがよいから」（22.4%）が12ポイント差、「住宅条件がよいから」（19.3%）が10.2ポイント差、「教育環境・条件が整っているから」（18.3%）が9.2ポイント差、「子育てがしやすいから」（14.3%）が9.1ポイント差で高くなっている。（図表7-1-2）

【図表7-1-2　親との同居・別居別　茨木市に住んでいる理由】

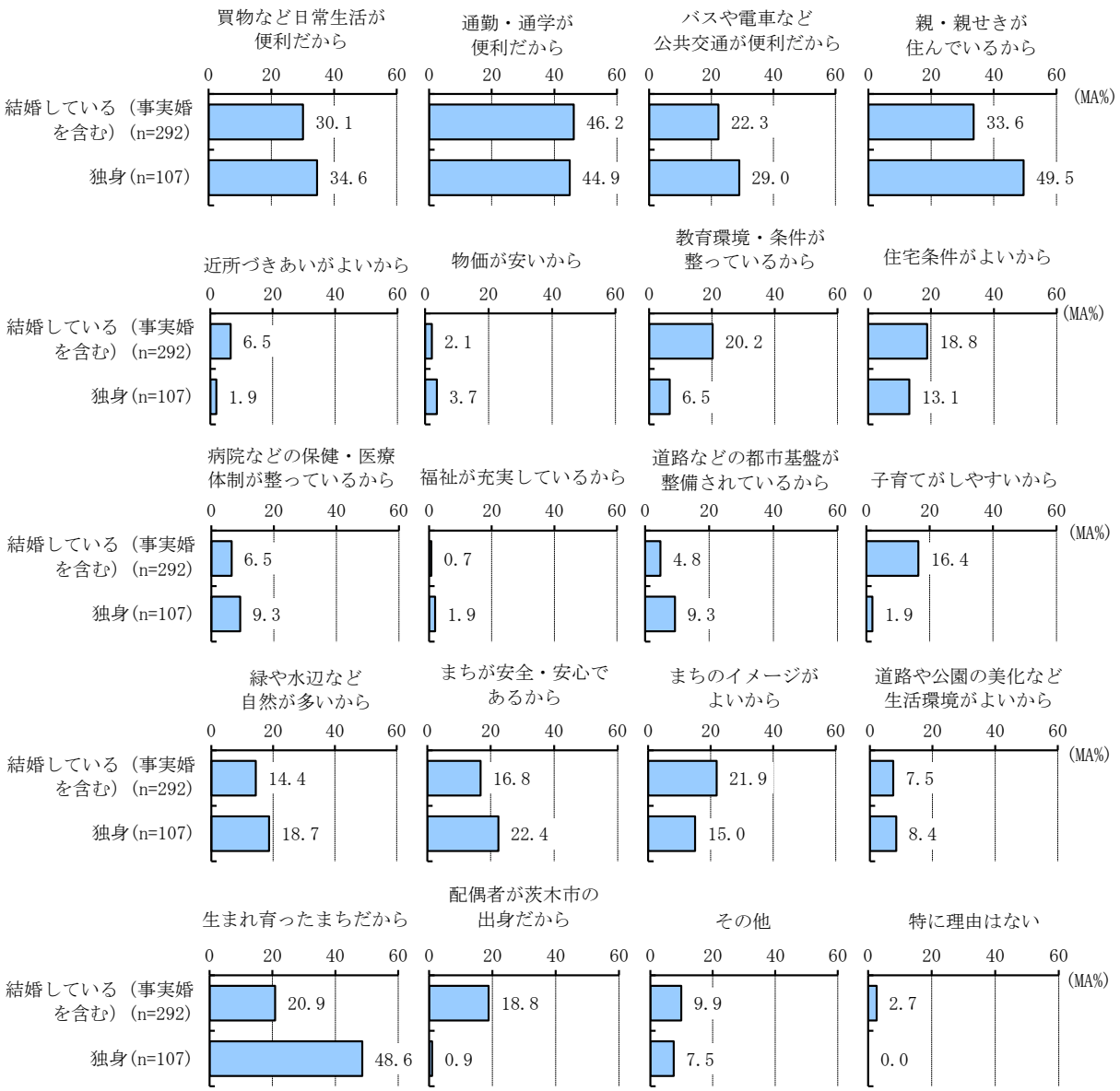


［未既婚別］

既婚者は、「通勤・通学が便利だから」が46.2%で最も多く、次いで「親・親せきが住んでいるから」が33.6%となっている。また、未婚者に比べ、既婚者は「まちのイメージがよいから」（21.9%）が6.9ポイント差、「教育環境・条件が整っているから」（20.2%）が13.7ポイント差、「住宅条件がよいから」（18.8%）が5.7ポイント差、「配偶者が茨木市の出身だから」（18.8%）が17.9ポイント差、「子育てしやすいから」（16.4%）が14.5ポイント差で高くなっている。

一方、未婚者は「親・親せきが住んでいるから」が49.5%で最も多く、次いで「生まれ育ったまちだから」が48.6%となっている。（図表7-1-3）

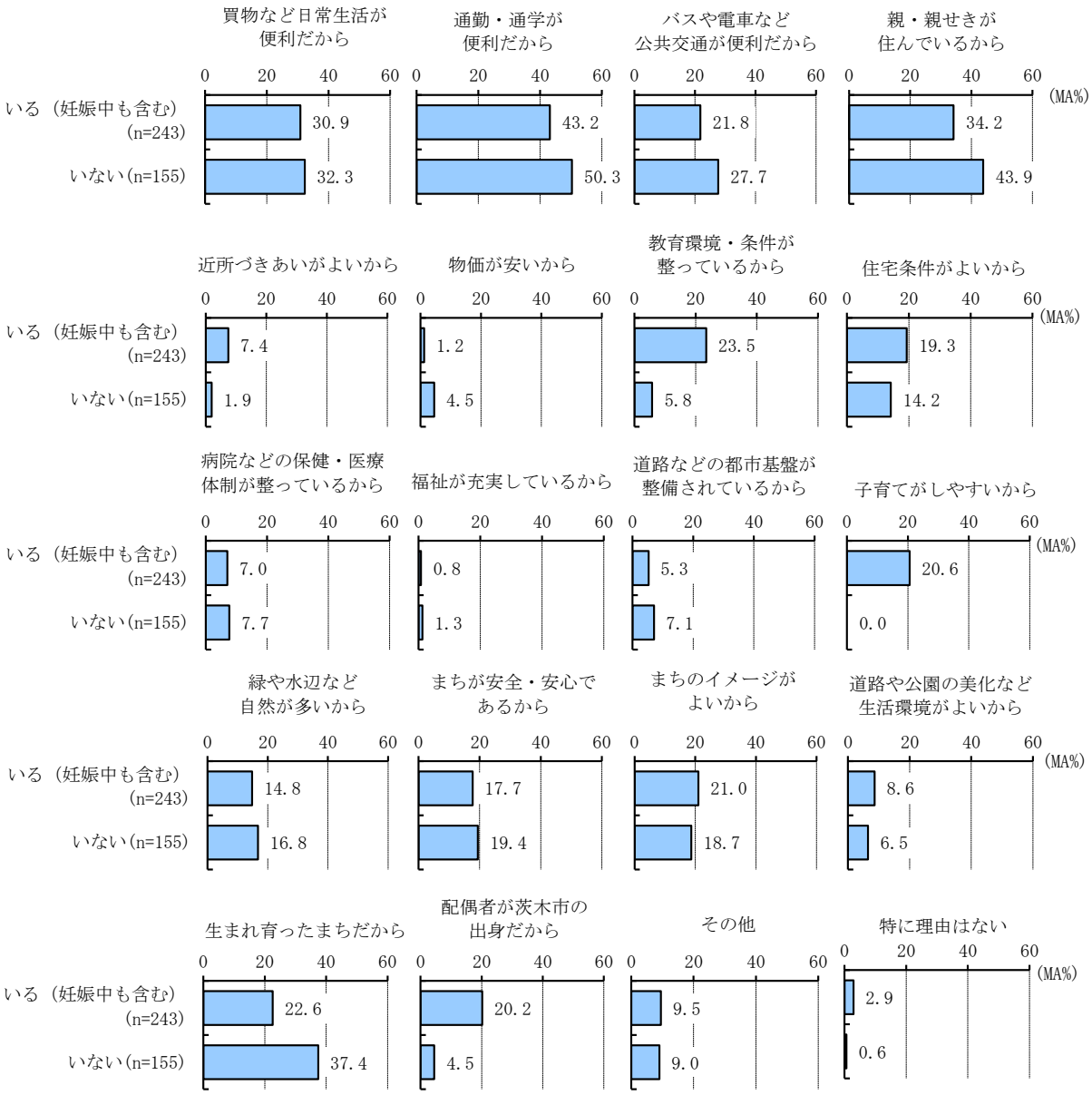
【図表7-1-3　未既婚別　茨木市に住んでいる理由】



［子どもの有無別］

子どもの有無に関わらず、「通勤・通学が便利だから」（いる 43.2%、いない 50.3%）が最も多く、次いで「親・親せきが住んでいるから」（いる 34.2%、いない 43.9%）となっている。また、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人では、「子育てがしやすいから」（20.6%）が20.6ポイント差、「教育環境・条件が整っているから」（23.5%）が17.7ポイント差、「配偶者が茨木市の出身だから」（20.2%）が15.7ポイント差で高くなっている。（図表7-1-4）

【図表7-1-4　子どもの有無別　茨木市に住んでいる理由】



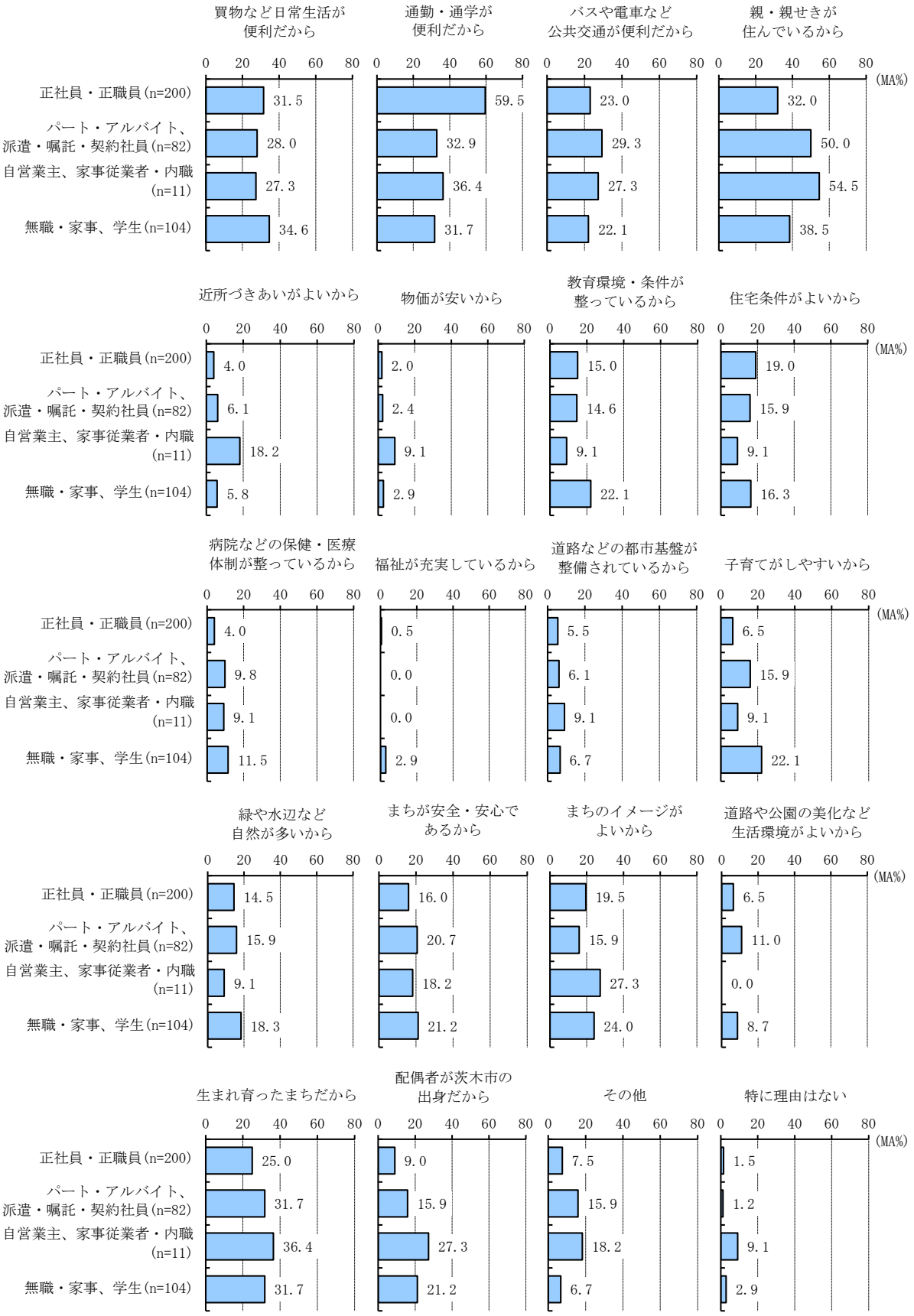
［現在の就労形態別］

正規労働者は「通勤・通学が便利だから」が59.5%、非正規労働者と無職等は「親・親せきが住んでいるから」（非正規 50.0%、無職等 38.5%）が、それぞれ最も多い。

また、「子育てがしやすいから」は、非正規労働者が15.9%、無職等は22.1%で、正規

労働者（6.5%）に比べ高い。（図表7-1-5）

【図表7-1-5　現在の就労形態別　茨木市に住んでいる理由】

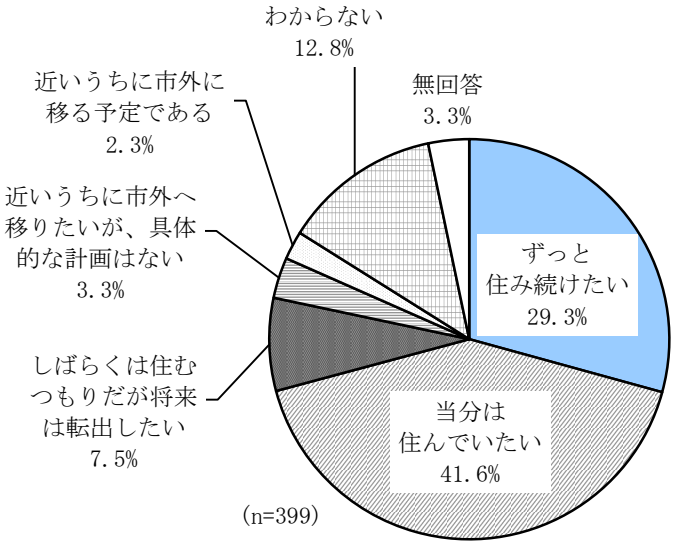


（２）茨木市の定住意向

問　あなたは、将来も茨木市に住み続けたいと思いますか。（○は１つ）

30～34歳の人の茨木市の定住意向は、「当分は住んでいたい」が41.6%で最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」が29.3%となっており、定住意向のある割合は70.9%を占めている。一方、転出意向のある割合（「しばらくは住むつもりだが将来は転出したい」と「近いうちに市外へ移りたいが、具体的な計画はない」、「近いうちに市外へ移る予定である」を合わせた割合）は13.1%となっている。（図表7-2）

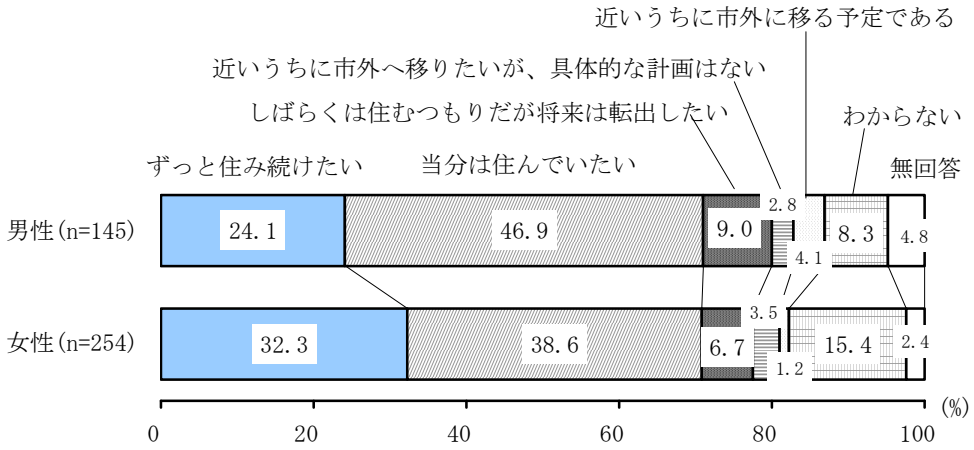
【図表7-2　茨木市の定住意向】



［性別］

男女とも「当分は住んでいたい」が最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」となっている。また、男性は「当分は住んでいたい」が46.9%で女性（38.6%）より8.3ポイント高くなっている。一方、女性は「ずっと住み続けたい」が32.3%で男性（24.1%）より8.2ポイント高くなっている。転出意向のある割合は、男性が15.9%、女性は11.4%となっている。（図表7-2-1）

【図表7-2-1　性別　茨木市の定住意向】



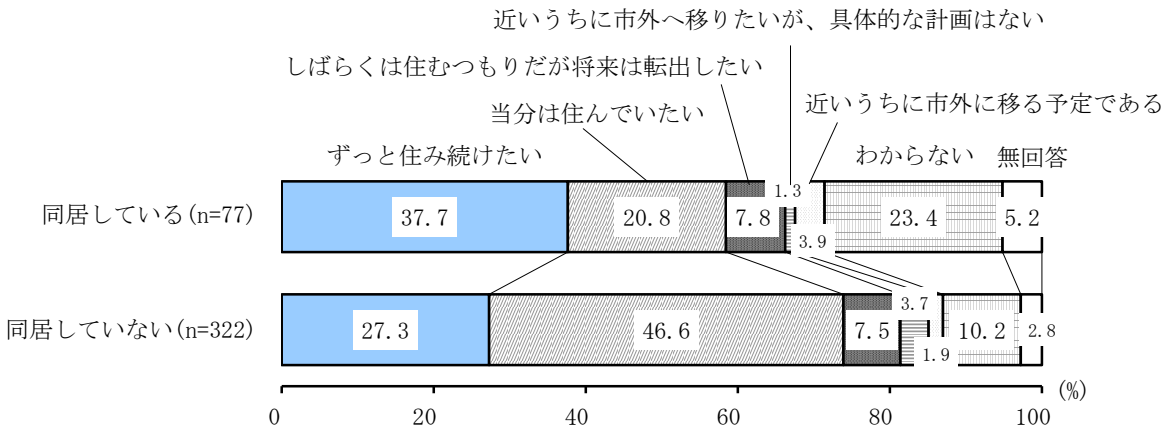
［親との同居・別居別］

親と同居している人は、「ずっと住み続けたい」が37.7%で最も多く、親と同居していない人（27.3%）より10.4ポイント高い。

一方、親と同居していない人は、「当分は住んでいたい」が46.6%で最も多く、親と同居している人（20.8%）より25.8ポイント高くなっている。

また、転出意向のある割合は、親との同居・別居に関わらず、13%台となっている。（図表7-2-2）

【図表7-2-2　親との同居・別居別　茨木市の定住意向】



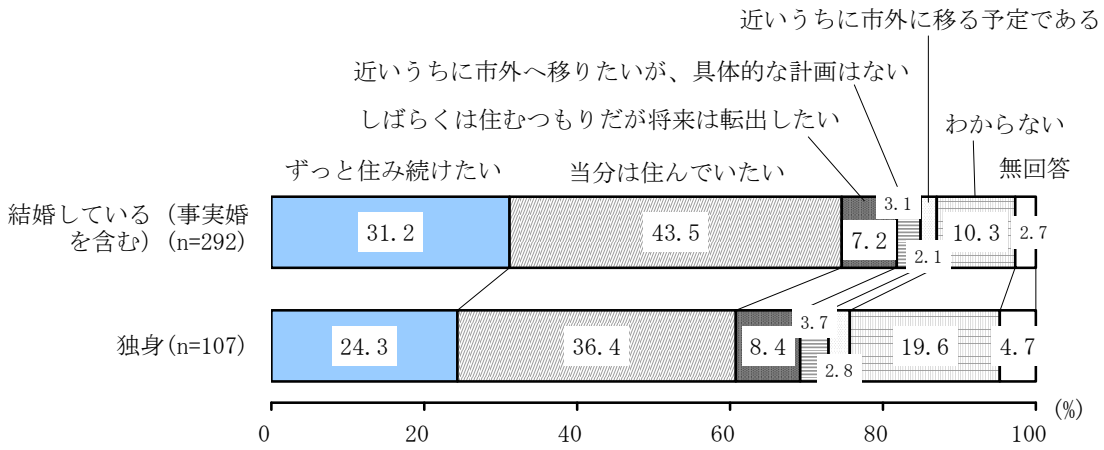
［未既婚別］

未既婚に関わらず、「当分は住んでいたい」が最も多く、既婚者が43.5%に対し、未婚者は36.4%で、既婚者のほうが7.1ポイント高い。

また、「ずっと住み続けたい」は、既婚者が31.2%で、未婚者（24.3%）に比べ6.9ポイント高くなっている。

転出意向のある割合は、既婚者が12.4%に対し、未婚者は14.9%となっている。（図表7-2-3）

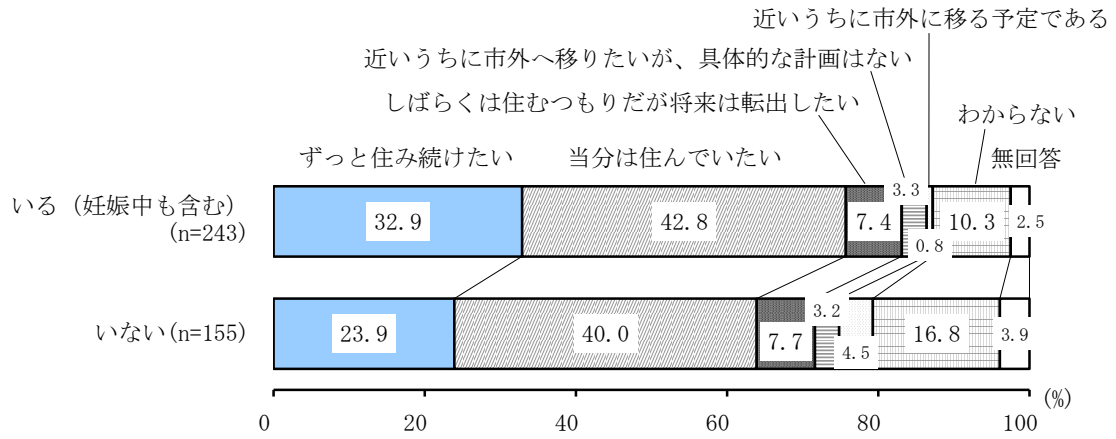
【図表7-2-3　未既婚別　茨木市の定住意向】



［子どもの有無別］

子どもの有無に関わらず、「当分は住んでいたい」が４割台で最も多くなっている。これに次いで「ずっと住み続けたい」が多く、子どもがいる人が32.9%に対し、子どもがいない人は23.9%で、子どもがいる人のほうが９ポイント高い。（図表7-2-4）

【図表7-2-4　子どもの有無別　茨木市の定住意向】

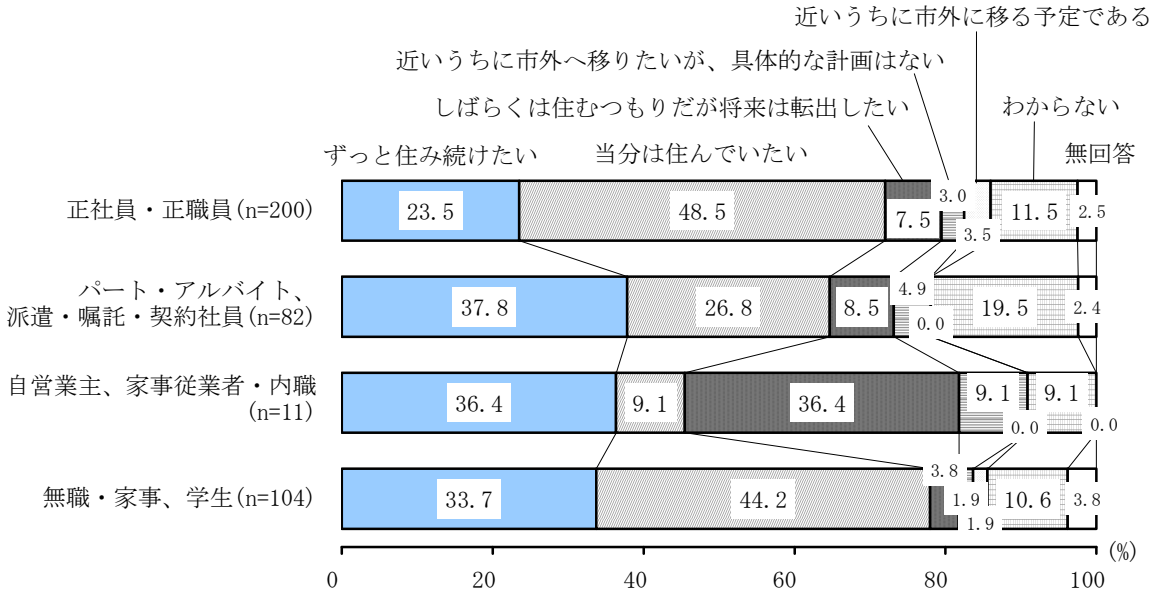


［現在の就労形態別］

「ずっと住み続けたい」は非正規労働者が37.8%と最も多く、無職等は33.7%で、正規労働者（23.5%）に比べて、どちらも10ポイント以上高い。

「当分は住んでいたい」は、正規労働者が48.5%、無職等が44.2%で、それぞれ最も多くなっている。（図表7-2-5）

【図表7-2-5　現在の就労形態別　茨木市の定住意向】



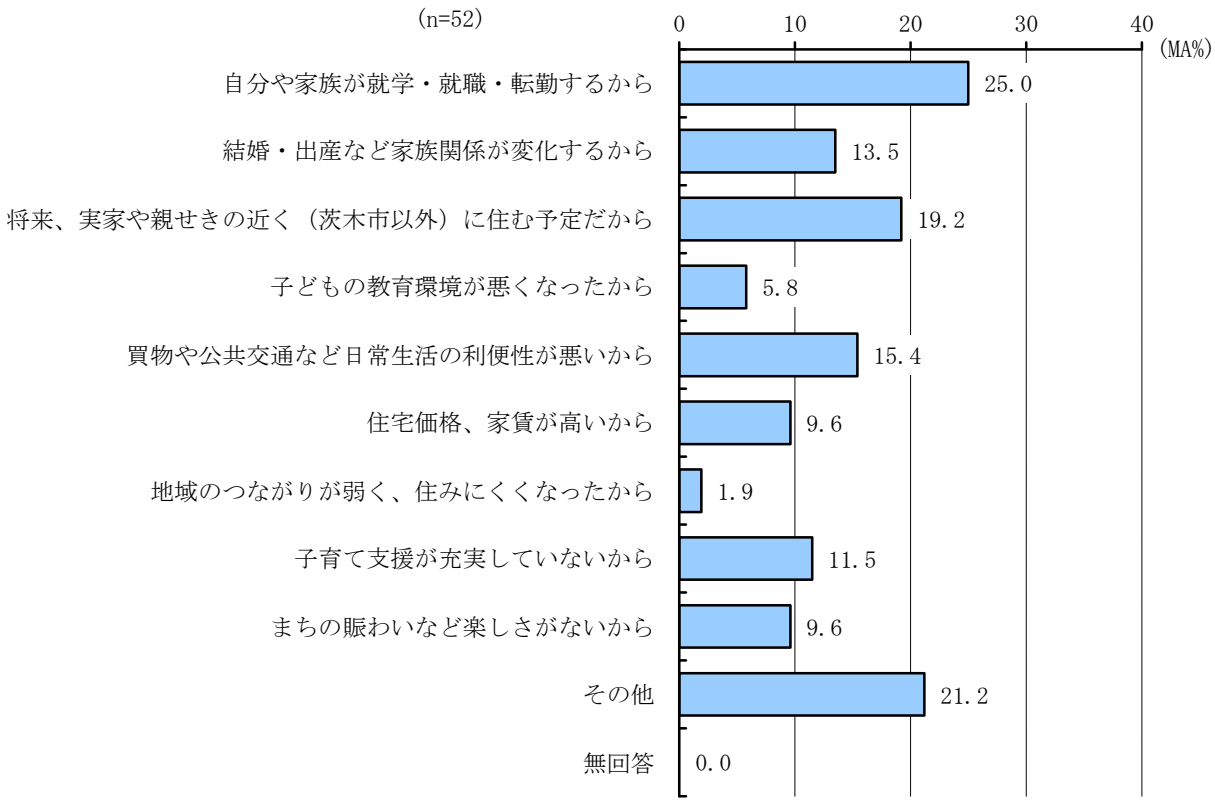
（３）転出したい理由

【転出したいと回答した方におうかがいします。】
問　転出したいと思う理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

30～34歳の転出意向のある人に、転出したい理由をたずねると、「自分や家族が就学・就職・転勤するから」が25.0%で最も多く、次いで「将来、実家や親せきの近く（茨木市外）に住む予定だから」が19.2%、「買物や公共交通など日常生活の利便性が悪いから」が15.4%となっている。

また、「その他」（21.2%　11人）では「道路が慢性的に渋滞して不便」（２人）や「親の他界」（１人）、「学区の問題」（１人）などが挙げられている。（図表7-3）

【図表7-3　転出したい理由】

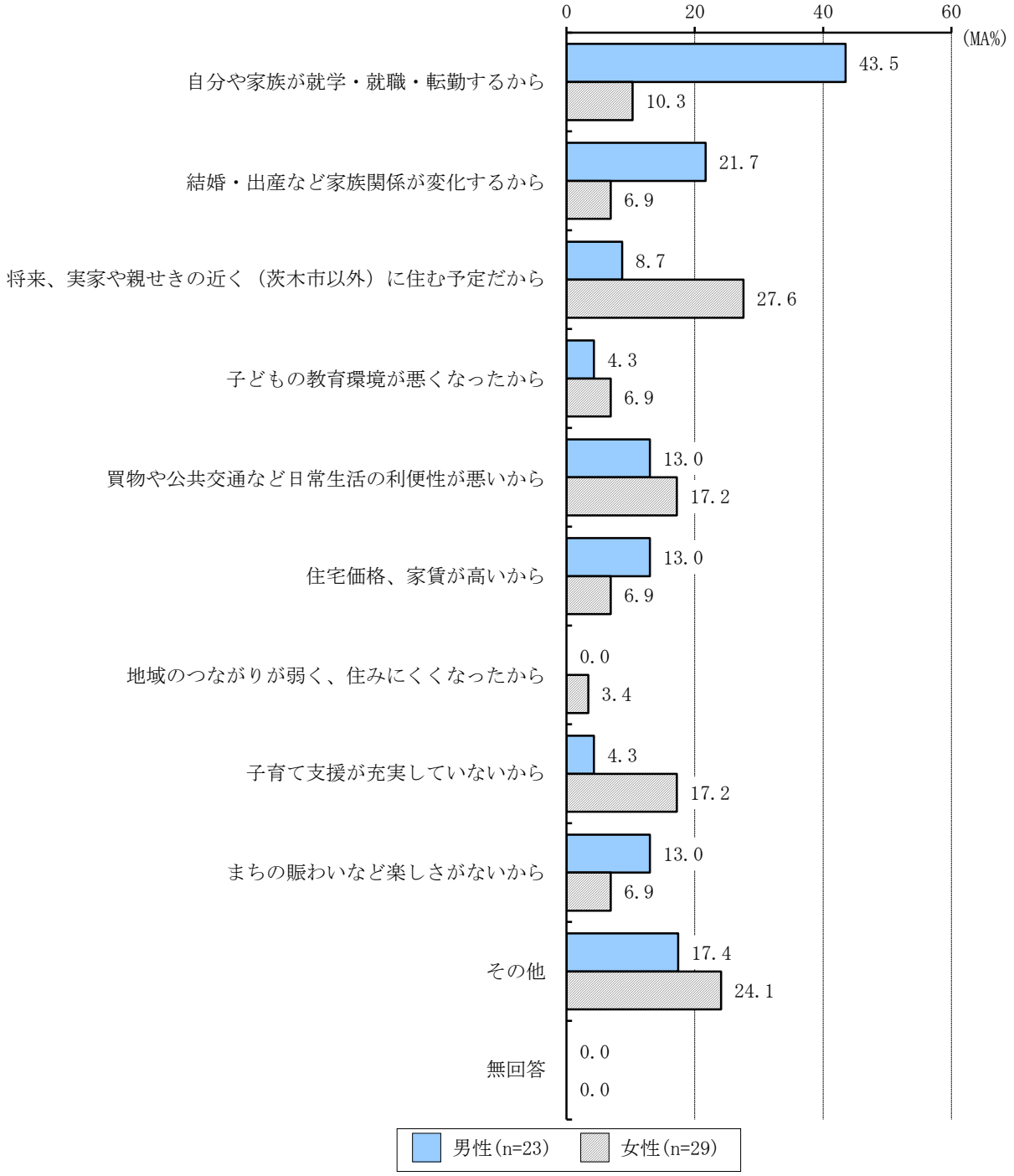


［性別］

男性は、「自分や家族が就学・就職・転勤するから」が43.5%（10人）で最も多く、次いで「結婚・出産など家族関係が変化するから」が21.7%（５人）と続いている。

一方、女性は「将来、実家や親せきの近く（茨木市以外）に住む予定だから」が27.6%（８人）で最も多く、次いで「買物や公共交通など日常生活の利便性が悪いから」と「子育て支援が充実していないから」がともに17.2%（５人）となっている。（図表7-3-1）

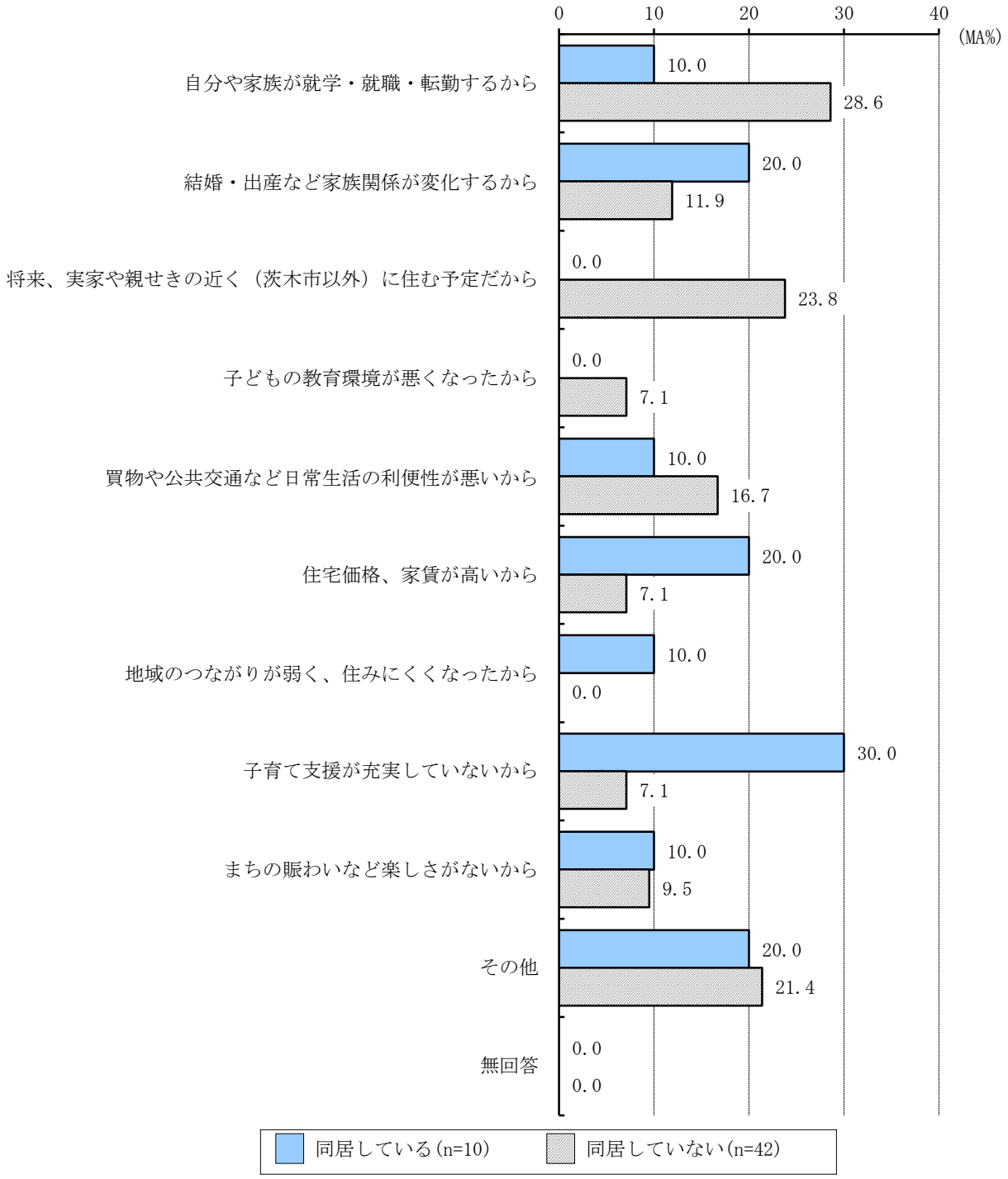
【図表7-3-1　性別　転出したい理由】



［親との同居・別居別］

親と同居している人では、「子育て支援が充実していないから」が30.0%（３人）が最も多い。一方、親と同居していない人では、「自分や家族が就学・就職・転勤するから」が28.6%で最も多く、次いで「将来、実家や親せきの近く（茨木市以外）に住む予定だから」が23.8%となっている。（図表7-3-2）

【図表7-3-2　親との同居・別居別　転出したい理由】

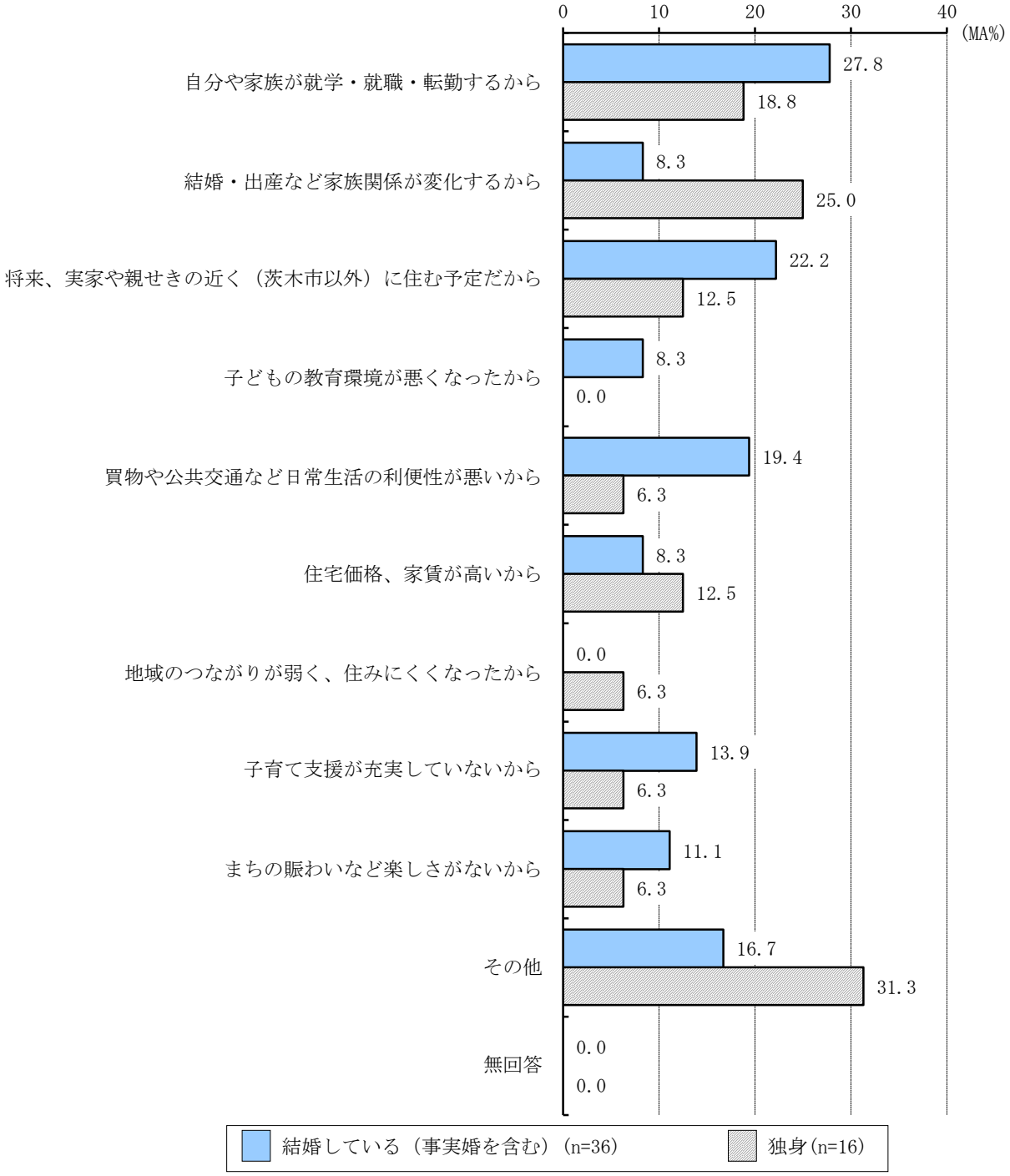


［未既婚別］

既婚者は、「自分や家族が就学・就職・転勤するから」が27.8%で最も多く、次いで「将来、実家や親せきの近く（茨木市以外）に住む予定だから」が22.2%と続いている。

一方、未婚者は、「結婚・出産など家族関係が変化するから」が25.0%（４人）が最も多くなっている。（図表7-3-3）

【図表7-3-3　未既婚別　転出したい理由】

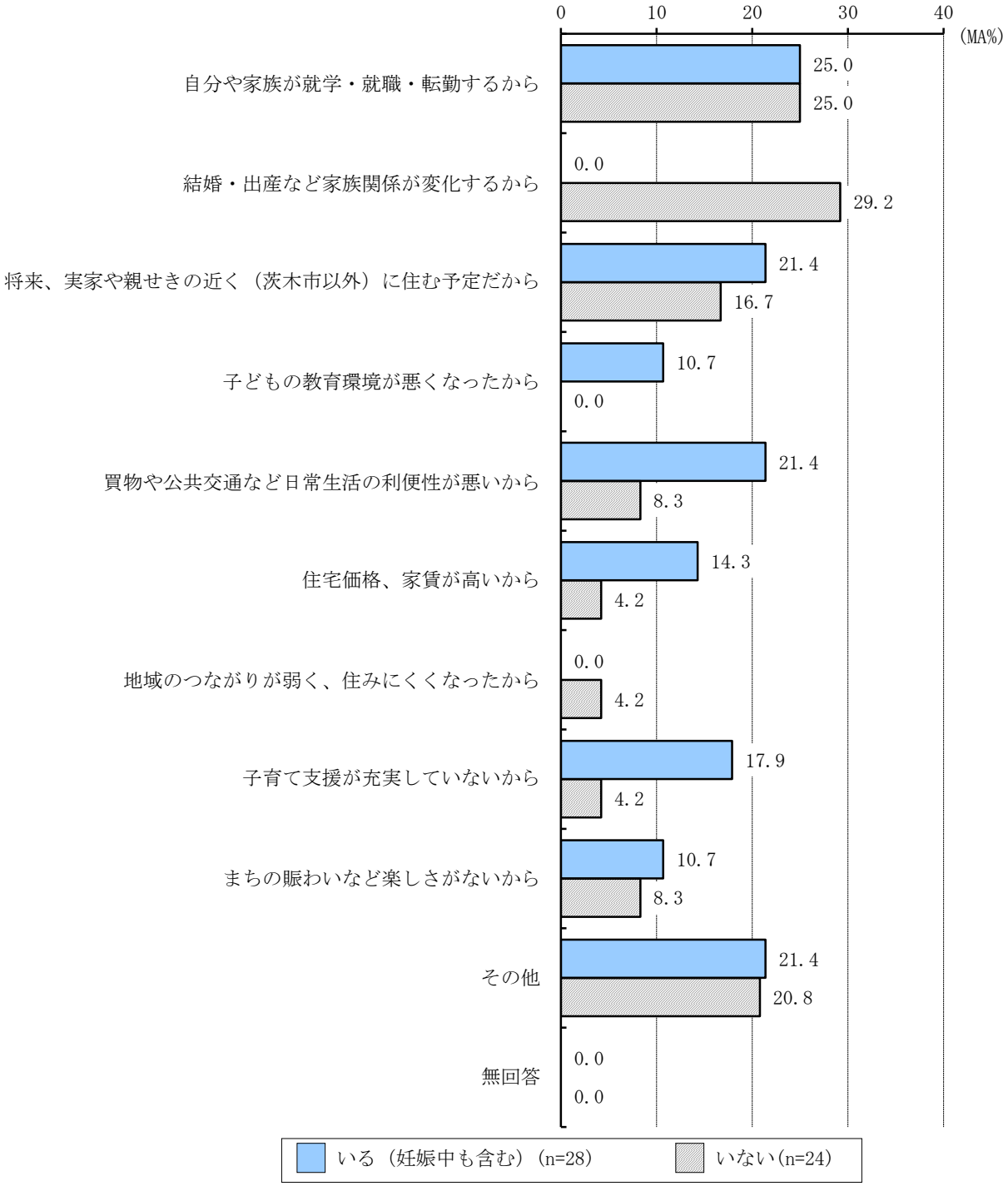


［子どもの有無別］

子どもがいる人は、「自分や家族が就学・就職・転勤するから」が25.0%（７人）で最も多く、次いで「将来、実家や親せきの近く（茨木市以外）に住む予定だから」と「買物や公共交通など日常生活の利便性が悪いから」がともに21.4%（６人）となっている。

一方、子どもがいない人は「結婚・出産など家族関係が変化する」が29.2%（７人）で最も多く、次いで「自分や家族が就学・就職・転勤するから」が25.0%（６人）となっている。（図表7-3-4）

【図表7-3-4　子どもの有無別　転出したい理由】



●自由意見

問　結婚、出産、子育て、少子化などについて、ご意見等がございましたら、下記の欄にどのようなことでもご自由にお書きください。

［大学生］

回答者数は49人となっており、そのうち最も多い意見は「子育て支援の充実」が６件、次いで「結婚の必要性の低下」が４件、「海外の制度・施策を参考にした改善」が３件と続いている。

【回答例】

○子育て支援の充実（６件）
・子育てに対して、もう少し援助を充実させるべき。
・少子化と嘆かれても、子育てできる環境がない。国からの補助、周りの支え、関心が全く整っていない中で産むのは不安で恐怖があります。少子化とか産めとか言う前に変わってほしいのは体制だ。
他　４件

○結婚の必要性の低下（４件）
・一生独りが楽。以上。
・結婚はしなくても大丈夫だと思う。
・結婚をする意味がわからない。
・結婚にあまり魅力を感じません。

○海外の制度・施策を参考にした改善（3件）
・少子化と騒いでいるが、その対策のための社会的仕組みができていないと思う。スウェーデンやノルウェーの子育て支援策を少しは参考にすべきだと思う。子どもを産まない理由を考えれば、社会制度と子育てのメリット・デメリットが釣り合わないと思う。
他　２件

その他内容（37件）含め、総合計50件の意見あり。

［30～34歳］

回答者数は202人となっており、そのうち最も多い意見は「第１子または次の子どもを産んでもいいと思える助成制度の充実」が20件、次いで「保育施設など子どもを預ける場所の増設」と「中学卒業まで医療費無料または医療費助成制度を拡充してほしい」がともに19件、「待機児童の解消」と「保育料や医療費など子育てに対する経済的支援の充実」がともに17件と続いている。

【回答項目】

順位	上位15項目	件数
1	第１子または次の子どもを産んでもいいと思える経済的支援の充実	20
2	保育施設など子どもを預ける場所の増設	19
	中学卒業まで医療費無料または医療費助成制度を拡充してほしい	19
4	待機児童の解消	17
	保育料や医療費など子育てに対する助成制度の充実	17
6	産後の職場復帰や再就職など社会復帰支援の充実	15
7	子育てと仕事の両立	12
	茨木市は住みやすいし、今後も期待している	12
9	歩道整備や衛生管理、治安の整備など安全安心な街づくり	11
10	経済面・就労面・保育支援等の不安から、結婚や子どもをつくる気になれない	10
	妊婦健診の無料化または助成金の増額など助成制度の充実	10
	保育施設や学童保育などの利用申込条件の緩和	10
13	高齢出産や不妊治療の助成制度の充実	8
14	補助や控除にかかる所得制限の撤廃または細分化してほしい	7
	安心して子育てできるサポート体制を整えてほしい	7

その他内容（113件）含め、総合計307件の意見あり

３　調査結果の考察とまとめ

〔１〕若者の結婚意識

①若者にとっての結婚することや家庭をもつことの是非

今回、大学生を対象に実施した調査（以下、「大学生調査」という。）で、「生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」という意見に賛同するかどうかたずねたところ、賛同する大学生は56.9％で過半数を占めている。これに対し賛同しない大学生が42.0％で、２～３人に１人は生涯独身を通すことを容認している。一生独身でいることは望ましいことではないと考えている若者が過半数を占めているが、一方で必ずしも結婚する必要はないと考えている若者も少なくない。

また、このような考え方は、男女で違いがみられる。「生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」という意見に賛同する割合は、男性が69.9％に対し女性は51.3％、逆に賛同しない割合は、男性が28.9％に対し女性は47.6％で、生涯を通して結婚する必要性を必ずしも感じていないのは女性で高くなっている。また、「男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである」ことに賛同する割合は、男性が69.9％に対し女性は59.3％で、女性に比べ男性のほうが結婚にこだわる傾向が強い。さらに、「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」について賛同しない割合は、男性が61.3％に対し女性は73.2％で、女性で性別役割分担を否定する意識が強い。

結婚することや家庭をもつことに対し保守的な考え方やこだわりは、男性のほうで強く残っている。これに対し、女性は、結婚は人生の中での選択肢のひとつであるととらえ、男性に比べ女性のほうが結婚する、しないの自由度が高い様子がうかがえる。

②若者が結婚に抱くイメージ

結婚することについて、若者はどのようなイメージをもっているのか。

大学生調査の結果では、男性の場合、「家族を養う責任が生じる」（66.5％）が最も多く、次いで「自分の子どもや家族をもてる」（64.7％）、「精神的な安らぎの場が得られる」（53.2％）が上位３項目となっている。一方、女性の場合、「自分の子どもや家族をもてる」（72.2％）が最も多く、これに次いで、「愛情を感じている人と暮らせる」（53.4％）、「家族を養う責任が生じる」（47.4％）となっている。

30～34歳の男女を対象とした調査（以下「30～34歳調査」という。）の場合も回答の傾向は、男女とも大学生と変わらないが、未婚者に限ってみると、「自分の子どもや家族をもてる」が70.1％で最も多く、これに次いで「家族を養う責任が生じる」と「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」がともに58.9％で、10ポイント以上の差となっている。既婚者でも「自分の子どもや家族をもてる」（82.9％）や「精神的な安らぎの場が得られる」（64.4％）が「家族を養う責任が生じる」（53.4％）を大きく引き離しており、大学生、30～34歳とも男性において、結婚して一人前、あるいは結婚することが当たり前という意識が薄れている昨今の社会状況の中、“家庭の大黒柱”として家族を養う責任を感じている傾向が強い。

③若者の結婚願望

そもそも若者は結婚したくないと思っているのか。

大学生調査及び30～34歳調査の結果では、独身の人で「結婚する気はない、生涯独身でいたい」と回答した割合は10％程度で、80％以上は結婚したいと回答し、若者の結婚願望はむしろ高い。しかし、30～34歳調査の結果をみると、「結婚する気はない、生涯独身でいたい」の割合は、正規労働者（6.6％）に比べ、非正規労働者（18.5％）で高く、就労形態の不安定さが結婚意欲の低下に多少なり影響を与えている側面もみられる。

全般に若者の結婚願望は強くなっているが、実際、結婚すること自体にどの程度こだわりをもっているのか。

「ある程度の年齢までには結婚するつもり」は、大学生が60.3％に対し、30～34歳は46.8％となっている。一方、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」は、大学生が38.6％に対し、30～34歳は53.2％となっている。結婚すること自体を重視する傾向は大学生で、結婚相手によりこだわる傾向は30～34歳で強いことがうかがえる。ただ、結婚相手によりこだわる傾向は、大学生、30～34歳とも女性に比べ男性のほうが、また、現在恋人がいる人に比べいない人で、それぞれ強い。独身の若者が結婚したいと思っている平均年齢は、大学生調査の結果では27.1歳、30～34歳調査の結果では35.3歳となっている。おそらく、恋人や結婚相手がすでにいる場合を除いて、大学生が回答した理想の結婚年齢あたりを過ぎると、30～34歳のように、結婚年齢へのこだわりが薄くなり、自分の価値観等にあった理想の相手が見つかるまで追求した結果、結婚しにくい年齢を迎える状況になってしまうものと考えられる。

④結婚したくない・生涯独身でいたい若者の理由

一方、元々結婚を望まない若者も回答者の10人に１人は存在している。その理由として、大学生の場合は、「結婚する必要性を感じないから」（全体57.9％、男性47.1％、女性62.5％）、「趣味や娯楽を楽しみたいから」（全体49.1％、男性58.8％、女性45.0％）、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（全体40.4％、男性64.7％、女性30.0％）が多い。また、自由記述の中にも、「一生独りが楽」「結婚はしなくても大丈夫だと思う」「結婚をする意味がわからない「結婚にあまり魅力を感じません」などの意見があった。

また、30～34歳でも、「結婚する必要性を感じないから」（72.7％、８人）が最も多くなっており、結婚願望のない若者は、結婚に対し冷めた目線でみている様子がうかがえる。

大学生の結婚したくない理由を親との同居・非同居別でみると、「結婚する必要性を感じないから」の割合は、親と同居している若者（同居60.9％、非同居45.5％）で高く、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」は、親と同居していない若者の割合（同居32.6％、非同居72.7％）が高い。

⑤結婚の際の障害

若者にとって、結婚の障害はどのようなことか。

大学生調査の結果では、男性は「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」（37.5%）、「結婚生活のための住居」（33.6%）が多い。一方、女性は「職業や仕事上の問題」（38.6%）、「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」（36.5%）が多い。

また、30～34歳調査の独身者の結果では、男女とも「職業や仕事上の問題」（男性33.3%、女性 32.7%）が最も多くなっている。これに次いで、男性は「結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用」（25.6%）、「年齢上のこと」（15.4%）、「健康上のこと」（12.8%）が多い。一方、女性は、「年齢上のこと」（27.3%）が多い。

⑥結婚相手との出会い

結婚は相手がいて初めて成り立つものであるが、結婚につながりそうな交際相手の状況はどうなっているのか。

大学生調査の結果では、「結婚を前提に付き合っている相手がいる」割合は、男性7.5%に対し女性は7.0%で大差ない。また、「現在結婚が前提ではないが、恋人はいる」は男性25.4%に対し女性28.2%で、こちらも男女間の差は大きくない。

一方、30～34歳調査の独身者の結果をみると、「結婚を前提に付き合っている相手がいる」割合は、男性10.6%に対し女性16.7%、「現在結婚が前提ではないが、恋人はいる」は男性14.9%に対し女性21.7%と、30～34歳では男性の割合のほうがいずれも低くなっている。大学生も30～34歳も、結婚相手の候補となりうる交際相手がいる若者は限定的であり、特に30～34歳の男性ではその範囲はさらに狭められ、７割以上には交際相手がいない状況であることがわかる。

現在恋人はいない若者の交際相手との出会いのきっかけの希望をみると、大学生の場合は「職場や仕事の関係で」が71.7%で最も多く、次いで「学校で」が39.1%となっている。一方、30～34歳の場合も、「職場や仕事の関係で」が47.6%で最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」が39.0%となっている。いずれも出会いの場として職場を望む割合が高いが、特に大学生の割合は２位以下を大きく引き離しており、行動範囲が広く、一見出会いの場が様々あると思われる学生のほうが限定的となっている。

■若者の結婚意識に関する結果からみえてきた課題

〇男女それぞれが持つ結婚観や家族・夫婦の役割規範のギャップを埋める取組

・生涯を通して結婚する必要性を必ずしも感じていない割合は、男性に比べ女性のほうが高く、結婚は人生の選択肢のひとつであり、結婚する、しないは個人の自由との意識が女性で強い。

・女性がこのような意識を持つ背景には、結婚することで介護をはじめ、家事や親族間のつきあいなどの「嫁としての役割」「主婦として役割」が付加され、自分の仕事や生活が犠牲になるのではないかという不安の表れがあるものと考えられる。これは結婚の障害で「職業や仕事上の問題」が女性で高かったことと、男性で家族を養う責任感という伝統的な父権意識が強いことと符合している。

・結婚後の目指すべき夫婦・家族像を共有する学びの機会を提供したり、伝統的な社会慣行を是正することの実践の意義を相互に理解し合う、気の長い取組を通じ、男女が結婚に対して持つこのような規範意識のギャップを埋めることが必要である。

〇結婚することに対して抱く固定観念を払しょくする取組

・結婚したいと考えている若者は80%以上を占めているのに対し、「結婚する気はない、生涯独身でいたい」は10%と少ない。結婚する気はない、生涯独身でいたい理由は、「結婚する必要性を感じない」「趣味や娯楽を楽しみたい」「独身の自由さや気楽さを失いたくない」が上位となっている。

・一方、結婚願望のある若者のうち、「理想的な相手が見つかるまで」が大学生に比べ30～34歳の年代で高く、特に男性、または交際相手がいない人で高くなっている。

・2013年２月に株式会社明治安田生活福祉研究所が全国20～49歳の男女を対象に実施した「結婚・出産に関する調査」の結果で結婚に対するイメージの上位５項目をみると、男性では「我慢」「幸せ」「家族」「生活」「墓」が、女性では「家族」「忍耐」「我慢」「幸せ」「生活」となっている。結婚することについて、男性は“やりたいことを我慢して、家族や幸せを得る”、女性は“我慢レベルを超える忍耐が必要”というイメージをそれぞれ抱いており、このようなイメージが固定観念化した結果、結婚は“必要ない”や“自由がなくなる”など、結婚に対しネガティブイメージを生みだしたり、このようなイメージを乗り越えさせてくれる結婚相手を一途に求め、その結果、晩婚化・非婚化につながっているのではないかと考えられる。

・既婚者から結婚のきっかけや結婚生活などについて直接話を傾聴するなど、結婚という行為からみえてくる現実と自らの結婚観を照らしあわせ、固定観念の是正につなげる取組が必要である。

○結婚したい気持ちがあっても、異性と出会えない“カベ”の克服

・80%以上の若者には結婚願望があるが、結婚相手の候補となりうる交際相手がいる若者は少なく、７割以上に交際相手がいない状況である。

・交際相手の出会いを「職場や仕事の関係」で求める割合が突出して高く、出会いのきっかけとして若者が求める選択肢は狭い。

・厚生労働白書でも指摘があったように、かつては、ある程度の年齢となると、職場や親戚等のあっせんによって結婚相手の候補となる異性に出会える機会（お見合い）が多くあったが、現在は、結婚や男女の交際に対する考え方の自由度が高まったことで、個人のコミュニケーション力に依るところが大きくなり、結果として結婚相手の候補や交際相手を持てない男女が増加しているものと考えられる。

・かつてのように、職場の上司や身内の“おせっかい”を復活させ、お見合いや結婚相手の紹介など、異性との出会いに恵まれない若者に出会いの機会を与える取組が必要である。

〔2〕若者の子どもを生み育てることへの意識

①若者にとっての子どもを生み育てることの是非

大学生調査の結果で、「結婚したら、子どもは持つべきだ」という意見に賛同する大学生は56.4%で過半数を占めている。これに対し賛同しない大学生は41.6%となっている。性別でみると、この意見に賛同する割合は、男性が63.0%に対し女性は53.4%で男性のほうが9.6ポイント高い。また子育てについて、「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」に対し賛同する割合は男性が75.8%に対し女性は66.7%で、これについても男性のほうが高くなっている。一方、「老後のことを考えると子どもはいたほうがよいと思う」や「子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う」「親にも子育てに協力してもらいたいと思う」はいずれも男性に比べ女性の割合のほうが高くなっている。

②子どもの必要性に対する意識

30～34歳の回答者のうち、子どもがいる割合は57.6%で、子どもの人数は、「１人」（47.4%）が最も多く、「２人」（40.9%）、「３人以上」（11.7%）の順となっている。

また既婚者では親と同居・非同居に関係なく、子どもがいる割合は７割を占めている。

子どもはいらないとの回答は、大学生が8.9%、30～34歳が3.0%で、わからない・無回答の割合を除くと９割前後が理想としてはほしいと回答している。

大学生の子どもがいらない理由は、男性の場合、「経済的負担が大きい」「子どもを育てる自信がない、育て方がわからない」「時間のゆとりがなくなる」「結婚する気がない」が、女性の場合は「自分の人生を生きるのに精一杯」や「心理的負担が大きい」「時間のゆとりがなくなる」が多くなっている。また、結婚する気はない・一生独身でいたいと考えている人では、「子どもはいらない」（54.4%）が半数を超え、その理由として、「時間のゆとりがなくなる」「心理的負担が大きい」「自分の人生を生きるのに精一杯」が３大理由となっている。

30～34歳の場合、「子どもはいらない」の割合は、既婚者（1.4%）に比べ未婚者（7.5%）の割合が高くなっている。

③理想の子どもの数と現実に生み育てたい子どもの数とのギャップ

子どもがほしいと回答した人のうち、理想の子どもの人数は、大学生・30～34歳とも「２人」が最も多い（大学生58.5%、30～34歳46.6%）。これに次いで「３人」が多くなっている（大学生18.3%、30～34歳34.8%）。大学生・30～34歳とも、男女、親との同居の有無に関係なく、理想の子どもの人数の傾向に違いはない。

一方、30～34歳で子どもが１人いる場合、理想の子どもの人数は「２人」（57.8%）が半数を超え、「３人」（30.3%）も３割となっている。子どもが２人いる場合でも「３人」（55.3%）が半数を超え、理想の子どもの人数は実際の子どもの人数に１～２人加えた人数となっている。しかし、現実に生み育てたい子どもの人数をみると、子どもが１人いる場合、現実に生み育てたい人数は「２人」（66.6%）で「３人」は8.5%と少なくなって

いる。また、２人いる場合も「２人」（74.5%）が多く、「３人」は19.1%、３人以上子どもがいる場合では「３人」（68.0%）が多く、これに次いで「２人」が16.0%となっている。現実に生み育てる場合になると、多くても２人までか、現在育てている子どもの人数までとする回答者が多く、理想の人数とにギャップがみられる。

④理想と現実にギャップが生まれる要因

30～34歳で子どもがいらないと回答、または、理想の子ども人数が現実よりも少ない理由は、子どもの有無に関係なく、「経済的負担が大きいから」（子どもがいる人84.7%、いない人66.0%）が最も多い。また、子どもがいない人では「出産するには高齢だから」（46.0%）、「将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから」（34.0%）が上位となっている。

高齢出産に対する不安感をみると、大学生・30～34歳とも「とても不安に思う」が4割前後（大学生41.1%、30～34歳35.1%）で、どちらかといえば不安に思うを加えると、両者とも８割を超える。特に、30～34歳で子どもがいない回答者では「とても不安に思う」が43.9%で、子どもがいる人の29.6%に比べ不安を強く抱いている。

⑤大学生が抱く子育てに対する負担感・不安感

「子どもの将来の教育にお金がかかる」（62.2%）が最も多い。これに次いで「子どもの健康面や障害、病気、けが等」（50.7%）、「子どもが小さいときの子育てにお金がかかる」（47.0%）、「子どもの相手は体力や根気がいる」（44.0%）など、経済的な面で負担・不安を感じている大学生が多い。

性別でみると、男女とも「子どもの将来の教育にお金がかかる」や「子どもの健康面や障害、病気、けが等」が多くなっている。また、「子どもの相手は体力や根気がいる」「自分が思ったように働けなくなる」の割合は男性に比べ女性で高くなっている。しかし、子育てに経済的負担を感じている一方で、「子どもにはできるだけお金をかけたいと思う」に賛同する割合が男女とも８割を超えている。

結婚の意向の有無にかかわらず、「子どもの将来の教育にお金がかかる」が多い。一方、結婚する気はない・生涯独身でいたい人のこの割合はやや低く、「自分の自由な時間がなくなる」（47.4%）や「子どもにどのように接すればよいかわからない」（28.1%）が高くなっている。いつかは結婚したい人では、「子どもの健康面や障害、病気、けが等」や「いじめや不登校」「子どもが非行に走る、犯罪を犯す、犯罪に巻き込まれる」などの割合が高い。

また、子どもがほしいと考えている人では、「子どもの将来の教育にお金がかかる」（64.0%）や「子どもの健康面や障害、病気、けが等」（53.8%）、「いじめや不登校」（37.9%）の割合が高い。これに対し、子どもをいらないと考えている人では、「自分の自由な時間がなくなる」（48.0%）や「子ども自体を好きではない」（30.0%）、「子どもにどのように接すればよいかわからない」（28.0%）、「子どもを連れて外出するのが大変」（24.0%）などの割合が高い。

■若者の子どもを生み育てることへの意識に関する結果からみえてきた課題

○男女それぞれが持つ子どもを生み育てることに対する考え方のギャップを埋める取組

・大学生の調査結果では、男性は、結婚したら子どもを持つべきという意見について、女性に比べ賛同割合が高い一方で、“子育て＝母親・女性”など旧来の結婚観や固定的な役割分担意識にとらわれている傾向が強い。これに対し、女性の場合、子どもを生み育てることや子どもを中心に置いた生活を受容する意識はあるものの、男性に比べ子どもを持つべきという意見に賛同する割合は低い。子どもを生み育てたいという気持ちはあるものの、前向きになれない理由を抱えている。

・大学生の子どもがいらない理由は、男性では、「経済的負担が大きい」「子どもを育てる自信がない、育て方がわからない」「時間のゆとりがなくなる」「結婚する気がない」が、女性では「自分の人生を生きるのに精一杯」や「心理的負担が大きい」「時間のゆとりがなくなる」が多く、各々理由に違いがみられる。

・結婚に対し男女間で意識のギャップが見出されたように、結婚の延長線上にある出産・子育てについても同様に、男女間で考え方のギャップが生じることは予想されることであり、結婚から出産・子育てという一連の家庭生活の営みを男女が協働して行うことの必要性を啓発し意識のギャップを埋める取組が必要である。

○子育て期間に合わせた息の長い経済的な負担軽減のための取組

・30～34歳の調査結果では、理想の子どもが現実よりも少ない理由は、「経済的負担が大きい」が最も多い。また、これから結婚し子どもを生み育てる世代である大学生でも子育てに抱くイメージとして「子どもの将来の教育にお金がかかる」や「子どもが小さいときの子育てにお金がかかる」が上位となっており、子どもを生み育てることに対し経済的な面で不安を抱く若者は少なくない。また同じく大学生で、子どもをもちたくない上位の理由として、経済的負担が大きいことが多くなっていたことから、経済的負担の軽減策は必要な取組となっている。

・30～34歳調査の結果では、結婚や安心して子どもを生み育てるための施策として、経済的支援が特に重要視されている。出産祝いなどの一時的な給付金の支給よりも、「扶養控除の充実などの税負担の軽減」や「高等教育にかかる費用」「医療費助成制度の拡充」などを重視する割合がいずれも８割を超え、子育て期間に合わせた息の長い支援に取り組むことが必要である。

○保育所など、安心して子育てができる、子育てしやすい環境整備

・大学生の調査結果では、子どもがいらない理由として、男性では「子どもを育てる自信がない、育て方がわからない」、女性では「自分の人生を生きるのに

精一杯」や「心理的負担が大きい」が上位となっており、子育てに漠然とした不安を抱く一方で、女性は、子どもを生み育てることよりも、自分自身のキャリア形成を優先する（キャリア形成を諦めたくない）意識が強くなっている。

・男性の子育てに対する不安の軽減やスキル向上、そして子育てへの積極的な参画を促すため、男性の家事や育児能力の向上を図る様々な取組を推進し、社会全体で、男性が積極的に育児に関わることができるよう支援することが必要である。そのような取組を通じ、家事・育児の時間を男女で共有することで、女性の就労やキャリア形成の促進につなげていくことが求められる。

・30～34歳調査の結果では、経済的支援とともに、8割以上が「保育所をはじめとした子どもを預ける事業」のほか、「出産・育児のための休業・短時間勤務の推進」「出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援」を重要な施策として挙げている。保育所をはじめ地域での子育て支援等の充実とともに、女性が仕事を中断しても仕事を継続できる仕組みづくりを企業に働きかけていく取組も必要である。

・子育ての環境面では、子育て経験者や乳幼児との交流・ふれあいを通じ、子どもを生み育てることを身近に意識できるきっかけづくりのほか、子育ての喜びや楽しさなどを共有することで、子育ては大変というイメージを払しょくする取組が重要である。また、子育てに不安や悩みを抱えても、気軽に相談できる窓口の周知や、地域の人材を生かして積極的に支援につなげるしくみづくりなどが必要である。

４－１　調査票（大学生用）

茨木市次代の親の意識と支援施策の研究に関する調査
《大学生》

【ご協力のお願い】

日頃より、本市市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

茨木市では、平成21年度に「茨木市次世代育成支援行動計画（後期計画）」を策定し、子どもを生み育てやすく、また、次の世代を担う子どもが健やかに育つことができる環境づくりをめざして取り組んでいます。

この調査は、「茨木市次世代育成支援行動計画（第３期）」（平成27～31年度）の策定にあたり、次代を担う大学生の方を対象に、結婚や子どもを生み育てることなどについてのお考え・ご意見をお聞きし、少子化対策のための取り組みを検討する資料を得るために実施しています。

お答えいただいた内容は、第３期計画の施策の検討のみに利用させていただくもので、無記名での回答となり、どなたのお答えかわからないようになっています。すべて統計的に処理し、他の目的に利用することは一切ありません。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成26年９月

茨木市長　　木本　保平

■回答にあたってのお願い

○茨木市と連携協定を締結している大学の学生の中から、無作為に約1,500人を選び、調査への協力をお願いしています。

○回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことがらを書き込むものがあります。「○は１つ」「○は３つまで」など回答方法を指定していますので、ご注意ください。

○記入いただいた調査票は、大学の指示に従って、配布した封筒に入れ、封緘しご提出ください。なお、封筒には氏名等の記入は不要です。

【お問い合わせ先】
茨木市　こども育成部　こども政策課
電話：０７２－６２０－１６２５（直通）

１．あなたご自身のことについて

問１　あなたの性別はどちらですか。（○は１つ）

１．男性	２．女性

問２　あなたは何歳ですか。

歳

問３　あなたは、親と同居していますか。（○は１つ）

１．同居している	２．同居していない
３．その他（　　）	

問４　あなたは現在、大学卒業後の進路について、どのようにお考えですか。（○は１つ）

１．正社員・正職員で就労	２．パート・アルバイトで就労
３．派遣・嘱託・契約社員で就労	４．起業、自営業主
５．家族従業者・内職	６．無職・家事
７．進学・留学	８．その他（具体的に：　　）

問５　あなたは、結婚していますか。（○は１つ）

１．結婚している（事実婚を含む）	２．独身

２．結婚について

問６　あなたは、結婚することについて、どのようなお考えをお持ちですか。現在結婚している方もお考えをお聞かせください。（○はいくつでも）

１．経済的に余裕がもてる	２．行動や生き方が制限される
３．社会的信用を得たり、周囲と対等になれる	４．異性との交際が自由にできない
５．精神的な安らぎの場が得られる	６．家族を養う責任が生じる
７．愛情を感じている人と暮らせる	８．友人などとの広い人間関係が保ちにくくなる
９．自分の子どもや家族をもてる	10．自分の親や家族とのつながりが保てなくなる
11．性的な充足が得られる	12．自分の仕事や学業にさしつかえる
13．生活上便利になる	14．親から独立できる
15．親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	16．その他（具体的に：　　）
17．特に考えはない	

【現在独身の方におうかがいします。結婚している方は問９へお進みください。】

問７　あなたは、結婚したいと思いますか。（○は１つ）

１．結婚を前提に付き合っている相手がいる-----▶問８へお進みください
２．いつかは結婚したい　（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる）
３．いつかは結婚したい　（現在、恋人はいない）
４．結婚する気はない・生涯独身でいたい-------▶問７－３へお進みください

【問７で「２」もしくは「３」のいずれかに○をつけた方におうかがいします。】

問７－１　自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。（○は１つ）

１．ある程度の年齢までには結婚するつもり
２．理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

【問７で「２」もしくは「３」のいずれかに○をつけた方におうかがいします。】

問７－２　あなたは、何歳ぐらいのときに結婚したいと思いますか。希望する年齢を（　）内に記入してください。

自分が（　　）歳くらいの時に結婚したい

【問８へお進みください。】

【問７で「４」に○をつけた方におうかがいします。】

問７－３　あなたが結婚する気はない、または生涯独身でいたい理由は何ですか。（○は３つまで）

１．結婚する必要性を感じないから
２．仕事（または学業）にうちこみたいから
３．趣味や娯楽を楽しみたいから
４．独身の自由さや気楽さを失いたくないから
５．異性とうまくつき合えないから
６．異性に対し恋愛感情を持てないから
７．親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から
８．その他（具体的に：　　）

【問９へお進みください。】

【問７で「１」から「３」のいずれかに○をつけた方におうかがいします。】

問８　あなたは、結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。（○は２つまで）

１．結婚生活のための住居
２．結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用
３．親の承諾
４．親との同居や扶養
５．学校や学業上の問題
６．職業や仕事上の問題
７．年齢上のこと
８．健康上のこと
９．その他（具体的に：　　）

問９　あなたはどのようなきっかけで交際相手と知り合いたいですか（結婚相手と知り合いましたか）。（○は３つまで）

１．学校で
２．職場や仕事の関係で
３．幼なじみ・隣人関係
４．学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で
５．友人や兄弟姉妹を通じて
６．見合いで（親戚・上役などの紹介も含む）
７．結婚相談所で
８．街中や旅先で
９．民間の街コンで
10．公的な男女の出会いイベントで
11．その他（具体的に：　　）

３．子どもを生み育てることについて

【すべての方におうかがいします。】

問10　あなたにとって理想とする子どもの数は何人ですか。あてはまる番号に○をつけ、５人以上の場合は（　　）内に人数を記入してください。（○は１つ）

１．子どもはいらない－－－－－－－－→ 問12へお進みください
２．１人　　３．２人
４．３人　　５．４人　　６．５人以上（　　人）
７．わからない

【現在子どもがいない方におうかがいします。それ以外の方は問13へお進みください。】

問11　最初のお子さんを持ちたい年齢を（　　）内に記入してください。

あなたが（　　）歳ぐらいのとき

【問10で「１．子どもはいらない」と回答した方におうかがいします。それ以外の方は問13へお進みください。】

問12　子どもがいらない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．時間のゆとりがなくなる
２．心理的負担が大きい
３．経済的負担が大きい
４．自分の仕事や学業に差しつかえる
５．他にやりたいことがあるから
６．健康･体力に自信がないから
７．子育てができる家を購入できそうにないから
８．自分の人生を生きるのに精一杯だから
９．夫婦２人だけの生活を楽しみたいから
10．子どもを育てる自信がない、育て方がわからないから
11．子どもを虐待してしまいそうだから
12．出産・育児に対して理解がある会社が少ないから
13．配偶者の育児への協力が期待できないから
14．近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから
15．将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから
16．もともと子どもが好きではないから
17．結婚する気がないから
18．その他（具体的に：　　）

【すべての方におうかがいします。】

問13　高齢出産（本調査では、35歳以上での初産とします）は、生まれた赤ちゃんに先天的な異常をもたらす確率が高くなったり、流産や妊娠高血圧症候群など母体に影響を及ぼす危険性が高まると言われています。あなたは、高齢出産について、どのように考えますか。（○は１つ）

１．とても不安に思う	２．どちらかといえば不安に思う
３．あまり不安に思わない	４．不安に思わない
５．高齢出産に危険性があることを知らなかった	６．わからない

４．子育てについて

問14　あなたにとって子育てとはどんなことだと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

１．子どもと一緒にいるだけで楽しくなる
２．子どもの成長に立ち会える
３．子育ての経験が仕事などの役に立つ
４．家や仕事の跡継ぎを育てられる
５．子育てを通じて自分が成長できる
６．次代の社会を担う子どもを育てることに携われる
７．子育てを通じて自分に自信が持てる
８．子育てを通じて生活が充実する
９．子どもを通じて付き合いが広がる
10．家族のきずなが強まる
11．その他（具体的に：　　）
12．特にない
13．わからない

問15　あなたにとって、子育てで負担に思うことや不安に思うことは、どんなことだと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

１．子どもの相手は体力や根気がいる
２．子どもが小さいときの子育てにお金がかかる
３．子どもの将来の教育にお金がかかる
４．自分の自由な時間がなくなる
５．自分が思ったように働けなくなる
６．必要なときに家事や子育てを支援してくれるサービスを利用できない
７．子どもにどのように接すればよいかわからない
８．子どもの健康面や障害、病気、けが等
９．住まいが確保できない、住まいにゆとりが持てない
10．子どもを連れて外出するのが大変
11．いじめや不登校
12．子どもが非行に走る、犯罪を犯す、犯罪に巻き込まれる
13．子どもが定職につかない、つけない
14．子ども自体を好きではない
15．その他（具体的に：　　）
16．特にない
17．わからない

5．結婚・子育て等への意識について

問16　結婚、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑩のような考え方を示しました。それぞれについて、あなたご自身はどのようにお考えでしょうか。①～⑩について、それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

	1 まったく賛成（そう思う）	2 どちらかといえば賛成（そう思う）	3 どちらかといえば反対（そう思わない）	4 まったく反対（そう思わない）
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	1	2	3	4
② 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである	1	2	3	4
③ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
④ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
⑤ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	1	2	3	4
⑥ 妊娠をきっかけとする結婚（いわゆる「できちゃった婚」）には抵抗がない	1	2	3	4
⑦ 子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う	1	2	3	4
⑧ 老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う	1	2	3	4
⑨ 子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う	1	2	3	4
⑩ 親にも子育てに協力してもらいたいと思う	1	2	3	4

問17　結婚、出産、子育て、少子化などについて、ご意見等がございましたら、下記の欄にどのようなことでもご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

４－２　ＷＥＢ調査回答画面（30～34歳用）

茨木市　次代の親の意識と支援施策の研究に関する調査　（PC用）

アンケートにアクセスいただきましてありがとうございます。

まず、「ご協力のお願い」に記載されているID（半角英数8文字）をご入力いただき、次へお進みください。

なお、IDは調査専用画面に入るための認証キーです。回答いただいた方を特定するためのものではありません。

IDをご入力ください。

ID:

次へ

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。
回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。
JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 8
Microsoft Internet Explorer 9
Microsoft Internet Explorer 10
Firefox 14.0以降
Google Chrome 21.0以降

推奨OS

WindowsVista
Windows7
Windows8

【回答に際してのご注意】

・回答を途中で中断しても、再度、「同じ」調査専用画面URLにアクセスし、ログインいただくと続きから回答できます。

・たとえばPC用のURLで途中まで回答して、スマホ・タブレット用のURLで続きから回答することはできません。その場合は最初から回答いただくこととなります。

・最後の質問まで回答して調査が完了した後は、再ログインができなくなります。回答のやり直しはできませんので、ご注意ください。

では、次へお進みいただき、アンケートにご回答ください。

1．あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別はどちらですか。（回答は1つ） **[必須]**

- 1．男性
- 2．女性

問2 あなたは何歳ですか。 **[必須]**

歳

問3 あなたは、親と同居していますか。（回答は1つ） **[必須]**

- 1．同居している
- 2．同居していない
- 3．その他 （ ）

問4 あなたは、結婚していますか。（回答は1つ） **[必須]**

- 1．結婚している（事実婚を含む）
- 2．独身

問5-1 あなたにお子さんはいますか。あてはまる番号をお選びください。
また、「1.いる」を選んだ方は、右側にお子さんの数を入力してください。 **[必須]**

- 1．いる ⇒ 人
- 2．第1子を妊娠中
- 3．いない

問5-2 最初のお子さん（第1子）が生まれた時期を入力してください。
現在、第1子を妊娠中の方は、出産予定の時期を入力してください。 **[必須]**

第1子は西暦 年 月 生まれ（出産予定）

あなたのお仕事についておうかがいします。
aとbの2つの時期について、それぞれお勤め等の状況について、あてはまる番号をお選びください。

問6-a 最後に学校を卒業した直後（回答は1つ） [必須]

- 1. 正社員・正職員
- 2. パート・アルバイト
- 3. 派遣・嘱託・契約社員
- 4. 自営業主
- 5. 家族従業者・内職
- 6. 無職・家事

問6-b 現在（回答は1つ） [必須]

- 1. 正社員・正職員
- 2. パート・アルバイト
- 3. 派遣・嘱託・契約社員
- 4. 自営業主
- 5. 家族従業者・内職
- 6. 無職・家事
- 7. 学生

問6-1 a（最後に学校を卒業した直後）とb（現在）の2つの時期で、就労の形態が変わった理由は何ですか。その理由を具体的にお答えください。 [必須]

あなたの現在のお仕事について、次の1～4までの項目について数字を入力、もしくはあてはまる番号をお選びください。

問7-1 1週間の平均的な労働時間（残業時間も含む） [必須]

週あたり平均 ＿＿ 時間

問7-2 年間の収入（※税込み）（回答は1つ） [必須]

- 200万円未満
- 200～400万円未満
- 400～600万円未満
- 600万円以上

問7-3 現在の仕事の継続年数 [必須]

およそ　　年

※1年未満は1年としてください。

問7-4 今後の継続の見通し（回答は1つ） [必須]

- ○ 1. 当分は今の仕事を続ける
- ○ 2. 転職の可能性がある
- ○ 3. 退職の可能性がある
- ○ 4. わからない

問8 あなたの配偶者（パートナー）の現在のお勤め等の状況について、あてはまる番号をお選びください。（回答は1つ） [必須]

- ○ 1. 正社員・正職員
- ○ 2. パート・アルバイト
- ○ 3. 派遣・嘱託・契約社員
- ○ 4. 自営業主
- ○ 5. 家族従業者・内職
- ○ 6. 無職・家事
- ○ 7. 学生

2. 結婚について

問9 あなたは、結婚することについて、どのようなお考えをお持ちですか。
現在結婚している方もお考えをお聞かせください。（回答はいくつでも） [必須]

- □ 1. 経済的に余裕がもてる
- □ 2. 行動や生き方が制限される
- □ 3. 社会的信用を得たり、周囲と対等になれる
- □ 4. 異性との交際が自由にできない
- □ 5. 精神的な安らぎの場が得られる
- □ 6. 家族を養う責任が生じる
- □ 7. 愛情を感じている人と暮らせる
- □ 8. 友人などとの広い人間関係が保ちにくくなる
- □ 9. 自分の子どもや家族をもてる
- □ 10. 自分の親や家族とのつながりが保てなくなる
- □ 11. 性的な充足が得られる
- □ 12. 自分の仕事や学業にさしつかえる
- □ 13. 生活上便利になる
- □ 14. 親から独立できる
- □ 15. 親を安心させたり周囲の期待にこたえられる
- □ 16. その他（具体的に：　　）
- □ 17. 特に考えはない

問10 あなたは、結婚したいと思いますか。（回答は1つ） [必須]

- 1. 結婚を前提に付き合っている相手がいる
- 2. いつかは結婚したい（現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる）
- 3. いつかは結婚したい（現在、恋人はいない）
- 4. 結婚する気はない・生涯独身でいたい

問10-1 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。（回答は1つ） [必須]

- 1. ある程度の年齢までには結婚するつもり
- 2. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

問10-2 あなたは、何歳ぐらいのときに結婚したいと思いますか。希望する年齢を入力してください。 [必須]

自分が　　歳くらいの時に結婚したい

問10-3 あなたが結婚する気はない、または生涯独身でいたい理由は何ですか。（回答は3つまで） [必須]

- 1. 結婚する必要性を感じないから
- 2. 仕事（または学業）にうちこみたいから
- 3. 趣味や娯楽を楽しみたいから
- 4. 独身の自由さや気楽さを失いたくないから
- 5. 異性とうまくつき合えないから
- 6. 異性に対し恋愛感情を持てないから
- 7. 親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から
- 8. その他（具体的に：　　）

問11 あなたは、結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。（回答は2つまで） [必須]

- 1. 結婚生活のための住居
- 2. 結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用
- 3. 親の承諾
- 4. 親との同居や扶養
- 5. 学校や学業上の問題
- 6. 職業や仕事上の問題
- 7. 年齢上のこと
- 8. 健康上のこと
- 9. その他（具体的に：　　）
- 10. 特にない

問12 あなたはどのようなきっかけで交際相手と知り合いたいですか（結婚相手と知り合いましたか）。（回答は3つまで） **[必須]**

- ☐ 1. 学校で
- ☐ 2. 職場や仕事の関係で
- ☐ 3. 幼なじみ・隣人関係
- ☐ 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で
- ☐ 5. 友人や兄弟姉妹を通じて
- ☐ 6. 見合いで（親戚・上役などの紹介も含む）
- ☐ 7. 結婚相談所で
- ☐ 8. 街中や旅先で
- ☐ 9. 民間の街コンで
- ☐ 10. 公的な男女の出会いイベントで
- ☐ 11. その他（具体的に：　　）

問13 あなたは、結婚したとき、なにか障害がありましたか。（回答は2つまで） **[必須]**

- ☐ 1. 結婚生活のための住居
- ☐ 2. 結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用
- ☐ 3. 親の承諾
- ☐ 4. 親との同居や扶養
- ☐ 5. 学校や学業上の問題
- ☐ 6. 職業や仕事上の問題
- ☐ 7. 年齢上のこと
- ☐ 8. 健康上のこと
- ☐ 9. その他（具体的に：　　）
- ☐ 10. 特にない

3. 子どもを生み育てることについて

問14 あなたにとって理想とする子どもの数は何人ですか。あてはまる番号をお選びください。
5人以上の場合は人数を入力してください。（回答は1つ） **[必須]**

- ○ 子どもはいらない
- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上（　　人）
- ○ わからない

問15 あなたが現実として子どもを生み育てようと思う子どもの数は何人ですか。あてはまる番号をお選びください。5人以上の場合は人数を入力してください。（回答は1つ） [必須]

- ○ 生み育てるつもりはない
- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上（　　人）
- ○ わからない

問16 最初のお子さんを持ちたい年齢を入力してください。 [必須]

あなたが　　歳ぐらいのとき

問17 子どもがいらない・生み育てるつもりはない理由、または理想の人数の子どもを生み育てない理由は何ですか。（回答はあてはまるものすべて） [必須]

- □ 1. 時間のゆとりがなくなるから
- □ 2. 心理的負担が大きいから
- □ 3. 経済的負担が大きいから
- □ 4. 自分の仕事や学業にさしつかえるから
- □ 5. 他にやりたいことがあるから
- □ 6. 健康・体力に自信がないから
- □ 7. 出産するには高齢だから
- □ 8. 家が狭いから
- □ 9. 自分の人生を生きるのに精一杯だから
- □ 10. 夫婦2人だけの生活を楽しみたいから
- □ 11. 子どもを育てる自信がない・育て方がわからないから
- □ 12. 子どもを虐待してしまいそうだから
- □ 13. 勤め先など周囲が出産・育児に対して理解がないから
- □ 14. 配偶者の育児への協力が期待できないから
- □ 15. 近くに保育所がなかったり、預けられる親がいないから
- □ 16. 将来が、子どもにとってよい環境とは思えないから
- □ 17. もともと子どもが好きではないから
- □ 18. 結婚する気がないから
- □ 19. その他（具体的に：　　）

問18 高齢出産（本調査では、35歳以上での初産とします）は、生まれた赤ちゃんに先天的な異常をもたらす確率が高くなったり、流産や妊娠高血圧症候群など母体に影響を及ぼす危険性が高まると言われています。あなたは、高齢出産について、どのように考えますか。（回答は1つ） [必須]

- ○ 1. とても不安に思う
- ○ 2. どちらかといえば不安に思う
- ○ 3. あまり不安に思わない
- ○ 4. 不安に思わない
- ○ 5. 高齢出産に危険性があることを知らなかった
- ○ 6. わからない

4. 結婚や安心して子どもを生み育てるための施策について

問19 あなたが今、あるいは、これから茨木市で結婚したり子育てをするにあたり、次の各項目は、どのくらい重要ですか。
各項目のそれぞれについて、あなたのお気持ちに最も近いものを1つお選びください。 **[必須]**

		1. きわめて重要	2. かなり重要	3. さほど重要ではない	4. まったく重要ではない
1. 扶養控除の充実など税負担の軽減	→	○	○	○	○
2. 高等教育（高校、大学）にかかる費用に対する援助や奨学金の充実	→	○	○	○	○
3. 出産祝い金などの祝金の支給	→	○	○	○	○
4. 医療費助成制度の拡充	→	○	○	○	○
5. 保育所をはじめとした子どもを預ける事業	→	○	○	○	○
6. 出産・育児のための休業・短時間勤務の推進 （育児休業、育児時間確保のための短時間勤務など）	→	○	○	○	○
7. 出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援	→	○	○	○	○
8. 仕事と育児の両立の推進に取り組む事業所への支援	→	○	○	○	○
9. 小児医療体制整備など子どもの健康支援	→	○	○	○	○
10. 妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制※1の充実	→	○	○	○	○
11. ファミリー向け賃貸住宅の優先入居	→	○	○	○	○
12. 親子を対象とした地域における子育て支援事業 （ファミリーサポートセンター※2・つどいの広場※3など）	→	○	○	○	○
13. 子どものための建築物、交通機関などにおけるバリアフリーの推進	→	○	○	○	○
14. 自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業	→	○	○	○	○
15. 公的に男女の出会いの場を設けること	→	○	○	○	○

※1周産期医療体制とは、妊娠22週から生後満7日未満までの「周産期」は、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性があるため、周産期を含めた前後の期間に必要な医療として、突発的な緊急事態に備えた産科・小児科双方からの一貫した総合的体制のこと。
※2ファミリーサポートセンターとは、安心して子育てができるよう、子育ての手助けをしてほしい人と子育ての手助けができる人が会員となり、地域の中でお互いに助け合っていく制度。
※3つどいの広場とは、乳幼児をもつ子育て中の保護者が気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で、子育てや育児について語り合うことができる場のこと。

5. 茨木市での定住について

問20 あなたが茨木市に住んでいる理由は何ですか。(回答はあてはまるものすべて) [必須]

- ☐ 1. 買物など日常生活が便利だから
- ☐ 2. 通勤・通学が便利だから
- ☐ 3. バスや電車など公共交通が便利だから
- ☐ 4. 親・親せきが住んでいるから
- ☐ 5. 近所づきあいがよいから
- ☐ 6. 物価が安いから
- ☐ 7. 教育環境・条件が整っているから
- ☐ 8. 住宅条件がよいから
- ☐ 9. 病院などの保健・医療体制が整っているから
- ☐ 10. 福祉が充実しているから
- ☐ 11. 道路などの都市基盤が整備されているから
- ☐ 12. 子育てがしやすいから
- ☐ 13. 緑や水辺など自然が多いから
- ☐ 14. まちが安全・安心であるから
- ☐ 15. まちのイメージがよいから
- ☐ 16. 道路や公園の美化など生活環境がよいから
- ☐ 17. 生まれ育ったまちだから
- ☐ 18. 配偶者が茨木市の出身だから
- ☐ 19. その他(具体的に：)
- ☐ 20. 特に理由はない

問21 あなたは、将来も茨木市に住み続けたいと思いますか。(回答は1つ) [必須]

- ○ 1. ずっと住み続けたい
- ○ 2. 当分は住んでいたい
- ○ 3. しばらくは住むつもりだが将来は転出したい
- ○ 4. 近いうちに市外へ移りたいが、具体的な計画はない
- ○ 5. 近いうちに市外に移る予定である
- ○ 6. わからない

問21-1 転出したいと思う理由は何ですか。(回答はあてはまるものすべて) [必須]

- ☐ 1. 自分や家族が就学・就職・転勤するから
- ☐ 2. 結婚・出産など家族関係が変化するから
- ☐ 3. 将来、実家や親せきの近く(茨木市以外)に住む予定だから
- ☐ 4. 子どもの教育環境が悪くなったから
- ☐ 5. 買物や公共交通など日常生活の利便性が悪いから
- ☐ 6. 住宅価格、家賃が高いから
- ☐ 7. 地域のつながりが弱く、住みにくくなったから
- ☐ 8. 子育て支援が充実していないから
- ☐ 9. まちの賑わいなど楽しさがないから
- ☐ 10. その他(具体的に：)

問22 結婚、出産、子育て、少子化などについて、ご意見等がございましたら、どのようなことでもご自由にお書きください。

次代の親の意識調査と支援施策の研究に関する報告書

平成27年(2015年)　３月

編集･発行　茨木市こども育成部こども政策課
茨木市駅前三丁目８番13号
電　話　072-622-8121㈹
ＵＲＬ　http://www.city.ibaraki.osaka.jp/

楽しく健やかな子育てのまちに
いばらっきーちゃん